



学生ハンドブック2023

大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

建学の精神・教育理念

東京農業大学の創設者、榎本武揚は文部・外務・農商務・通信大臣を歴任し近代を切り拓いた優れた政治家であるとともに、実用的な応用技術に力を注ぐ「実学」の重要性を唱えた科学者でもありました。

東京情報大学では、榎本精神を発展的に継承し、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を建学の精神とし、その教育理念を「現代実学主義」としているのです。

「現代実学主義」とは、実践的な学びの姿勢を尊重すること、情報を活用した応用技術を社会に還元すること、そのための基礎学問を重視することの3点に要約されます。

建学の精神「未来を切り拓く」

東京農業大学の前身「育英黉」の創設者であり、近代社会の礎を築いた明治の元勳榎本武揚のパイオニア精神を継承し、「未来を切り拓く」を建学の精神とする。

教育理念「現代実学主義」

現代社会に役立つ学問である実学を、情報を活かすことで発展的に実現する「現代実学主義」を教育理念とする。

人間形成の理念「自立と協調」

人間形成の場でもある大学が感性と創造性を育むことができるよう「自立と協調」を人間形成の理念とする。

学生ハンドブック

大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

2023年度



東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

CONTENTS

大学紹介 7

学長メッセージ	8
沿革	10
組織	11
教員紹介	12
役職者	
大学院：総合情報学研究科	
総合情報学部：総合情報学科	
◆情報システム学系	◆データサイエンス学系
◆情報メディア学系	
総合情報学部：教職課程	
看護学部：看護学科	
校章・学旗	27
東京情報大学学歌	28

学生生活 29

1. 各種手続及び相談（担当）窓口	30
窓口等利用案内	授業担当職員への相談・質問
	主な手続き
2. 学籍について	33
修業年限	大学院の修業年限
休学	復学
退学	除籍
再入学	
3. 学生証	34
学生証の確認・裏面シールの記入	学生証は常時携帯
学生証を紛失・破損したとき	試験当日学生証を忘れたとき
学生証の裏面シールは年次更新	
4. 通学定期券を購入する場合	34
5. 住所変更等	35
学生（本人）住所、電話番号（自宅・携帯）が変わったとき	
学生（本人）氏名・本籍地及び保証人（連絡人）の情報が変わったとき	
6. 証明書・申請書の発行（自動発行機）.....	35
証明書・申請書の種類等	発行機操作手順（概略）
利用時間	諸注意
7. 学割証	36
学割証とは	発行方法
使用上の注意	
8. 団体旅行割引証	37
9. 車両通学	37
申請許可手順	許可期間・更新
臨時許可証	
10. 学内施設・貸出し用具.....	37
学内施設の利用	運動用具の貸出し
空気入れ等の貸出し	

11. スクールバスの利用・申込	38
運行の条件	申込方法・許可
利用料金	
12. 学費納入	39
学費の納入方法	休学者についての取り扱い
復学者についての取り扱い	原級者についての取り扱い
留年者についての取り扱い	再入学者についての取り扱い
学費延納願	在学中の学費
13. 学内の奨学金制度	41
特待生制度	
東京情報大学提携教育ローン制度	
14. 学外の奨学金制度	41
日本学生支援機構奨学金	その他の奨学金
15. 学生生活をバックアップ	43
食堂・ブックセンター・売店	
アルバイト紹介	
16. 悪徳商法にご用心	44
悪徳商法の手口	悪徳商法に引っかからないための6か条
被害にあいそうになったら	
17. 健康管理	45
医務室	学生相談室（カウンセリングルーム）
こことからだの相談窓口24	定期健康診断
健康診断証明書発行について	学校において特に注意すべき感染症について
罹患等証明書の提出について	予防接種について
18. ハラスメントの防止	47
19. 事故・災害について	48
緊急連絡	学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）
20. 学生への連絡及び注意事項	49
J-portによる連絡	家を出る前にJ-portを毎日確認
電話による連絡	休講に関する取り扱い
補講に関する取り扱い	交通機関の運行停止等による授業の取り扱い
学校内広報誌の発行	学生用（1・2年生用）個人ロッカーの利用について
盗難防止	インターネット利用上の注意
環境美化	マナーとルール
21. Web情報システム「J-port」の利用	53
個人情報照会	時間割
シラバス照会	判定
成績照会	履修登録
出欠管理	掲示情報
スケジュール登録	利用にあたって
利用環境	ログイン方法
質問等の方法	

本学の学修について 55

1. 授業科目の履修	56	
1) 授業科目の分類	2) 単位制	3) 年間履修単位数（CAP制）
4) セット履修	5) ステップ履修	6) 他学部及び他学科履修
7) 放送大学及び千葉県内私立大学との単位互換科目の履修		
8) 東京農業大学との単位互換科目の履修		
9) 他の大学等における修得単位の認定		
10) 知識・技能審査の学修における修得単位の認定（総合情報学部のみ）		
11) 大学院授業科目の先取り履修制度		

2. 授業時間	59
3. 授業科目の履修登録方法	59
4. 試験	60
5. 成績評価	63
6. 授業の出席管理	66
7. 欠席時の対応	67

総合情報学部の学修について 69

1. 学士課程教育の目的および方針	70
2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について	75
3. 教育課程	78
1) 授業科目の分類	
2) 授業科目のナンバリング	
3) 授業科目表	
4) 授業概要	
4. 学系制	112
1) 総合情報学部総合情報学科の教育体系	
2) 学系別科目担当表	
3) 学系別履修モデル	
5. 教職課程	119

看護学部の学修について 127

1. 学士課程教育の目的および方針	128
2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について	129
3. 教育課程	131
1) カリキュラムマップ	
2) 授業科目の分類	
3) 授業科目のナンバリング	
4) 授業科目表	
5) 授業概要	
6) 履修モデル	
7) 実習について	
8) 短期留学について	
4. 取得できる資格と選抜方法	149
1) 看護師	
2) 保健師	
3) 保健師課程の選抜方法	

大学院総合情報学研究科 151

1. 総合情報学研究科の目的及びポリシー	152
1) 博士前期課程	
2) 博士後期課程	
3) 学位取得までの流れ	
2. 授業科目の履修及び単位認定	155
1) 履修方法について	
2) 単位認定について	
3) 単位の計算方法	
3. 授業時間	157
4. 論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで	157
〈博士前期課程〉	
1) 修士論文計画書の提出	
2) 学位請求論文の提出	
3) 論文発表会	
〈博士後期課程〉	
1) 博士論文計画書の提出	
2) 研究経過報告書の提出	
3) 論文要旨の提出	
4) 論文発表会	
5) 学位請求論文の提出	
5. 課程修了の要件	158
6. 修士（総合情報学）の学位授与のための基準及び方法（申し合わせ）	158
7. 博士（総合情報学）の学位授与のための要件及び方法（申し合わせ）	159
8. 学位	159
9. 9月修了	160
10. 表彰	160
11. 論文計画書等の様式	160
12. 教育課程	162
13. 教員免許について	163

課外活動	165
1. 願出が必要な施設利用について	166
2. 学友会	167
キャリア・就職	171
就職活動について	172
総合情報学部の総合的キャリア教育（Jナビ）	173
看護学部のキャリア支援プログラム	176
キャリア課を利用する	179
進路に関する手続き及び就職状況について	181
進路に関する手続き	就職状況
資格取得対策について	183
総合情報学部の資格取得について	看護学部の看護師・保健師国家試験対策について
情報サービスセンター	185
〈図書情報部〉	
1. 図書情報部の概要	186
2. 総合情報センター棟展開図	186
3. ライブラリー・エリア	187
〈情報システム部〉	
1. 情報システム部の概要	188
2. 情報システム部の各施設について	188
3. 利用に先立って	190
4. ネットワークの利用心得	190
◎東京情報大学ネットワーク利用ポリシー	190
後援会・校友会	195
1. 後援会・校友会	196
後援会の活動	校友会の活動
キャンパス案内	197
校舎等配置図	198
1号館（本館棟）案内図	199
3号館（体育館）案内図	203
4号館（総合情報センター棟）案内図	204
5号館（フロンティア研究棟）案内図	205
6号館（学生会館ピオーネ）案内図	206
7号館（研究棟）案内図	207
8号館（東アジア環境・経済研究棟）案内図	209
9号館（看護実習棟）案内図	210
Q&A（よくある質問）	211
1. 履修登録に関する事	211
2. 授業に関する事	213
3. 試験に関する事	213
4. 成績評価に関する事	213

様式サンプル等.....215

様式1 成績評価に関する質問票.....216
様式2 時間割変更申請書.....217
様式3 欠席届.....218
交通案内図.....219

大学紹介





学長メッセージ

～人と社会を情報で繋ぎ、
新たな未来を創出する～

学長 布広 永示

1. はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

東京情報大学は、1988年に「情報」を大学名に冠した日本で初めての私立大学として学校法人東京農業大学によって設立されました。現在は、総合情報学部、看護学部と大学院総合情報学研究科の2学部・1研究科を設置しています。東京情報大学の建学の精神は「未来を切り拓く」、教育理念は兄弟校東京農業大学の「実学主義」を継承した「現代実学主義」を掲げ、日々進化する情報技術を利活用し社会に貢献できる人材を育成することを教育目標とした「情報学」と「看護学」の教育研究を行っています。「実学」とは、実際の現場で起きている課題を解決するため、基礎的な学問に裏付けされた科学的根拠に基づいて新たな理論を構築して、応用することを目指す学問です。

総合情報学部は、日本政府が唱える「ソサエティ 5.0(超スマート社会)」の時代に求められる人材育成に向けて、2023年度から情報システム、データサイエンス、情報メディアの3つの学系による新たな教育研究体制を開始します。看護学部は、将来確実に訪れる未曾有の「少子超高齢化社会」の到来に備え、建学の精神に適(かな)う実学の府として医療と地域、そこで暮らす人々を繋ぐ「情報」と「看護」を融合した教育研究を目的として、2017年に設置しました。

2. 「情報学」と「看護学」

わが国では、ソサエティ 5.0の実現に向けた技術革新が加速し、仮想空間と物理空間を高度に融合させたシステムによって経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会を目指しています。

「情報学」に関わる情報分野では、5Gネットワーク、IoT、サイバーセキュリティ、生命情報など、情報技術は革新的に進化しつつあります。このような技術革新により、社会生活の利便性や効率性は飛躍的に向上するとともに、情報社会の発展によって大規模で多種多様なデータが加速度的に蓄積されています。これらの巨大なデータを利活用して安心・安全な社会活動を実現するためには、先端的な情報システムを研究・開発する能力と共に、蓄積されたデータを分析・知識化することで新たな価値を創造していくデータサイエンスや人工知能などに係わる能力が必要です。一方で、社会活動に関わる膨大な情報を利用する情報技術や情報システムの活用は、多種多様な要素が複雑に絡み合うことで新たな社会問題を引き起こすこともあり、技術革新がもたらす社会活動や自然環境の変化を見据えて研究に取り込むことが必要です。

「看護学」に関わる看護・医療分野では、少子超高齢化時代が到来し、増え続ける患者に対する医療に従事できる医師や看護師の数が不足している状況です。このような状況下において、今後の高齢者をサポートするしくみとして「地域包括ケアシステム」の構築が期待されています。この地域包括ケアシステムを実現するための具体的な対策としては、地域包括支援センターの設置に加えて在宅医療や訪問介護の整備が必要とされています。このような、医療体制を実現するには、情報機器を活用した遠隔医療やオンライン診療、急速にデジタル化が進んでいる医療データの活用・共有化、介護施設や薬局間での情報連携など、ICTを活用した仕組みと同時にICTを活用する能力を持つ看護師が医療現場の改革に大きく期待されています。

みなさんがこれから学ぶ「情報学」と「看護学」に関わる専門分野は、これらの諸課題の解決に光を照

らす指針となり、難題を解決へと導く、極めて重要な学問分野であることを心に留めておいてください。

3. 学部・大学院の人材育成

総合情報学部は、ソサエティ 5.0 とされる超スマート社会を支える IT 関連分野の人材を育成するため、今年度から生命科学、データサイエンスに係わる研究分野を取り込んだ新学系（情報システム、データサイエンス、情報メディア）を開始します。新学系体制では、知能情報、システムデザイン、ネットワーク、情報セキュリティ、ゲーム、情報メディアなどの情報分野の強化に加えて、データサイエンスを駆使して生命・環境・人間の行動に関する分析力と課題解決能力を身に付ける教育研究への展開を進めます。また、総合情報学部では、未来のデータサイエンスを牽引する優秀な人材を輩出することを目的として、2020 年に「先端データ科学研究センター」を設置しました。本センターには、「生命情報」、「情報セキュリティ」、「機械学習」、「情報基盤」の各分野に関する 4 つの研究ユニットを設け、高性能のコンピュータを利用してさまざまなデータを活用した先端的な研究活動を行っています。本センターは、新入生の皆さんにも先端研究に触れる機会を提供します。また、ソサエティ 5.0 の社会では、IT 関連分野の人材育成が重要ですが、ICT を効果的に活用した指導力を持ち、新時代に対応した教員の養成も強く求められます。本学部では、教科「情報」や教科「数学」の教員養成にも力を注ぎ、社会の要請に応える人材を育成します。

看護学部は、情報でつなぐ地域包括ケアを担う看護師になるための 3 つの力を培います。1 つ目は、膨大な情報に振り回されずに必要な情報を探し出し、考え、意思決定して人に伝える情報活用・発信力。2 つ目は、疑問を持ち、考え抜き、一歩前へ踏み出し、粘り強く取り組み、多様な人々と協力する職業人としての基礎力。3 つ目は、先進的な地域包括ケアや看護活動に触れるあらゆる機会を通して、現場での出来事から本質を見抜く力です。本学の建学の精神「未来を切り拓く」に適う実学の府として未来を見据えた「力」を持ち、ソサエティ 5.0 時代に活躍できる看護師を育成します。また、看護学部では、健康寿命の延伸に係わるヘルスケアの実践的な研究を行うことを目的として、2021 年に「ヘルスケア実践研究センター」を設置しました。本センターでは、在宅医療、在宅看護を特長とした地域包括ケアシステムなど、医療・看護における情報技術の利活用に関する研究や「健康」と「要介護」の間の状態である「フレイル」の予防、ヘルスケアの実践研究、高度職業人の育成を進めるとともに、皆さんの実習施設として活用します。

大学院総合情報学研究科は、学部教育との一貫性を持つ博士前期課程、博士後期課程を設置し、独創的発想のもと情報学分野の知識と技術において先端的な役割を担うことができるエンジニアや研究者の育成を目的としています。大学院に入学された皆さんは、情報に対する多面的なアプローチから研究に取り組み、高度な情報学と情報技術を修得すべく精進するとともに自ら定めた研究テーマを深く探求することに努力し、大きな成果をあげられることを期待します。

4. 実りある大学生活に向けて

大学における学びの基本姿勢は「自分が学びたいこと」を自分自身で発見し、将来、自分の夢を実現するための力を養うことだと言えます。大学での 4 年間、目的意識を持って専門知識や技術を身につけ、自分が「何をしたい」から「何が出来る」という自信を持つことが社会に出る第一歩になります。大学時代の限られた貴重な時間を有効に使い、皆さん一人ひとりが自分の将来を見据えて悔いを残すことがないように、失敗を恐れず、志を高く持ち、粘り強く学び続けて、大きく成長してくれることを期待しています。教職員一同で皆さんの学生生活を支援することをお約束します。

沿革



榎本武揚
(1836~1908年)

本学は、来るべき未来を見据え、時代の要請する新しい専門的能力と国際感覚、均衡感覚に優れた人材の育成を教育の目的として、1988（昭和63）年4月、千葉市に開学した。

設置者である学校法人東京農業大学は、本学や2021年に創立130周年を迎えた東京農業大学をはじめ、8つの教育機関をもつ学校法人として現在に至るが、その始まりは1891（明治24）年、明治の元勳榎本武揚が創設した「徳川育英黌」にさかのぼる。

総合的な視野から、新しい時代の要請に即した人材の育成を目指した榎本「育英黌」の精神が、時代を超えて東京情報大学にも受け継がれている。

1891（明治24）年	徳川育英会を母体に育英黌農業科設置（東京農業大学の前身）
1925（大正14）年	財団法人東京農業大学設立
1951（昭和26）年	財団法人東京農業大学は学校法人東京農業大学となる
1988（昭和63）年	東京情報大学（経営情報学部／経営学科・情報学科）開設
1991（平成3）年	東京情報大学経営情報学部（経営学科・情報学科）臨時定員増認可
1992（平成4）年	東京情報大学大学院（経営情報学研究科経営情報学専攻）修士課程開設
1996（平成8）年	東京情報大学経営情報学部情報文化学科開設
1999（平成11）年	東京情報大学大学院（経営情報学研究科経営情報学専攻）博士前期課程・博士後期課程開設
2001（平成13）年	東京情報大学総合情報学部に学部名称を変更 東京情報大学総合情報学部経営情報学科、環境情報学科、情報システム学科開設（既設の情報文化学科とあわせて1学部4学科となる） 東京情報大学総合情報学部に教職課程を開設
2005（平成17）年	東京情報大学大学院総合情報学研究科（総合情報学専攻）に研究科名称を変更 東京情報大学総合情報学部経営情報学科を情報ビジネス学科に学科名称を変更
2010（平成22）年	東京情報大学総合情報学部に学芸員課程を開設
2013（平成25）年	東京情報大学総合情報学部総合情報学科12コース制に変更
2017（平成29）年	東京情報大学総合情報学部総合情報学科3学系（情報システム学系・数理情報学系・社会情報学系）制に変更 東京情報大学看護学部看護学科設置
2023（令和5）年	東京情報大学総合情報学部総合情報学科の3学系の名称を情報システム学系・データサイエンス学系・情報メディア学系に変更

組織

東京情報大学 Tokyo University of Information Sciences

学長
President

大学院／総合情報学研究科総合情報学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
Graduate School of Informatics (Master Course / Doctor Course)

総合情報学部 Faculty of Informatics

総合情報学科
Department of Informatics

情報システム学系

AI・システムデザイン研究室

ゲーム・IoT研究室

ネットワーク・セキュリティ研究室

データサイエンス学系

データサイエンス基盤研究室

生命・環境科学研究室

心理学研究室

情報メディア学系

メディアデザイン研究室

メディア文化研究室

経営情報研究室

教職課程

Education for Teachers

先端データ科学研究センター

Research Center for Advanced Data Science

看護学部 Faculty of Nursing

看護学科

Department of Nursing

基盤看護分野

成育看護分野

成人・高齢者看護分野

地域看護分野

ヘルスケア実践研究センター Center for Healthcare Promotion and Research

学生部 Student office

医務室 University Clinic

情報サービスセンター Informatics Support Center

図書情報部 Library Information Section

情報システム部 Information System Section

総合情報研究所 Information Research Institute

事務局 Administrative Division

企画調整課 Planning and Coordination Department

総務課 General Affairs Department

学生教務課 Student and Academic Affairs Department

入試・広報課 Entrance Exams & Publicity Department

キャリア課 Career Services Department

(2023年4月1日現在)

教員紹介

役職者

- 学長 布広 永示
- 大学院研究科委員長 花田 真樹
- 看護学部長 藤井 博英
- 看護学科長 細川 満子
- 学生部長 朴 鍾杰
- 総合情報研究所長 松下孝太郎

- 総合情報学部長 圓岡 偉男
- 総合情報学科長 堂下 浩
- 教職課程主任 富田 瑞樹
- 情報サービスセンター長 井関 文一
- 医務室長 朴 鍾杰



学長
布広 永示



大学院研究科委員長
花田 真樹



総合情報学部長
圓岡 偉男



看護学部長
藤井 博英



総合情報学科長
堂下 浩



看護学科長
細川 満子



教職課程主任
富田 瑞樹



学生部長
医務室長
朴 鍾杰



情報サービスセンター長
井関 文一



総合情報研究所長
松下 孝太郎

大学院：総合情報学研究科

■研究科委員長 花田 真樹
 ■専攻主事 村上 洋一

■指導教授 井関 文一 茨木 正治 金子 仁子 佐野 夏樹 鈴木 英男 圓岡 偉男
 堂下 浩 富田 瑞樹 永井 保夫 西村 明 朴 鍾杰 花田 真樹
 松下孝太郎 松下 博宣 山口 豊

■指導准教授 村上 洋一

■授業担当 池田 幸代 宇田川佳久 大見 嘉弘 小早川睦貴 川勝 英史 原田恵理子
 藤原 丈史 マッキンケネスジェームス 森口 一郎

■非常勤講師 浅沼 市男 伊藤 敏朗 北風 和久 斎藤 隆 櫻井 尚子 中尾 浩
 原 慶太郎 森山 賢一

《情報システム系列》

①：専門分野
 ②：担当科目



指導教授
井関 文一
 教授

- ①応用画像処理
- ②画像情報特論
 修士特別研究
 修士特別演習



指導教授
佐野 夏樹
 教授

- ①応用統計学，データマイニング
- ②データマイニング特論
 機械学習特論A



指導教授
鈴木 英男
 教授

- ①暗号・情報セキュリティ理論
- ②暗号理論特論
 修士特別研究
 修士特別演習



指導教授
富田 瑞樹
 教授

- ①環境復元論・生態学
- ②環境マネジメント特論
 修士特別研究
 修士特別演習



指導教授
永井 保夫
 教授

- ①人工知能
- ②人工知能システム特論
 機械学習特論B
 修士特別研究
 修士特別演習



指導教授
朴 鍾杰
 教授

- ①時系列衛星データを用いた土地被覆変化抽出に関する研究
- ②空間情報特論
 修士特別研究
 修士特別演習



指導教授

花田 真樹

教授

- ①情報通信ネットワーク工学
- ②情報ネットワーク特論A・B
- 修士特別研究
- 修士特別演習



指導准教授

村上 洋一

准教授

- ①生命情報学
- ②バイオインフォマティクス特論
- 情報数理特論B



授業担当

宇田川 佳久

教授

- ①ビッグデータのパターンマイニング学
- ②ソフトウェア工学特論



授業担当

川勝 英史

教授

- ①数理科学
- ②数理科学・特論a
- 数理科学・特論b



授業担当

原田 恵理子

教授

- ①発達臨床心理学
- 学校臨床心理学
- ②教育心理学特論



授業担当

マッキンケネスジェームス

教授

- ①マルチエージェント論
- ②ソフトコンピューティング特論
- 知能情報特論



授業担当

大見 嘉弘

准教授

- ①コンピュータによる
- 知的創造支援システム
- ②組み込みシステム特論



授業担当

藤原 丈史

准教授

- ①計算機統計学
- ②データベース特論



授業担当

森口 一郎

准教授

- ①情報ネットワーク
- ②ネットワークセキュリティ特論I・II



《社会情報系列》



指導教授
茨木 正治
教授
①マス・コミュニケーション論
②社会情報特論Ⅰ・Ⅱ
マスコミュニケーション特論Ⅰ・Ⅱ
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
圓岡 偉男
教授
①映像表現論
②社会哲学特論
情報社会特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
堂下 浩
教授
①ベンチャー企業の成長戦略
②金融情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
西村 明
教授
①聴覚心理学
②音響メディア情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
松下 孝太郎
教授
①画像工学・教育工学
②マルチメディア特論
情報教育学研究
修士特別研究
修士特別演習



授業担当
池田 幸代
准教授
①経営学，経営組織論
②経営情報特論

《ヘルスケア情報系列》



指導教授
金子 仁子
教授
①公衆衛生看護学
②ヘルスケア情報特論
ヘルスケア情報管理特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
松下 博宣
教授
①医療管理学
ヘルスケア・システム科学
健康医療情報学
②ヘルスケアイノベーション特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
山口 豊
教授
①臨床心理学
②ヘルスケア情報教育特論
修士特別研究
修士特別演習



授業担当
小早川 睦貴
准教授
①認知心理学
②ヘルスケア情報特論

総合情報学部：総合情報学科

- 学科長 堂下 浩
- 学科主事 川勝 英史

専任教員

◆情報システム学系

- 学系長 鈴木 英男
- 学系主事 河野 義広
- 教授 井関 文一 宇田川佳久 斉藤 卓也 鈴木 英男 永井 保夫 花田 真樹
マッキンケネスジェームス
- 准教授 大城 正典 大見 嘉弘 河野 義広 岸本 頼紀 森口 一郎
- 助教 早稲田篤志

◆データサイエンス学系

- 学系長 佐野 夏樹
- 学系主事 小早川睦貴
- 教授 川勝 英史 蔵岡 誉司 佐野 夏樹 富田 瑞樹 朴 鍾杰 山口 豊
- 准教授 小早川睦貴 田中 啓介 釣井 達也 藤原 丈史 村上 洋一 吉澤 康介

◆情報メディア学系

- 学系長 堂下 浩
- 学系主事 藤田 修平
- 教授 茨木 正治 圓岡 偉男 堂下 浩 西村 明 松下孝太郎
- 准教授 池田 幸代 植田 寛 樋口 大輔 藤田 修平 茂住 和世 安岡 広志
- 助教 中島 淳

◆教養担当

- 教授 石井 政弘
- 助教 高橋 洋平

◆教職課程

- 課程主任 富田 瑞樹
- 課程主事 原田恵理子
- 教授 富田 瑞樹 田邊 昭雄 原田恵理子 肥後 利朗

情報システム学系

《AI・システムデザイン研究室》

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室



教授
宇田川 佳久
①ビッグデータのパターンマイニング学
②プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
システム設計論 a・b
③ 8号館 2階8202研究室



教授
斎藤 卓也
①情報学, ロボティクス, 惑星探査ローバ IoT, 組み込みシステム
②プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
③ 7号館 4階3402研究室



教授
永井 保夫
①人工知能
②アルゴリズムとデータ構造 a・b
人工知能 a
Webシステムプログラミング a・同演習
Webシステムプログラミング b・同演習
③ 7号館 3階3303研究室



教授
マッキンケネスジェームス
①マルチエージェント論
②知識創造の方法 f
プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
人工知能 b
人工知能プログラミング
③ 7号館 3階3304研究室



准教授
岸本 頼紀
①ソフトウェア工学
②知識創造の方法 f
インターンシップ
情報システムアーキテクチャ
ソフトウェア工学 a・b
③ 7号館 3階3302研究室

《ゲーム・IoT研究室》



教授
鈴木 英男
①暗号・情報セキュリティ理論
②基礎数学入門
暗号理論
計算機数論
符号理論
③ 7号館 4階3406研究室



准教授
大城 正典
①視覚認識情報学
②プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
モバイルプログラミング b
ゲームプログラミング a・b
③ 7号館 4階3401研究室



准教授
大見 嘉弘
①コンピュータによる知的創造支援システム
②プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
アルゴリズムとデータ構造 a・b
Webシステムプログラミング a・同演習
Webシステムプログラミング b・同演習
モバイルプログラミング a
③ 7号館 4階3403研究室



准教授
河野 義広
①社会情報学
②知識創造の方法 e
プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
③ 7号館 3階3301研究室

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

《ネットワーク・セキュリティ研究室》



教授

井関 文一

- ①応用画像処理
- ②情報通信システム論 a・b
ネットワークセキュリティ論
ネットワークプログラミングa・同演習
ネットワークプログラミングb・同演習
- ③7号館3階3305研究室



教授

花田 真樹

- ①情報通信ネットワーク工学
- ②IT基礎技術論
Unix論 a・b
情報システムアーキテクチャ
情報通信ネットワーク論
- ③8号館2階8205研究室



准教授

森口 一郎

- ①情報ネットワーク
- ②Unix論 a・b
ネットワークプログラミングa・同演習
ネットワークプログラミングb・同演習
- ③7号館3階3306研究室



助教

早稲田 篤志

- ①暗号理論
- ②情報モラルとセキュリティ
プログラミング基礎・同演習
コンピュータ概論
情報ネットワーク概論
- ③8号館2階8203研究室

データサイエンス学系

《データサイエンス基盤研究室》



教授

川勝 英史

- ①オペレーションズ・リサーチ
- ②シミュレーション
情報リテラシー演習
情報分析応用
データ処理論
数値計算法
- ③1号館6階671研究室



教授

佐野 夏樹

- ①応用統計学, データマイニング
- ②情報分析基礎
情報分析応用
データサイエンスa
データサイエンスb
データマイニング
データベース管理システム
- ③1号館6階672研究室



教授

蔵岡 誉司

- ①普遍代数学, 束論, ファジィ代数学
- ②基礎数学ab
代数学ab
整数論
- ③1号館6階631研究室



准教授

釣井 達也

- ①解析学
- ②基礎数学入門
情報分析基礎
離散数学a
離散数学b
解析学a
解析学b
- ③1号館6階625研究室



准教授

藤原 丈史

- ①計算機統計学
- ②データベース論
データサイエンス概論
Webシステムプログラミングa・同演習
データ解析システム
- ③1号館6階630研究室



准教授

吉澤 康介

- ①情報工学, 教育工学
- ②情報分析基礎
情報分析応用
データ処理論
Webデータサイエンス
- ③1号館6階624研究室



①：専門分野
②：担当科目
③：研究室

《生命・環境科学研究室》



教授
富田 瑞樹
①環境復元論・生態学
②環境学
環境情報論b
地理情報システムa・b
環境システム論
環境システム演習
③8号館3階3301研究室



教授
朴 鍾杰
①時系列衛星データを用いた土地被覆変化抽出に関する研究
②プログラミング入門
コンピュータ概論
画像情報論
環境リモートセンシング
画像・動画処理演習
パターン認識
③8号館2階8201研究室



准教授
村上 洋一
①生命情報学
②プログラミング応用a・同演習
プログラミング応用b・同演習
Unix論a・b
③8号館3階8305研究室



准教授
田中 啓介
①生命情報学
②計算生物学概論
生命情報解析学
生命情報解析学演習
③8号館3階8304研究室

《心理学研究室》



教授
山口 豊
①臨床心理学
②臨床心理学概論
心理検査法・同実習
人間関係論
臨床心理学実習
カウンセリング
③1号館7階774研究室



准教授
小早川 睦貴
①認知心理学
②情報リテラシー演習
心理学概論
情報分析基礎
認知心理学
心理学研究法
心理学実験I・II
③1号館7階725研究室

情報メディア学系

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

《メディアデザイン研究室》



教授
西村 明

- ①聴覚心理学
- ②知識創造の方法c
音響メディア論I・II
サウンドデザイン論
知覚心理学
学校インターンシップ
- ③4号館1階5111研究室



教授
松下 孝太郎

- ①画像工学・教育工学
- ②コンピュータグラフィックス基礎
コンピュータグラフィックス演習
- ③1号館7階731研究室



准教授
植田 寛

- ①映像メディア表現論
映像演出論
映像専門教育論
- ②映像メディア表現
映像表現基礎I
映像制作b
- ③4号館1階5115研究室



准教授
藤田 修平

- ①映画学
映像制作論
- ②映像表現論
映像表現基礎I・II
メディア社会論
映像制作論I
- ③4号館1階5114研究室



准教授
安岡 広志

- ①視覚情報処理学
視覚伝達デザイン学
- ②コンピュータ概論
コンピュータグラフィックス基礎
Webデザイン演習
メディア広告論
- ③1号館7階722研究室



助教
中島 淳

- ①マルチメディア論
- ②インターンシップ
コンピュータグラフィックス論
ゲーム制作基礎
視覚デザイン論
出版メディア論
- ③1号館7階726研究室

《メディア文化研究室》



教授
茨木 正治

- ①マス・コミュニケーション論
- ②キャリアデザインb
比較社会論
マスメディア論
社会心理学
政治と情報
新聞論
- ③1号館7階728研究室



教授
圓岡 偉男

- ①理論社会学
- ②情報モラルとセキュリティ
知識創造の方法b
- ③1号館7階779研究室



准教授
茂住 和世

- ①日本語教育
- ②日本語a～d
知識創造の方法a
日本の社会と生活文化
ビジネスコミュニケーション
リクルートコミュニケーション
異文化コミュニケーション論
- ③1号館7階756研究室

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

《経営・情報研究室》



教授
山下 浩

- ①ベンチャー企業の成長戦略
- ②情報分析基礎
グローバル経済と金融
金融論
経営イノベーション論
ベンチャービジネス論
- ③1号館6階604研究室



准教授
池田 幸代

- ①経営学, 経営組織論
- ②経営と情報
情報社会と職業
経営組織論
マーケティング・コミュニケーション論
ブランドマネジメント論
- ③1号館6階679研究室



准教授
樋口 大輔

- ①経営学, 経営戦略論
- ②情報リテラシー演習
インターンシップ
経営学概論
マーケティング論
経営戦略論
マーケティング戦略論
- ③1号館6階678研究室

教養担当



教授
石井 政弘

- ①スポーツバイオメカニクス
- ②スポーツ演習 a~d
健康科学
スポーツ情報論
スポーツ心理学
- ③1号館7階711研究室



助教
高橋 洋平

- ①言語学・英語学(統語論・意味論)
- ②英語a~d
- ③1号館7階776研究室

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

教職課程



教授
田邊 昭雄

- ①教育学
- ②教職概論
生徒指導・進路指導論
教育実習Ⅰ・Ⅱ
学校インターンシップ
教職実践演習
- ③1号館7階707研究室



教授
富田 瑞樹

- ①環境復元論・生態学
- ②環境学
環境情報論 b
地理情報システム a・b
環境システム論
環境システム演習
- ③8号館3階8301研究室



教授
原田 恵理子

- ①発達臨床心理学
学校臨床心理学
- ②学校心理学
道徳教育の理論と方法
教育心理学
教育相談論
教育実習Ⅰ・Ⅱ
教職実践演習
- ③1号館7階702研究室



教授
肥後 利朗

- ①教育学（数学教育）
- ②教育実習Ⅰ・Ⅱ
数学科教育法c
数学科教育法d
情報と職業
教職実践演習（中・高）
学校インターンシップ
特別講義a・特別講義b
- ③1号館7階708研究室

■総合情報学部総合情報学科の授業に関する質問や相談は、授業中に行うのが原則ですが、次の方法で行うことも可能です。

◇コミュニケーションアワーを確認して研究室を訪ねる。

コミュニケーションアワーとは、教員が学生の相談を受け付ける時間のこと。各教員のコミュニケーションアワーは、J-portの教員時間割で確認することができます。

各教員の研究室は、学生ハンドブックのキャンパス案内をご覧ください。

◇非常勤講師に相談がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認し、メール等を送る。または、学生教務課に申し出る。

非常勤講師の出講曜日等については、J-portの教員時間割で確認してください。

■非常勤講師	秋元 大輔	浅沼 市男	足立 加勇	飯塚 由樹	伊藤 敏朗	伊藤 幸郎
	今川 和	江島 顕一	海老原 亨	大串 一彦	太田美智子	大橋 真也
	角田 哲哉	景山 秀貴	北風 和久	木村 昌史	小出 英範	小岩 義典
	國府方麗夏	小須田 健	近藤 弘美	齋藤 諭	齋藤 修司	斎藤 隆
	坂口 太助	櫻井 尚子	更科加代子	篠原 徹	白井 雅彦	須賀 孝之
	鈴木 聡	鈴木 二正	鈴木 敏彦	關 晶子	竹内 英世	田子 健
	玉川 博章	崔 甲伊	富樫 春人	中尾 宏	中尾由美子	西川 マキ
	花村 征志	原 朗	原 慶太郎	平塚 聖敏	平山 英毅	福室 康介
	本間 章郎	松堂 啓子	見上 裕昭	水戸 俊介	森山 賢一	矢野 剛
	藪内 聡子	吉富 公彦	渡辺 俊一	渡邊 啓之	渡邊 正明	内田 治
	林 晃喜	宮原 均				

看護学部：看護学科

- 学科長 細川 満子
- 学科主事 時田 礼子

- 専任教員
- 教授 市川 香織 金子 仁子 小島 善和 藤井 博英 細川 満子 松下 博宣
- 准教授 高柳千賀子 中嶋 隆裕 水野 芳子 山内 英樹 山野内靖子 吉武 幸恵
- 助教 石井 優香 伊藤 美香 岸田 るみ 児玉 悠希 菅原 久純 時田 礼子
芳賀 邦子
- 臨床教員 菅田 瞳 嶋田 礼子 鈴木理恵子 中山 瑠理 宮野 公恵

《基盤看護分野》

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室



教授
松下 博宣

- ①医療管理学
- ②ヘルスケアサービス論
看護とグローバルヘルス
ヘルスケアマネジメント論
社会イノベーション論
キャリアデザインとケアⅠ～Ⅳ
- ③7号館2階3208研究室



准教授
吉武 幸恵

- ①基礎看護学
- ②看護学概論
看護技術論Ⅰ・Ⅱ
ヘルスアセスメント論
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護研究
- ③7号館2階3212研究室



助教
児玉 悠希

- ①基礎看護学・看護情報学
- ②ヘルスアセスメント論
看護技術論Ⅰ・Ⅱ
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護と情報Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3205研究室



助教
菅原 久純

- ①基礎看護学
- ②看護技術論Ⅰ・Ⅱ
ヘルスアセスメント論
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護と情報Ⅰ
- ③7号館1階3107研究室

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室

《成人・高齢者看護分野》



教授
小島 善和

- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
成人看護学方法論（急性期）
成人看護学方法論（慢性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
災害看護論
- ③7号館1階3111研究室



准教授
高柳 千賀子

- ①高齢者看護学
- ②高齢者看護学概論
高齢者看護学方法論
高齢者看護学実習
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3201研究室



准教授
山内 英樹

- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
成人看護学方法論（急性期）
成人看護学方法論（慢性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
リハビリテーション論
- ③7号館1階3102研究室



助教
石井 優香

- ①高齢者看護学
- ②高齢者看護学概論
高齢者看護学方法論
高齢者看護学実習
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館1階3109研究室



助教
伊藤 美香

- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
成人看護学方法論（慢性期）
成人看護学方法論（急性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3211研究室

《成育看護分野》



教授
市川 香織

- ①母性看護学
- ②母性看護学概論
母性看護学方法論
母性看護学実習
キャリアデザインとケアⅠ～Ⅳ
家族看護学
- ③7号館2階3203研究室



准教授
山野内 靖子

- ①小児看護学
- ②小児看護学概論
小児看護学方法論
小児看護学実習
- ③7号館1階3106研究室



准教授
中嶋 隆裕

- ①小児看護学
- ②小児看護学概論
小児看護学方法論
小児看護学実習
- ③7号館1階3103研究室

《地域看護分野》

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室



教授
藤井 博英
①精神看護学
②精神看護学概論
精神看護方法論
精神看護学実習
③7号館1階3108研究室



教授
金子 仁子
①公衆衛生看護学
②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
③7号館2階3207研究室



教授
細川 満子
①在宅看護学
②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
ケア論
看護と情報Ⅳ
③7号館2階3209研究室



准教授
水野 芳子
①在宅看護学
②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
看護と情報Ⅲ
③7号館2階3210研究室



助教
岸田 るみ
①公衆衛生看護学
②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
③7号館1階3104研究室



助教
時田 礼子
①公衆衛生看護学
②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
③7号館2階3206研究室

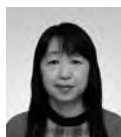


助教
芳賀 邦子
①在宅看護学
②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
③7号館2階3202研究室

《臨床教員》



菅田 瞳
③9号館1階教員室2



嶋田 礼子
③7号館2階3227研究室



鈴木 理恵子
③9号館1階教員室2



中山 瑠理
③7号館2階3227研究室



宮野 公恵
③7号館2階3227研究室

■看護学部・看護学科の専任教員のコミュニケーションアワーは、原則、毎週水曜日1～3時限目としていますが、教員別のスケジュール表は新学期ガイダンスの時に配布します。学生は、コミュニケーションアワー以外の時間でも研究室を訪ねることは出来ますが、教員不在の場合は各教員にEメールに連絡をして予約を取って面会するようにしてください。

■看護学部・看護学科 非常勤講師

科 目	氏 名
生命倫理	近藤 弘美
人権・ジェンダー	細田 満和子
基礎化学	田中 嘉廣
統計学	内田 治
看護情報と統計	内田 治
疫学・社会調査	内田 治
形態機能論Ⅰ	嘉藤 邦彦
	梅野 福太郎
	石井 猛
	青墳 信之
	平島 修
	平栗 雅樹
形態機能論Ⅱ	市川 千秋
	荒木 慶彦
	齋藤 俊彦
	森尾 比呂志
臨床栄養学	生魚 薫
臨床薬理学	田嶋 公人
臨床生化学	荒木 慶彦
病理学	樋野 興夫
病態生理学	梅野 福太郎
	大内 玲
	山内 豊明
疾病と治療Ⅰ	梅野 福太郎
	平島 修
	有園 行朋
	齋藤 俊彦
	橘 香穂里
	森尾 比呂志
	平栗 雅樹
	青墳 信之

科 目	氏 名
疾病と治療Ⅱ	中田 泰彦
	嘉藤 邦彦
	荒木 慶彦
	海賀 照夫
疾病と治療Ⅲ	是木 明宏
	植木 英亮
	尾久 守侑
	土持 太一郎
	寺田 和樹
	池田 弘之
高橋 聡子	
感染症学	鈴木 明子
成人看護学概論	中村 美鈴
学校保健論Ⅰ	荒川 雅子
産業保健論Ⅰ	伊藤 美千代
学校保健論Ⅱ	荒川 雅子
産業保健論Ⅱ	伊藤 美千代
保健福祉行政論	大久保 一郎
口腔健康論	大石 朋子
	菊谷 武
	田村 文誉
災害看護論	中村 美鈴
国際看護論	藤屋 リカ
医療リスクマネジメント	藤谷 克己
エンドオブライフケア論	間瀬 由記
	竹倉 史人
人間工学	福田 亮子
リハビリテーション論	松井 優子

※非常勤講師に質問がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認してください。

校章・学旗

校章は、2001年10月学内で公募され、2002年3月に山崎哲史氏（2003年度卒業 [情報文化学科]）のデザインが採用されました。

学旗は、その校章を用いて平成14年度に制定されました。



東京情報大学学歌

林 雄二郎 作詞
伊藤 敏朗 作曲

一 新墾の千城ヶ丘に
いま開くあしたへの門
われ等ともにここに集いぬ
新たなる門出のために

二 昨日までかくありぬとも
今日はまた泥むことなし
明日ゆくはいかなる道ぞ
わが旅の終わることなく

三 群青の空に羽展べ
はるかなる時空を超えて
かぎりなくひろがり止まぬ
英知こそわが心なれ

♩ = 100 B^b FonA Gm F B^bonD^b FonC C⁷ F

に

[A] F C⁷ B^b F

い は り の ち し る が お か に
の う ま で か く あ り め と も
ん じょ う の そ ら に は ね の べ

B^b ConB^b F Dm Gm B^b Bm⁷⁻⁵ C⁷

い ま ひ ら く あ し た へ の も ん
ぎょ う は ま た な ず む こ と な し
は る か な る じ く う を こ え て

FonA B^b C⁷ F FonE^b

わ れ ら と も に こ こ に つ ど い め
あ す ゆ く は い か な る み ち ぞ
か ぎ り な く ひ る が り や ま ぬ

B^b C F ConE D[#]dim D⁷ Gm C F

あ ら た な る か ど で の た め に
わ が た び の お わ る こ と な く
え い ち こ そ わ が こ こ ろ な れ

FonA B^b A A⁷onC[#] Dm C[#]aug FonC C⁷ F

1.2

き
ぐ

B^b FonA Gm F B^bonD^b FonC C⁷ F

3. rit...

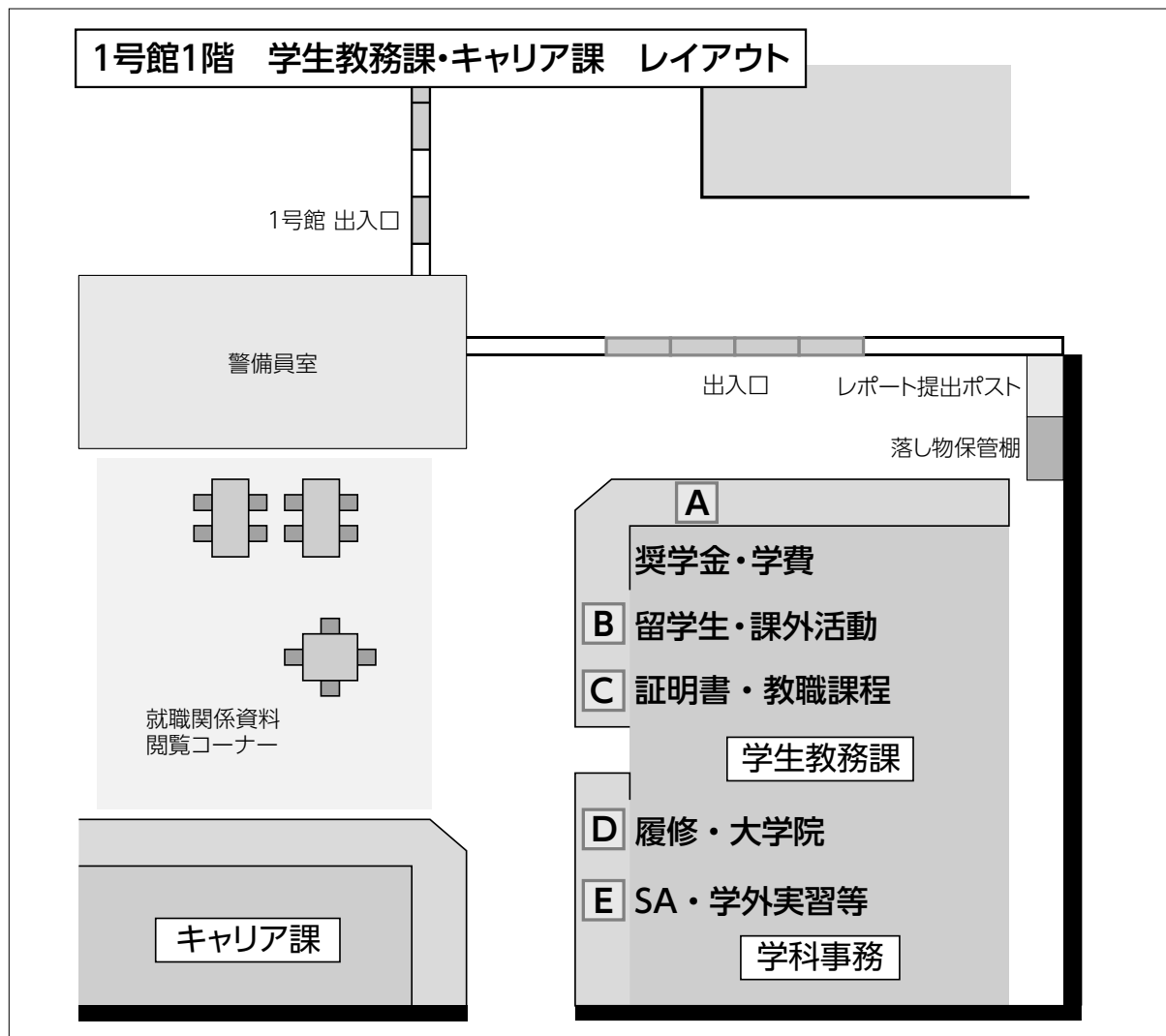


1. 各種手続および相談（担当）窓口

窓口等利用案内

窓口および施設	窓口受付時間	場所	連絡先
学生教務課	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館1階（同フロア）	043-236-4612
キャリア課	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館1階（同フロア）	043-236-4614
医務室	9:00～17:30	1号館1階（医務室）	043-236-1109
学生相談室	11:00～17:00	5号館1階（学生相談室）	043-236-1194
ブックセンター	10:30～17:00	1号館1階フロア横	043-236-0094
証明書自動発行機	9:00～18:30	1号館1階事務局横	—
情報サービスセンター （情報システム部）	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館2階	043-236-4620
情報サービスセンター （図書館部）	9:00～17:30 金曜日は17:00まで （ライブラリーゾーン 9:00～20:00）	4号館2階（総合情報センター）	043-236-4617
食堂	11:00～15:00	2号館（食堂）	—
売店	9:00～17:00	2号館（食堂）	—
コミュニケーションルーム （パティオ）	8:00～19:00	3号館1階	—

- *土・日曜日，祝祭日，大学の休業日には業務を行いません。（土曜授業日を除く）
- *長期休業中（春・夏・冬）の窓口時間は，HP・J-port等でお知らせします。
- *相談及び問合せは窓口で行うのが原則です。電話での確認・相談は控えてください。
- *窓口受付時間は今後変更となる場合があります。



*レイアウト等は令和4年3月現在のもの。今後，変更になる場合があります。

授業担当教員への相談・質問

専任教員または非常勤講師が担当する授業科目に対して質問等がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認し、連絡してください。

クラス担任に対して修学上や生活上の相談等がある場合は、J-portの教員時間割を参考に、直接担当教員の研究室を訪問してください。

主な手続き

手続き及び相談の内容によって担当窓口が異なります。以下の一覧を参照し、指定の窓口に出向いて手続きをしてください。掲載ページ欄にページの記載があるものは、そのページに詳細が掲載されています。

***届出内容の変更等**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学生（本人）の住所変更	所定の手続きをとる（「住所変更届」を再提出）	学生教務課	35
学生（本人）の携帯電話番号の変更	所定の手続きをとる		
学生（本人）の氏名・本籍地変更	所定の手続きをとる		
保証人・連絡人の住所変更	所定の手続きをとる		
保証人・連絡人の変更	所定の手続きをとる		
休学・退学・復学・再入学の相談	窓口で相談のうえ、所定の手続きをとる		33

***学生生活全般**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学生証の更新等	①裏面シールの張替え ・年度更新時（毎年4月） ・記載事項変更時	学生教務課	34
	②再発行【¥1,000】 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	③仮学生証【¥500】※定期試験時のみ 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	④IDカード再発行【¥1,500】※看護学部のみ 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
車両による通学・入構	①新規申請 【車¥2,000バイク¥1,000】 安全運転講習会（学校主催：4月上旬）に参加し、 締切期限までに窓口提出	学生教務課	37
	②継続申請 窓口にて書類配布・提出 ※年1度更新 締切日：毎年5月末		
	③再発行（紛失した場合など） 【車¥1,000 バイク¥500】 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	④登録車両変更 窓口で申し出をし、変更する任意保険証を提出		
各種証明書・学割証の発行	自動発行機により発行する		35～36
J-portの利用	窓口で相談する	学生教務課 (D 履修)	49, 53～54
アパート等の住居相談	窓口で相談する	学生教務課	43
アルバイト紹介	学生教務課掲示板で情報を確認のうえ、直接申し込む		43～44
悩み等の個別相談	事前に医務室へ申し込み、カウンセリングを受ける	学生相談室 (5号館)	44, 45, 47～48
学内、通学途中でのケガ	窓口で、学研災の事故報告・保険請求手続きを行う	学生教務課 (B 課外活動)	48～49
遺失物、拾得物	学生教務課構内にて3ヶ月間保存 ※3ヶ月以降は処分	学生教務課	—

*** 学費および奨学金**

種 別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学費納付の延納手続	『学費延納願』を窓口にて配布・提出	学生教務課 (A 奨学金・学費)	39
奨学金	日本学生支援機構奨学金制度		41~42
	特待生制度		41
	その他の奨学生制度		42

*** 課外活動**

種 別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
新規結成	校友会総務部執行委員会主催の説明会（年2回）に参加し、申請・承認	学生教務課 (B 課外活動)	165~170
教室等の学内施設の利用	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『施設利用許可願』を窓口にて提出		
休日の活動	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『施設利用許可願』を窓口にて提出		
合宿	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『合宿届』を窓口にて提出		
各部・サークルへの配布物	6号館（学生会館）1階、総務部執行委員会部室横のポスト		
掲示物の扱い	職員確認後、了承印が押印されているもののみ所定の掲示場所へ掲示可		

*** 授業および資格に関すること**

種 別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
履修登録に関する相談	窓口にて相談する	学生教務課 (D 履修)	59~60
試験・成績評価に関する相談	窓口にて相談する		60~68
授業に関する相談	窓口にて相談する		70~130
資格試験等の相談	窓口にて相談する	キャリア課	183~184
スコアラ	窓口にて相談する、各スコアラ担当教員が対応		183
ノートパソコン	使用方法の相談	情報サービスセンター	—
	修理中の貸し出し		—
	修理及び貸し出しのための書類配布	学生教務課	—
コンピュータ・ネットワークの利用	窓口にて相談する	情報サービスセンター	190~193
ネットワーク利用許可証の再発行	再発行申請書を発行（有料）し窓口にて提出する講習会（週1回開催）へ参加する		190

*** 就職及びキャリア教育に関すること**

種 別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
就職活動の相談	窓口にて相談する	キャリア課	171~184
求人情報・企業情報の閲覧	就職資料室（キャリア課）で閲覧するJ-portの求人情報検索を活用する		179
進路に関する手続き	所定の手続きをとる		181

2. 学籍について

修業年限（学則第21条関連）

学部学生の修業年限は4年とし、通算して8年を超えて在学することはできません。
ただし、再入学者については、再入学以前の在学年数を加えて8年を超えることができません。
また、編入学生は6年を超えて在学することはできません。

大学院の修業年限（大学院学則第5条関連）

博士前期課程の学生の修業年限は2年ですが、通算して4年を超えて在学することはできません。また、博士後期課程の学生の修業年限は3年ですが、通算して6年を超えて在学することはできません。

休学（学則第25条関連）

病気その他やむを得ない事由のため、3カ月以上修学することができない場合は、保証人連署のうえ願い出て、許可を得て休学することができます。

なお、休学の事由が病気であるときは、医師の診断書を添付してください。

(1) 休学期間

- ① 休学期間中でもその事由が止んだときは、復学できます。
ただし、試験期間の6カ月前に復学した者でなければ受験することはできません。
- ② 休学期間は、在学期間に算入しない。
- ③ 休学した翌年度は原級となる。
- ④ 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- ⑤ 休学期間が次年度に亘る場合は、各年度ごとに休学の手続きを行うものとする。

(2) 休学期間中の授業料（学則第32条関連）

- ① 4月から1年間の休学の場合……24万円（在籍料20,000円/月×12ヶ月）
- ② 学年途中の休学の場合……休学期間分の在籍料20,000円/月×休学月数
在学期間分の学費（授業料、整備拡充費、実験実習演習費、学生厚生費）は月割で在籍月数分とする。

復学

休学者は、休学期間終了の2週間前までに保証人連署のうえ願い出て、許可を得て復学することができます。

退学（学則第27条関連）

都合により修学できなくなったときは、保証人連署のうえ願い出て、許可を得て退学することができます。その際は、必ず学生証を添付してください。

除籍（学則第29条関連）

下記の事項に該当する者は、除籍されます。

- (1) 本学において修学する意思がないと認められる者
- (2) 督促を受けた滞納学費を、指定された期限までに納入しない者
- (3) 所定の在学年限を超えた者
- (4) 所定の休学年限を超えた者
- (5) 死亡した者、または行方不明の者

再入学（学則第30条関連）

願いにより退学した者または前述『除籍（学則第29条関連）』の(1)または(2)により除籍された者が再入学を願い出た場合には、学年の始めに限り、選考のうえ、相当年次に再入学を許可することがあります。

- (1) 再入学の願い出ができる期間は、除籍の場合、除籍となった日から1年以内とする。退学の場合はこの限りとしません。
- (2) 再入学を許可された者の退学または除籍前に修得した科目の単位は、特別の場合を除き認定する。

3. 学生証

学生証の確認・裏面シールの記入

学生証を受け取ったら、学籍番号・学科・氏名・生年月日など記載事項に誤りがないか確認してください。確認後、裏面シールに必要事項を記入してください。（通学定期券購入時に必要）
記載事項に誤りがある場合は、ただちに学生教務課に申し出てください。

学生証は常時携帯

学生証は、あなたが東京情報大学の学生であることを証明するものです。他人に貸与したり、譲渡したりしてはいけません。また、次のような場合は必ず提示できるよう“常時携帯”してください。

- ① 定期試験
- ② 成績表配布
- ③ 証明書・申請書の発行
- ④ 遺失物等の受け取り
- ⑤ 通学定期券の購入
- ⑥ 課外活動等用具及び図書の出し
- ⑦ その他、本学教職員から提示を求められたとき

※スマホケースに学生証を入れると磁気異常を起こす場合があります。

学生証を紛失・破損したとき

学生証を紛失（盗難を含む。）または破損、汚損したときはただちに学生教務課（C 証明書）へ申し出て再交付の手続きをしてください。その際、自動発行機で発行する申請書（1,000円）が必要となります。

また、学生証を紛失したときは悪用されることがあるため、念のため警察に届け出をしてください。

試験当日学生証を忘れたとき

定期試験の時に学生証を忘れた場合には、学生教務課へ申し出て「仮学生証」（当日のみ有効）発行の手続きをしてください。その際、申請書代金（500円）が必要となります。

学生証の裏面シールは年次更新

裏面シールは在籍確認の証であり有効期限は1年間です。裏面シールを更新しないと学生証が無効になります。各自、学生教務課で受け取り、年度始めに新しい裏面シールに貼り替えてください。

なお、有効期間内であっても、通学定期乗車券発行控欄に記載できなくなったときは、その都度学生教務課へ申し出て貼り替えてください。

4. 通学定期券を購入する場合

通学定期券を購入する場合は、定期券販売窓口で購入申込書に学生証を添えて購入してください。

通学経路が、二つ以上の会社の路線にまたがる場合は、居住地または大学の最寄駅の指示に従ってください。

また、京成バス株式会社ではJR千葉駅から東京情報大学までの直行バス（ノンストップバス）を運行（路線化）しています。（所要時間25分程度です。）

利用する学生は、京成バスの定期券販売窓口で購入することができる、京成バス利用共通パス（キャンパスライフ、年間62,800円：2023年度予定額）が、定期券を購入するよりも安価となりますので、購入をお勧めします。

なお、直行バスの運行予定は以下のとおりとなっていますが、原則として大学授業日のみの運行で、大学の休日及び休業期間中は運行していませんので、ご注意ください。

【運行時間】（予定）

○往路：JR千葉駅発⇒東京情報大学行き

出発時刻（JR千葉駅 発）			
8：20	8：30	10：10	12：15

※全便大学1号館前下車可

○復路：東京情報大学発⇒JR千葉駅行き

出発時刻（東京情報大学 発）			
14：50	15：00	16：30	16：40

※全便大学1号館前乗車可

5. 住所変更等

学生（本人）住所、電話番号（自宅・携帯）が変わったとき

大学から直接学生諸君に連絡することがあります。転居等により住所、電話番号（携帯電話含む）が変わった場合は、「住所変更届」を学生教務課まで提出してください。

学生（本人）の氏名・本籍地および保証人（連絡人）の情報が変わったとき

変更手続きに必要な書類を用意し、学生教務課へ提出してください。

所定の届出書類は学生教務課で配付しています。

変更内容	手続書類等
学生氏名	改姓（名）届，個人調査票変更届，戸籍抄本
保証人（連絡人）の住所変更	住所変更届
保証人（連絡人）の変更	誓約書，個人調査票変更届，保証人・続柄が記載された住民票

6. 証明書・申請書の発行（自動発行機）

証明書・申請書の種類等

証明書・申請書の大半は、各自が自動発行機を操作のうえ発行することになります。

区分	名称	担当	@手数料金額 ※1
証明書	在学証明書（和・英）／大学院・学部	学生教務課	和：200円，英：500円
	成績証明書（和・英）／大学院・学部		和：200円，英：500円
	卒業見込証明書（和・英）／学部 ※4		和：200円，英：500円
	卒業見込・成績証明書（和）／学部 ※4		200円
	修了見込証明書（和・英）／大学院 ※3		和：200円，英：500円
	健康診断証明書（和）／大学院・学部 ※4		200円
	感染症検査結果・予防接種歴等証明書		200円
	学割／大学院・学部（原則1日4枚，年間10枚まで）		無料
申請書	入構許可申請／自動車（受付期間のみ）	学生教務課	2,000円
	入構許可申請／自動二輪・原付（受付期間のみ）		1,000円
	入構許可証再発行／自動車（許可者のみ）		1,000円
	入構許可証再発行／自動二輪・原付（許可者のみ）		500円
	学生証再発行		1,000円
	仮学生証発行（定期試験期間のみ）		500円
	IDカード再発行（看護学部のみ）		1,500円
	ネットワーク利用許可証再交付申請	情報セ ※2	2,000円

※1 和：和文証明書，英：英文証明書

※2 情報セ：情報サービスセンター

※3 博士前期課程のみ

※4 卒業年次生のみ

発行機操作手順（概略）

(1) 画面に表示される以下の手順に従って、操作してください。

- ① 発行機に学生証を挿入する。（仮学生証発行及び学生証再発行申請の場合は、学生教務課窓口へ来てください。）
- ② パスワードを入力する。（初期パスワードは、入学時のガイダンスでお知らせします。）
- ③ 必要な証明書（または申請書）の種類と部数を入力する。

- ④ 画面に表示される入力内容を確認する。(発行後の手数料の返金はできません。)
 - ⑤ 画面に表示される合計手数料を入金する。
 - ⑥ 発行された証明書(又は申請書)を受け取る。
 - ⑦ 申請書は、該当の所管部署の窓口へ提出する。
 - ⑧ 卒業生は、発行された申請書を学生教務課(C 証明書)に提出する。(本人以外には証明書を発行できません。)
- (2) 証明書用の封筒は、室外に用意してあります。(封緘印が必要な場合は、学生教務課窓口(C 証明書)で貸し出します。)
- (3) 不明な点は学生教務課窓口(C 証明書)で確認してください。

利用時間

月曜～金曜 9:00～18:30 (大学の休業日を除く)

*長期休業中(春・夏・冬)の利用時間は、変更になることもあります。J-portで確認してください。

諸注意

- ◆健康診断証明書など発行期間、発行対象者が限定されるものもあるので、予め確認すること
- ◆学割証は1枚ずつ発行すること(紙づまり防止のため)
- ◆悪用されないよう、学生証及びパスワードの管理には留意すること
- ◆誤発行しないよう、操作は慎重に行うこと

7. 学割証

学割証とは

学生旅客運賃割引証の略称で、JRの鉄道、航路又は自動車線のいずれかの区間を、100kmを越えて旅行する場合、普通乗車券に限りJR・連絡社線とも全区間を2割引きで利用できるものです。

なお、学割証は学生の自由な権利として使用することを前提としたものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度ですので、以下の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限り、発行することができます。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動
- (3) 学校が認めた特別教育活動または体育・文化に関する正課外の教育活動
- (4) 就職または進学のための受験等
- (5) 学校が修学上適当と認めた見学または行事への参加
- (6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- (7) 保護者の旅行への随行

発行方法

各自が自動発行機を操作して発行します。1回の発行は原則4枚以内(1枚ずつ発行すること)で有効期間は発行日から3ヶ月です。

使用上の注意

- ◆交付された学割証は、期限切れまたは計画変更等の理由で返却しても再交付は行いません。
- ◆学割証は、記名人に限り使用できるもので、他人に譲渡して使用させることはできません。
- ◆乗車券を購入する時は学生証を必ず携帯すること。
- ◆学割証で購入した割引乗車券を、他人に譲渡して使用させることはできません。
- ◆割引乗車券で乗車する場合は、必ず学生証を携帯しなければなりません。

上記に違反した場合は、不正使用となり普通運賃の3倍に相当する額の追徴金を徴収されるだけでなく、本学の信用が損なわれ、発行停止処分を受けることになります。

8. 団体旅行割引証

課外活動や研究活動等で旅行するとき、学生8名以上で本学教職員が引率する場合に適用されます（乗車券代の5割引）。

申込みは、JR及びJR指定業者から指定の用紙をもらい、学生教務課（B 課外活動）で証明を受けてください。申込期間は、列車、連絡船は出発日の9ヶ月前から14日前までです。

9. 車両通学

本学は車両（自動車・自動二輪車・原動機付自転車）による通学を許可しています。希望者は、大学主催の「安全運転講習会」（4月上旬開催）に必ず参加してください。不参加かつ未許可のまま通学した場合、学則上の処分を含め厳格に対処します。また、学生駐車（輪）場以外の駐車（輪）、学内走行は禁止です。[別冊子「諸規則諸規程」のP.52「東京情報大学車両通学要領」参照]

また、毎年本学学生との関係する交通事故が多発しています。交通事故は当事者間の責任となりますので、通学途上はもちろん、日常生活においても常に安全運転を心掛け、事故防止に努めてください。本学では車両通学許可の絶対条件として「任意保険の加入」を義務付けています。学内での車両に関するトラブル（盗難・あて逃げ等）について、本学は一切の責任を負いません。各自、自己管理を徹底してください。

なお、近年、自転車の交通法規違反、未整備車両の事故等が社会問題となっています。大学では、許可制をとっていませんが、自転車通学についても交通法規等を遵守してください。また、万が一事故の加害者となった場合に備えて、あらかじめ「自転車保険」に加入しておくことを強くおすすめします。

申請許可手順

- ① 大学主催の「安全運転講習会」に参加
- ② 必要書類を締切期限までに学生教務課（B 課外活動）に提出
- ③ 許可証の交付
自動車：入構許可証（紙）
自動二輪車・原動機付自転車：入構許可カード

申請期間・更新

許可期間：交付日～翌年度5月末

更新締切日：毎年5月末

※更新を希望する場合は、学生教務課（B 課外活動）にて申請書類を配布します。

臨時許可証

課外活動（翔風祭時など）や本人の申請等でやむを得ない場合、期間を限定し、臨時許可証を交付する場合があります。学生教務課（B 課外活動）にて相談して下さい。

10. 学内施設・貸出し用具

学内施設はそれぞれ決められたルールに従って利用してください。また、学生教務課（B 課外活動）では運動用具等の貸出しを行っています。希望者は学生証を提示して申し込んでください。

学内施設の利用

学内施設の利用可能時間は下記のとおりです。いずれも休日及び大学の休業日を除く月曜日から金曜日に限りです。夏季及び冬季における学生の休業期間中は変更となる場合がありますので、事前に確認してください。なお、保守管理の都合上、第1グラウンド及び第2グラウンドの一般学生への貸し出しは行っていません。（詳しいことは別冊子「諸規則諸規程」のP.55「東京情報大学学生会館使用要領」、P.56東京情報大学部室及び同好会室使用要領、P.57「課外活動における教室使用要領」P.58「東京情報大学体育館アリーナ使用要領」を参照）

施設名	利用時間	利用上の注意
6号館（学生会館ピオーネ）	8：00～22：00	共用施設（多目的ホール、和室、会議室）の利用はゼミ及び学友会各団体に限る。
3号館（体育館）アリーナ	9：00～20：00	ゼミ及び学友会各団体に限る。
学生会館前広場	9：00～20：00	ゼミ及び学友会各団体に限る。
部室及び同好会室	8：00～21：00	学友会団体に限る。
教室	16：30～19：00	ゼミ及び学友会各団体に限る 事前の届け出が必要
コンピュータ実習室	9：00～21：00	授業に使用しない時間帯に限る。 P.188、および別冊子「諸規則諸規程」P.63を参照
4号館（総合情報センター）「ライブラリー・エリア」	9：00～20：00	P.187、および別冊子「諸規則諸規程」P.67を参照

※休日、夜間等に利用する場合は全ての施設で事前に届け出が必要

運動用具の貸出し

学生教務課にある貸出し表に記入すれば、使用責任者の学生証と引き換えに貸出します。

現在用意してあるのは、野球用具（クラブ・軟式ボール）、サッカーボール、バレーボールなどですが、数に限りがあり利用者も多いことから常時使用できるとは限りません。

使用後は、直ちに返却してください。

空気入れ等の貸出し

自転車利用者のために「空気入れ」と「潤滑油」を用意しています。

「空気入れ」は1号館1階警備室横にありますので、ご自由に利用してください。

「潤滑油」を希望する者は、学生教務課で学生証を提示し、申し出てください。

11. スクールバスの利用・申込

ゼミ活動・研究室の研修旅行・課外活動団体の試合・合宿などへ出かける場合、以下の要領に従って大学のスクールバスを利用することができます。（原則としてゼミ担当教員・部長・顧問の引率を必要とします。）

なお、詳細については学生教務課（B 課外活動）で問い合わせください。

運行の条件

(1) 乗車人数	20人以上55人以下
(2) 運行時間	1日8時間以内
(3) 運行地域	原則として、関東圏内および宮城県・福島県・山梨県・新潟県・静岡県・愛知県・岐阜県

申込方法・許可

(1) 利用申込	利用申込期間は、利用希望日の3ヶ月前から3週間前までに、「スクールバス利用願」を学生教務課（B 課外活動）へ提出してください。
(2) 利用許可	バスの利用目的・空き状況等を確認後、利用を許可します。 (利用できない場合もあります。)

利用料金

(1) 燃料代	走行距離1kmにつき130円
(2) 運行者委託費用	1日につき10,000円
(3) 有料道路・有料駐車場代	実費負担
(4) 運転者宿泊代	実費負担
(5) その他運行に要した諸費用	実費負担

※片道利用の場合でも往復料金を請求いたします。

12. 学費納入

学費の納入方法

学費は、一年分を分納一回目分と分納二回目分の2期に分けて納入いただきます。納入方法は、預金口座振替申込書により指定していただく預金口座からの自動引落し（振込手数料は本学負担）を原則としています。

また、令和5年度の分納一回目分につきましては、事務処理の都合上、口座自動引落しによる納入ができません。4月中旬に本学所定の振込依頼書を保証人宛に郵送いたしますので、納入期限までに納入をお願いいたします。

なお、外国人留学生については、振込依頼書により納入いただきます。

休学者についての取り扱い

休学した場合の授業料等は、以下の計算式により算出します。

区分	費目	計算方法
休学期間	在籍料	20,000円×休学月数
在学期間	授業料	(授業料/12) × 在学月数
	実験実習演習費	(実習演習費/12) × 在学月数
	整備拡充費	(整備拡充費/12) × 在学月数
	学生厚生費	(学生厚生費/12) × 在学月数

*既納の学費については、上記金額を清算する。

*各費目の計算は、100円未満を切り捨てとする。

復学者についての取り扱い

休学期間が終了し、年度の始めに復学した学生の学費は、復学した学年にかかわらず在籍することとなった学年の学費と同額とします。

なお、学年途中で復学した学生の授業料は、復学した月から月割計算した額とします。

原級者についての取り扱い

原級となった場合の学費は、原級した学年にかかわらず在籍することとなった学年の学費と同額とします。

留年者についての取り扱い

学部4年次において留年した場合の学費は、当該年度の4年次の学費と同額とします。

また、博士前期課程2年次、博士後期課程3年次において留年した場合の学費は、留年した学年の学費と同額とします。

再入学者についての取り扱い

再入学した学生の学費は、再入学する学年の納付額と同額とします。

学費延納願

災害、倒産、家計支持者の死亡等『特別な事情』により、学則に定められた期日までに納入できない場合は、所定の手続きにより承認された場合に限り、納付期限から起算して3ヶ月以内の延納を許可しています。手続きは『学費延納願(所定様式)』に理由を明記し、学生(本人)・保証人連署のうえ、学生教務課(A 奨学金・学費)へ申請して下さい。

総合情報学部〈平成29年度以降の入学者に適用〉

(単位：円)

	入学金	授業料	実習演習費	整備拡充費	学生 厚生費	その他の諸会費	合計
1年次	270,000	分納1回目分 390,000 分納2回目分 390,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	22,500	後援会入会金 10,000 後援会費 10,000 校友会入会金 5,000 学友会費 10,000 合計 35,000	分納1回目分 852,500 分納2回目分 525,000 1年分 1,377,500
2年次		分納1回目分 405,000 分納2回目分 405,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 30,000	分納1回目分 582,500 分納2回目分 540,000 1年分 1,122,500
3年次		分納1回目分 420,000 分納2回目分 420,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 30,000	分納1回目分 597,500 分納2回目分 555,000 1年分 1,152,500
4年次		分納1回目分 435,000 分納2回目分 435,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 校友会終身会費 15,000 学友会費 20,000 合計 45,000	分納1回目分 627,500 分納2回目分 570,000 1年分 1,197,500
合計	270,000	3,300,000	360,000	720,000	60,000	140,000	4,850,000

*原級・留年者の納付金は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。

*編入学生の納付金は、原則として、編入学した学年が適用を受けている学則によって定められた学年の額を徴収する。

看護学部〈平成29年度以降の入学者に適用〉

(単位：円)

	入学金	授業料	実習演習費	整備拡充費	学生 厚生費	その他の諸会費	合計
1年次	270,000	分納1回目分 500,000 分納2回目分 500,000	分納1回目分 75,000 分納2回目分 75,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	22,500	後援会入会金 10,000 後援会費 10,000 校友会入会金 5,000 学友会費 10,000 合計 35,000	分納1回目分 992,500 分納2回目分 665,000 1年分 1,657,500
2年次		分納1回目分 550,000 分納2回目分 550,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 30,000	分納1回目分 822,500 分納2回目分 780,000 1年分 1,602,500
3年次		分納1回目分 600,000 分納2回目分 600,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 30,000	分納1回目分 872,500 分納2回目分 830,000 1年分 1,702,500
4年次		分納1回目分 650,000 分納2回目分 650,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	後援会費 10,000 校友会終身会費 15,000 学友会費 20,000 合計 45,000	分納1回目分 937,500 分納2回目分 880,000 1年分 1,817,500
合計	270,000	4,600,000	990,000	720,000	60,000	140,000	6,780,000

*原級・留年者の場合は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。



	入学金	授業料	演習費	整備拡充費	その他の諸会費	合計
博士前期課程 1年次	270,000	分納1回目 390,000	分納1回目 80,000	分納1回目 75,000	校友会入会金 5,000 合計 5,000	分納1回目分 820,000
		分納2回目 390,000	分納2回目 80,000	分納2回目 75,000		分納2回目分 545,000
						1年分 1,365,000
博士前期課程 2年次		分納1回目 405,000	分納1回目 80,000	分納1回目 75,000	校友会終身会費 15,000 合計 15,000	分納1回目分 575,000
		分納2回目 405,000	分納2回目 80,000	分納2回目 75,000		分納2回目分 560,000
						1年分 1,135,000
合計	270,000	1,590,000	320,000	300,000	20,000	2,500,000
博士後期課程 1年次	270,000	分納1回目 420,000	分納1回目 80,000	分納1回目 50,000	校友会入会金 5,000 合計 5,000	分納1回目分 825,000
		分納2回目 420,000	分納2回目 80,000	分納2回目 50,000		分納2回目分 550,000
						1年分 1,375,000
博士後期課程 2年次		分納1回目 435,000	分納1回目 80,000	分納1回目 50,000		分納1回目分 565,000
		分納2回目 435,000	分納2回目 80,000	分納2回目 50,000		分納2回目分 565,000
						1年分 1,130,000
博士後期課程 3年次		分納1回目 450,000	分納1回目 80,000	分納1回目 50,000	校友会終身会費 15,000 合計 15,000	分納1回目分 595,000
		分納2回目 450,000	分納2回目 80,000	分納2回目 50,000		分納2回目分 580,000
						1年分 1,175,000
合計	270,000	2,610,000	480,000	300,000	20,000	3,680,000

*原級・留年者の納付金は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。

13. 学内の奨学金制度

特待生制度

人物・学業成績ともに優秀な学生に対して、授業料の半額を免除する制度です。

この制度は、大学が毎年度ごとに成績優秀者の中から一定数選抜するものです。採用された場合は本人及び保証人宛に通知します。【別冊子「諸規則諸規程」のP.37「東京情報大学特待生細則」参照】

東京情報大学提携教育ローン制度

本学では、在学生専用の教育ローンとして、金融機関との提携を行い「提携教育ローン制度」を行っています。これは、大学が行う奨学金制度等の付帯サービスとして行うもので、一般の教育ローンよりも「手続きの簡素化」、「優遇金利」等のサービスを提供できるものとなっています。

利用にあたっては、学生教務課（A 奨学金・学費）でご相談ください。

14. 学外の奨学金制度

学業・人物ともに優秀で経済的理由により修学が困難な学生に対して、各種の奨学金制度があります。本学で取り扱っている奨学金には、本学独自の奨学金の他に都道府県・市町村等地方公共団体の奨学金等があります。

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金には、第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)の二種類があり、場合によっては併用して貸与を受けることも可能です。奨学生の採用は、日本学生支援機構が直接行うのではなく、大学を通じて行われます。本学では毎年4月(定期採用)に『日本学生支援機構奨学金説明会』を開催し、奨学金の説明と申込書の配布を行いますので、貸与を希望する方は必ず参加してください。

[奨学金の概要]

種類	貸与金額		利子	推薦数 (2022年度定期採用実績)
第一種奨学金	学部	自宅：2万、3万、4万、5万4千円／月 自宅外：2万、3万、4万、5万、6万4千円／月	無利子	1年次生：102名※2 2年以上：5名※2
	大学院	博士前期：5万、8万8千円／月 博士後期：8万、12万2千円／月		博士前期課程：2名 博士後期課程：0名
第二種奨学金	学部	2万円から12万円のうち1万円単位で選択	※1 有利子	1年次生：124名 2年以上：19名
	大学院	5万円、8万円、10万円、 13万円、15万円の中から選択		博士前期課程：0名 博士後期課程：0名

※1 年3%を上限とした金利（「固定・変動」選択可）です。金利は卒業後の返還時にかかるため、在学中は金利がかかりません。

※2 1年次生：高校3年の成績の平均が3.5以上の者

2年次生以上：大学の成績が申請本人の所属する学科の上位1／3以内の者

修学支援新制度について

東京情報大学は、「高等教育の修学支援新制度」<https://www.mext.go.jp/kyufu/>（文科省）の対象校となっています。この制度は、入学予定者や在学生に対して、「授業料等減免」や「給付型奨学金」の支援が受けられる制度です。希望者は学生教務課主催の「定期採用説明会」に参加をしてください。参加者には、申請に必要な諸手続きの書類を配布します。

日程	内容	備考	担当窓口
4月初旬	定期採用説明会開催	年1回募集	学生教務課
6月初旬	減免対象者の認定・通知		学生教務課
7月初旬	「継続願」提出（後期分）		学生教務課
11月初旬	減免対象者の認定・通知		学生教務課
翌年2月初旬	「継続願」提出（翌年度前期分）		学生教務課

※特待生など大学の減免制度を適用されている方は、大学の制度による減免後の額に対して、国の制度を適用します。

※学納金引落後に減免対象となった場合は、減免額決定分を返金いたします。

日本学生支援機構（以下、JASSO）のホームページから「進学資金シミュレーター」で、新制度の対象となるかどうかのおおよその確認が可能です。ご活用ください。

○進学資金シミュレーター

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html>

（試算によるものであるため、実際に申し込んだ場合の結果とは必ずしも一致しません。）

その他の奨学金

各都道府県・市区町村等により募集の時期・方法等が異なりますので、大学に募集依頼がありしだい J-portでお知らせします。また、大学に連絡のない奨学団体もありますので出身地の市区町村などに各自直接問い合わせをして下さい。また、他団体に奨学金を申込み、学校の推薦状が必要な場合は、募集要項を持参の上、学生教務課（A 奨学金・学費）まで申請してください。



15. 学生生活をバックアップ

食堂・ブックセンター・売店

キャンパス内に、学生、教職員のために下記の施設が設けられており、食堂内には自販機コーナーも置かれています。なお、食堂は全てセルフサービスになっていますので、食後の食器は各自で返却コーナーへ戻してください。

また、昼食時間帯は大変混雑しますので、次の利用者のためにも食事終了後はなるべく早く席を空けるようにしてください。

名 称	営業時間（月～金）
食 堂	11：00～15：00
ブックセンター	10：30～17：00
売 店	9：00～17：00

※営業時間は状況により変更される場合があります。

住居

アパート等で一人暮らしをしている学生は、入居中のトラブルについてはいつでも遠慮なく相談してください。本学の学生が入居しているアパート付近の住民の方から、夜遅くまで騒がしい、ゴミの始末が悪い、自動車やバイクの迷惑駐車が多いなどの苦情が大学に寄せられることがあります。自宅を離れてアパートに住むと世帯主としての責任もあります。地域の一住民として地域社会に融合した生活を心がけてください。

なお、悪質と思われる行為をしている者については、学生教務課に呼出し厳重に注意します。

アルバイト紹介

学生生活を維持するためにアルバイトをする必要のある学生に、アルバイトを紹介しています。

学生教務課では、学生に相応しい職種や業種をできる限り紹介するようにしています。アルバイトの目的は人それぞれですが、学業や生活を犠牲にしてまで行うことはやはり避けなければなりません。

なお、新入生はできるだけ学生生活のリズムができてからアルバイトを行うようにしてください。

◎アルバイトの紹介方法

「アルバイト求人票」を1号館（本館棟）1階入試・広報課前の“学生教務課掲示板”に掲示します。就労条件を確認して直接求人元と連絡をとってください。

◎学生にふさわしくない職種

- ① 危険をともなうもの……………自動車、バイクの運転
高所での作業
経験を要する機械作業
有害な薬物等の取扱作業
- ② 法令に違反するもの……………マルチ、ネズミ講商法など
- ③ 教育的に好ましくないもの……………風俗営業の現場作業
ギャンブル場内の現場作業
セールス、勧誘
深夜（夜10時以降）におよぶ勤務
選挙の応援に関する業務
- ④ その他……………ア) 人命にかかわる恐れのあるもの
イ) 明らかに勉学に支障をきたす内容のもの
ウ) 労働条件が不明確なもの
エ) 出来高制で最低賃金の保障のないもの

学生教務課では、以上のような職種については、求人受付を制限しています。

アルバイト・求人情報サイトや求人情報誌などには、このような求人もかなり多く、トラブルのもとになっているようです。大学以外の紹介でアルバイトを行う場合も、上記のような職種は避けるよう注意してください。

◎トラブルが生じた場合

アルバイト先で（大学の紹介先でなくても）トラブルが生じた場合は、学生教務課窓口で相談してください。

16. 悪徳商法にご用心

若者を狙う悪徳商法は様々な手口で君たちを狙っています。「こまったな、どうしよう」、「ちょっとへんだぞ」、「おかしい」などと思ったら絶対にサインしないでください。また、万が一契約した（契約させられた）場合でも『クーリング・オフ』制度で解約できる場合がありますので、決して泣き寝入りしないで、できるだけ早く学生教務課か消費者センターに相談してください。

※参考までにクーリングオフができるのは、申込日から8日以内です。

悪徳商法の手口

◆電話で呼出す……………「アポイントメント商法」

◆路上で声をかけてくる……………「キャッチセールス商法」

◆割りのいいバイトがあると誘う……………「マルチ（まがい）商法」

「友人を誘うだけで金もうけができる」、「月収100万円も夢ではない」という話に注意が必要です。

◆その他……………「デート商法」、「かたり商法」、「レンタルビデオ商法」、「架空請求」

（注）大学が保護者等に学生の電話番号を尋ねることはありません。不審電話に気をつけましょう。

悪徳商法に引っかからないための6か条

① 簡単にドアを開けずに名前と目的を聞こう。

② うますぎる話には落とし穴があると疑う。

③ あいまいな話はせず、勇気をもってはっきりと「いません!」と言う。

④ 一人で決めずに、家族や知人に相談する。

⑤ 簡単に書くな署名、押すな印鑑

⑥ すぐにお金を払わずに、『クーリング・オフ』制度 ※を有効に使う

※商品が不必要であると判断した時、一定期間内（契約書面受領日から20日以内）であれば消費者から業者に対し、一方的に無条件で「申し込みの撤回」「契約の解除」ができる制度。ただし、一定の条件を満たす必要があります。

被害にあいそうになったら

□相談窓口

◎千葉市消費生活センター 消費者相談電話 043-207-3000

月～金、第2・4土曜日 9:00～16:30（日祝日と年末年始を除く）

<http://www.city.chiba.jp/shimin/seikatsubunka/shohi/index.html>

◎千葉県消費者センター 消費生活相談窓口

電話 047-434-0999 / ファクス 047-431-3858

月～金 9:00～16:30

土 9:00～16:00（日祝休日と年末年始を除く）

<http://www.pref.chiba.lg.jp/customer/index.htm>



17. 健康管理

本学では、学生及び教職員の健康の保持増進を図るために医務室を設けて、学校保健安全法に基づく定期健康診断の実施、感染症予防対策の実施等を行うほか、心と身体の健康相談等も行っています。

医務室では、学校医、看護師が在室し健康相談等に応じています。また、学生相談室（カウンセリングルーム）では専門のカウンセラーが相談に応じてます。医務室及び学生相談室では、障害を持った学生の相談にも応じていますので、気軽に相談してください。

医務室

開室時間：9：00～17：30（月曜日～金曜日） TEL：043-236-1109 E-mail：imu01@affrs.tuis.ac.jp

※開室時は看護師が待機しています。

※閉室時は学生教務課窓口申し出てください。

学 校 医：学校医（医師）が健康上の相談に応じます。

※在室日はJ-portでお知らせします。

医務室では下記について対応しています。

- 体調不良時の対応及び外傷時の応急処置
- 健康相談
- 健康診断の再検査及び面談
- 感染症予防対策の実施（感染症罹患歴・ワクチン接種歴の調査・ワクチン接種勧奨・感染症罹患時の手続きについて）
- 身長・体重・血圧測定などを行っています（自由に測定して健康管理に役立ててください）

※医務室では医薬品（内服薬・外用薬等）をお渡しすることはできません。常備薬がある学生は携帯するようにしてください。なお、医療機関などのご案内をします。ご相談ください。

学生相談室（カウンセリングルーム）

申込方法：①直接学生相談室（カウンセリングルーム）または医務室で利用申込みを行う。②電話（学生相談室：TEL043-236-1194、医務室：TEL043-236-1109）で利用申込みを行う。③担任教員に相談し、教員を通じて申込む。④メールで申込みを行う。（※必ず学籍番号、氏名、電話番号、相談希望日を明記すること）
soudan@affrs.tuis.ac.jp ※注意：メールは予約の受付のみです。休日・夜間・閉室期間は対応しておりません。

相談場所：5号館1階学生相談室（カウンセリングルーム）

相談日時：原則として週5回実施【本年度は、月～金曜日の11：00～17：00】（学生の長期休業期間は、原則閉室）

※詳細日程等は、学生相談室および医務室前掲示板に掲載しています。

相談内容：○大学生活全般について（学業、進路、課外活動、友人関係）

○自分の性格や適正、能力等について

○人生観や価値観、家族や家庭等のことについて

○心身の健康（不安・うつ状態・対人ストレスなど）について

そ の 他：相談者の秘密は絶対に守ります。学生のみではなく、父母（保護者）からの相談もお受けしています。

ここからだの相談窓口24（外部委託：ティーペック株式会社）

・24時間電話健康相談サービス（フリーダイヤル 0120-301-424 年中無休）

・Webによる相談（<http://t-pec.jp/websoudan/> ユーザー名：j-soudan パスワード：j-soudan 年中無休）

※この相談は、上記の大学内の学生相談室（カウンセリングルーム）とは直接連動していません。

定期健康診断

毎年所定の時期（4月）に定期健康診断を実施します。

この健康診断は、学校保健安全法に基づき学生の健康増進と学内保健管理のために行われるものであり、必ず受けなければなりません。検査結果に所見のある学生については、精密検査の受検などの指示を与え、疾病の早期発見に努めています。

健康診断証明書・感染症検査結果証明書発行について

定期健康診断を受診した4年生・大学院生・教職課程の学生には「健康診断証明書」を発行することができます。定期健康診断時に感染症抗体価検査を実施した学生には、「感染症検査結果証明書」を発行することができます。(予防接種歴を証明する母子健康手帳等のコピーの提出が必要です。)

学校において特に注意すべき感染症について

本学では、感染症の流行を防ぐために、大学が病気になった学生を出席停止にしたり、臨時休講にすることがあります。これは学校保健安全法に規定されており、学校保健安全法施行規則では、下記の感染症が指定されています。

大学は集団生活の場であり、感染症等が流行しやすい環境です。感染症と診断されたら速やかに医務室に連絡し、原則医師が感染のおそれがないと認めるまで登校しないようにしてください。(出席停止となります)

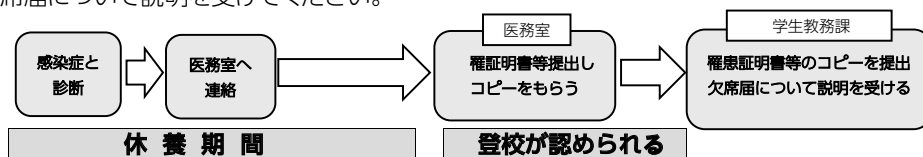
看護学部の実習中における感染症罹患後の対応に関しては、実習の手引に記載された内容に従って出欠の有無を決定しますが、その際、実習担当教員にも相談してください。

【学校保健安全法施行規則に規定されている感染症の種類・出席停止の期間の基準】

	感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	まれだが重大な感染症	
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、新型コロナウイルス(COVID-19)	治癒するまで
第2種	学校において流行を広げる可能性が高い感染症	
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日経過し、かつ、全射状態が良好になるまで
	風疹(三日ばしか)	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第3種	学校において流行を広げる可能性がある感染症	
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症(O-157)、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎(アポ口病)、その他の感染症[溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、感染性胃腸炎など]	医師が伝染のおそれがないと認めるまで

罹患等証明書の提出について

感染症が治り医師により登校が認められた場合は、感染症名と出席停止期間が記載された証明となるもの(罹患証明書・登校許可書・治癒証明書等のいずれか)、または大学所定用紙に医療機関で証明を受け、速やかに医務室に提出してください。授業を欠席し公欠的な取り扱いを希望する場合、医務室から証明書類のコピーをもらい、学生教務課へ提出し、欠席届について説明を受けてください。



*インフルエンザについては、罹患証明書は必要ありません。

診断が証明できるものを(下記のうちどれか1つ)医務室に提出してください。

- ①検査結果用紙(氏名の記載がない場合は、領収書または診療明細書を添付する)
- ②抗インフルエンザ薬の服用説明書(本人氏名の記載があるもの)



③領収書・診療明細書(抗インフルエンザ薬の記載があるもの)

*新型コロナウイルス感染症については、J-port等を見て最新の情報を確認してください。

予防接種について

【総合情報学部】

本学では感染予防対策として、入学時に、学校等集団生活で流行しやすい感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎)について、罹患歴・予防接種歴を調査しています。

必ず保護者または母子健康手帳等で確認をお願いします。

1. 調査する感染症：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎
2. 調査方法：入学時に罹患歴、予防接種歴を調査票にて実施

※ 教職課程を受講する学生は教育実習先等から感染症について証明書の提出が求められます。1学年後期に母子健康手帳等による予防接種歴の調査と2学年で抗体価検査(血液検査)を行います。

【看護学部】

看護学部では、様々な医療施設や福祉施設等において看護学実習を行います。施設内では様々な疾患を抱えている方が多く、学生が感染症に罹患する可能性が高い(学生が感染させる可能性も高い)ため、感染症に罹りにくい状態(感染症の抗体を持った状態)で実習を行うことを義務付けています。

つきましては下記の感染症について、抗体価検査(血液検査)、レントゲン検査を入学時(1年次)の健康診断時に実施します。抗体価が低く(抗体がない)かつ2回目の予防接種記録が確認できない場合(B型肝炎3回)は、C型肝炎と結核を除き、医療機関でのワクチンの接種が必要となります。また、インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチンについても、できるだけ接種することをお勧めしています。

1. 健康診断時の検査対象となる感染症
麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・C型肝炎・結核
2. ワクチン接種について
 - 1) 入学時健康診断終了後5月頃に、検査結果をお知らせします。
 - 2) ワクチン接種が必要な項目や方法については、学生個人に看護学部教員より説明します。
 - 3) ワクチンの接種は、最寄りの医療機関で、自費にて、対応をお願いします。
 - 4) インフルエンザに関しては毎年接種して頂きますが、10月以降に大学からお知らせがあります。
3. 抗体価検査(採血)について
B型肝炎抗体価が低い場合、ワクチン3回目接種の1～2か月後に抗体価検査(採血)が必要です。

18. ハラスメントの防止

本学では、ハラスメントのないキャンパスにするため、本学全ての構成員(学生、教職員、教育研究に係わる者)は互いの人格を尊重し、協力して教育・研究・就業にふさわしい環境を作り出すことを基本としています。

- 1) ハラスメントの定義
 - (1) セクシャルハラスメント
セクシャルハラスメントとは、相手を不快にさせる性的な言動を指します。
 - (2) アカデミックハラスメントとは
アカデミックハラスメントとは、教育・研究の場において行われる嫌がらせの言動で、相手の勉学・研究意欲や学習・研究環境を害する行為を指します。
 - (3) パワーハラスメント
パワーハラスメントとは、教職員や上級生、職務上で優越的地位にある者が、優位な地位を背景に圧力を加え、権利・名誉や人格を著しく傷つけ、精神的、身体的苦痛を与えるような言動を指します。
 - (4) その他のハラスメント
 - アルコールハラスメント
アルコール飲料に絡む嫌がらせ全般を指す言葉で、イッキ飲みの強要や酩酊状態に陥ったものが行う各種迷惑行為など反社会的な迷惑行為のことです。
 - SNSハラスメント
SNSを使ってブログや掲示板に、個人を特定した誹謗中傷等の書き込みをすることです。
- 2) ハラスメントが起きた場合の対応

ハラスメントを受けた、あるいは身近でハラスメントが起きた場合は、その継続と拡大を防ぎ、早急に解決することが求められますので、下記のハラスメント相談員や信頼できる教職員などに気軽に相談してください。ハラスメント相談員や防止委員会が、あなたのプライバシーを守りつつ、問題の解決に努めます。

[ハラスメント相談員一覧]

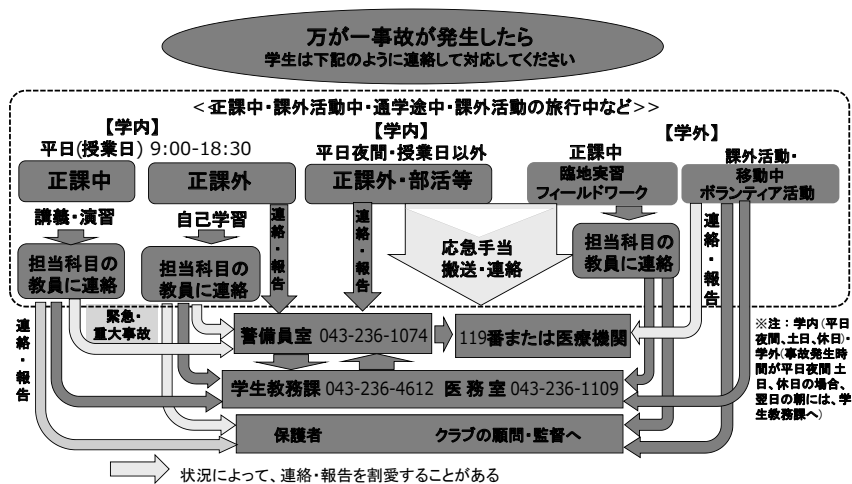
区分	氏名	職名	学内連絡先（電話）	学内連絡先（メール）
学生相談室相談員	山口 豊		学生相談室直通 ☎043-236-1194	yutaka@rsch.tuis.ac.jp
学校医	荒木 慶彦		医務室直通 ☎043-236-1109	imu01@affrs.tuis.ac.jp
看護師	戸賀 由美			
//	矢代 貴子			
教務職員	茂住 和世	准教授	756 研究室 ☎043-236-4635	mozumi@rsch.tuis.ac.jp
//	高橋 洋平	助教	776 研究室 ☎043-236-1369	y3takaha21@rsch.tuis.ac.jp
//	山野内靖子	准教授	3106 研究室 ☎043-236-4659	s3yamano21@rsch.tuis.ac.jp
//	時田 礼子	助教	3206 研究室 ☎043-235-7251	rt207178@affrs.tuis.ac.jp
学生教務課員	田中久美子	学生教務課長補佐	学生教務課 ☎043-236-4612	ktanaka@affrs.tuis.ac.jp

19. 事故・災害について

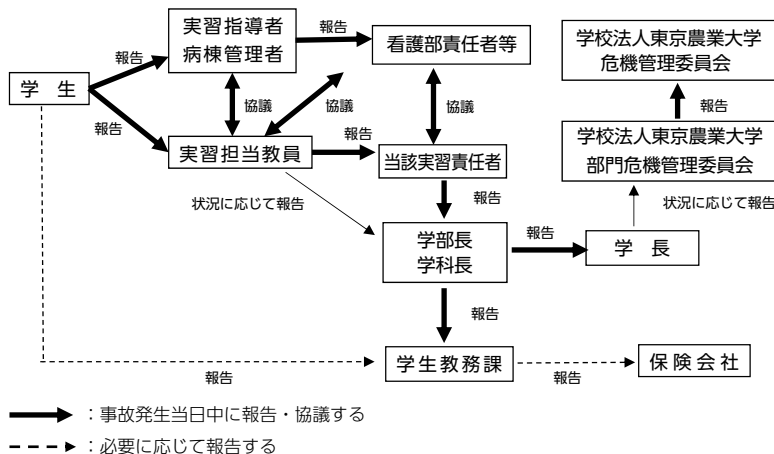
事故や災害が起きないように、日頃から事故や災害の元になる出来事を排除すること。さらに、危険に気付いたときは、教職員や学生同士で情報交換を行うことが大切です。

仮に、事故や災害が起きてても、失うもの・失うこと（健康・財産・立場など）を最小限にするために、ケガをしないように、貴重な物品を破損や焼失しないようにする対応が重要です。

事故や災害が起きてしまったときは、①二次災害を防ぐために、できるだけ危険な状況から離れることが大切です。②一人で、対応しようと考えないで、助けを求めてください。図にあるように、どこで事故や災害に遭ったかで、学内か学外か、教職員をはじめとして対応に責任が取れる人が周囲にいるかどうかで、対応方法が異なります。

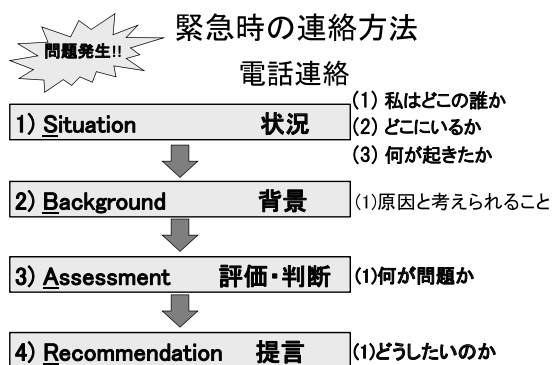


[実習時の事故発生対応] 看護学部の場合



緊急連絡

救助を求めるための連絡方法を、図に示します。事故や災害が発生した直後は、気持ちが動転して、状況を端的に伝えられないことがあります。図は、SBAR（エスパー）と呼ばれている緊急連絡の方法です。



学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）

学研災は、学生が正課中あるいは課外活動中の不慮の事故により、負傷または死亡といった災害を受けた場合に補償救済する制度です。

本学では、教育研究の円滑な実施のため入学の時から全員加入となっております。万一、次のような状態で事故にあった場合は、直ちに学生教務課（B 課外活動）に申し出てください。

- ① 正課中
- ② 学校行事に参加している間
- ③ ①②以外で学校施設にいる間
- ④ 学校施設以外で大学に届け出た課外活動を行っている間

（※本学は上記保険の「通学中等傷害危険担保特約」も付帯しています。）

また、通学の経路上で事故に遭遇した場合は、保険の対象になりますので、その場合も直ちに学生教務課（B 課外活動）に申し出てください。ただし、次のような場合（合理的通学と認められないもの）は対象となりません。

- ・大学から車両での通学が認められていない学生の事故
- ・通常の通学経路から逸脱している場合（寄り道した場合）
- ・大学からアルバイト先へ向かう途上での事故

以上の他にも、上記特約の対象にならない場合がありますが、事故に遭って負傷した場合は、念のため直ちに報告してください。

なお、学外でボランティアを行う場合、所定様式による事前届出と承認が必要になります。

20. 学生への連絡及び注意事項

J-portによる連絡

携帯電話やPCから、インターネットを通じて、授業の休講情報や奨学金情報等の学生生活で重要かつ必要な情報をお知らせしているものです。

◇ 掲示内容について

大学では、高校担任のHRのような、毎日の連絡事項をお知らせする人はいません。担任の先生の役割が、J-portになりますので、毎日必ず確認してください。

〔各種連絡事項内容〕

* お知らせ

⇒事務局からの各種連絡事項です

* 授業やゼミ・教職等に関するもの

⇒授業の休講情報や教室変更など

* 就職に関するもの

⇒就職ガイダンスや就職活動に役立つ情報など

* 呼び出し

⇒緊急の場合があるので、よく確認してください

* 学生生活全般に関するもの

⇒各種奨学金情報や留学生関連の情報など

家を出る前にJ-portを毎日確認!!

J-portの利用については、P53「web情報システム「J-port」の利用」を参照

電話による連絡

遺失物で持ち主が判明した場合あるいは緊急を要する場合は、携帯または自宅の電話に連絡します。

休講に関する取り扱い

休講の連絡は、J-portで行いますが、休講表示がなく始業時から30分が経過しても何の連絡もない場合は、学生教務課（D 履修）に問い合わせる指示を受けてください。

補講に関する取り扱い

休講その他により補講が必要であると認められる場合には、学期末の補講日または平常時間（主に5時限目以降）などを利用して補講が行われます。

補講の日時・教室等は、その都度、J-portで連絡します。

交通機関の運行停止等による授業の取り扱い

首都圏内の交通機関のうち、JR各線又は関係主要各線がストライキや自然災害等によって運行を停止した場合の取り扱いは、おおむね以下のとおりとします。

- (1) 始発時まで全面解決または復旧した場合には、当日の授業を行う。
- (2) 午前7時まで全面解決または復旧した場合には、2時限より授業を行う。
- (3) 午前7時を経過しても未解決または復旧しない場合には、当日の授業をすべて休講とする。
- (4) 対象とする路線を次のとおりとする。

JR東日本（総武線、総武本線、成田線、京葉線）
千葉都市モノレール
京成バス（千葉－情報大正門間、都賀－情報大正門間）

学内広報誌の発行「CAMPUS NOW!」

本学では、大学の出来事や行事、随想、あるいは意見や疑問に役立つ情報を掲載する学内報を定期的に発行しています。教職員と学生あるいは学生相互間の人間関係を緊密にし、さらに、学風の樹立に役立ちたいという趣旨で学生部委員会が発行しています。学生諸君からの情報提供を歓迎します。

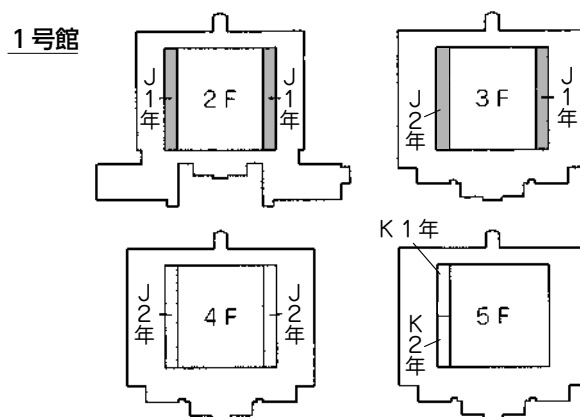
学生用（1・2年生用）個人ロッカーの利用について

本学では、1・2年生用に学生用個人ロッカーを設置しています。（1号館の2階から5階に設置）
設置場所・使用方法等は、4月のガイダンス時に説明がありますが、以下の注意事項を厳守して使用してください。

【ロッカー利用時の注意事項】

- (1) ロッカーの使用資格が与えられるのは1・2年生に在籍している期間のみです。
- (2) 鍵は、各自で用意し、ダイヤル式のものではなく『南京錠』を使用してください。また、100円ショップ等の南京錠では、防犯上危険な恐れがあるため、使用不可とします。
- (3) パソコン等の貴重品については、ロッカー保管せず、必ず持ち帰ってください。また、近年、鍵を施錠していても無理やり押し開けられ、貴重品が持ち去られる事件が多発しています。学内に居るときも、貴重品はロッカー内に置かず、極力携帯してください。
- (4) 2年次終了時等、ロッカーの使用資格を失った場合には、直ちにロッカーを明け渡してもらいます。〔明け渡しは、2年次の1月末（学年末定期試験終了まで）を予定しています。〕
- (5) 大学が定めた明け渡し期限を過ぎた後において、収納物が撤去されていない場合は、それらを強制的に処分します。（各自が設置した、南京錠も撤去します。）スムーズに後輩に譲り渡すことができるよう、明け渡し期限を必ず守ってください。
- (6) ロッカーの使用について不明な点がある場合は、学生教務課で問い合わせてください。

1・2年次用ロッカーの配置（2023年度）



※入学者数によっては若干変更がある場合があります。

盗難防止

高額な現金は大学へ持ちこまないようにしてください。万一、盗難にあった場合は、学生教務課へ届け出てください。

自転車やパソコンの盗難にもご注意ください。自転車は二重にロックしたり、パソコンは席を離れる時には置いたままにしないなどの自己防衛も必要です。また、個人ロッカーにおける貴重品盗難も目立ちます。貴重品は極力携帯するよう心がけてください。

インターネット利用上の注意

インターネットに関係したトラブルや事件が急増しています。

本学では「東京情報大学ネットワーク利用ポリシー」を定めており、ガイダンスやコンピュータの演習科目等の中で指導を行っています。

インターネットは大変便利なツールですが、利用者が知っておかなければならない落とし穴もあります。

特にプライバシーに関することで被害を受けたり、場合によっては加害者となったり、著作権等に関するトラブル等については注意が必要です。

環境美化

本学は教職員と学生とが協力して、キャンパスの環境美化に努めています。みなさんも校舎等の利用については十分注意して、教育・研究の場にふさわしい環境作りに協力してください。

マナーとルール

○地域社会でのマナー

街頭で、大勢でたむろして騒いだり、グループで行動する場合、周りの人の迷惑を考えなくなりがちです。いかなるときも周囲の人のことを考え、自分の行動には責任をもってください。

皆さん一人ひとりがマナーを心がけ、ルールを守り行動することが期待されています。情報大生としての自覚と誇りをもって行動してください。

[公共マナーについて]

- ・優先席では、高齢者や障害者に席を譲りましょう！
- ・公共の乗り物（電車・バス等）の中での携帯電話の使用等はマナー違反です。整列乗車のマナーを守ること。
- ・公共の施設等の破壊・破損、落書き等は犯罪です。
- ・通学途中におけるゴミの投げ捨て等は厳禁です。歩きタバコ・飲食・横並びで歩く等は厳禁です。
- ・自転車通学も交通法規を守る。

○飲酒マナー

未成年者の飲酒は法律で固く禁じられています。新入生（未成年者）の飲酒・強要は厳禁です。また、適量を知らず無茶な飲み方をすると急性アルコール中毒になり死に至ることもありますので、充分注意してください。

[飲酒について]

- ・学内における飲酒場所は原則各研究室のみとし、「教員同席のもと」としてはいますが、それ以外の場所（学外

の店舗等)で行う場合は、度を過ぎた飲酒(イッキ飲み等)や急性アルコール中毒にくれぐれもご注意ください。

- ・車両(自動車, 原付, 自動二輪, 自転車)で通学した場合の飲酒は厳禁です。
- ・翔風祭開催期間中の飲酒は原則禁止です。

○学内における禁煙・分煙の徹底

喫煙は健康に害を及ぼします。肺ガンだけでなく、喉頭ガン、食道ガン、膀胱ガンなどの悪性腫瘍や、狭心症、心筋梗塞、胃・十二指腸潰瘍の有病率も非喫煙者より喫煙者の方が高いことがわかっています。

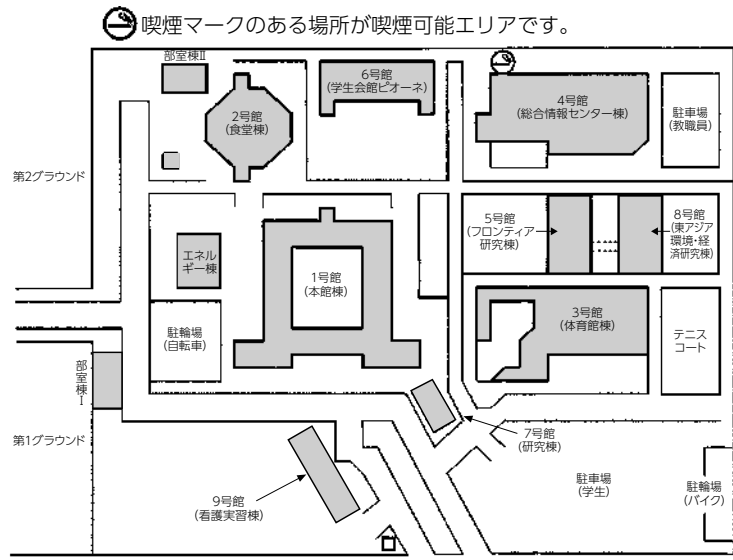
また、喫煙者だけでなく、喫煙者の吐いた息に含まれる有毒物質で空気が汚染されるため、その煙を吸い込むことで、たばこを吸わない周囲の人々も受動喫煙者となり、喫煙者と同様の健康被害から逃れることはできません。

こうした健康面への配慮から、本学では、建物内は全面禁煙とし、建物外についても、指定の喫煙コーナー以外での喫煙は全て禁煙としています。

喫煙マナーや学内ルールを守ることは勿論のこと、喫煙者であっても健康のことを考えて、禁煙に向けて努力しましょう。

●喫煙コーナーの設置場所

4号館裏



○海外渡航時の安全対策について(注意喚起)

春休み、夏休み等を利用して、海外旅行や海外ボランティアに参加される方も多いと思います。世界各地でテロ、内戦、感染症などが続発している最近の治安情勢を踏まえ、外務省及び文部科学省より学生及び教職員の安全確保に細心の注意を払うよう要請がありました。

海外渡航および滞在においては、まず「自分の身は自分で守る」という原則「自己責任」の心構えをもって情報収集や安全対策に努めてください。例えば、外務省ホームページ等で発出している「危険情報」などを参照し、世界及び地域の情勢についての情報を収集しておきましょう。

長期間、海外に滞在または新たに渡航される場合は、渡航先の最寄りの日本国大使館または総領事館から最新の情報を入手するとともに、外務省が実施している渡航登録サービス「たびレジ」への登録を必ず行い、加えて海外渡航時の日程や渡航先での連絡先等を家族と共有した上で、いかなる国・地域に旅行する際も、安全確保に十分御配慮いただきますようお願いいたします。

(参考) 「たびレジ」 <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

○情報倫理(モラル)の順守について

オンライン授業を受講する場合、情報倫理の順守を徹底してください。オンライン授業で使用される作品等の著作権は、教育上の特例で使用が許可されており、講義の妨害やプライバシーの侵害を招く恐れのある以下の行為は、情報倫理に反する行為になります。なお、違反した場合、東京情報大学ネットワーク利用要綱第14条または東京情報大学学則第38条に基づき処分されることがあります。

- ・配布された授業のURL、ミーティングIDやパスワードを他人と共有すること、情報を漏洩すること、SNSなどで情報を流すこと。
- ・オンラインで行われる講義の様子を出席者の許可なく写真にとり、それをSNSなどで共有すること。
- ・担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを他人と共有したり、SNSなどで公開すること。
- ・録画あるいはダウンロードしたビデオ教材を、他人と共有したり、SNSなどで公開すること。
- ・オンライン授業で配布された資料等を、教員の許可なく再配布すること。
- ・その他、オンライン授業の情報に関する、担当教員の注意や指示に従わないこと。

21. Web情報システム「J-port」の利用

本学では、学生の教育活動と学生生活の支援を目的として、Web技術を利用した情報システム（通称J-port）が構築されています。パソコンやスマートフォンを用いて履修登録、履修登録科目一覧（学生時間割）や成績の確認、迅速な掲示情報の照会などを可能にするシステムです。

主な機能は次のとおりです。

機能	パソコン スマートフォン Webサイト	スマートフォン 専用アプリ	備考
個人情報照会	○		
時間割	○	○	
シラバス照会	○	○	
判定	○		利用期間限定
成績照会	○		利用期間限定
履修登録	○		利用期間限定
掲示情報	○	○	
スケジュール登録	○		
出欠登録	スマートフォンのみ可	○	

※画面右上の「メール設定」は、利用できません。

※利用期間を限定しない機能は、いつでも利用することができますが、保守点検等で利用できない場合があります。保守点検の日時は、随時お知らせします。

個人情報照会

入学時に届け出た「個人調査票」「学生現住所届」の内容が確認できます。変更がある場合は、学生教務課に「変更届」を提出してください。

時間割

履修登録した結果が、希望どおり登録され、進級または卒業要件を満たしているかどうかを学生時間割（自分自身の時間割）で確認し、必要に応じて各自印刷してください。

また、各教員が担当している授業科目の時間割や各学科・学年の授業時間割が照会できます。

シラバス紹介

各授業のシラバス（年間授業計画）が照会できます。

なお、履修登録、時間割からも授業科目のシラバスが照会できます。

判定

各学期の初めに履修登録した単位数と修得単位数において、進級または卒業要件を満たしているかどうかを確認できます。

また、資格取得（教職免許、保健師資格）のための要件を満たしているかどうかを確認できます。

成績照会

履修登録科目の試験の結果と修得単位数の状況（累計等）が確認できます。

履修登録

各学期の初めに、受講する授業を登録します。

出欠管理

スマートフォンアプリにて受講する授業の出席登録をします。

また、履修している授業の出席状況が照会できます。

揭示情報

休講、補講、教室変更、レポート提出、平常試験、教職課程関連、その他全般的なお知らせ、学生個人への呼び出し情報などが、照会できます。またこれらの情報は、携帯電話（フィーチャーフォン）からも照会できます。

スケジュール登録

日時単位で自分のスケジュールを登録し、管理することが出来ます。

利用にあたって

本システムを利用するには、利用者IDとパスワードが必要になります。

これは、授業などで利用する「東京情報大学ネットワーク」のID・パスワードと同一のもので、パスワードを忘れてしまった場合、ネットワーク講習会（有料）に参加し、許可証の再交付を受けなければならないので、パスワード管理には十分注意してください。

利用環境

本システムを利用する上で、推奨するOSおよびブラウザは以下のとおりです。他のものを利用すると一部正しく表示されない場合があります。

OS - Windows
ブラウザソフト - Microsoft Edge, Mozilla Firefox, Google Chrome (最新版)

ログイン方法

本システムのログイン（利用開始）の手順は、以下のとおりです。

- (1) 大学ホームページ「学習支援」 - 「学習支援・システム」の下にある「J-port (WEB情報システム)」をクリックしてください。
- (2) 記載内容を確認後、「J-port (WEB情報システム)」のバナーをクリックしてください。
- (3) 利用者IDとパスワードを入力後、LOGINボタンをクリックし、ログインしてください。

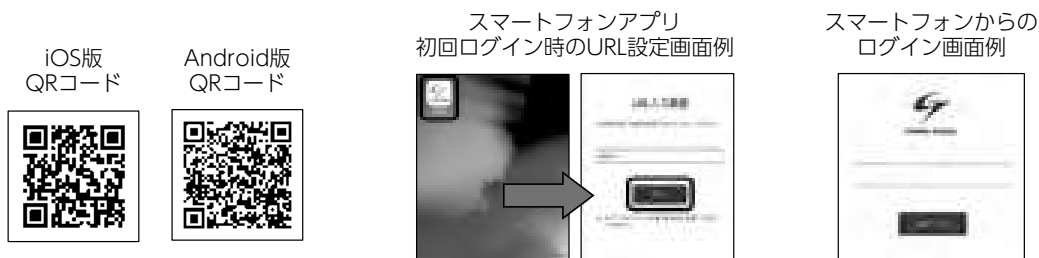
●スマートフォンアプリのインストール方法

お使いのスマートフォンから以下のいずれかの方法でインストールをしてください。

- (1) QRコードを読み取り、アプリのインストールを行ってください。(iOS / Android)
- (2) インストールした後に、アプリを起動すると、初回は「URL入力画面」が表示されます。

URL入力欄には、下記のPCサイトのJ-portログイン画面のURLを入力します。

URL : <https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/>



質問等の方法

本システムの機能や操作方法について不明な場合は、学生教務課（D 履修）に問い合わせてください。

「J-port」とは…

「J-port」の「J」は、情報大（JOHODAI）の「J」を表し、「port」は大勢の人、物、情報の行き交う場所を象徴する「港」とコンピュータ用語で他の通信機器とパソコン本体を結ぶ、様々なデータを受け渡す「接続部分」を指す単語を表しています。

「J-port」は、大学と学生とを結ぶ掛け橋となり、多様な情報が行き交う「port」を作ることで、みなさんのキャンパスライフの充実に寄与することを願って命名されました。

本学の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。
また、総合情報学部履修規程に関する内容も掲載しています。



1. 授業科目の履修

1) 授業科目の分類

(1) 授業科目は、学則第10条の規定に基づき、全学共通科目、基礎科目、専門教育科目及び教職課程関連科目に分類されます。詳細は、各学部の教育課程に掲載しています。

※この他に、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目が開講されています。

(2) 授業科目は、卒業の要件として修得しなければならないか否かにより、次のように分類されます。

必修科目……………必ず修得しなければならない授業科目

選択必修科目…特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目

選択科目……………自由に選択して修得する授業科目

2) 単位制

単位制とは、学則第11条から第14条の規定に基づき、各入学年度の教育課程によって定められた全ての授業科目に一定の基準で単位数を定め、その授業科目を履修し、学修の成果を試験等により評価し、合格することで、所定の単位を修得していく制度です。

単位計算の基準は、各学部の「学修について」に掲載しています。

3) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間及び各学期に履修できる上限単位数を、以下のとおり設定しています。これは、上記の単位制に基づき、単位を修得するためには、授業の他に授業外学修(予習や復習)の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなるので、それぞれの授業外学修時間を確保できるように履修単位数を制限しています。

例えば、講義科目を20単位修得するのは、1週間に20時間の授業と40時間の授業外学修をすることになります。

なお、後述のGPA制度を活用し、GPAの値が高い学生に対して、次学期の履修登録単位数の上限を緩和します。

【履修登録単位数の上限】

学 期	通 常		前学期までの通算GPAが3.0以上	
	総合情報学部	看護学部	総合情報学部	看護学部
1年間	48単位	46単位	52単位(1年次は50単位)	50単位(1年次は48単位)
各学期	26単位	—	28単位	—

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありません。

※教職課程科目については、この履修登録単位数の制限から除外します。

※他大学との単位互換制度により履修する科目については、この履修登録単位数の制限から除外します。

※1年間開講する科目(通年科目)は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントします。

※集中授業は、夏季は前期、冬季は後期としてカウントします。

4) セット履修

セット履修とは、同一科目名で講義と演習に分かれている科目を同一年度内にセットで履修していく制度をいいます。履修登録・成績評価に関する内容は以下のとおりです。

(1) セット履修科目は、「授業科目表」に掲載されています。

(2) セット履修科目は、講義と演習の両方を修得しないと卒業要件単位として認定されません。

5) ステップ履修

ステップ履修とは、同一科目名でステップⅠを基礎編、ステップⅡを応用編とするなど内容的に2つに分かれている科目を順次履修していく制度をいいます。

履修登録・成績評価に関する内容は、以下のとおりです。

(1) ステップ履修科目は、「授業科目表」に掲載されています。

(2) ステップⅠの科目を修得していない場合は、ステップⅡの科目を履修できません。

ステップⅡを後期または翌年度以降に履修しようとする場合は、前期またはその年度内に必ずステップⅠを履修・修得するようにしてください。

6) 他学部及び他学科履修

他学部及び他学科（以下「他学科」という。）履修とは、学部・学科間の連携を目的として、他学科の専門教育科目を履修できる制度をいいます。

履修登録・成績評価に関する内容は、以下のとおりです。

- (1) 他学科履修できる科目は、自学科に配当されていない他学科の専門教育科目とする。
ただし、次に該当する科目は履修することができない。
 - ①必修科目
 - ②実習・演習科目
 - ③上位年次に配当されている科目
 - ④他学科において履修を許可しない科目
- (2) 他学科履修を希望する場合は、自学科の科目と同様に「J-port」により履修登録を行うこと。
他学科履修できる科目は、各学科の「授業科目表」に掲載されています。
- (3) 評価は、自学科の履修科目同様、定期試験等により評価し、成績原簿に記載する。
- (4) 修得した単位は、8単位まで専門教育科目（選択）の卒業要件に充てることができる。

7) 放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目の履修

放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目は、「単位互換に関する包括協定書」に基づき開講される科目です。
履修登録・授業・試験・成績評価等に関する概要は、以下のとおりです。

- (1) 履修できる科目は、単位互換協定に基づき開講される科目のみとする。該当科目は学生教務課（D 履修）で確認すること。
なお、科目によっては受講できる学年が制限されている場合がある。
- (2) 在学中に履修できる単位数は、通算して30単位以内である。
- (3) 履修の対象学年は、1年次から3年次までとする。
- (4) 履修期間は、放送大学については毎年度10月からの半期間（放送大学の2学期）とし、その他の大学については当該大学が指定する期間とする。
- (5) 履修登録は、原則として、通常の授業科目と同様に行うが、履修を希望した学生（特別聴講学生と称する）は、当該大学への出願のための手続きを別途行う。
- (6) 受講に際しては、以下に示す授業料（自己負担）が別途必要になり、放送大学への納入は大学が一括して行い、その他の大学への納入は各自が行う。
放送大学：放送授業 1科目（2単位）：11,000円（印刷教材費込み）
その他の大学：各大学が定めた金額（詳細は当該大学の募集要項参照）
- (7) 放送大学の授業は、テレビ・ラジオによる半期15週にわたって毎週1回（1回45分）行われる放送授業と放送大学から別途送られる印刷教材による学習とを、自宅または所属する学習センター（千葉市美浜区若葉2-11放送大学内）において受講する。
その他の大学の授業は、各自が当該大学に直接向かい、指定された時間割に沿って受講する。
- (8) 放送大学の試験は、半期の放送授業が終了した後、「単位認定試験」を受験する。その他の大学の試験は、大学の定めるところにより、当該大学の学生と同様の方法で受験する。
なお、放送大学の「単位認定試験」の受験資格を得るためには、学期の途中（8回目の放送授業終了後）に1回の通信指導（レポート提出）が義務付けられている。
- (9) 試験の結果は、当該大学の評価基準によって判定され、学期末に本学と学生本人の両方に対して、「成績通知書」により通知される。
- (10) 修得した単位は、当該大学の評価を、それに相当する本学の評価に置き替え、成績原簿に記載する。なお、修得した単位は、以下のとおり本学の卒業要件単位とすることができる。
 - ① 放送大学の科目の修得単位は、全学共通科目及び基礎科目の単位として、12単位まで認定する。
 - ② 放送大学の認定心理士資格取得のための科目及びその他の大学で開講される互換科目の修得単位は、当該学修により修得した単位は、GPA及びCAPの対象外とする。専門教育科目の選択の単位として、16単位まで認定する。
- (11) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

8) 東京農業大学との単位互換科目の履修

東京農業大学との「単位互換に関する協定書」に基づき、世田谷、厚木で開講されている科目を受講できます。概要は下記のとおりですが、詳細については、学生教務課（D 履修）で問い合わせてください。

- (1) 受講対象者は2年生以上とする。
- (2) 受講できる科目は、実習・演習以外の科目とする。
- (3) 在学中に履修できる単位数は、30単位までとし、本学の卒業要件単位数に認定できる。ただし、他の協定校において修得した単位も含めて30単位までとする。
- (4) 履修期間は、半年間とする。
- (5) 募集は、各学期開始前に年2回行う。
- (6) 出願方法や提出書類については、東京農業大学の方法に準ずる。
- (7) 受講料は無料とする。ただし、テキスト等の教材については自己負担とする。
- (8) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

9) 他の大学等における修得単位の認定

他の大学または短期大学を卒業または中途退学し、新たに本学の1年次に入学した学生の当該大学等の既修得単位については、教育上有益と認められるとき、その全部または一部を本学において修得したものと認定することができます。なお、当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

該当する学生は、所定の期間内に当該大学等の成績証明書および講義要綱を添えて、学生教務課（D 履修）まで申し出てください。

10) 知識・技能審査の学修における修得単位の認定（総合情報学部のみ）

学則第15条の2及び総合情報学部履修規程第13条に規定されている文部科学大臣が別に定める学修として、本学では、下表の知識及び技能に係る学修を定めています。

入学前または入学後に、当該学修をおこない、定められた級または得点に該当するか、あるいは合格した場合、本学の授業科目を単位修得したものと認定することができます。

該当する学生は、所定の期間内に当該学修の公的な成績表等を添えて、学生教務課まで申し出てください。

- (1) 当該学修による評価は「認(N)」とする。
- (2) 当該学修により8単位まで修得できる。
- (3) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。
- (4) 認定授業科目が単位修得済の場合、適用外とする。

知識及び技能に係る学修

学修の種類等	認定授業科目	認定単位数
実用英語技能検定2級	英語 a・英語 b	2
実用英語技能検定準1級	英語 a・英語 b・英語 c	3
実用英語技能検定1級	英語 a・英語 b・英語 c・英語 d	4
TOEFL 470点以上	英語 a・英語 b	2
TOEFL iBT 52点以上（コンピュータ上で受験）	英語 a・英語 b	2
TOEIC Bridge 150点以上	英語 a	1
TOEIC 600点以上 ※2020年度以降入学者	英語 a・英語 b	2
TOEIC Bridge L&R 80点以上	英語 a	1
TOEIC Bridge S&W 80点以上	英語 b	1
日本漢字能力検定試験2級以上（留学生のみ対象）	日本語 a・日本語 b	2
応用情報技術者試験	IT基礎技術論	2
基本情報技術者試験	IT基礎技術論	2
ITパスポート ※2021年度以降入学者	経営と情報	2
CGエンジニア検定エキスパート(CG-ARTS協会)	コンピュータグラフィックス論	2

11) 大学院授業科目の先取り履修制度

本学大学院への進学希望者に対して、以下の大学院授業科目を学部生のうちに履修し修得した単位を、大学院進学時に既修得単位として単位認定します。

申請方法等の詳細は、4月のガイダンス時に案内します。

(1) 対象科目

科目区分		授業科目	単位	必選	学期
基礎	共通	知能情報特論	2	選択	前期
		情報社会特論	2	選択	前期
		ヘルスケア情報特論	2	選択	前期
		データマイニング特論	2	選択	前期

(2) 履修上限単位数

4単位

※当該学修により修得した単位は、学部の卒業要件単位数には含まず、GPA及びCAP制の適用外とする。

(3) 履修対象学生

本学大学院へ進学を希望する学部4年次生

2. 授業時間

授業時間は、原則として次のとおりです。

時 限	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
時 間	9:15 ~ 10:45	10:55 ~ 12:25	13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00

上記の他、授業によっては、6限(18:10~19:40)に実施することもあります。講義内で指示します。

3. 授業科目の履修登録方法

1) 履修登録とは

履修登録は、自分の一年間の時間割を作る大事な手続きです。これが正確に行われないと、受講したい授業に出席することができません。すべて自己責任において行うこととなりますので、授業科目の内容、履修条件、評価の方法などを確認して、自分の履修したい科目を間違いなく登録完了するようにしてください。

履修登録は、「J-port」を使って、各自登録することになります。登録の手順や操作方法などの詳細は、年度当初のガイダンスの際に連絡します。

2) 履修登録上の諸注意

- (1) 履修登録の事前準備、および「J-port」による登録は、配布される「J-port 利用ガイド」を参考に、指定された期間内に各自が行ってください。
- (2) 登録する科目は、その年度に受講したい科目の全て（前期・後期科目とも）を登録します。
なお、総合情報学部1年次生は、前期科目と後期科目をそれぞれの履修登録期間に登録します。
- (3) 科目には必修科目、選択必修科目、選択科目の区別がありますが、その区別に関係なく、履修したい科目は、原則、必ず自分で登録してください。
- (4) 指定の期間内に履修登録を完了した科目でなければ、単位を修得できません。
- (5) 履修登録を完了した科目は、その後、原則として変更することはできません。
希望する科目の登録をし忘れたり、逆に過剰に登録し過ぎて途中で授業を放棄するようなことのないようにしてください。
- (6) 指定の期間内に履修登録を完了しない場合は、修学の意思がないものとみなされ、除籍の対象となる場合があります。
- (7) 同一時間に2科目以上登録することはできません。また、既に合格している（認定されている）科目を再度登録することもできません。
- (8) 履修登録完了後は、各自が登録した内容に不備がないかを必ず確認してください。
確認の方法は「J-port 利用ガイド」を参考にしてください。
- (9) 不合格となった必修科目は、翌年度に必ず自分で登録してください。
- (10) 履修登録に関する不明な点は、必ず学生教務課（D 履修）で確認してから登録してください。

3) 他大学との単位互換科目の履修申請

他大学の単位互換科目の履修を希望する場合は、学生教務課（D 履修）で受講できる科目を確認し、各大学の所定の手続を行ってください。

手続期間は、4月ガイダンス時に周知します。

4) クラスの変更について

クラス分けのある授業について、授講するクラスを指定されている場合は、原則的に指定のクラスを履修してもらうこととなりますが、他の授業との重複により、指定されたクラスを履修できない場合は授業担当者の許可を得て、クラスを変更することができます。

5) 履修登録の確認について

4月の履修登録・確認期間および9月の履修登録・確認期間内に必ず履修登録した結果の確認も行ってください。間違った登録をしたままで見過ごしていると、GPAが低下してしまったり、学期末の定期試験を受験できないこととなります。

また、履修登録期間を過ぎると「J-port」の履修登録機能の利用（登録・修正）はできなくなるので、十分確認をしてください。

NOTICE

履修登録の際に大切なことは、内容の確認と期限の厳守です。

間違った登録をしたままで見過ごしていると、学期末の定期試験を受験できないこととなります。「気づいた時にはもう後の祭り」にならないよう十分注意しましょう。

また、GPAの低下を回避するために履修を取り止める場合も、履修登録期間内に修正してください。

4. 試験

1) 定期試験（試験実施内規第8条関連）

- (1) 学事曆に示された学期末または学年末の試験期間中に行う試験をいう。
- (2) 試験時間割は、試験開始日のおおむね2週間前にJ-portおよび掲示板により発表する。
- (3) 原則として、各学期末の定期試験を受験しない場合は単位を修得できないので注意すること。

2) 平常試験（試験実施内規第9条関連）

- (1) 定期試験期間以外の、平常の授業時間に各授業担当者が行う試験をいう。
- (2) 試験実施日その他は、担当者が授業中に直接発表する。
- (3) 平常試験を欠席した学生は授業担当者に申し出ること。
ただし、この場合後述3)の追試験の対象とはならないので注意すること。

3) 追試験（試験実施内規第12条関連）

- (1) 定期試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった学生に対して行う試験をいう。
- (2) 追試験の受験を希望する学生は、指定された申し込み期間中に、欠席の事由を証明する公的書類を添えて、所定の「追試験願」を学生教務課（D 履修）に提出すること。
- (3) 追試験の受講科目は、特別な事情を除き、各試験期間において8科目を上限とする。
- (4) 自己の不注意または公的書類のない場合は、理由のいかんを問わず追試験を受験することができない。
- (5) 試験期間中は公共交通機関（電車・バス等）を利用し、自家用車の利用は自粛すること。自家用車を利用した場合、天候や交通渋滞等による遅刻・欠席は一切追試験の対象とはならないので特に注意すること。

(6) 欠席理由と添付すべき公的書類は以下のとおり。

欠席事由	提出書類
病 気	本人が試験当日に受診したことがわかる病院の領収書、または医師の証明書 ※感染症による欠席の場合は、医務室へ提出する罹患証明書の写しでも可とする
忌引(3親等まで)	死亡に関する書類(会葬通知等)
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書 ※居住地からの交通機関に限る
就職試験等	官公庁・企業発行の受験票等で試験実施が証明できるもの ※企業説明会や企業セミナーは認めない
インターンシップ(正課)	官公庁・企業からの通知文書等
単位互換校の試験	単位互換校発行の試験日程表等
その他	追試験受験資格審査による

※追試験を欠席した場合の再度の試験は行わない。

NOTICE

追試験の対象は、定期試験を実施した科目だけです。平常試験やレポートにより評価される科目は追試験の対象にはなりません。また、定期試験を寝坊や車の渋滞で受験できなかった場合も追試験は受験できません。追試験の受験にはいくつかの制限があることを覚えておきましょう。

4) 再試験(試験実施内規第16条に規定している臨時試験として実施する)

《総合情報学部》

- (1) 修得単位の不足により、進級要件または卒業要件を満たしていない学生に対して行う進級または卒業資格を得るための試験をいう。
- (2) 再試験の受験には、以下の要件をすべて満たしていることが条件となる。ただし、受験できる科目は6単位までとする。
※不足単位が6単位以内であっても、1単位科目に未修得科目があり、7単位以上の受験が必要となる場合は再試験の対象とならない。
 - ① 別に定める進級要件または卒業要件を、6単位以内の単位修得で満たすことができること。
 - ② 当該年度の評価が「不」の科目であること。「欠」の評価科目および演習科目(卒業論文を含む)は対象外とする。また、講義科目も一部対象外としているので、注意すること。
 - ③ 指定期間内に所定の手続きを完了していること。
※手続きの日程をJ-portへ掲載するので、各自の責任で手続きすること。
- (3) 1科目あたりの受験料を2,000円とする。

《看護学部》

- (1) 1年次から3年次
再試験の受験には、以下の要件をすべて満たしていることが条件となる。
 - ① 必修科目であること。
 - ② 当該年度の評価が「不」の科目であること。「欠」の評価科目および演習・実習科目は対象外とする。また、講義科目も一部対象外としているので、注意すること。
 - ③ 指定期間内に所定の手続きを完了していること。
- (2) 4年次
再試験の受験のための要件は、総合情報学部準ずる。
- (3) 1科目あたりの受験料を2,000円とする。

5) 受験資格

- (1) 当該年度に履修登録をした科目であること。
- (2) 当該授業担当者の定める授業日数を満たしていること(原則として授業日数の2/3以上の出席が必要)。
- (3) 当該年度の学費を納入済であること。
ただし、学費延納の許可を受けた場合を除く。

6) 受験の心得

- (1) 指定されたクラス、試験場で受験すること。
- (2) 試験監督者から、学生証により出席の確認を受けること。
学生証を忘れた場合は、学生教務課において仮学生証(発行手数料500円/当日限り有効)の交付を受けること。
- (3) 試験開始後15分以上の遅刻は認めない。また、退室は開始後30分以降とする。
- (4) 答案用紙には学科、学年、学籍番号、氏名を必ず明記すること。記入がない答案は一切を無効とする。
- (5) 答案用紙は白紙であっても必ず提出すること。
- (6) 不正行為を行った者は、当該試験期間中の受験資格を一切失い、学則により処分されることがある。また、持込を許可されていないものが机上および机中に入った場合は、不正行為の対象とみなす。
- (7) 受験にあたっては試験監督者の指示に従うこと。
- (8) その他試験に関する注意事項は、定期試験時間割発表と同時に掲示する。

7) 試験期間中の時間割

定期試験、追試験、再試験期間中の時間割は、通常の授業時間割とは異なるので注意してください。
試験時間は、原則として60分間です。

8) レポート提出

レポートの提出を求められた場合は、J-port等によりテーマ・枚数・提出期限・提出先を確認し、必ず指定された期限までに提出してください。

期限に遅れた場合は、いかなる理由があっても受け付けません。

NOTICE

◇レポートや論文執筆時の剽窃に注意◇

(参考にした文献を引用しないと剽窃になります)

○剽窃(ひょうせつ)とは

レポート等で引用の形式を取らずに、著作権者に無断で著作物を複製・転載することです。これは学術上のルール・モラルに反する行為です。また、著作権法に違反する行為で、懲役刑または罰金刑が科せられることもあります。東京情報大学では、剽窃や不適切な引用、データ等の捏造(ねつぞう)は不正行為と位置付けています。十分に注意してください。

例)

- ・他人の作成したレポート・レジュメ・論文などを自分の成果物として提出する行為(およびその帮助<ほうじょ>: わきから力を添えて手助けをすること)。体裁や細部を多少変更しても許されません。
- ・レポート・レジュメ・論文などにおける、出典を明示しない、また、適切な引用方法によらない引用および不適切な言い換え(パラフレーズ)。
- ・他人の研究成果に示された分析・評価内容や私見の要旨を、レポート・レジュメ・論文などにおいて盗用すること。

○レポート等とは

レポート等の提出物や発表など、授業の成績評価に関わり、学生が提出・発表する成果物のすべてを指します。レポート、レジュメ、答案、プレゼンテーション資料、電子データ等が含まれます。

○著作物とは

日本国著作権法が定めるとおりのものすべてを指します。論文・講演等言語による著作物・放送・音楽・劇・美術・建築・地図・図面・模型・映画・写真・プログラム・テープなど磁気データ・Web上の文章やデータ、画像等が含まれます。

○引用とは

- ・自分の文章が主であり、それを補うために他人の著作物を利用すること
- ・引用する必然性があること
- ・出典(著者名、書名・論文題名、出版年、所収書名・雑誌名、出版社名)を明確に示すこと
- ・引用した部分ができるように示すこと
(直接引用) 引用した部分の文章をそのまま変えずに引用すること
(間接引用) 引用した部分の内容を変えず、文体などを変更して引用すること



直接引用と間接引用については、文献 [1] で詳しく述べられているので参照してください。
 以上の条件をすべて満たしたうえで、他の著作物の内容を自分の著作物のために使用することが、引用には求められます。なお、引用文献の書法は各学会により様々な書法が存在します。授業担当者の指示に従ってください。

引用文献

[1] 富士田匠：高等学校での引用指導に関する考察 一意見文における思考の形成過程に着目して一, J-STAGE 学芸国語教育研究, 36 巻 (2018), pp.83-94, https://doi.org/10.24672/gakugeikkk.36.0_83(access 2021.2.8).

補足：

- ・引用文献は、参考文献と書くこともある。引用文献、参考文献のどちらを使用するかは各学会の流儀によるもので、どちらも正しい。
- ・ここでは著者名と題目の間に、[:] を使用しているが、[,.] を使用することもある。
- ・論文題目は「と」, 『と』, ”と” で囲んでもよい。
- ・所収書名・雑誌名は『と』で囲む場合と、囲まずに斜体(イタリック)で表示する場合がある。
- ・Vol. と No. があるものは、Vol. と No. の両方を記述する。
- ・上記のように URL を記述するときは、ジャンプできるように URL の前後に「」(半角スペース)を書くとともに、(access 2021.2.8) のように、URL にはアクセスした年月日を記述する。
- ・1つの引用文献の最後は「.」などを記述する。
- ・引用文献リストで、[1] と書いた場合は、本文では「文献 [1]」や「... である [1].」のように引用する。
- ・引用文献リストで、富士田 (2018) と書いた場合は、本文では「富士田 (2018)」や「... である (富士田 (2018)).」のように引用する。
- ・引用文献リストで、[富士田 2018] と書いた場合は、本文では「[富士田 2018]」や「... である [富士田 2018].」のように引用する。
- ・pp.83-94 は、p.83~p.94 を意味する。日本語論文でも英語論文でも pp.83-94 のように記述する。
- ・1 ページのみの場合は、p.83 のように記述する。
- ・英語論文で、et al. は「エトール」と発音し、日本語の「他」と同じ。
- ・卒業論文執筆時の引用文献の書法は、指導教員の流儀に合わせる。

5. 成績評価

1) 成績評価基準

- (1) 履修した授業科目の成績評価は、原則として試験(筆記試験・論文・レポート・その他)により行う。
- (2) 成績評価基準、および成績証明書等の成績の表記は、下表のとおりとする。

成績評価基準とGP

判定	評価点	J-port 成績照会 表記	成績 証明書 表記	GP	成績評価内容
合格	100~90点	秀	秀	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている
	89~80点	優	優	3	到達目標を十分に達成している
	79~70点	良	良	2	到達目標を達成している
	69~60点	可	可	1	到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	不	表示 せず	0	到達目標を達成していない
	—	欠		0	試験欠席・レポート未提出・出席不足
合格		認	認		編入学時に単位認定した評価 知識及び技能に係る学修により単位認定した評価 GPAの対象としない

※当該授業担当者の定める授業日数を満たしていない場合(原則として2/3以上の出席が必要)、最終試験を受験したとしても、出席不足という扱いで、「欠」となることもある。

(3) 総合情報学部「卒業研究Ⅱ ルーブリック」

項目	チェックポイント	評価基準と評価基準ごとの点数				エビデンス・判断資料
		優れている:4点	概ね良好である:3点	やや不十分である:2点	不十分である:1点	
ゼミ活動と研究姿勢・発表	ゼミ活動と研究への取り組み姿勢	ゼミ活動と研究への取り組み姿勢が積極的であり、発表や課題の内容は優れている	ゼミ活動と研究への取り組み姿勢は満足できるものであり、発表や課題の内容に優れている点がある	ゼミ活動と研究への取り組み姿勢はやや不十分であるが、発表や課題に対する努力の跡は見られる	ゼミ活動と研究への取り組み姿勢が不十分であり、発表や課題の内容には、さらなる努力が必要である	ゼミでの発表資料、課題レポート
	研究と課題遂行力	研究と課題遂行力が優れており、研究や課題の内容は量的に際立っている	研究と課題遂行力は満足できるものであり、研究や課題の内容は量的に十分である	研究と課題遂行力は満足できるものであるが、研究や課題の内容は量的にやや不足している	研究と課題遂行力に欠けるところが、研究や課題の内容は量的に不足している	ゼミでの発表資料、課題レポート
	プレゼンテーション	発表技術、発表資料、論理構成はいずれも優れている	発表技術、発表資料、論理構成は概ね良好であり、優れたものもある	発表技術、発表資料、論理構成は満足できるものであるが、一部に不十分な点がある	発表技術、発表資料、論理構成に不十分な点が多く、さらなる努力が必要である	ゼミでの発表資料、卒業論文最終発表
卒業論文の形式	構成（章立て、形式）	構成はその分野の一般的なものに沿っており、論文の構成として整っている	構成はその分野の一般的なものに概ね沿っている	構成はその分野の一般的なものに概ね沿っているが、不十分な点がある	構成はその分野の一般的なものに沿っておらず、論文の構成として整っていない	卒業論文
	論理性	論理性が高く、理路整然としている	論理性は概ね良好である	論理性は概ね満足できるものであるが、一部に齟齬がみられる	論理性が不十分であり、読者が論文を理解するために努力を要するものである	卒業論文
	誤字・脱字	誤字・脱字はほぼない	誤字・脱字がわずかにある	誤字・脱字がやや多い	誤字・脱字が多い	卒業論文
	書法（引用、図表、参考文献）	書法は書式に従ったものであり、引用や図表、参考文献に過不足がない	書法は書式に従ったものであり、引用や図表、参考文献に過不足がほぼない	書法は書式に概ね従っているものの、引用や図表、参考文献にやや不足する、あるいは過剰なものがある	書法は書式に従っていない、あるいは、引用や図表、参考文献に不足するものや過剰なものが多い	卒業論文
卒業論文・卒業制作	目的の妥当性	論文・制作における課題の解決に向けた目的設定が適切である	論文・制作における課題の解決に向けた目的設定が概ね適切である	論文・制作における課題の解決に向けた目的設定に過小あるいは過大なものがある	論文・制作における課題の解決に向けた目的設定が適切ではなく、改善が必要である	卒業論文・作成物
	方法の妥当性	設定した目的の解決に向けた手段として適切な方法である	設定した目的の解決に向けた手段として概ね適切な方法である	設定した目的の解決に向けた手段として概ね適切な方法であるが、過剰なものや不足する点が目立つ	設定した目的の解決に向けた手段として適切ではなく、改善が必要である	卒業論文・作成物
	結論の妥当性	設定した目的と方法から導かれる結論として妥当なものである	設定した目的と方法から導かれる結論として概ね妥当なものである	設定した目的と方法から導かれる結論として概ね妥当だが、一部に齟齬がある	設定した目的と方法から導かれる結論として妥当なものではなく、改善が必要である	卒業論文・作成物
	完成度	卒業論文・制作物として完成度が高く、優れている	卒業論文・制作物として満足できるものであり、優れた部分がある	卒業論文・制作物として概ね満足できるものであるが、一部に不十分な点がある	卒業論文・制作物として満足できるものではなく、改善が必要である	卒業論文・作成物

注意：項目ごとの評価割合は、各教員で異なります。

(4) 看護学部の実習の成績評価

看護学部の各領域の実習における成績評価については、定められた実習出席日数の4/5以上の出席が必要です。出席日数を満たさない場合は、原則として実習の成績評価が行なわれないこととなります。ただし、病気(医師の診断書がある場合)、忌引きなどやむを得ない理由により、欠席した場合には、学生の願い出及び教員の判断により、補助実習等の対応をいたします。

(5) 放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目の成績評価は、当該大学の評価を、それに相当する本学の標語に置き換えて表示する。

2) GPA制度

本学では、学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的として、GPA制度を導入しています。

(1) GPA制度

GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいいます。

このGPAは、学修への取り組みを質的に把握するための指標となり、学期ごとに比較することで、学修した成果を判断する目安となります。

また、不合格の科目も算出対象となるので、計画的な履修をするよう心がけてください。

(2) 成績評価とGP

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100 ~ 90点	
優	3	89 ~ 80点	
良	2	79 ~ 70点	
可	1	69 ~ 60点	
不	0	59 点以下	
欠	0	—	
認	—	—	対象外とする

(3) GPA算出方法

GPA = (科目の単位数 × GP) の合計 / 履修登録科目の単位数の合計

* 小数点第 2 位を四捨五入

* 分母の総単位数には、不合格科目（評価が「不」、「欠」）の単位数を含む

●算出例

科 目	単位数	評 価	GP	単位数 × GP
基礎演習	1	優	3	1 × 3 = 3.0
英語 a	1	良	2	1 × 2 = 2.0
哲学概論	2	秀	4	2 × 4 = 8.0
日本国憲法	2	不	0	2 × 0 = 0.0
統計学	2	可	1	2 × 1 = 2.0
情報リテラシー演習	2	欠	0	2 × 0 = 0.0
総合情報学概論	2	秀	4	2 × 4 = 8.0
合 計	12 ①	—	—	23.0 ②

$GPA = ② / ① \Rightarrow 23.0 / 12 = 1.9$

(4) 対象科目

全学共通科目、学科専門科目の全てを対象とするが、教職課程科目、保健師課程科目は対象外とする。

また、本学以外の大学（農大、放送大学等）で修得した単位（1年次入学・編入学前の認定単位、単位互換科目の単位）も対象外とする。

(5) GPAの確認方法

成績開示期間中、J-portの“成績照会”から確認することができる。

(6) GPAの「総合評価表」

算出されたGPAは、下表を参照し、目安としてください。

GPA	総 合 評 価
3.5 ~ 4.0	大変優秀な成績です。
3.0 ~ 3.4	優秀な成績です。
2.0 ~ 2.9	平均的な成績です。
1.0 ~ 1.9	努力を要する成績です。
0 ~ 0.9	より一層の努力を要する成績です。

(7) GPAによる履修登録単位数の緩和

通算GPAが3.0以上の時、次学期の履修登録単位数の上限を緩和します。

(8) 成績不振者に対する指導（退学勧告）について

当該年度のGPAが1.0未満の学生を対象に、年度末に保護者を交えてクラス（ゼミ）担任による面談指導を実施します。なお、この退学勧告に強制力はなく、学修計画改善のための指導を目的とします。

3) 成績に関する質問日

J-portに開示された前学期の成績評価に質問等がある場合は、各学期の初めに設けられた「成績に関する質問日」に、所定の「成績評価に関する質問票」を用いて授業科目担当者に質問することができます。詳しい日程等は、各学期の初めに、J-port等に掲示します。

なお、質問の理由が明確に記入されていない質問票や、受付期限を過ぎた質問票は一切受け付けませんので注意してください。

※様式は、大学ホームページの「学生生活」の各種届出・様式ダウンロードからダウンロードすること。

6. 授業の出席管理

学生のみなさんが、授業に遅刻せずに出席することが、大学において学問を学ぶための必須の条件であり、その上で成績評価をします。

については、授業の出席状況の確認を徹底するので、以下の実施事項をよく読み、授業を受講してください。また、各授業の第1回目に、成績評価の方法や遅刻、欠席の取扱い等について授業担当教員から説明があるので、その指示に従ってください。

1) 出席確認の徹底

全授業で原則、毎回出席確認をする。

原則として、開講数の2/3以上の出席がない学生は、成績評価の対象としない。

2) 出席確認の方法

(1) J-portの出席登録機能を利用する授業の場合

- ①ノートパソコンやスマートフォンを用意し、確認キー（数字4桁）を入力できる状態に準備しておく。なお、携帯電話等を忘れた場合は、授業担当教員に申し出ること。
- ②授業開始後10分以内に、授業担当教員から伝えられた確認キー（数字4桁）を入力する。
- ③他の方法（出席カード、小テスト、実習室の出席管理システム、先生独自の出席管理システムなど）を、抜き打ちで併用することもある。
- ④J-portで出席登録をしているが、併用した他の方法で出席の確認ができない学生は、不正出席とみなす。
- ⑤携帯電話を機種変更したり、パスワードをまちがえ、複数回ログインに失敗したりすると、J-portへログインできなくなる場合があります。授業開始の前に学生教務課に立ち寄って、登録しなおすこと。

(2) J-portの出席登録機能を利用しない授業の場合

授業担当教員の指示に従う。

※くわしい出席登録方法は「J-port利用ガイド」を確認してください。

3) 不正出席をした場合

・該当学生は、その授業の単位をその学期に取得できない。

○不正出席の事例

- ①教員が通知するコード（確認キー）を、LINEやメール等により通知してもらい、教室外から不正に出席登録する。
- ②友人に出席カードを提出させる。
- ③点呼の際、友人に返事をさせる。

4) 欠席、遅刻等の対応

病気等で授業を欠席した場合、「欠席」として取扱う。ただし、事由によって、公欠的な取扱いとなる場合もあるので、当ページの「7. 欠席時の対応」または大学ホームページの「授業を欠席したとき」を確認すること。

交通機関の遅延による遅刻や欠席の場合は、遅延証明書を添えて授業担当教員に報告する。

授業中に勝手に教室を出ることを禁ずる。体調不良など、やむをえず退出する場合は、必ず教員に報告してから退出する。

7. 欠席時の対応

1) 公欠的な取扱いとなる場合

以下の事由により授業を欠席した場合、公欠的な取扱いをするので、忘れずに手続きをしてください。なお、公欠的な取扱いとした授業については、原則として補講は行わず、授業担当教員が当該授業日に相当する学習を課すものとします。

事 由	証明者	添付書類等
課外活動（大学が許可した強化指定部の公式戦等）	部長 顧問等	開催要項等
個人資格による課外活動（全国大会、国際大会レベルの大会へ出場）	学部長	①大会要項、②本人の出場を証明する書類、③その他（連盟の推薦書・出場依頼書等）等 ※学生教務課に相談すること
忌引（3親等まで） ※1親等：連続7日 2親等：連続3日、3親等：1日	保護者	死亡に関する書類（会葬通知等）
学校保健安全法に規定されている感染症による出席停止	不要	治癒証明書の写し ※医務室にも提出
裁判員候補者に指名され、裁判所に出頭・職務従事した場合	不要	裁判所発行の通知文書等
教職課程履修学生の実習や課外活動への参加	教職課程主任	必要に応じて指示する
看護学科の学生の実習への参加	学科長	必要に応じて指示する
その他、教務委員長が適当と認めた場合	教務委員長	※学生教務課に相談すること

(1) 「欠席届」の提出

- ・大学 HP「様式ダウンロード」から「欠席届」をダウンロードする。
- ・必要事項を記入し、証明者に署名・捺印をしてもらう。事由により、証明書類を添付する。
- ・欠席届は、欠席日の前後1週間以内に学生教務課に提出する。

※課外活動の公式戦等への参加で欠席する人数が多い場合、別途課外活動団体から配慮を依頼するので、欠席届の提出は不要とする。

※教職課程の学生が実習や課外活動への参加により欠席する場合は、教職課程から配慮を依頼する。

※看護学科の学生が実習により長期欠席する場合は、別途学科から配慮を依頼する。

(2) 欠席した授業の課題等の確認方法

授業前日まで（欠席することがわかった時点）に、授業担当教員に以下の要領でメールをして、返信メールで課題等の内容を受取る。

メールを送信しない場合は、公的な取扱いとしないので注意してください。

- ・件名：「【公欠届】授業科目名・学籍番号・氏名」
- ・本文：欠席日、時限、授業科目名、学籍番号、氏名、メール送信理由（欠席理由、課題有無）を入力する。
- ・授業担当教員のメールアドレスは、各授業科目のシラバスの「教員 Email」で確認する。

(3) 注意事項

- ・個人資格による公欠的な取扱いを希望する場合は、原則として欠席する日の1ヶ月前までに必要書類を添付して学生教務課へ申請すること。
- ・公欠扱いの場合は、評価の際に欠席が不利にならないよう取扱うこととするが、公欠扱いと出来る回数は、通常の欠席と合わせて1授業につき全日程の1/3回までとする。なお、集中授業等で全日程の1/3回以上欠席せざるを得ない場合は、授業担当教員に相談すること。
- ・欠席届について質問がある場合は、学生教務課で確認すること。

2) 公欠的な取扱いとならない場合

上記「公欠的な取扱いとなる場合」の事由以外の理由で授業を欠席した場合は、公欠的な取扱いとしません。

公欠的な取扱いとならない欠席理由の例
<ul style="list-style-type: none">・学校保健安全法に規定されている感染症以外の病欠、怪我・就職活動・サークル活動 など

なお、授業を欠席することが事前にわかっている場合、公欠的な取扱いをしないが、欠席日の前日までに、授業担当教員に以下の要領でメールをして、欠席することを事前に伝えること。

ただし、授業当日以降のメールは受け付けません。

- ・件名：「【欠席届】 授業科目名・学籍番号・氏名」
- ・本文：欠席日，時限，授業科目名，学籍番号，氏名，メール送信理由（欠席理由、課題有無）を入力する。
- ・授業担当教員のメールアドレスは、各授業科目のシラバスの「教員 Email」で確認する。



総合情報学部の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。
また、総合情報学部履修規程に関する内容も掲載しています。



1. 学士課程教育の目的および方針

1) 教育研究上の目的

総合情報学部総合情報学科は、建学の精神「未来を切り拓く」及び教育理念「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展する情報社会の将来を見据え、情報社会に貢献できる優れた情報収集、処理、分析及び発信能力をもった人材の育成を目指す教育及び情報学に関する研究を行う。
(東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より)

2) 教育目標及び育成する人材像

東京情報大学	
建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念「現代実学主義」を念頭に、日々進化する情報技術を活用し社会に貢献できる人材を育成する。	
総合情報学部総合情報学科	
複雑化する情報社会に対応するために必須とされる情報通信技術・データサイエンスに関する基礎を学び、加えて情報の応用・活用を通じて社会の様々な課題に対する解決能力を身につけるための実践的な教育を行う。情報通信技術を多様な専門分野の知識と融合させることにより、情報の高度な利活用ができる「情報の創り手・使い手」となる人材を育成する。	
学系	
《情報システム学系》	システム開発、情報ネットワーク、情報セキュリティなどに関する基礎技術からゲーム・エンタテインメント、IoT、人工知能システムなどの先端技術について研究し、新しい情報分野で活躍していくために必要な知識と技術について学ぶ。企業活動のサポート、セキュリティ問題に関する分析と解決方法の提案、人々の利便性向上やゲーム・エンタテインメントの提供など、多種多様な情報システムを設計・構築・運用する能力を有する人材を育成する。
《データサイエンス学系》	数理科学を基礎にしたデータ分析の基礎技術を学び、生命・環境・人間の行動の理解と課題解決のための応用技術を学ぶ。その過程を通じてデータサイエンスの専門性を修得することにより、高度な情報技術を駆使し、生命・環境・人間の行動に関する課題解決に資するとともに、社会の要請に応え得るデータサイエンティストを育成する。
《情報メディア学系》	情報メディア学に関する学びをととして、情報を表現し伝達するための知識や技術を学ぶ。その過程を通じて、生活者の利便性向上のための情報の提供、情報メディアを活用した表現活動など、多様な情報を創造、運用する能力を有する人材を育成する。
《教職課程》	情報に関する専門的知識および技術とその背景を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報の教員を育成する。数学に関する専門的知識と実学としての数学を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報技術に強い数学の教員を育成する。

3) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

東京情報大学は、以下のような学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得した学生に対して、卒業時に学士の学位を授与する。

東京情報大学	
知識・理解	1. 専門分野(情報学・看護学)の知識および情報通信技術、データの利活用技術に関する基本的知識を体系的に理解できる。
汎用的技能	1. コミュニケーション能力を高め、自らの意見を論理的・効果的に伝えることができる。 2. 情報モラルを遵守し、情報を適切に収集、分析及び活用することができる。論理的・効果的に伝えることができる。 3. 社会人として必要な基礎的な知識と幅広い教養を身につけている。
態度・志向性	1. 社会人として必要な自己管理能力、協調性、統率力、倫理観、規律性を身につけ、社会の発展に貢献できる。



総合的な学習経験と創造的思考力	1. 変化する社会に柔軟に対応し、主体的に新たな課題を発見し、これまでに獲得した知識・技能、態度などを総合的に活用してその課題を解決することができる。
総合情報学部総合情報学科	
知識・理解	1. 情報科学、データ科学、情報メディアについての豊かな知識を身につけている。 2. 高度かつ専門的なデータ科学の知識及び技術を身につけている。 3. 高度かつ専門的な情報通信技術の知識及び技術を身につけている。
汎用的技能	1. 情報社会の分析・企画・立案をすることができる。
態度・志向性	1. 情報社会の変化に対応すべく、幅広く自律的に学ぶ姿勢を身につけている。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 柔軟な課題解決能力を備えた情報のプロフェッショナルとして、人にやさしい情報社会の実現に貢献できる能力を身につけている。 2. 地域連携等を通じて、実社会で新たな価値が創造できるようになる。
学系	
《情報システム学系》	
知識・理解	1. 情報工学における基礎的な知識を身につけ、社会の要請にこたえるために、情報工学の基本的な技術を活用できる。 2. システム開発分野、ネットワーク・セキュリティ分野、人工知能分野のいずれか1つ以上の分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。
汎用的技能	1. 技術者、研究者あるいは教育者として、情報システムの開発・運用を通じて情報技術の発展に貢献できる。 2. セキュリティを考慮した情報ネットワークシステムの開発・運用を通じて、情報ネットワーク技術の発展に貢献できる。 3. 人工知能技術を利用したシステムの開発・運用を通じて人工知能技術の発展に貢献できる。 4. 他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	1. 一般的な情報に関する知識と技能を用いて社会に貢献できる。 2. 常に新しい知識・技術を吸収し、学習を続ける意欲を持っている。 3. 技術者、研究者あるいは教育者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2. 自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、高い情報技術を持つことで情報社会に対応できる。 3. 情報システムの学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。
《データサイエンス学系》	
知識・理解	1. 数理科学、統計学、情報科学における基礎的な知識・技術を身につけ活用できる。 2. 数理情報分野、生命科学・心理学・環境科学のいずれかの分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。 3. データの処理と分析に関する基礎的な知識を持ち、実社会で活用できる能力を身につけている。
汎用的技能	1. 数理科学、統計学、情報科学を利用し、データサイエンス分野の発展に貢献できる。 2. 生命科学・心理学・環境科学のいずれかの分野においてデータを利活用することを通して現代社会の課題解決に貢献できる。 3. 他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	1. データサイエンスに関する専門知識を用いて社会に貢献できる。 2. 生命・環境・人間の行動について常に問題意識を持ち、解決策を模索する意欲を持っている。 3. 技術者、研究者あるいは教育者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2. 自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、高い情報分析技術を持つことで情報社会に対応できる。 3. データサイエンスの学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。

《情報メディア学系》	
知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活の向上に向けた新たな情報を創造するための情報メディアの基礎的な知識・技術を身につけ活用できる。 2. メディア分野、経営情報分野へのいずれか一つの分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。
汎用的技能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の表現者、分析者として、情報メディア学、人文社会科学にもとづいた新たなコンテンツの創造を通じて、情報メディア分野の発展に貢献できる。 2. 他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報創造のための情報メディアに関する専門知識を用いて社会に貢献できる。 2. 情報の表現者あるいは分析者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と創造的思考力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2. 自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、高い情報創造力と表現力を持つことで情報社会に対応できる。 3. 情報メディアの学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。
《教職課程》	
知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科と教職に関する基本的な知識を体系的に理解し、実学を重視した専門知識を有している。
汎用的技能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒に基礎的な知識・技能を習得させ、思考力、判断力、表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を有している。 2. 学校現場で活かすことができる授業実践力および学級経営能力を有している。 3. キャリア教育を含む進路指導と、多様な問題や課題を抱えた生徒に対応できる指導ができる。
態度・志向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの資質向上に不断に取り組む、学び続ける力を有している。 2. 教員としての職業モラルと職務遂行能力及びコミュニケーション能力を有している。
総合的な学習経験と創造的思考力	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICT を用いた効果的な授業や適切なデジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を有している。

4) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラムポリシー】

東京情報大学
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「未来を切り拓く」という建学精神と「現代実学主義」という教育理念に基づき、自らのキャリアを確立するための教育を実現するために、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を目指して総合情報学部情報システム学系、数理情報学系、社会情報学系を置く。さらに科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる人材育成を目指して看護学部看護学科を置き、教育課程を編成する。 2. 教育理念である「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展しつつある情報社会、少子高齢社会の将来を見据えることができるための現代実学科目を設置する。各学部において、実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、学生自身が主体的にかつ計画的に学び、実社会で活用できる能力を身につけていくことを教育方針とする。 3. 全学共通科目は、学生として必要とされる知識と教養を養うとともに、学習方法および国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。 4. 各学部の「基礎科目」は、当該学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学部の特性に応じた基礎教育を行う。 5. 各学部の「専門教育科目」は、各々の専門的知識や学問的方法を体系的に学び、問題解決方法や問題の本質を見抜く洞察力や判断能力、社会や地域をサポートするための実践的能力を身につける。最終的に、これまで身につけてきた知識、技能・技術を集大成し、社会の発展に積極的に貢献できる人材を目指す。
総合情報学部総合情報学科
<p>総合情報学部総合情報学科では、情報学の幅広い専門知識と専門科目を身につけるために、共通基礎科目、情報基礎科目、キャリアデザイン科目を設置する。</p>



1. 共通基礎科目を、「基礎演習」、「総合基礎」、「知識創造」、「実用語学」に分類する。
2. 「基礎演習」では、総合情報学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学習動機付けを促進し、コミュニケーション能力や創造的な思考力・理解力を育むために、参加型少人数授業を実施する。
3. 「総合基礎」では、高度な科学技術知識を総合的に習得し、これを情報社会で活用できるようになるために必要な教養的知識や基礎知識について身につける。
4. 「知識創造」では、初年次教育における「基礎演習」での学びに加えて、学部・学科の教育内容に興味を持たせ、その後の教育プログラムにうまく乗せていくために、体験型学習による能動的で自律的・自律的な学習態度への転換を促す授業を実施する。さらに、クリティカルシンキングやコミュニケーション能力など大学で学ぶための思考方法についても習得する。
5. 「実用語学」では、「全学共通科目」で学んだ、基礎的なコミュニケーション能力に加えて、情報社会に通用する基礎的コミュニケーション能力を、コンピュータおよびビジネス分野に限定して習得する。
6. 情報基礎科目では、情報化社会を生きていくために必要となる、情報、およびデータサイエンスに関する基礎的な知識を身につける。
7. キャリアデザイン科目では、キャリア支援を実施するとともに、インターンシップも支援していく。

学系

《情報システム学系》

情報システム学系では、社会のニーズに応える情報システムを構築するために、情報システムに対する深い関心と理解を持ち、その構成要素と要素技術に関する知識を学び、これらの統合によりシステムとして纏めあげていく技術を学ぶ必要がある。これらを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。また、教職課程の高校一種「情報」免許取得を可能とする。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「データサイエンス」、「情報メディア」に区分する。
2. 専門基礎科目に相当する「共通」科目では、情報システム学系を学んでいくために、「総合情報学」の導入教育や「情報システム学系」の入門科目を設置する。
3. 専門基礎科目に相当する「情報システム」科目では、コンピュータ全般にわたる基礎知識、ソフトウェアおよびプログラミングに関する基礎的な能力、情報通信に関する基礎知識、情報システムの基礎知識、環境を対象としたデータ解析・応用の基礎知識を習得する。
4. 専門応用科目に相当する「情報システム」科目では、情報システムの開発・運用、情報ネットワークシステムの開発・運用、人工知能やビッグデータ技術を利用した応用システムの開発・運用に関する技術を習得する。
5. 情報システム学に関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「データサイエンス」、「情報メディア」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、情報システムの学びを総合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践を融合し、実社会での問題解決策を個別指導により考察し、卒業論文として纏める。
7. 教職課程では、情報社会に積極的に参画する能力と態度を養う分野、情報を効果的に活用する科学的な考え方を養う分野、および、情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な情報活用力を養う分野を学ぶ。さらに、多様化する情報社会において、その変化と学校現場を取り巻く状況を踏まえ、柔軟に対応できる専門的知識を身につけたコミュニケーション能力の高い教員としての資質を備えた人材を育成する。

《データサイエンス学系》

データサイエンス学系では、数理的手法とコンピュータ技術を駆使して合理的かつ効率的に解決できる実践的な能力を習得する必要がある。これを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。また、教職課程の中高一種「数学」免許取得を可能とする。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「データサイエンス」、「情報メディア」に区分する。
2. 専門基礎科目に相当する「共通」科目では、「総合情報学」全体の導入教育や、「データサイエンス学系」の入門科目を設置する。
3. 専門基礎科目に相当する「データサイエンス」科目では、データサイエンス全般にわたる基礎知識、数理情報学の基礎となる数学の諸分野の基礎知識、コンピュータを用いて数理的な処理を行うための基礎知識と技術を習得する。あわせて、心理学、生命科学、環境科学の基礎知識を習得する。
4. 専門応用科目に相当する「データサイエンス」科目では、より高度な数学的知識を学ぶと共に、統計学やデータサイエンス等に関する専門的、実践的、かつ多様な知識を習得し、情報社会における様々な問題を合理的かつ効率的に解決するための総合的な知識と技術を習得する。

5. データサイエンスに関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「情報システム」、「情報メディア」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、教員の指導のもとで、研究課題を設定し、データサイエンス学系での学びを総合的に活用し、さらに進んだ知識と技術の習得に努め、学んだ知識と技術を主体的に実践し、その結果を真摯に考察し、新たな知見を生み出すことに挑戦する。そして、その最終成果を卒業論文として纏める。
7. 教職課程では、数学の代表的分野、生命・環境・人間の行動の各現象に関わる「情報」を、コンピュータを用いて数理的に扱う分野、および、情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な情報活用力を養う分野を学ぶ。さらに、多様化する情報社会において、その変化と学校現場を取り巻く状況を踏まえ、柔軟に対応できる専門的知識を身につけたコミュニケーション能力の高い教員としての資質を備えた人材を育成する。

《情報メディア学系》

情報メディア学系では、社会のニーズに応える社会情報を構築するために、情報メディアに対する深い関心と理解を持ち、情報表現、情報分析、経営情報、メディア文化に関する知識を学び、これらの統合により新たな価値の創造ができるよう学ぶ必要がある。これらを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「データサイエンス」、「情報メディア」に区分する。
2. 専門基礎科目に相当する「共通」科目では、情報メディア学系の導入教育として、「総合情報学」や「情報メディア学系」の基礎演習を設置する。
3. 専門基礎科目に相当する「情報メディア」科目では、情報メディア全般にわたる基礎知識、映像・音響、CGに関する基礎的な技術、メディア文化、経営学の基礎知識を習得する。
4. 専門応用科目に相当される「情報メディア」科目では、映像表現、音響技術、CG技術、メディア文化、経営学に関する専門的知識と技術を習得する。
5. 情報メディア学に関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「情報システム」、「データサイエンス」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、情報メディア学の学びを総合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践を融合し、実社会に対応できる情報表現能力や問題解決能力を個別指導により養い、卒業論文として纏める。

《教職課程》

1. 情報モラル、コミュニケーションを重視した全学共通基礎科目、学科基礎科目を配置する。
2. 教科に関する一般的包括的内容を扱う科目に加えて、実学を重視した情報基礎科目、専門基礎科目の学修を通じて、情報及び情報技術が果たす役割や影響を理解する力と情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な態度を身につけ、情報活用の実践力を養う。
3. 単位の実質化および厳格な成績評価を前提として、教職課程において修得すべき単位を卒業所要単位として位置付ける。
4. 学校インターンシップによる学校現場の理解増進と、自らの教職への適性の確認を行う。
5. 情報通信技術に関する専門教育を経た上で、教科指導法を履修することによって、デジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を備える。
6. 卒業研究遂行を通じた先端的な技術・研究の理解と、自主性および積極性を涵養する。
7. 千葉県および千葉市教育委員会と連携して、県下の中学校及び特別支援学校（県立及び市立）での参観実習等を体験する機会を提供する。
8. 情報社会に積極的に参画する能力と態度を育成する「マルチメディアと表現及び技術」「情報通信ネットワーク」、情報を効果的に活用する科学的な考え方を養う「情報システム」「コンピュータ及び情報処理」を学ぶ。
9. 「代数学」「幾何学」「解析学」を基礎として、生命・環境・人間の行動の各現象に関わる「情報」を数理的に扱う「確率論、統計学」およびコンピュータを用いて各現象における問題を解く「データサイエンス」を学ぶ。



2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について

1) 総合情報学部の履修について

2～4年次生は、その年度に受講したい科目の全て（前期・後期科目とも）を登録します。

なお、1年次は前期・後期、各学期毎に登録します。後期科目の履修については、9月のガイダンス時に説明します。

授業科目を履修するうえで、以下のことに注意してください。また、5) 卒業要件に掲載している各学系の卒業所要単位数も確認しながら履修してください。

(1) 必修科目の履修

①各学系で、必修科目に指定している科目は、必ず選択履修してください。

②1年次配当の必修科目を3年次までに単位修得できない場合は、4年次に進級できません。

(2) 選択必修科目の履修

①全学基礎科目／スポーツに配当されている「スポーツ演習a～d」の中から、必ず1科目（1単位）を選択履修してください。

②専門基礎科目において、各学系が選択必修と指定している科目から、各学系が定めた単位数を選択履修してください。なお、所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の専門基礎の単位数とします。

③専門応用科目において、情報システム学系は選択必修と指定している科目から、学系が定めた単位数を選択履修してください。なお、所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の専門基礎の単位数とします。

(3) 選択必修科目（外国語）の履修（2年次）

①全学基礎科目／外国語及び共通基礎科目／実用語学に配当されている以下の科目から、必ず1組（2単位）を選択履修してください。

・「中国語a・b」

・「ハングル・韓国語a・b」

・「コンピュータ英語a・b」

・「ビジネス英語a・b」

②各クラスの履修者数が40名を超えた場合、抽選により履修者数を制限する場合があります。抽選方法等は、J-portのシラバス及び初回の講義で確認してください。

③外国人留学生は母国語の科目を履修することはできません。

※外国人留学生とは、本学の「外国人留学生試験」を受験して入学した留学生が対象となります。

(4) 選択科目の履修

①各学系で、選択科目に指定している科目の中から、各学系が定めた単位数を選択履修してください。

(5) 外国人留学生の履修

①外国人留学生は、「日本語a～d」を必修とし、必修科目・外国語の単位数とします。なお、「英語a～d」を単位修得した場合は、2単位まで選択必修科目・外国語の単位にします。

②授業科目表の科目名に「(※)」が付記されている科目は、外国人留学生対象科目です。積極的に履修してください。

(6) セット履修、ステップ履修科目について

セット履修、ステップ履修科目については、56ページ、88ページに掲載しています。

2) 単位制

単位制とは、学則第11条から第14条の規定に基づき、各入学年度の教育課程によって定められた全ての授業科目に一定の基準で単位数を定め、その授業科目を履修し、学修の成果を試験等により評価し、合格することで、所定の単位を修得していく制度です。

単位計算の基準は以下のとおりです。

区 分	授業時間	授業外学習時間	単位数
講 義	2時間×15週	4時間×15週	2単位
演 習	2時間×15週	1時間×15週	1単位
外国語	2時間×15週	1時間×15週	1単位

* 時間割上の1時間は90分授業であり、上記の2時間とみなされる。

* 授業時間は毎週1回を標準とする。

3) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間及び各学期に履修できる上限単位数を、以下のとおり設定しています。これは、上記の単位制に基づき、単位を修得するためには、授業の他に授業外学修（予習や復習）の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなることを防ぐための制限です。

例えば、講義科目を20単位修得するには、**1週間に20時間の授業と40時間の授業外学修**をすることになります。

【履修登録単位数の上限】

・ 1年間に履修登録できる単位数の上限・・・48単位（52単位、1年次生50単位）

・ 各学期に履修登録できる単位数の上限・・・26単位（28単位）

※前期で26単位履修登録した場合、後期は22単位までしか履修できません。

※1年間開講する科目（通年科目）は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントします。

※集中授業は、夏季は前期、冬季は後期としてカウントします。

※〈 〉内の単位数は、前学期までの通算GPAが3.0以上の時に履修登録できる上限単位数を表します。

4) 進級要件

2年次から3年次および3年次から4年次への進級、ならびに卒業するために、それぞれ要件が定められています。この要件を満たすように履修登録をし、単位修得するようこころがけてください。なお、要件を満たしていても休学した場合は翌年度は原級となります。

(1) 1年次から2年次への進級

2年次への進級の際には要件はありませんが、1年次終了時に修得単位数が25単位に満たない者あるいは後期の修得単位数が6単位に満たない者、または当該年度のGPAが1.0未満の者には、年度末に指導を行います。

(2) 2年次から3年次への進級

入学後の2年間（休学期間を除く）で、修得単位が50単位に満たない者は、3年次に進級することができません。

(3) 3年次から4年次への進級

3年次終了の時点で、以下の要件を満たさない者は、4年次に進級することができません。

①修得単位が90単位以上であること。

②1年次配当の必修科目の単位を全て修得済であること。

なお、3年次編入学生に対しては、②の要件は適用されません。

5) 卒業要件

学則及び総合情報学部履修規程により、卒業に必要な単位数が、以下のとおり学系ごとに定められています。

《情報システム学系》

卒業要件単位数																
合計	◎必修科目									○選択必修科目				△選択科目		
	現代実学	外国語	知識創造	基礎演習	総合基礎	情報基礎	専門基礎	専門応用	卒業研究	スポーツ	外国語	専門基礎	専門応用	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
124	4	4	2	1	-	10	19	3	11	1	2	8	8	8	※	43
	54									19				51		

- (1) キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- (2) 実用語学の「日本語総合演習」は専門選択・総合基礎の単位とする。
- (3) 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である8単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- (4) 選択必修科目・専門応用の卒業要件である8単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- (5) 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い10単位まで専門選択の単位とする。
- (6) 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。

《データサイエンス学系》

卒業要件単位数																
合計	◎必修科目									○選択必修科目				△選択科目		
	現代実学	外国語	知識創造	基礎演習	総合基礎	情報基礎	専門基礎	専門応用	卒業研究	スポーツ	外国語	専門基礎	専門応用	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
124	4	4	2	1	4	10	13	-	11	1	2	24	-	4	※	44
	49									27				48		

- (1) キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- (2) 実用語学の「日本語総合演習」は専門選択・総合基礎の単位とする。
- (3) 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である24単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- (4) 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い10単位まで専門選択の単位とする。
- (5) 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。

《情報メディア学系》

卒業要件単位数																
合計	◎必修科目									○選択必修科目				△選択科目		
	現代実学	外国語	知識創造	基礎演習	総合基礎	情報基礎	専門基礎	専門応用	卒業研究	スポーツ	外国語	専門基礎	専門応用	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
124	4	4	2	1	-	10	6	-	11	1	2	10	-	8	※	65
	38									13				73		

- (1) キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- (2) 実用語学の「日本語総合演習」は専門選択・総合基礎の単位とする。
- (3) 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である10単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- (4) 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い10単位まで専門選択の単位とする。
- (5) 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。

NOTICE

外国人留学生は、「日本語 a～d」と「英語 a～d」の両方が履修できます。「英語 a～d」は、2単位まで選択必修科目・外国語の単位とすることができます。

※「外国人留学生」とは、本学の「外国人留学生入試」を受験して入学した留学生が対象となります。

6) 進級・卒業者発表

学年末試験の結果を受けて2～4年次生を対象に進級・卒業判定を行い、上記の要件を満たした者を進級・卒業者として3月中旬に発表します。発表日および発表場所は、J-portで連絡します。

7) 卒業見込証明書の発行

卒業見込証明書は、4年次4月の履修登録の結果を踏まえて、卒業見込判定を行い、卒業要件を満たした学生にだけ5月中旬頃から証明書自動発行機で発行します。

8) 学士の学位

卒業要件を満たした者に対しては、学士（総合情報学）の学位を授与します。

9) 9月卒業

本学に4年以上在学したものの、所要の卒業単位を修得できずに留年した者が、前期科目の履修と単位の修得をもって卒業要件を満たした場合は、9月30日付けで卒業することができます。

10) 表彰

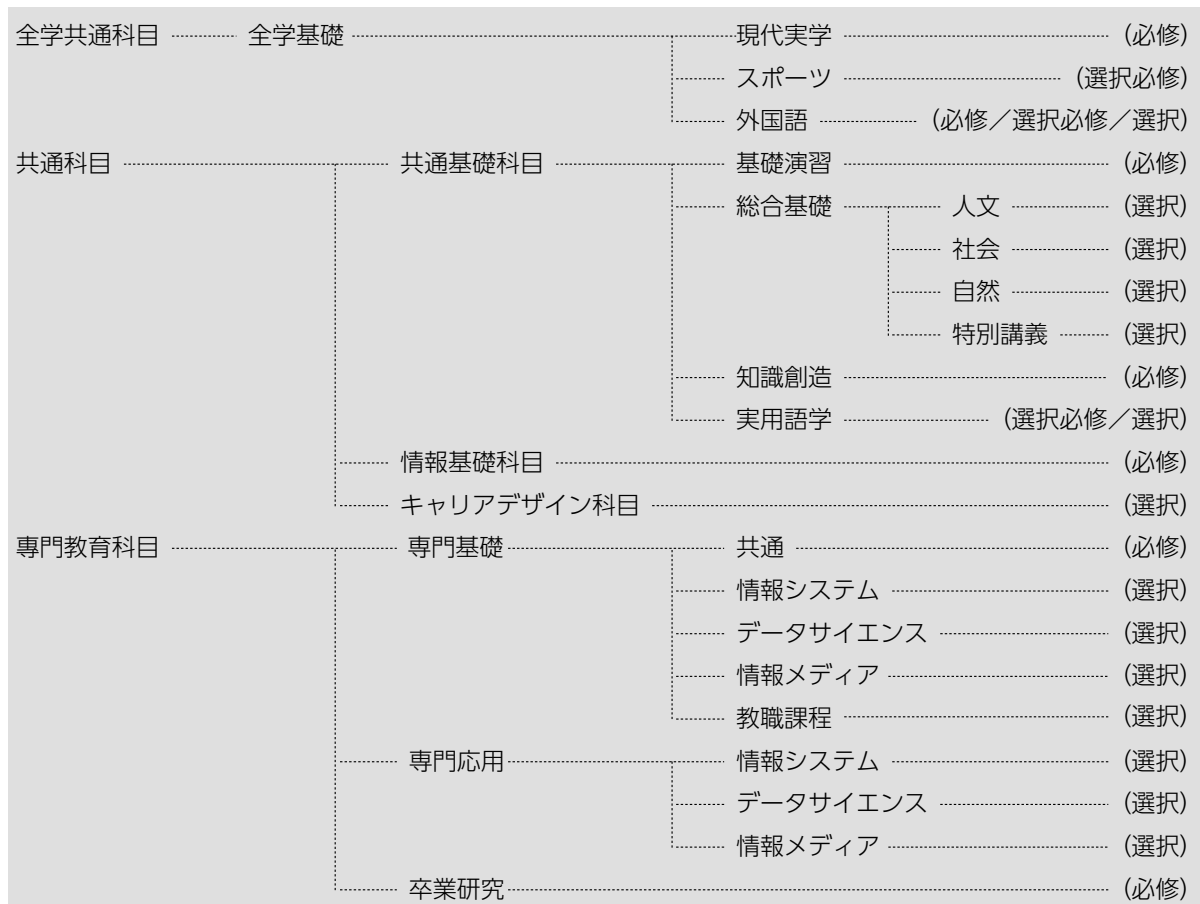
学則に基づき、在学中に極めて優秀な成績を修めた者には「学業成績優秀賞」を、極めて優秀な卒業論文（卒業制作を含む）を作成した者には「卒業論文優秀賞（学長賞・小田賞）」を授与して表彰します。また、スポーツ・文化の部門においても、特に抜群の成果を挙げた者には、「スポーツ・文化賞」を授与して表彰します。

表彰は、該当者の学位記授与式の際に行います。

3. 教育課程

1) 授業科目の分類

(1) 授業科目は、以下の科目群に分類されます。



※以上の他に、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目が開講されています。

(2) 授業科目は、卒業の要件として修得しなければならないか否かにより、次のように分類されます。

学系ごとに必選区分が異なるので、注意してください。

必修科目……………必ず修得しなければならない授業科目

選択必修科目…特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目

選択科目……………自由に選択して修得する授業科目

自由選択科目…学系ごとに定められた単位数を上限に卒業要件として認められる授業科目。

上限を超えて修得した授業科目の単位数は、卒業要件として認定されない。

2) 授業科目のナンバリング

授業科目の学修段階や順序を表し、教育課程の体系化を明示するために、各授業科目を以下の分類ごとにコード化しています。このことを「ナンバリング」といい、3) 授業科目表の科目No欄に番号(コード)を掲載しています。

番号(コード)の分類方法

11 100 - 1 01

① ② ③ ④

分類	コード名	コードの説明
①	学部学科コード (2桁)	UC: 大学共通 11: 総合情報学科
②	学問領域 (3桁)	100: 情報基礎 200: スポーツ 300: 外国語 400: 学習・コミュニケーション技術と実践 501: 人文科学 502: 社会科学 503: 自然科学 504: 特別講義 601: 情報科学 602: 知能情報・システム開発 603: 通信・ネットワーク 604: IoT/ゲーム 701: 数理学 702: 統計学 703: データサイエンス基礎 704: データサイエンス応用 801: メディアデザイン 802: メディア文化 803: 経営情報 901: 教育の理論と実践 902: 教科教育法
③	レベル (1桁)	1: 基礎科目・主に1年次に配当 2: 初級科目・主に2年次に配当 3: 中級科目・主に3年次に配当 4: 上級科目・主に3・4年次に配当
④	通し番号 (2桁)	①~③の分類ごとに01から連番

3) 授業科目表

全学共通科目

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職	数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
全学基礎	現代実学	情報リテラシー演習	UC100-101	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎	樋口 大輔 小早川 睦貴 川勝 英史 *木村 昌史 *小岩 義典 *須賀 孝之 *鈴木 敏彦 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一
		情報社会とAI	UC100-102	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎	井関 文一 早稻田 篤志
スポーツ	スポーツ演習a	UC200-101	1	F/L	1	○	○	○	○	○		石井 政弘
	スポーツ演習b	UC200-102	1	F/L	1	○	○	○	○	○		*原 朗
	スポーツ演習c	UC200-103	1	F/L	1	○	○	○	○	○		*齋藤 修司
	スポーツ演習d	UC200-104	1	F/L	1	○	○	○	○	○		
外国語	英語a	UC300-101	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎		高橋 洋平
	英語b	UC300-102	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎		*太田 美智子
	英語c	UC300-103	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎		*渡邊 啓之
	英語d	UC300-104	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎		*更科 加代子 *中尾 由美子 *松堂 啓子 *本間 章郎 *藪内 聡子 *矢野 剛 *水戸 俊介 *渡邊 正明 *林 晃喜
	中国語a	UC300-201	2	F	1	○	○	○				*飯塚 由樹
	中国語b	UC300-202	2	L	1	○	○	○				*飯塚 由樹
	ハングル・韓国語a	UC300-203	2	F	1	○	○	○				*崔 甲伊
	ハングル・韓国語b	UC300-204	2	L	1	○	○	○				*崔 甲伊
	日本語a(※)	UC300-105	1	F	1	◎	◎	◎				茂住 和世
	日本語b(※)	UC300-106	1	L	1	◎	◎	◎				*今川 和
	日本語c(※)	UC300-107	1	F	1	◎	◎	◎				
	日本語d(※)	UC300-108	1	L	1	◎	◎	◎				

【備考】

- 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- 担当者の前の*は非常勤講師を表す。
- DS応用基礎欄の記号は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に該当する必修科目(◎)、選択科目(○)を表します。当該科目を履修し修了要件を満たすことで、本教育プログラムの修了者として認定されます。
修了要件 必修科目：26単位、選択科目：10単位以上 合計：36単位以上

共通科目

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS応用基礎	担当者	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
基礎教育	基礎演習	I1400-101	1	F	1	◎	◎	◎				(専任教員)	
	総合基礎	人文	哲学概論	I1501-101	1	F	2	△	△	△			*小須田 健
			レポートと文章作法	I1501-102	1	F/L	2	△	△	△	◎	◎	田邊 昭雄 *白井 雅彦 *竹内 英世 *關 晶子
			歴史学	I1501-103	1	F	2	△	△	△			*坂口 太助
		文化人類学	I1501-104	1	L	2	△	△	△			*足立 加勇	
		心理学概論	I1501-105	1	L	2	△	△	△			小早川 睦貴	
		社会	法学概論	I1502-101	1	F	2	△	△	△			*花村 征志 *宮原 均
			日本国憲法	I1502-102	1	F	2	△	△	△	◎	◎	*宮原 均
	経済学概論		I1502-103	1	F	2	△	△	△			*伊藤 幸郎	
	情報法		I1502-104	1	L	2	△	△	△			*宮原 均	
	市民活動論		I1502-105	1	F	1	△	△	△			R5休講	
	人権・ジェンダー		I1502-106	1	F	1	△	△	△			*細田 満和子	
	社会学概論		I1502-107	1	L	2	△	△	△			圓岡 偉男	
	自然	基礎数学入門	I1503-101	1	F	2	△	△	△			鈴木 英男 蔵岡 誉司 釣井 達也 *福室 康介	
		基礎数学a	I1503-102	1	F	2	△	◎	△		◎	蔵岡 誉司 *篠原 徹 *平塚 聖敏 *福室 康介	
		基礎数学b	I1503-103	1	L	2	△	◎	△		◎	蔵岡 誉司 *篠原 徹 *福室 康介	
		生命倫理	I1503-104	1	L	2	△	△	△			*近藤 弘美	
		環境学	I1503-105	1	F	2	△	△	△			富田 瑞樹	
		数理科学	I1503-106	1	L	2	△	△	△			*木村 昌史	
		健康科学	I1503-107	1	F	2	△	△	△			石井 政弘 吉武 幸恵	
		特別講義	特別講義a	I1504-001			2	△	△	△		◎	花田 真樹
	特別講義b		I1504-002			2	△	△	△		◎	岸本 頼紀	
	特別講義c		I1504-003			2	△	△	△		◎	早稲田 篤志 鈴木 英男 肥後 利朗 *伊藤 幸郎 *西川 マキ *秋元 大輔	
	知識創造	知識創造の方法	I1400-106	1	F	2	◎	◎	◎			茂住 和世 中島 淳 *中尾 宏 西村 明 河野 義広 岸本 頼紀	

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
基礎教育	コンピュータ英語a	I1300-201	2	F	1	○	○	○				* 國府方 麗夏 * 渡邊 啓之 * 林 晃喜 * 更科 加代子 * 中尾 由美子 高橋 洋平
	コンピュータ英語b	I1300-202	2	L	1	○	○	○				高橋 洋平
	ビジネス英語a	I1300-203	2	F	1	○	○	○				* 水戸 俊介 * 太田 美智子 * 藪内 聡子
	ビジネス英語b	I1300-204	2	L	1	○	○	○				
情報基礎	経営と情報	I1100-101	1	L	2	◎	◎	◎				池田 幸代 樋口 大輔 * 中尾 宏
	コンピュータ概論	I1100-102	1	L	2	◎	◎	◎	◎	◎		早稲田 篤志 釣井 達也 * 伊藤 幸郎 * 小出 英範
	情報分析基礎	I1100-103	1	L	2	◎	◎	◎		◎		堂下 浩 吉澤 康介 小早川 睦貴 佐野 夏樹 * 吉富 公彦 * 木村 昌史 * 鈴木 敏彦 * 伊藤 幸郎
	統計学	I1100-104	1	F	2	◎	◎	◎		◎		佐野 夏樹 川勝 英史 * 伊藤 幸郎 * 鈴木 俊彦 * 吉富 公彦
	プログラミング入門	I1100-105	1	F	2	◎	◎	◎			◎	井関 文一 マッキンケスジェームズ 朴 鍾杰 早稲田 篤志 * 海老原 亨 * 平塚 聖敏
キャリアデザイン	キャリアデザインa	I1400-201	2	L	2	△	△	△				小早川 睦貴 井関 文一
	キャリアデザインb	I1400-301	3	F	2	△	△	△				茨木 正治 高橋 洋平
	インターンシップ	I1400-302	3		2	△	△	△				河野 義広 樋口 大輔 マッキンケスジェームズ
	日本の社会と生活文化(※)	I1400-202	2	F	2	△	△	△				茂住 和世
	ビジネスコミュニケーション(※)	I1400-203	2	L	2	△	△	△				茂住 和世
	リクルートコミュニケーション(※)	I1400-303	3	F	2	△	△	△				茂住 和世

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (2) 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- (3) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- (4) 担当者の前の*は非常勤講師を表す。
- (5) DS応用基礎欄の記号は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に該当する必修科目（◎）、選択科目（○）を表します。当該科目を履修し修了要件を満たすことで、本教育プログラムの修了者として認定されます。
修了要件 必修科目：26単位、選択科目：10単位以上 合計：36単位以上



専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS応用基礎	担当者	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
専門基礎	共通	総合情報学概論	1	F	2	◎	◎	◎				専任教員	
		学系基礎演習a	1	L	1	◎	◎	◎				(各学系担当者)	
		学系基礎演習b	1	F	1	◎	◎	◎				(各学系担当者)	
	情報システム	情報システム学概論	11601-101	1	L	2	◎	-	-				鈴木 英男
		IT基礎技術論	11601-102	1	L	2	◎	△					花田 真樹 早稲田 篤志 *伊藤 幸郎 *平塚 聖敏 *小出 英範
		プログラミング基礎	11601-103	1	L	2	◎	◎		◎			マッキンケスジェームズ
		プログラミング基礎演習	11601-104	1	L	1	◎	◎		◎			岸本 頼紀 斎藤 卓也 早稲田 篤志 *北風 和久 *海老原 亨 *平塚 聖敏 田中 啓介
		情報ネットワーク概論	11603-101	1	L	2	◎	-	-	◎		△	鈴木 英男 花田 真樹
		アルゴリズムとデータ構造a	11601-201	2	F	2	○	△	△		△	◎	永井 保夫 大見 嘉弘
		アルゴリズムとデータ構造b	11601-202	2	L	2	○	△	△		△	△	永井 保夫 大見 嘉弘
		システム設計論a	11602-201	2	F	2	○			◎			宇田川 佳久 岸本 頼紀
		システム設計論b	11602-202	2	L	2	○			◎			宇田川 佳久 岸本 頼紀
		プログラミング応用a	11601-203	2	F	2	◎			△			宇田川 佳久
		プログラミング応用a演習	11601-204	2	F	1	◎			△			大城 正典 斎藤 卓也 村上 洋一 *北風 和久 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一
		プログラミング応用b	11601-205	2	L	2	◎			△			宇田川 佳久
		プログラミング応用b演習	11601-206	2	L	1	◎			△			大城 正典 斎藤 卓也 村上 洋一 *北風 和久 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一
		情報通信システム論a	11603-201	2	F	2	○			◎			井関 文一
		情報通信システム論b	11603-202	2	L	2	○			◎			井関 文一

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職	DS 応用基礎	担当者		
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
専門基礎	情報システム	Unix論a	11601-207	2	F	2	○	△				森口 一郎 花田 真樹 村上 洋一	
	Unix論b	11601-208	2	L	2	○	△					森口 一郎 花田 真樹 村上 洋一	
	情報システムアーキテクチャ	11602-203	2	F	2	△	△					岸本 頼紀 花田 真樹	
	データベース論	11602-204	2	L	2	△	-	-	◎		△	藤原 丈史 宇田川 佳久 *木村 昌史	
	人工知能a	11602-205	2	L	2	○	△	△			◎	永井 保夫	
	ドローン工学	11604-201	2	F	2	△						鈴木 英男	
	データサイエンス	情報数学a	11701-101	1	L	2	△	◎	△		*	◎	*篠原 徹 *渡辺 俊一
	情報数学b	11701-201	2	F	2	△	◎	△			*	◎	*篠原 徹 *渡辺 俊一
	離散数学a	11701-102	1	L	2		○				*		*篠原 徹 釣井 達也
	離散数学b	11701-202	2	F	2		○				*		*篠原 徹 釣井 達也
	推測統計学	11702-101	1	L	2	△	○	△		◎	△		佐野 夏樹 *鈴木 聡
	情報分析応用	11702-201	2	F	2	△	○	○			△		川勝 英史 藤原 丈史 *平塚 聖敏
	データサイエンス概論	11703-101	1	L	2	-	◎	-		◎			藤原 丈史
	データ処理論	11703-201	2	L	2		△	△		△			川勝 英史 吉澤 康介
	代数学a	11701-203	2	F	2		○			◎			蔵岡 誉司
	代数学b	11701-204	2	L	2		○			◎			蔵岡 誉司
	幾何学a	11701-205	2	F	2		○			◎			*福室 康介
	幾何学b	11701-206	2	L	2		○			◎			*福室 康介
	解析学a	11701-207	2	F	2		○			◎			釣井 達也
	解析学b	11701-208	2	L	2		○			◎			釣井 達也
	確率論	11701-103	1	L	2		○			◎			*渡辺 俊一
	ネットワークとセキュリティ	11703-102	1	L	2		-	△	△			△	早稲田 篤志
	データベース管理システム	11703-202	2	L	2		-	△	△			△	佐野 夏樹
	多変量解析	11702-202	2	L	2	△	△	△		△	△		佐野 夏樹
	臨床心理学概論	11704-201	2	F	2		○	△					山口 豊
	認知心理学	11704-202	2	F	2		△	△					小早川 睦貴
	心理学研究法	11704-203	2	L	2		△	△					小早川 睦貴
心理アセスメント論	11704-204	2	F	2		△	△					山口 豊	

【備考】

- 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- 担当者の前の*は非常勤講師を表す。
- DS応用基礎欄の記号は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に該当する必修科目(◎)、選択科目(○)を表します。当該科目を履修し修了要件を満たすことで、本教育プログラムの修了者として認定されます。
修了要件 必修科目：26単位、選択科目：10単位以上 合計：36単位以上

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	人間関係論	I1704-205	2	L	2	△	△	△				山口 豊
	心理データ解析	I1704-206	2	F	2	△	○	△				山口 豊 小早川 睦貴
	学校心理学	I1704-207	2	L	2		△	△				原田 恵理子
	分子生物情報学	I1704-101	1	L	2		○					村上 洋一
	計算生物学概論	I1704-208	2	F	2		○					未定
	生命情報学	I1704-209	2	L	2		△					村上 洋一
	環境情報論	I1704-210	2	L	2		△					富田 瑞樹
	地理情報システムa	I1704-211	2	F	2		○					富田 瑞樹
	地理情報システムb	I1704-212	2	L	2		△					富田 瑞樹
	画像情報論	I1704-213	2	L	2		○	△				朴 鍾杰
情報メディア	情報メディア概論	I1802-101	1	L	2	-	-	◎				堂下 浩
	映像メディア表現	I1801-101	1	L	2			○				植田 寛
	映像表現基礎 I	I1801-102	1	L	2			○				藤田 修平
	映像表現基礎 II	I1801-201	2	F	2			○				藤田 修平
	ドキュメンタリー制作入門	I1801-202	2	F	2			○				藤田 修平
	音響メディア論	I1801-103	1	L	2			○				西村 明
	サウンドデザイン	I1801-203	2	L	2			△				西村 明
	音響技術 I	I1801-204	2	F	2			△				西村 明
	コンピュータグラフィックス基礎	I1801-205	2	L	2	△		△	◎			松下 孝太郎 安岡 広志
	コンピュータグラフィックス論	I1801-104	1	L	2	△		○				中島 淳
	コンピュータグラフィックス演習	I1801-301	3	L	1	△		△	◎			松下 孝太郎
	Webデザイン演習	I1801-206	2	F	1	△		△	△			安岡 広志
	ゲーム制作基礎	I1801-207	2	F	2	△		△				中島 淳
	情報メディア論	I1801-105	1	L	2	△		○	◎			玉川 博章
	視覚デザイン論	I1801-208	2	L	2			△				中島 淳
	知覚心理学	I1801-209	2	L	2			△				西村 明
	文化社会論	I1802-201	2	L	2			△				未定
	コミュニケーション論	I1802-202	2	F	2			△				小須田 健
	マスメディア論	I1802-203	2	F	2			△				未定
	社会心理学	I1802-204	2	L	2			△				未定
	海外事情	I1802-205	2	L	2			△				高橋 洋平
	社会調査法	I1802-206	2	F	2	△	○	△				圓岡 偉男
	経営学概論	I1803-101	1	L	2			○				樋口 大輔
経営組織論	I1803-201	2	F	2			○				池田 幸代	
マーケティング論	I1803-202	2	L	2			△				樋口 大輔	
国際経済と金融概論	I1803-203	2	F	2			○				堂下 浩	
教職課程	教育原理	I1901-101	1	L	2	◇	◇	-	◎	◎		*森山 賢一
	教職概論	I1901-102	1	F	2	◇	◇	-	◎	◎		田邊 昭雄
	教育制度論	I1901-201	2	F	2	◇	◇	-	◎	◎		*田子 健
	教育心理学	I1901-202	2	F	2	◇	◇	-	◎	◎		原田 恵理子
	特別支援教育	I1901-203	2	L	2	◇	◇	-	◎	◎		*角田 哲哉
	教育課程編成論	I1901-204	2	L	2	◇	◇	-	◎	◎		*森山 賢一
	道徳教育の理論と方法	I1901-205	2	L	2	◇	◇	-	◎	◎		原田 恵理子 *江島 顕一

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	教職課程	総合的な学習の時間の理論と方法	I1901-301	3	F	1	◇	◇	-	◎	◎	*齋藤 諭
		特別活動の理論と方法	I1901-302	3	L	1	◇	◇	-	◎	◎	*富樫 春人
		教育方法論	I1901-206	2	L	2	◇	◇	-	◎	◎	*森山 賢一
		ICTを活用した教育の理論と方法	I1901-207	2	L	2	◇	◇	-	◎	◎	*秋元 大輔
		生徒指導・進路指導論	I1901-303	3	F	2	◇	◇	-	◎	◎	田邊 昭雄
		教育相談論	I1901-304	3	L	2	◇	◇	-	◎	◎	原田 恵理子
		教育実習Ⅰ	I1901-305	3・4		3	◇	◇	-	◎	◎	原田 恵理子 田邊 昭雄 肥後 利朗
		教育実習Ⅱ	I1901-401	3・4		2	-	◇	-	◎		原田 恵理子 田邊 昭雄 肥後 利朗
		教職実践演習(中・高)	I1901-402	4	L	2	◇	◇	-	◎	◎	原田 恵理子 田邊 昭雄 肥後 利朗
		情報と職業	I1901-306	3	F	2	◇	-	-	◎		原田 恵理子 田邊 昭雄
		情報科教育法a	I1902-301	3	F	2	◇	-	-	◎		*鈴木 二正
		情報科教育法b	I1902-302	3	L	2	◇	-	-	◎		*大橋 真也
		数学科教育法a	I1902-303	3	F	2	-	◇	-	◎		*大串 一彦
		数学科教育法b	I1902-304	3	L	2	-	◇	-	◎		*大串 一彦
		数学科教育法c	I1902-305	3	F	2	-	◇	-	◎		肥後 利朗
		数学科教育法d	I1902-306	3	L	2	-	◇	-	◎		肥後 利朗
	学校インターンシップ	I1901-208	2		2	◇	◇	-	◎	◎	田邊 昭雄 原田 恵理子 肥後 利朗	
専門応用	情報システム	Webシステムプログラミング	I1601-301	3	F	2	◎			△		永井 保夫
		Webシステムプログラミング演習	I1601-302	3	F	1	◎			△		大見 嘉弘 河野 義広
		システムプログラミング	I1602-301	3	L	2	○			△		永井 保夫
		システムプログラミング演習	I1602-302	3	L	1	○			△		河野 義広
		ネットワークセキュリティ論	I1603-301	3	L	2	△			△		井関 文一
		ソフトウェア工学a	I1604-301	3	F	2	○			*		岸本 頼紀
		ソフトウェア工学b	I1604-302	3	L	2	○			*		岸本 頼紀
		ネットワークプログラミングa	I1603-302	3	F	2	○			*		井関 文一
		ネットワークプログラミングa演習	I1603-303	3	F	1	○			*		森口 一郎
		ネットワークプログラミングb	I1603-304	3	L	2	○			*		井関 文一
		ネットワークプログラミングb演習	I1603-305	3	L	1	○			*		森口 一郎
		サイバーフィジカルシステムa	I1604-303	3	F	2	○					河野 義広 大見 嘉弘
		サイバーフィジカルシステムb	I1604-304	3	L	2	○					河野 義広 大見 嘉弘
		言語処理論	I1604-305	3	L	2	△			*		大城 正典

【備考】

- 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- 担当者の前の*は非常勤講師を表す。
- DS応用基礎欄の記号は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)に該当する必修科目(◎)、選択科目(○)を表します。当該科目を履修し修了要件を満たすことで、本教育プログラムの修了者として認定されます。
修了要件 必修科目：26単位、選択科目：10単位以上 合計：36単位以上

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門応用	情報システム	人工知能b	11602-303	3	F	2	○	△	△		◎	マッキンケスジ エムス
		人工知能c	11602-304	3	L	2	△	△	△	△	△	マッキンケスジ エムス
		ゲームプログラミングa	11604-306	3	F	2	△		△	*		大城 正典
		ゲームプログラミングb	11604-307	3	L	2	△		△	*		大城 正典
		暗号理論a	11603-203	2	L	2	○			△		鈴木 英男
		暗号理論b	11603-306	3	F	2	○					早稲田 篤志
		情報通信ネットワーク論	11603-307	3	F	2	△			*		花田 真樹
データサイエンス		データマイニング	11703-301	3	L	2	△	△			◎	佐野 夏樹
		応用統計学	11702-301	3	F	2	△	△		△		*内田 治
		データ解析システム	11703-302	3	F	2	△	△		△	◎	藤原 丈史
		データ可視化法	11703-303	3	L	2	△	△		△	△	藤原 丈史
		数値計算プログラミング	11703-304	3	F	2		△		△		川勝 英史
		最適化理論	11703-305	3	L	2		△		△		川勝 英史
		計算機数論	11703-203	2	F	2	△	△		*		鈴木 英男
		整数論	11701-209	2	L	2		△		△		蔵岡 誉司
		微分方程式論	11701-301	3	F	2		△		*		*渡辺 俊一
		符号理論	11701-302	3	F	2	△	△		*		鈴木 英男
		心理学実験 I	11704-301	3	F	1		△				小早川 睦貴
		心理学実験 II	11704-302	3	L	1		△				小早川 睦貴
		心理アセスメント演習	11704-303	3	L	1		△				山口 豊
		メンタルヘルスケア演習	11704-304	3	L	1		△				山口 豊
		メンタルヘルスケア論	11704-305	3	F	2		△	△			山口 豊
		生命情報学演習	11704-306	3	F	1		△				田中 啓介
		生命情報解析学	11704-307	3	F	2		△				田中 啓介
		生命情報解析学演習	11704-308	3	L	1		△				田中 啓介
		環境解析論	11704-309	3	F	2		△				富田 瑞樹
		環境調査演習	11704-310	3	L	1		△				富田 瑞樹 朴 鍾杰
		環境リモートセンシング	11704-311	3	L	2		△				朴 鍾杰
		物体・画像認識演習	11704-312	3	F	1		△				朴 鍾杰
		パターン認識と機械学習	11704-313	3	F	2	△	△	△		△	朴 鍾杰
情報メディア		映像制作論a	11801-210	2	L	2			△			藤田 修平
		映像制作論b	11801-302	3	F	2			△			植田 寛
		身体表現	11801-303	3	F	2			△			見上 裕昭
		スクリーンライティング	11801-211	2	F	2			△			伊藤 敏朗
		感性音響学	11801-304	3	F	2			△			西村 明
		音響技術II	11801-212	2	L	2			△			未定
		出版メディア論	11802-301	3	F	2			△			中島 淳
		現代社会学	11802-302	3	L	2			△			圓岡 偉男
		情報政治学	11802-303	3	F	2			△			未定
		ジャーナリズム論	11802-304	3	L	2			△			未定
		異文化コミュニケーション論	11802-305	3	L	2			△			茂住 和世
		マーケティング・コミュニケーション論	11803-301	3	F	2			△			池田 幸代
		金融論	11803-302	3	F	2			△			堂下 浩
	経営戦略論	11803-303	3	F	2			△			樋口 大輔	

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	担当者
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門応用	情報メディア	経営ケーススタディ	11803-304	3	F	2			△			堂下 浩
		中小企業論	11803-305	3	L	2			△			堂下 浩
		マーケティング戦略論	11803-306	3	L	2			△			樋口 大輔
		ブランドマネジメント論	11803-307	3	L	2			△			池田 幸代
卒業研究	専門演習	11400-207	2	L	1	◎	◎	◎				(専任教員)
	卒業研究Ⅰ	11400-304	3		4	◎	◎	◎				(専任教員)
	卒業研究Ⅱ	11400-401	4		6	◎	◎	◎				(専任教員)

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (2) 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- (3) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- (4) 担当者の前の*は非常勤講師を表す。
- (5) DS応用基礎欄の記号は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)に該当する必修科目(◎)、選択科目(○)を表します。当該科目を履修し修了要件を満たすことで、本教育プログラムの修了者として認定されます。
修了要件 必修科目：26単位、選択科目：10単位以上 合計：36単位以上

○セット履修科目

科目区分	科目名	学年	学期
専門基礎 (情報システム)	プログラミング基礎	1	L
専門基礎 (情報システム)	プログラミング基礎演習	1	L
専門基礎 (情報システム)	プログラミング応用a	2	F
専門基礎 (情報システム)	プログラミング応用a演習	2	F
専門基礎 (情報システム)	プログラミング応用b	2	L
専門基礎 (情報システム)	プログラミング応用b演習	2	L
専門応用 (情報システム)	Webシステムプログラミング	3	F
専門応用 (情報システム)	Webシステムプログラミング演習	3	F
専門応用 (情報システム)	システムプログラミング	3	L
専門応用 (情報システム)	システムプログラミング演習	3	L
専門応用 (情報システム)	ネットワークプログラミングa	3	F
専門応用 (情報システム)	ネットワークプログラミングa演習	3	F
専門応用 (情報システム)	ネットワークプログラミングb	3	L
専門応用 (情報システム)	ネットワークプログラミングb演習	3	L

○ステップ履修科目

科目区分	科目名	学年	学期
専門基礎 (情報メディア)	映像表現基礎Ⅰ	1	L
専門基礎 (情報メディア)	映像表現基礎Ⅱ	2	F
専門基礎 (情報メディア)	音響技術Ⅰ	2	F
専門応用 (情報メディア)	音響技術Ⅱ	2	L
専門応用 (データサイエンス)	心理学実験Ⅰ	3	F
専門応用 (データサイエンス)	心理学実験Ⅱ	3	L
卒業研究	卒業研究Ⅰ	3	
卒業研究	卒業研究Ⅱ	4	

○看護学部看護学科の他学科履修

総合情報学部の学生が看護学部の科目を履修したい場合は履修登録期間内に学生教務課に申し出ること。

対象となる授業科目は以下の科目区分内の科目です。

- ・専門基礎科目-健康支援と社会生活の仕組み
- ・統合領域(卒業論文ゼミナール、統合実習を除く)

※科目の詳細はP133-134に記載の看護学部の授業科目表を確認してください。

4) 授業概要

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教 職 情 報	数 学	D S 応用基礎	授 業 概 要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
全学基礎	情報リテラシー演習	UC100-101	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎		大学生として、講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータ利用技法およびデータ分析の基礎を学ぶ。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指す。
	情報社会とAI	UC100-102	1	F	2	◎	◎	◎	◎		◎	今日の情報社会の基礎的教養である、情報モラル、データ処理、AI等の基礎について講義を行う。また、情報セキュリティやプログラミングについての基礎知識を学習する。この講義を通して、情報社会における基礎的教養やモラルやセキュリティの基礎を提供する。
スポーツ	スポーツ演習a	UC200-101	1	F/L	1	○	○	○	○	○		健康管理と生涯スポーツ学習を目的とし、屋内外のスポーツ種目を実施する。いずれの時間で受講してもかまわないが、スポーツ種目により、開講時間が異なる。ボールスキル(バスケットボール、フットサル)、ラケットスキル(テニス、バドミントン)、トレーニング、さらに冬季集中スキー or スノーボードなどある。1単位選択必修、a～dまで最大4単位受講可能。
	スポーツ演習b	UC200-102	1	F/L	1	○	○	○	○	○		
	スポーツ演習c	UC200-103	1	F/L	1	○	○	○	○	○		
	スポーツ演習d	UC200-104	1	F/L	1	○	○	○	○	○		
外国語	英語a	UC300-101	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎		中学・高校で培ってきた英語力をさらに向上させることにより、実践的な運用力ならびに専門的なトピックを英語で理解・表現するための応用力習得の基礎形成を共通目標とする。プレイスメントテストの結果に基づきクラス分けを行い、初級クラスでは基礎的な語彙・文法事項を集中的に学び直し、中級・上級クラスでは社会問題や先端技術に関する英文文献を取り上げながら、語彙・文法力と4技能の向上をバランス良く目指していく。
	英語b	UC300-102	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎		中学・高校で培ってきた英語力をさらに向上させることにより、実践的な運用力ならびに専門的なトピックを英語で理解・表現するための応用力習得の基礎形成を共通目標とする。プレイスメントテストの結果に基づきクラス分けを行い、初級クラスでは基礎的な語彙・文法事項を集中的に学び直し、中級・上級クラスでは社会問題や先端技術に関する英文文献を取り上げながら、語彙・文法力と4技能の向上をバランス良く目指していく。
	英語c	UC300-103	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎		グローバル化が進み、近年 TOEIC テストは企業の人事採用や昇進・昇格の要件として活用されており、年々需要が高まってきている。この授業では、TOEIC あるいは TOEIC BRIDGE に焦点を当て、実社会でも役立つ基礎的な英語力と知識を身につけていく。通訳訓練法のシャドーイングやクイックレスポンス、スラッシュリーディングなども取り入れ、語彙力向上、4技能のバランスの取れた向上を目指し、双方向の授業をしていく。
	英語d	UC300-104	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎		TOEIC の入門編といえる TOEIC BRIDGE の形式、とくにリスニングとリーディングの形式に慣れ、実際の公開テストにおいて一定以上の点数がとれることを目標とする。授業では英語の4技能をバランスよく身につけるよう指導していく。公開テストで大学生としての平均点をクリアするには授業だけでなく、みずから自習することも大事になってくる。自発的に自習する習慣を身につけてほしい。
	中国語a	UC300-201	2	F	1	○	○	○				中国語を初めて学ぶ人を対象に、発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文を習得させ、置き換え練習及び会話への応用を中心に基本的な会話力を養成する。
	中国語b	UC300-202	2	L	1	○	○	○				「中国語 a」で習得した発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文の理解をより定着させるため、置き換え練習及び応用会話を中心に、中国語による基本的なコミュニケーション能力を養成する。
	ハングル・韓国語a	UC300-203	2	F	1	○	○	○				韓国語は日本に一番近い隣国で話されている言語である。日本語に比べ、母音子音ともに数が多いため、発音や文字(ハングル)を覚えるのに、ある程度時間がかかるし、努力も必要になる。ただ、一度文字と発音をマスターしてしまうと、語順は日本語と同じなので、割合速く進むことができるはずで、自己紹介をはじめ、身の回りの事柄を簡単に表現する練習をしていきたい。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	教職	D S 応用基礎	授 業 概 要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア							
全学基礎	外国語	ハングル・韓国語b	UC300-204	2	L	1	○	○	○					「ハングル・韓国語 a」で習得したことを土台にして、読む、聞く、話す、書く力を伸ばしていく。語彙を増やし、動詞や形容詞の活用を習得することによって、口頭であるいは文章で、自分の言いたいことを表現できるようにしていきたい。また、韓国語を学ぶことを通じて、韓国の人々の心に少しでもふれていけるように心がけたい。	
		日本語a(※)	UC300-105	1	F	1	◎	◎	◎					語彙力増強、及び、日本語を用いた資料の作成や論述文の書き方などを身に付けることを目指す。そのための基礎的なスキルからその応用まで、既習の日本語の知識を踏まえながら、幅広く学び、大学生として必要な日本語の表現力・発信力を高めていく。	
		日本語b(※)	UC300-106	1	L	1	◎	◎	◎					文章読解や要約を通して専門的な文章が読めるようになることや正確に書く力をつけるための練習を積む。また、文章のテーマを発展させた内容についての理解を話し合いを通じて日本社会や文化についての理解・興味関心を深めていく。	
		日本語c(※)	UC300-107	1	F	1	◎	◎	◎					日本語を用いた資料の作成や状況に応じて話すことを通じ、プレゼンテーションにおける構成や、会話のストラテジーをより意識した表現力・発信力を身につけることを目指す。また、語彙力を高めるとともに、間違いやすい文法・表現に留意して、正確な運用ができるようにする。	
		日本語d(※)	UC300-108	1	L	1	◎	◎	◎					文章読解や要約を通して、文と文の関係、段落間の関係などレポートを書くために必要な基礎知識を学ぶ。また、伝える相手にとってわかりやすい表現、正確な文法、根拠を伴う意見をどう発信するかなどについて意識させ、日本語レベルの向上につなげる。	
基礎教育	基礎演習	基礎演習	II400-101	1	F	1	◎	◎	◎					本演習科目では、初年次教育を実施する科目として位置付けており、少人数のクラスにおいて、履修計画の確認・指導をはじめ、大学の施設（図書館、情報サービスセンター等）を理解し、今後の学修におけるそれらの活用方法を学ぶ。さらに、レポートの書き方などを含む、コミュニケーション能力（読む、書く、聞く、話す、問う）の向上を図るための基礎を学ぶ。	
	総合基礎	人文	哲学概論	II501-101	1	F	2	△	△	△					哲学的世界概念の変遷というテーマで、古代から現代にいたる哲学的思索の変遷をたどり、哲学的思索の固有性がどのようなところにあるのか、その一端を理解してもらおう。
			レポートと文章作法	II501-102	1	F/L	2	△	△	△	◎	◎			大学生としてまず必要になるレポートや論文の作成に必要な事柄をワークブック形式の教科書を通じて学習する。同時に、そうした学習を通じて将来的にあらゆる場面で必要となる的確な文章力、表現力の基礎を養う。ここで使用する教科書は、4年次における卒業論文執筆の際に役立つものとして選定している。
			歴史学	II501-103	1	F	2	△	△	△					本講義は、歴史の中でも日本の近代史（明治～大正～昭和 20 年）を中心とした講義である。歴史（近代史）上の出来事について単に暗記するのではなく、特に日本がかかわった様々な戦争や軍隊に関する問題に注目し、ある出来事が「なぜ起こったのか＝過程・原因」、「その後どのようなようになったのか＝結果・影響」を「考える」ことを中心に進めていく。
			文化人類学	II501-104	1	L	2	△	△	△					本科目は、自分とポピュラーカルチャーとの関係を問い直すことを目標とするものである。主に論点としてとりあげるのは、人々が社会や共同体の在り方をどのように認識しており、マンガ・アニメ作品は、その認識を作品にどう反映してきたか、という問題である。その問いを通して自分が幼い頃からごく自然に接してきたものとの関係を考え直すことは、現在自分が身を置いている文化というものは何か、ということに対する興味・関心を必然的に生み出すものである。そして、その興味・関心は、文化の中で人間の行動とはどういうものなのか、そして、それはどうすれば捉えうるものなのか、というさらなる問題意識を生み出すことであろう。

【備考】

- 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		DS 応用基礎	授業概要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	数			
基礎教育 総合基礎	人文	心理学概論	I1501-105	1	L	2	△	△	△			人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。	
	社会	法学概論	I1502-101	1	F	2	△	△	△				法は、ビジネス社会、商品交換社会、情報化社会などと称される現代社会において重要な社会規範の一つである。法が社会において担っている役割を学び、自由・平等な社会における法規範の効力・限界、及びあるべき姿を「私法」領域を中心に判例など実際の事件も利用して考察する。
		日本国憲法	I1502-102	1	F	2	△	△	△	◎	◎		日本で最重要な法である日本国憲法を、日本で生活する我々が知らないわけにはいかない。日本国憲法は、その成立から60年が経ち、最近憲法改正の議論も盛んである。本講義では、この憲法にどのようなことが書かれていて、どのようなことが問題となっているかを学習する。
		経済学概論	I1502-103	1	F	2	△	△	△				講義では、経済理論の初学者向けにアレンジした教養の経済学を紹介する。古典派経済学のアダムスミスやリカードなどの経済学から今日の経済学に至るまでの理論的な発展の流れを理解する。特に、「新古典派経済学」や「マルクス経済学」、「ケインズ経済学」など主要な理論を紹介していく。なお、本講義では折に触れて今日的な課題である「財政・金融危機」など具体的な問題も取り上げる。
		情報法	I1502-104	1	L	2	△	△	△	◎			情報化が進む今日の社会の中で、「情報」が法律上どのように法的位置にあるか、また、どのような法律上の問題があるのかを考えます。技術情報(特許やトレードシークレット)の保護やその取得、利用を中心とした問題と、インターネット上で取引されるコンテンツやコンピューター・ソフトウェアの保護、インターネット利用にかかわる法律問題を中心に、新しい事例を紹介しながら講義します。
		市民活動論	I1502-105	1	F	1	△	△	△				本科目では地域社会におけるさまざまな市民活動・住民活動・当事者活動・ボランティア活動の実際を紹介し、情報発信としてのこれらの役割や、社会の中で果たす役割について考える。その中で、実践的側面から具体的な参加の手法、プログラム開発の手法などを学び、市民としての学生がボランティア論の構築に向けて歩みだすことができる体験学習を促す。ゲストスピーカーからの、エンパワメントによる市民活動、情報活用発信としての市民活動、地域活性化と市民活動など、地域社会の変化について考える。
		人権・ジェンダー	I1502-106	1	F	1	△	△	△				現代社会に残る様々な差別を通して、保健医療福祉の専門職として理解しておくべき人権やジェンダーに関わるテーマについて考えていく。障害者の人権に関する歴史的な背景、障害当事者の活動、障害者差別撤廃・解消活動の推進と現状と今後の課題について学ぶ。
		社会学概論	I1502-107	1	L	2	△	△	△				本講義は、社会学の基礎概念、および、社会学史の解説をとおして社会理解の基礎付けを行う。同時に事例として現代社会の社会問題を取り上げ、複合的な社会理解を促したい。
		自然	基礎数学入門	I1503-101	1	F	2	△	△	△			
	基礎数学a		I1503-102	1	F	2	△	◎	△			◎	様々な初等関数(多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数)の基本的特徴を学習する。また、本講義で紹介する内容は後期開講予定の基礎数学bで取り扱う微分・積分を理解するための必須項目である。授業は黒板での演習を行いながら、計算問題を中心に講義を進める。
基礎数学b	I1503-103		1	L	2	△	◎	△			◎	前期開講予定の基礎数学aでの学習内容を踏まえて、微分積分学の基礎を学習する。関数の極限、微分の計算とその応用、不定積分・定積分の計算とその応用までを、演習を行いながら解法を中心に講義を進める。	

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	D S 応用基礎	授 業 概 要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
基礎教育	総合基礎 自然	生命倫理	I503-104	1	L	2	△	△	△			生命科学の進展に伴い、誕生する前から死に到るまで、私たちのいのちへさまざまな先進技術の介入が行われる時代になった。クローン技術や究極の個人情報であるゲノム配列情報等が容易に入手できる時代に、個々の事象のはらむ倫理的問題に対する洞察や幅広い検討が追いついていないのが実情である。本講義では、始めに先端生命科学のトピックスを分かり易く紹介し、そこから生じる命の尊厳を脅かす危険について考える。健康、医療を生命倫理の立場から捉え、一般人をも巻き込む生命科学の技術に対する深い洞察力と豊かな人間観を養うことを目指す。
		環境学	I503-105	1	F	2	△	△	△			生態系とは何か、生命が地球環境の形成にどのように関わってきたかを生命と環境の相互作用から理解し、地球上における人間と環境との関わりについて概説する。
		数理科学	I503-106	1	F	2	△	△	△			多くの自然現象から生命現象、社会現象に至るまで、全く別の現象に見えても数理的な観点を通してみると、類似性や普遍性が見いだされる現象は多い。本講義では自然科学全般に横たわった現象を例に挙げながら数理モデル化し、そこから導き出される興味深い結果について紹介していく。
		健康科学	I503-107	1	F	2	△	△	△			各分野専門家によるオムニバス形式で、スポーツ、健康、保健、医療、さらにはコンディショニング等にかかわる問題をテーマにして知識・理解を深める。また、自分自身がスポーツを行う場合や指導する場合は「生かせる知識」であり、日本スポーツ協会の指導員資格にも関連し、医学的知識、栄養等のテーマも講義する。
	特別講義	特別講義a	I504-001			2	△	△	△		◎	幅広い興味関心のもとで学生として十分な教養を身につけることを目標とする総合基礎科目をより充実させるという観点から、本学の学びとは比較的縁は薄いがおもしろい領域、多数の領域にまたがる複合的な研究、あるいは必ずしも「学」として熟していないが注目を集めている分野などを随時、取り上げていく。なお、学外資金による寄付講座的なものについても、ここで開講する。
		特別講義b	I504-002			2	△	△	△		◎	
		特別講義c	I504-003			2	△	△	△		◎	
	知識創造	知識創造の方法	I503-108	1	F	2	◎	◎	◎			少人数のチームの中で能動的に学び、得た知識を応用・活用し、新たな知を創造する経験を通じて、議論する力と問題解決する力を育む。協働学習をベースに、身近なテーマや企業の経営課題、社会課題など様々な課題に主体的に取り組んで学び合い、その成果を発表し合うこと、またそれらの過程を振り返ることによって、実践的な学びを深める。
	実用語学	コンピュータ英語a	I1300-201	2	F	1	○	○	○			コンピュータの基本操作や関連用語について英文で取り上げた専用テキストを用いて、語彙・文法だけでなく専門的なトピックを英語で理解・表現するための力を養成することを目的とする。
		コンピュータ英語b	I1300-202	2	L	1	○	○	○			情報学の関連領域における諸概念・研究動向を題材とした英文を読解しながら、これまで培ってきた英語力を実践的かつ学際的な需要に対応できるレベルまで発展させることを目的とする。
ビジネス英語a		I1300-203	2	F	1	○	○	○			特定の業界・職種に限定することなく広範なビジネス場面を想定して、自己紹介、英文メール作成、アポイントメントの取得、ビジネスディスカッションなどで求められる実践的なビジネス英語を基礎から学ぶ。4技能を総合的に向上させることを目的とする。	
ビジネス英語b		I1300-204	2	L	1	○	○	○			ビジネスコミュニケーションで用いられる総合的な英語力の更なる養成を目指し、自分の意見を英語で伝える機会に慣れることで、作法に従って臆せず臨むことができるようになることを目的とする。また、適宜 TOEIC L&R/Bridge の問題演習を実施し、さらなるインプット学習を奨励する。	

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D/S 応用基礎	授 業 概 要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
情報基礎	経営と情報	II100-101	1	L	2	◎	◎	◎				企業を営んでいく上で必要不可欠な経営資源として、従来から言われていた「ヒト、モノ、カネ」に加えて、「情報」が挙げられるようになった。今日の企業は業種や規模のいかんを問わず、PC、コンピュータ、インターネット、とその他各種の情報システム等々の「ICT (Information and Communication Technology, 情報通信技術)」を、程度の差こそあれ、何らかの形で利用している。場合によっては、ICTなしでは企業活動が成り立たない企業や業界もある。本講義は「経営に必要とされる情報の在りかた」、「職業人が共通に備えておくべき ICT の基礎知識」のうち、純粋な技術論を除いた分野の基礎を幅広く学ぶ。
	コンピュータ概論	II100-102	1	L	2	◎	◎	◎	◎	◎		現在の IT 社会で常識として知っておいて貰いたいコンピュータ全般の技術や利用方法の基礎を学習する。
	情報分析基礎	II100-103	1	L	2	◎	◎	◎		◎		様々な種類のデータを取り上げ、必要最小限の技術を習得することで、データ処理の基本を身につけるとともに、データ処理に必要なセンスの獲得を目指す。
	統計学	II100-104	1	F	2	◎	◎	◎		◎		データの背後にある情報を引き出すための方法として統計的手法がある。統計的手法はあらゆる分野で活用されており、研究活動におけるデータ処理の技法としても活用されている。本講座では統計的手法の基礎知識を習得することをねらいとする。具体的には、記述統計学と呼ばれる分野を講義する。
	プログラミング入門	II100-105	1	F	2	◎	◎	◎			◎	本授業は Python 言語を用いて、コンピュータプログラミングを概観する。さらにユーザ定義関数や標準入出力を用いる基本的なプログラミングの仕組みを学習する。
キャリアデザイン	キャリアデザインa	II400-201	2	L	2	△	△	△				本学の「総合的キャリア教育」の一環として、将来の進路選択に向けて「自分を知る」ことに重点を置いて授業を進める。自分の進路を主体的に選択し、その実現に向けて行動する積極性が重要になる。授業の主要な目的は、下記のとおりである。 ・進路選択のための知識・情報を得る。 ・就職活動全体の流れを理解する。 ・自己分析の基礎を学ぶ。 ・就職活動に主体的に取り組む意識を高める。
	キャリアデザインb	II400-301	3	F	2	△	△	△				本学の「総合的キャリア教育」の一環として、将来の職業選択に向けて「社会と自分をつなげる」ことに重点を置いて授業を進める。自分の職業を主体的に選択し、その実現に向けて行動する積極性が重要になる。授業の主要な目的は、次の2点である。1. 社会および企業が求める人材の基礎的能力を実践的に理解し、それに必要な能力を体得する。2. 企業等が求める人材を判断する就職試験を意識して、必要な能力を高める。
	インターンシップ	II400-302	3		2	△	△	△				本科目は、本学のキャリア支援を目的としたキャリアデザイン科目のひとつである。インターンシップ受入企業での就業体験に加えて、「事前講座」「マナー講座」「振り返りグループワーク」「成果報告会」などの事前事後のフォローアップを通じて「職業観の育成」「キャリアデザイン」「専門教育へのフィードバック」などへの展開を目指す。
	日本の社会と生活文化(※)	II400-202	2	F	2	△	△	△				日本の経済・社会・文化や日本人の行動・習慣などについて学ぶことで留学生の社会文化能力をさらに高めることを目指す。卒業後日本での就職を考えている留学生にとっての「日本についての一般常識」を学ぶ。知らないことばかりでなく、知っているつもりのことを正確に理解することで、一人一人の留学生の日本社会の中での実質的行動をより確かにするものにつなげる。
	ビジネスコミュニケーション(※)	II400-203	2	L	2	△	△	△				留学生が卒業後、日本企業に就職したり、日本人相手にビジネスを行う際のビジネス日本語、ビジネス文化、及び日本人のコミュニケーションスタイルについて学ぶ。授業では講義のほか、学生同士のロールプレイを通じて、日本語によるコミュニケーション力の向上のための実習を行う。
	リクルートコミュニケーション(※)	II400-303	3	F	2	△	△	△				卒業後日本人学生と同様に就職活動をして企業に就職することを目指す留学生が、日本独特のシステムである就職活動についての知識とスキルを身につけることを目的とする。授業では就職活動の流れに沿いながら、外国人にとって特異であるものに気付かせ、なぜそのようなことが求められるのかについての文化的な側面を考察していく。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	教職	数	D S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア							
専門基礎	共通	総合情報学概論	II400-102	1	F	2	◎	◎	◎						本講義では、総合情報学を「情報システム」「データサイエンス学」「情報メディア学」という3つの側面から理解するために、総合情報学科を構成する3つの学系の教員から各分野の概略についてオムニバス形式により包括的に学ぶ。
		学系基礎演習a	II400-103	1	L	1	◎	◎	◎						学系で学ぶ動機付けをする。各学系の学びの特色を題材として、少人数のグループによる活動を通して、コミュニケーション(話す、書く、聞く、問う)能力を高め、協調性や責任感等を養う。プレゼンテーションを通して、コミュニケーション(聞く、話す)を高めるための基礎を学ぶ。
		学系基礎演習b	II400-204	2	F	1	◎	◎	◎						各学系が用意するテーマを題材として、少人数のグループによる活動を通して、コミュニケーション(話す、書く、聞く、問う)能力を高め、協調性や責任感等を養う。プレゼンテーションを通して、コミュニケーション(聞く、話す)を高めるための基礎を学ぶ。あわせて、将来の職業や今後の大学での学びを意識し、研究室選択のための準備を行う。
情報システム		情報システム学概論	II601-101	1	L	2	◎	-	-						本講義では、情報システム学について、以下の2点を中心として説明する。 1. まず、情報システム学系についての学びと特徴について述べる。 2. 次に、情報システム学系の3つの研究室についてその学びと研究の特徴について紹介する。
		IT基礎技術論	II601-102	1	L	2	◎	△							ITパスポート試験は情報処理技術者試験のレベル1の国家試験である。内容は企業等で働く人が持つべきIT基礎知識を問うものであり、ステラテジ系(戦略)、マネジメント系(管理)、テクノロジー系(技術)の3つの分野から、基本的知識につき、幅広く出題される。本科目では、ITパスポート試験向けの模擬試験等を用いた講義を通して、ITパスポート資格の取得を目指す。また、ITパスポートと同等以上の資格を既に持っている学生に対しては、より上位の資格である基本情報技術者資格、応用情報技術者資格を目指すための学習を行う。
		プログラミング基礎	II601-103	1	L	2	◎	◎		◎					本講義は、演習科目の「プログラミング基礎演習」とセットで、プログラミングの最も基本的な構造化プログラミングの理解を目指し、2年次以降で取り扱うプログラミング科目のための基礎作りを行う。
		プログラミング基礎演習	II601-104	1	L	1	◎	◎		◎					本講義は、演習科目の「プログラミング基礎演習」とセットで、プログラミングの最も基本的な構造化プログラミングの理解を目指し、2年次以降で取り扱うプログラミング科目のための基礎作りを行う。
		情報ネットワーク概論	II603-101	1	L	2	◎	-	-	◎			△		本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験(ITパスポート、基本情報技術者試験など)の必要知識の一部を成すものである。
		アルゴリズムとデータ構造a	II601-201	2	F	2	○	△	△				△	◎	本講義では、情報処理の基本であるアルゴリズムとデータ構造について学習する。講義内容としては、構造化プログラミング、フローチャート、配列、リスト、スタック、木構造、待ち行列、ソートアルゴリズム、探索アルゴリズムを具体例を通じて取り上げ学習する。
		アルゴリズムとデータ構造b	II601-202	2	L	2	○	△	△				△	△	本講義では、実用的なアルゴリズムとデータ構造とその実装の具体例について学習する。主として、ハッシュ、文字列操作、ファイル操作、再帰処理、グラフ探索、最短経路問題、バックトラック、計算量による評価を取り上げ学習する。
		システム設計論a	II602-201	2	F	2	○				◎				インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Webベース情報システム(Webアプリケーション)を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D/S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	情報システム システム設計論b	11602-202	2	L	2	○			◎			インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Web ベース情報システム (Web アプリケーション) を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。
	プログラミング応用a	11601-203	2	F	2	◎			△			この講義では 1 年後期科目「プログラミング基礎」をうけて、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学んでいく。言語は引き続き Java を用いる。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、予習を前提に該当回の学習事項を説明し、課題を中心とした基本演習を行う。最終試験は平常試験として実施する。
	プログラミング 応用a演習	11601-204	2	F	1	◎			△			この講義は「プログラミング応用 a」とセットで、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学び、主に演習を通じて理解を深め実力を付ける。言語は Java を用いる。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、「プログラミング応用 a」で学んだ内容に関する課題を中心とした演習を行う。
	プログラミング 応用b	11601-205	2	L	2	◎			△			この講義では 2 年前期科目「プログラミング応用 a」をうけて、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」の基本と応用的な知識・技術を学んでいく。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、予習を前提に該当回の学習事項を説明し、課題を中心とした演習を行う。最終試験は平常試験として実施する。言語は引き続き Java を用いる。
	プログラミング 応用b演習	11601-206	2	L	1	◎			△			この講義は「プログラミング応用 b」とセットで、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学び、主に演習を通じて理解を深め実力を付ける。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、「プログラミング応用 b」で学んだ内容に関する課題を中心とした演習を行う。
	情報通信システム論a	11603-201	2	F	2	○			◎			現在、インターネット上の事実上の標準プロトコルである TCP/IP は、コンピュータネットワークを勉強する上で非常に重要な位置を占めており、TCP/IP の理解無くしてコンピュータネットワークを理解することはできないと言っても過言ではない状況にある。この講義では、その TCP/IP プロトコルを中心にして、基礎から応用までを講義する。
	情報通信システム論b	11603-202	2	L	2	○			◎			情報通信システム論 a に引き続き、TCP/IP の応用、さらにアプリケーション層でのインターネットアプリケーションのプロトコルの動作原理とその基本的な考え方を講義する。 電子メール、Web ブラウザ、Web アプリケーションはどのようにして動作するかを明らかにするとともに、セキュリティ、P2P ネットワーク、リアルタイム通信についても言及する。
	Unix論a	11601-207	2	F	2	○	△					3 年での研究室 (主にネットワーク・セキュリティ、システム開発、データ解析系) を選択するための準備として、後期の UNIX 論 b とのセットで、Linux とネットワークの基本的な技術と知識を学習する。この授業では主に Linux の標準認定資格である LPIC-101 を中心に講義および演習を行う。具体的には、Linux の簡単なコマンド、シェルの使用、主要なファイルとその構造、テキスト編集とその処理、ネットワーク接続を学ぶ。
	Unix論b	11601-208	2	L	2	○	△					3 年での研究室 (主にネットワーク・セキュリティ、システム開発、データ解析系) を選択するための準備として、前期の UNIX 論 a とのセットで Linux とネットワークの基本的な技術と知識を学習する。この授業では主に Linux の標準認定資格である LPIC-102 を中心に講義および演習を行う。具体的には、Linux の各種ネットワークサービス利用、ランレベル、プロセス管理、簡単なシェルスクリプトを学ぶ。
情報システムアー キテクチャ	11602-203	2	F	2	△	△						情報システムの仕組みについて構造に着目した設計や実装について学ぶ。データ構造や構造化言語、システム構造、ネットワーク構造など、情報システムについて構造的側面から学び、各専門知識が情報システム全体のどこに位置づけられるかについて学ぶことで、情報システム全体と要素技術の関連について学ぶ。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職情報	職数	DS応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	データベース論	II602-204	2	L	2	△	-	-	◎		△	データベースはコンピュータシステム上でデータを効率的に管理するためには必須の知識・技術であり、近年における多種多様な大量のデータに対する処理・分析の必要性の高まりを受け、さらに重要度を増している。本講義では、データベースの必要性から、データベースの種類・構造、データベース設計といった基礎から、リレーショナルデータベースにおける情報検索等の具体的な操作までを実習を通して学ぶ。
	人工知能a	II602-205	2	L	2	○	△	△			◎	本講義では、人工知能の基礎として、AIの歴史、推論、探索を中心として学ぶ。さらに、機械学習の入門としての基本的な概念についても説明する。
	ドローン工学	II604-201	2	F	2	△						本講義で扱う内容は、ドローンの飛行原理、ドローン墜落落下時の衝撃力、バッテリーの危険性、操縦練習方法、新しい航空法による規制、保険加入、関連する資格試験、電波法などである。これら内容は、将来、ドローン操縦士及びドローン運行管理士を目指す人にとっても重要な項目となる。
データサイエンス	情報数学a	II701-101	1	L	2	△	◎	△		*	◎	情報数学は日常の必要性にその起源を持っており、きわめて実用性が高く、広く社会で活用されている。この講義では、情報数学を、社会を読み解き世界を認識するための数理として紹介する。まず、起こり得る事象の数え上げのごく簡単な例を説明する。さらに、それを使って確率現象をとりあげる。次に数列について学習する。
	情報数学b	II701-201	2	F	2	△	◎	△		*	◎	情報数学 a を受けて、情報数学 b では、まず、スカラーとベクトルについて説明する。次に、行列の基本について説明し、最終的には、行列の演算、行列式、連立 1 次方程式、固有値問題までを学習する。
	離散数学a	II701-102	1	L	2		○			*		離散数学 a・b では論理的思考の基盤となる離散数学の基礎的な内容(集合と論理、関係と写像、代数系、順序集合と束、グラフ理論)を学習する。離散数学 a ではこの中から「集合と論理、関係と写像、代数系」を取り上げる。
	離散数学b	II701-202	2	F	2		○			*		離散数学 a・b では論理的思考の基盤となる離散数学の基礎的な内容(集合と論理、関係と写像、代数系、順序集合と束、グラフ理論)を学習する。離散数学 b ではこの中から「関係、順序集合、グラフ理論」を取り上げる。
	推測統計学	II702-101	1	L	2	△	○	△		◎	△	統計的検定と推定の計算方法を理解して、実データに適用できる能力を身につける。
	情報分析応用	II702-201	2	F	2	△	○	○			△	データ解析のための統計的方法について、Office系ソフトウェアおよび統計解析専用ソフトウェアを使いながら学習する。理論を学ぶだけでなく、現実のデータを自分で解析しながら、統計的考え方と統計手法の適用場面を習得する。
	データサイエンス概論	II703-101	1	L	2	-	◎	-		◎		データサイエンスはひとつの分野ではなく、複数の分野の知識および技術を複合的に結びつけ、データをさまざまな角度から処理・分析することで問題解決に活かすものである。本講義では、データサイエンスを具体例とともに紹介し、その社会的な意義と重要性を俯瞰的に解説する。
	データ処理論	II703-201	2	L	2		△	△			△	現実世界に存在する大量のデータを統計的、ネットワーク科学的に分析する事で、データに潜む数学的構造を明らかにする事が、データサイエンスの基本中の基本である。本講義では、まず現実世界のデータに見られる代表的な数学的構造や、データを処理するためのアルゴリズムを学ぶ。それを踏まえ、できるだけ実践的な状況を仮定して、テキストデータの加工などによく使われるスクリプト言語 Python を用い、データの入手と加工の技法を学ぶ。
代数学a	II701-203	2	F	2		○				◎	素朴集合論の基本を理解し、代数学を学ぶための基礎を身につける。講義に演習を織り交ぜながら理解を深める。また、初等整数論を題材に代数学の考え方に慣れることを目指す。	

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D S 応用基礎	授 業 概 要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
専門基礎	代数学b	11701-204	2	L	2		○			◎		代数学 a で学んだ集合の知識を前提として、集合に演算が導入された代数構造について学ぶ。その中から群を取り上げて、その代数的性質を学ぶ。時間外学習としての演習を通して、代数学の思考法を身につける。	
	幾何学a	11701-205	2	F	2		○			◎		平面幾何を中心に図形問題を見直し様々な証明法や問題解決の手掛かりの掴み方を確認する。さらに問題演習を通じ模範解答作成、板書の実習を行う。	
	幾何学b	11701-206	2	L	2		○			◎		平面図形問題を中心に、三角関数やベクトルを用いた様々な問題解決の手掛かりの掴み方を確認する。さらに空間図形にも発展させ、関数による図形表示や偏微分を用いた図形の捉え方を確認する。	
	解析学a	11701-207	2	F	2		○			◎		主に講義形式で行うが、問題演習を授業および時間外学習によって行い、実践力を高める。	
	解析学b	11701-208	2	L	2		○			◎		主に講義形式で行うが、問題演習を授業および時間外学習によって行い、実践力を高める。	
	確率論	11701-103	1	L	2		○			◎		授業は講義形式で行うが、適宜時間外学習としての演習課題を交えながら実施し、これを通して実践力を身につける。	
	ネットワークとセキュリティ	11703-102	1	L	2	-	△	△			△		本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験 (IT パスポート、基本情報技術者試験など) の必要知識の一部を成すものである。
	データベース管理システム	11703-202	2	L	2	-	△	△			△		データベースはコンピュータシステム上でデータを効率的に管理するためには必須の知識・技術であり、近年における多種多様で大量のデータに対する処理・分析の必要性の高まりを受け、さらに重要度を増している。本講義では、データベースの必要性から、データベースの種類・構造、データベース設計といった基礎から、リレーショナルデータベースにおける情報検索等の具体的な操作までを実習を通して学ぶ。
	多変量解析	11702-202	2	L	2	△	△	△			△	△	統計学的手法の総称である。予測、次元削減、分類を中心に理論を理解し、手法を実際のデータに適用できる技術を身に付ける。ソフトウェアは Excel を中心にすすめるが、R や SPSS にも言及する。
	臨床心理学概論	11704-201	2	F	2		○	△					「臨床心理学」はクライアント (来談者) の有する否定的な心身症状や特定行動に対して、心理支援を行うための知識・技法・倫理などを探求する学問である。また、心理支援は医療・産業・教育・福祉・司法など幅広い領域にわたっている。私たちは生きていく中で、心の葛藤や人間関係の悩みを抱え、人生の課題に翻弄されることもある。課題は解決されることが望ましいが、その解決は容易でない場合もある。ここに「臨床心理学」を学ぶ意義がある。「臨床心理学」の学びを通じて、「いかに生きるか」を考え、悩み解決の支援方法への気づきも可能となる。本授業では「臨床心理学」の重要な理論を紹介しながら、心理的課題やその対応にも触れる。このことは、深層心理学、認知心理学、行動科学を通し、「本来的自己・社会的自己とは何か」を考えることにもつながり、情報化社会での心理的葛藤の問題解決力を向上させるだろう。
	認知心理学	11704-202	2	F	2		△	△					人の心の働きを「情報処理」という観点から理解しようとするのが認知心理学です。人は感覚器官から様々な情報を取り入れ、その取り入れた情報を貯蔵したり加工しながら巧みに環境に適応しています。この講義では日常的な行動や心理現象がどのような情報処理に支えられているのかを、実験や心理学的モデルをみていながら学びます。
心理学研究法	11704-203	2	L	2		△	△					心は目に見えず手で触れることもできません。心理学的に心をつかむためには、客観的で科学的な方法に従う必要があります。この講義では、こうした心理学的な考え方や手法について実習を交えながら学びます。	

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	教職	D S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア						
専門基礎	データサイエンス	心理アセスメント論	11704-204	2	F	2		△	△					心理臨床の場において、人のこころを理解していくことは重要なことである。このことは、情報社会において柔軟に課題を解決する力ともなる。そのために、心理学においては、信頼性と妥当性を有する心理特性把握の方法がある。それが心理検査法である。本授業は、特に臨床心理学において必要とされる心理検査法を学習する。取り上げる心理検査法について、背景理論、検査内容、測定の方法、解釈の理解を深める。
		人間関係論	11704-205	2	L	2	△	△	△					本授業は、人間関係を豊かにし、健康的なメンタルヘルスを支援していくアプローチ法について臨床心理学的視点から講義演習していく。私たちは、自己表現の難しさから、周りからの支援をあきらめることがある。結果として、人間関係を否定的なものとして認知し、自らのメンタルヘルスを悪化させてしまう。そこで、まず自らのメンタルヘルスや対人関係の心理特性を心理テストによって測定し、自らの心理課題に気づき、その後、各種グループアプローチ法を学び、演習することで、自己表現やコミュニケーション能力を高めていく。このことは、情報社会において柔軟に課題を解決する力ともなる。演習後は結果をまとめ、報告書を作成し提出する。
		心理データ解析	11704-206	2	F	2	△	○	△					人の心を知ることは、ストレスを減少させ、人間関係を良好にしていく。そのことは容易ではないが、心理学は、そのような課題に応える学問である。そこで、本授業では人の心を知るために、心理指標のデータ解析方法を紹介する。具体的には、心理実験や心理調査を通じて、心理指標データを収集し、統計的手法を用いて解析していく。特に、認知心理学と臨床心理学に関するデータ解析方法が中心となる。
		学校心理学	11704-207	2	L	2		△	△					学校における全ての子ども（児童生徒）の成長・発達への支援を意図するだけでなく、学校コミュニティへの援助に関する理論を理解することを旨とする。「個人（としての子ども）」ではなく「環境の中にいる個人（子ども）」を重視し、子どもを取り巻く援助者がどのような援助を行うことができるのかを重視した講義を行う。そして、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師との関係調整、学校内外の支援システムづくり（集団）など、教育現場で支援できる技法を習得しながら、アプローチの工夫を検討する。
		分子生物情報学	11704-101	1	L	2		○						本授業では、さまざまな生命現象を分子レベル（核酸とタンパク質）で理解することを目的とし、核酸や遺伝子の構造、遺伝情報の複製や伝達（転写及び翻訳）、タンパク質の合成、タンパク質の構造と機能、遺伝子発現の調節等について概説する。
		計算生物学概論	11704-208	2	F	2		○						本授業では、生命情報学の成り立ちから現在利用されている技術まで、そして基本的なデータの取り扱い方について理解することを目的とする。また、特にゲノムを中心としたデータ形式や解析ツール等の基礎について概説する。
		生命情報学	11704-209	2	L	2		△						本授業では、情報科学の視点や技術を用いて生命現象の解明や生命科学の発展に挑む生命情報学（バイオインフォマティクス）について概説する。授業では、生命情報学の歴史や近年の研究、また特にタンパク質を中心として、生命情報学で扱うデータや解析ツール等について説明する。
		環境情報論	11704-210	2	L	2		△						自然環境に関する現象を解析・記述・推定し、現象の変化を予測するための手法を学ぶ。講義では、主に生物・生態系に関する概念や現象について紹介する。コンピューター実習では、表計算ソフトを用いて基本的な解析およびシミュレーションを実行する方法について実践的に学び、生物・生態系に関する理論や現象についての理解を深める。
		地理情報システムa	11704-211	2	F	2		○						地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。地形・地質・気温・生物の分布や、土地利用・道路・鉄道・人口の分布などの、様々な環境データを解析し、その結果を公開することもできる。講義では、業界標準ソフトウェアの ArcGIS を用いて、その概念と技術を習得する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の（※）は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の（◇）は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の○は必修科目、◇は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の○は必修科目、◇は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D S 応用基礎	授業概要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
専門基礎	データサイエンス	II704-212	2	L	2		△					地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。本講義は、前期の地理情報システム a で習得した知識・技術に加え、応用的解析技術の習得を目標とする。総合演習では、地理情報システムを用いた課題の設定・解析と、結果の公表のプロセスを経験し、地理空間情報処理の実践力を養う。	
	画像情報論	II704-213	2	L	2		○	△				画像の入力方法、画像の統計的性質、画像の強調と復元方法、画像の特徴抽出と領域分割の方法そして、画像生成方法などに関する基礎的事項を実習し、体験する。これにより、デジタル画像情報処理の原理、手法の理解を高める。	
情報メディア	情報メディア概論	II802-101	1	L	2	-	-	◎				本講義では、社会における広義の情報メディアに関わる学域について、以下の2点を中心として説明する。まず、広義の情報メディアに関連する学びと特徴について述べる。次に、情報メディア学系の3つの研究室についてその学びと研究の特徴についてオムニバス形式により紹介する。	
	映像メディア表現	II801-101	1	L	2			○				1895年のリュミエール兄弟のシネマトグラフに始まる映像メディアの歴史を振り返り、テクノロジーの進歩とそれに伴う映像表現の変容を辿ります。その上でデジタル化とネットワーク化がもたらした21世紀の映像メディア作品とその表現を紹介しますが、その背後にある多様な世界観についても考察します。	
	映像表現基礎Ⅰ	II801-102	1	L	2			○				今や各国のテレビ局ではなく、動画共有プラットフォームであるYouTubeが国境を越えて、世界中の視聴者を獲得する時代となりました。この授業ではYouTubeにふさわしい映像コンテンツの企画を考えて、グループで作品制作を行うことを通じて、撮影やノンリニア編集、録音といった映像制作に関する基礎的な技術を習得し、現在の映像メディアについての理解を深めます。	
	映像表現基礎Ⅱ	II801-201	2	F	2			○				「映像表現」あるいは「表現」とは何でしょうか。この抽象的な問いに対して、写真を手がかりにして、多様な写真表現を分類した上で、それぞれの表現を模倣することから始めます。次に写真が単独で存在するというより、「テーマ」を導入し写真集や写真展という形で表現を生み出していることから、「テーマ」と個々の写真/ショットの関係を考えていきます。そして、最終的には個々の写真/ショットの表現に注意しながら、一つのテーマのもとで、複数のショット（あるいは静止画）を組み合わせ、短編の映像作品を制作することを通して、映像表現に関する理解を深めていきます。	
	ドキュメンタリー制作入門	II801-202	2	F	2			○				ディスカバリーやナショナルジオグラフィックといったテレビ番組を見ればわかるように、ドキュメンタリー映画やテレビ番組は国境を越えて世界中に配給され、巨大化するメディア産業の重要なコンテンツとなっています。その一方で、(個人や少人数で制作された)政治性を帯びた作品はデジタルの時代に入り、新しい映像表現を生み出し、(20世紀には劇映画ばかりであった)カンヌやヴェネツィアを始めとする国際映画祭でも取り上げられ、大きな注目を集めるようになりました。また、私たちの生活に目を移せば、写真や動画を撮り、文章を書いて、他者とウェブ上で自らの経験を共有するといった(ドキュメンタリー的な表現活動)は日常の一部となり、YouTubeでは個人的な出来事や人生を語るチャンネルが人気を集めています。このように拡散する(ドキュメンタリー表現)をどう考えればいいのか、その多様性に注目しつつ、これまでのドキュメンタリー映画の歴史を振り返り、そこにヒントを求めながら、一学期をかけて「私」あるいは「私」を取り巻く世界に関するドキュメンタリー映画の企画を考えていきます。	
	音響メディア論	II801-103	1	L	2			○					パソコンにおける音響・音楽情報の処理を通じて音響メディア表現の基礎を学ぶ。音の基本的な知覚特性と、音メディアの基本的な特性を理解したうえで、その活用技術と効果的な表現手法について演習も交えて習得する。
	サウンドデザイン	II801-203	2	L	2			△					まず、音という物理現象を理解するために必要な知識を学んだ後、社会と音との関わりを様々な視点から捉えることによって、その現状を理解する。また、様々な分野での音デザインの実例を学ぶことによって、そこでの指針および問題点を検討する。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D S 応用基礎	授 業 概 要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	情報メディア	音響技術 I	11801-204	2	F	2			△			現代のオーディオ技術および機器の基礎を学び、それらの性能や音質を分析的に理解したうえで使いこなすための知識を身につける。さらにオーディオ技術およびメディアに関わる社会的問題や著作権管理を理解する。
		コンピュータグラフィックス基礎	11801-205	2	L	2	△		△	◎		コンピュータグラフィックスの講義および演習を行う。講義および演習は 2 次元コンピュータグラフィックスと 3 次元コンピュータグラフィックスに分けて行われ、基礎理論の講義と基礎技術の演習を行う。これらを通して、コンピュータグラフィックスと情報メディアの関わり、コンピュータグラフィックスの基礎理論及び基礎技術を理解する。
		コンピュータグラフィックス論	11801-104	1	L	2	△		○			実写では撮影不可能な映像をコンピュータとクリエイターの方でリアルに表現するコンピュータグラフィックス。その基本には実写映像の制作で培われた理論、知識、技術がふんだんに用いられている。本講義では実写技術との関連を重視しながら、様々な技術の限界を超えていく可能性に満ちたコンピュータグラフィックスについて多角的に取り上げ学んでいく。
		コンピュータグラフィックス演習	11801-301	3	L	1	△		△	◎		コンピュータグラフィックスによる図形処理やシミュレーションに関する講義及び演習を行う。さらに、Web プログラミングとコンピュータグラフィックスとの融合に関する講義及び演習を行う。これらを通して、コンピュータグラフィックスを Web 上で表現する方法と技術を理解・習得する。
		Webデザイン演習	11801-206	2	F	1	△		△	△		WEB サイトを「自ら作るもの」としてとらえられるように既存サイトの XHTML・CSS ソースコードを段階的に紹介する。HTML エディタや画像処理のソフトウェアを使用し、WEB サイトにおける表現技術や制作技法を学ぶ。また、この科目の習得によってインターネット上での自己表現と課題発表実施におけるプレゼンテーション能力の向上を図る。
		ゲーム制作基礎	11801-207	2	F	2	△		△			コンピュータ・ゲームのしくみを学び、制作を行う上で必要な技術を身につける。古今東西様々なゲームが存在するが、大きく九つの種類に分類することができる。またゲームの内部で用いられる汎用性の高い処理パターンが数多く存在する。これらを学習したのち自分で企画しデザインしたオリジナル・ゲームを制作する。
		情報メディア論	11801-105	1	L	2	△		○	◎		現代社会は高度に発達した多様なメディアと分かちがたく結びつき、私たちが生きるこの世界や社会の理解はメディア表象を通して行われる。この講義では「ドキュメンタリー」に焦点を当てて、それがありのままに出来事や事実を伝えるジャンルではなく、劇映画と同様にフィクション性を持ち、特定の意図のもとで現実を再構成する表現手法であることを踏まえ、その方法論を社会、政治、テクノロジーとの関係を通して理解していく。そしてドキュメンタリーがいかなる社会問題や政治、文化現象を扱ってきたのか、またその表象が社会にいかなる影響を与えたのかについて考察する。
		視覚デザイン論	11801-208	2	L	2			△			人間の視覚メカニズムや視覚心理をベースにして、事実や概念を巧みに可視化し、デザインすることによって正確かつ付加価値をともなった情報伝達を行う方法について学ぶ。形状や形態、配置や質感、色彩や陰影のもたらす効果を理解し、創造的かつ論理的なコンテンツを発信していく術を習得する。
		知覚心理学	11801-209	2	L	2			△			この授業では、人間の知覚様相のうち、CG や映像メディアと関係の深い聴覚と視覚の知覚心理学について学ぶ。さらにそれらが相互に影響し合って知覚内容を作り出していることを学ぶ。最初に、音や光の物理的要因と心理的要因の対応関係について学ぶ。人間の聴覚・視覚の生理的な仕組みを学んだあと、人間が聴覚・視覚によってどのように外界を認識しているかを学ぶ。
		文化社会論	11802-201	2	L	2			△			社会と文化は相互に規定し合う。また個人、家族、地域、共同体、組織、自治体、国家、とそれぞれの規模において相互に絡み合う。また、昨日と今日は同じではない。とすれば空間的だけでなく、時間的にも、その諸相は複雑多岐にわたる。このような多様性の存在を踏まえ、本講義では近代の日本を西欧のものではない既存の言葉、考え方、感じ方を使って、人々の意識に迫った研究例を示しつつ、日本社会を理解するだけでなく、そこに隠されている「西歐的なもの」を読み取ることを目指す。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必修区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D/S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	情報メディア コミュニケーション論	11802-202	2	F	2			△				コミュニケーションという概念は、広範で様々な意味で用いられる日常的な概念である。けれども、それがゆえ、その理解が曖昧になっているのも事実でもある。本講義は、そのようなコミュニケーションについてその本質的な分析を行い、あらためて、コミュニケーションを考察したい。その上でコミュニケーションにまつわる問題を具体的な事例を通して考察する。
	マスメディア論	11802-203	2	F	2			△				マス・メディアとネットメディアとの連続性を重視して、マス・メディアの組織、過程・作用、政治社会現象との関係などを検討素材にして、マス・メディア及びネットメディアに対する見方・考え方の確立をめざす。具体的には、コミュニケーションの「受け手」、「送り手」の枠組みをもとに、それらとメディアとの関連をひもたせて、社会学・歴史学(メディア史)・政治学・社会心理学の視点からネットメディアの実相を探求することまでを射程に入れてマス・メディアの諸相を明らかにする。
	社会心理学	11802-204	2	L	2			△				メディアからの情報がどのように私たちに影響を与えるのか。そのメカニズムを人のこころの動きから明らかにしていこうとするのが、メディア・コミュニケーションにおける社会心理学的考察である。そのひとつの手掛かりとして、「世論」(よるん・せろん)および説得・ステレオタイプなどを取り上げ、その働きを考える。講義前半は、世論研究の概論およびその作用を社会学的社会心理学のアプローチを加えて(世論調査がいつ行われ、そのワーディングや質問の配列にどのような社会的変数が影響を与えているのかを探る)、講義後半は社会心理学の諸概念のうち、説得、ステレオタイプが個人、集団、そしてメディアを介してどのように機能するかを考える。
	海外事情	11802-205	2	L	2			△				現在のグローバル化は、メディアや文化等のグローバル化を押し進め、情報も国を超えて流通している。さらに、世界各地ではそれぞれの社会問題やグローバルな社会問題が起きている。この授業では、海外で起きている様々な出来事に関心を持ち世界情勢を様々な観点から考えることを目的とする。各地域の社会・文化・メディアの特色などを理解し、海外主要国の歴史的背景や問題の本質を領域横断的な視点で捉え、自分自身の考えや意見を客観的な視点から他者に伝達する能力の習得を目指す。
	社会調査法	11802-206	2	F	2	△	○	△				社会調査の基礎構築を目指す。具体的には、実際の社会的問題意識に基づいて調査設計を行い、収集したデータに対しコンピュータによる集計・解析を実施する。社会調査の意義を理論・実習の両面から正確に理解する。
	経営学概論	11803-101	1	L	2			○				経営学の基本的なフレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学を理解するための土台づくりに重点を置き、基本的な考え方や用語を具体的な事例を交えながら解説を加えていく。
	経営組織論	11803-201	2	F	2			○				企業や行政組織、非営利組織などの組織とそれらを取り巻く環境との関係性に注目する。特定環境下における認知と戦略的意思決定、組織の構築に関する一連の理論について学ぶ。また組織が積極的に環境に影響を与える存在としての側面についても理解する。さらにマネジメントの視点から、組織メンバーの行動について理解する。
	マーケティング論	11803-202	2	L	2			△				マーケティングの基本的な理論とその応用を講義する。マーケティングの考え方は、製品やサービスだけでなく地域などにも適用可能であり、その応用範囲はきわめて広い。本講義においては、最新の理論と事例を織り交ぜながら、マーケティングに対する理解を深めることを目的とする。
	国際経済と金融概論	11803-203	2	F	2			○				講義では、現代の世界経済に多大な影響を及ぼした1970年の2つのニクソンショックに注目し、東アジア経済の発展とグローバルな金融システムの進展について学習する。そして、ブレトン・ウッズ体制とスミソニアン体制の崩壊後における国際金融システムの進展を学習しながら、サブプライム危機とリーマンショックに至る経緯を講義する。
教職課程	教育原理	11901-101	1	L	2	◇	◇	-	◎	◎		本講義は「教育とは何か」「教育は何のためにあるのか」について、その要点を分かりやすく講述し、今後の教育学に関する学習の基礎的土台を構築するものである。このために、本講義の内容としては、教育の本質論、教育の目的論、教育の制度論、教育の内容と方法論、教育の経営論とした。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報	職数	DS 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門基礎	教職概論	II901-102	1	F	2	◇	◇	—	◎	◎		教職の意義、教員の役割・職務内容、教員として必要な資質能力・力量、教員採用試験の動向等々について授業を行う。併せて、グループ討議・発表の時間も設けたい。
	教育制度論	II901-201	2	F	2	◇	◇	—	◎	◎		教育の社会的制度的なシステムを学び、学校教育が成立する基礎を理解し、法的・制度的・社会的な視点から学校教育と教員のあり方を考えることができるようになる。
	教育心理学	II901-202	2	F	2	◇	◇	—	◎	◎		ICT 社会における今日の学校教育において、児童・青年期の発達や学習過程を理解し、教育的支援を必要とする子どもへの理解を深め、その対応を考えることはきわめて重要である。本講では、広く教育に関わる心理学的知見を取り扱っていく。発達と教育、学習のメカニズム、学習過程や動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得する。また、教授法、評価法、教育上の困難を持つ子どもの理解（学習障害や ADHD 等）なども取り扱いながら、具体的な教育場面と関連づけて検討していく。将来教師を目指す学生は、教育の現状を考える新たな視点として「心理学的な見方や考え方」を培う。
	特別支援教育	II901-203	2	L	2	◇	◇	—	◎	◎		特別支援教育における変遷、インクルーシブを含めた特別支援教育に関する制度や仕組みを学び、学校教育で支援するため基礎的知識と方法を理解する。同時に、合理的配慮に基づいた ICT の活用について学ぶ。そして、学校教育において組織的な支援体制のもと、個別の指導・教育支援計画に基づいて特別支援教育コーディネーターを中心に各関係機関や家庭との連携のあり方と支援について考えることができるようになる。
	教育課程編成論	II901-204	2	L	2	◇	◇	—	◎	◎		本講義は学校における教育課程の基本的知識並びに編成の方法について習得する。したがって、教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程編成の意義、要素、学習指導要領、等について取り上げる。このことを踏まえて、教育課程編成の実際並びに評価について学ぶ。
	道徳教育の理論と方法	II901-205	2	L	2	◇	◇	—	◎	◎		道徳教育は、学齢期にある青少年に対して道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性は、社会的、時代的背景によりさまざまな議論がされてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりやカウンセリング、人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討し、授業のあり方を考察する。また、指導案の作成と教材研究を行い、模擬授業を通して実践的な指導力が身につくようにする。
	総合的な学習の時間の理論と方法	II901-301	3	F	1	◇	◇	—	◎	◎		課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、今、求められる力の向上を図る。そのために対話型グループワーク、ケースメソッド、ディスカッション、研究発表等とおして、それらの力を体験的に理解し培っていく。また、その目的達成のために、各教科等にこだわることなくカリキュラム・マネジメントの考え方を十分に理解して、横断的・総合的に学習を進めることができるようにする。
	特別活動の理論と方法	II901-302	3	L	1	◇	◇	—	◎	◎		特別活動は、自主的実践的な態度や社会性の育成などを旨とし、全ての教師がかかわる教育活動である。本講義では、中学校・高等学校における特別活動の教育課程上の位置づけや内容、人間形成における特別活動の教育的意義や役割、指導方法（学級活動・ホームルーム活動の指導案・生徒会活動実施案・学校行事実施案等の作成）について学習する。
	教育方法論	II901-206	2	L	2	◇	◇	—	◎	◎		学校生活の大部分を占める授業は生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに今日の教育の方法、技術においての情報機器及び教材の活用の観点から、視聴覚メディアと教育に関する理解も深めていくこととしたい。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、—は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		DS 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	数		
専門基礎	教職課程 ICTを活用した教育の理論と方法	I1901-207	2	L	2	◇	◇	—	◎	◎		一人一台タブレット端末の活用が始まり、学校では日常的にICTを活用している。そこで本講義は、教育現場におけるICTの活用の歴史的経緯、現状、今後の方向性を解説し、教育の情報化に加えて、タブレット等端末の効果的な活用を「個別最適な学びと協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」を関連させて理解しつつ、具体的なICT活用事例を紹介し、実際の指導場面に活かせるよう実践的、体験的な学習機会を設けることとする。
	生徒指導・進路指導論	I1901-303	3	F	2	◇	◇	—	◎	◎		生徒指導・進路指導は教科指導と並んで学校における教育活動の根幹をなすものです。ここでは、あらゆる教育活動をととして、自己管理能力を育成することが求められています。本授業においては、そのために必要な基本的な知識の修得を図ると同時に、より実践的な力の育成を目指し、でき得る限り体験的な活動をととして、児童生徒や保護者への具体的な対応について学びます。ケースメソッド、対話型グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れて、知識の定着を図り、問題解決能力を高めることをめざします。
	教育相談論	I1901-304	3	L	2	◇	◇	—	◎	◎		情報社会の現在、学校では、いじめ(ネットいじめ含む)・不登校・非行・学級崩壊・特別支援教育・中途退学など問題が山積している。いずれも教師による早期発見や早期対応がきわめて重要であり、教育相談の果たす役割は非常に大きい。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家とチームで子供達を支援することが求められている。その中で教師は、心理発達の視点を重視しつつ、カウンセリング、予防的・開発的教育といった教育相談に関わる基礎知識が必須のものとされている。本講では、教育相談の理論背景や歴史的経緯、扱う問題や課題の専門的知識等を学び、体験やディスカッションを通して支援方法を検討する。
	教育実習Ⅰ	I1901-305	3・4		3	◇	◇	—	◎	◎		4年次で実施する実習校での教育実習と本学での事前指導・事後指導からなる科目である。大学で修得した教職関係科目の基礎的理論を基に、教育実習を通して自らの適格性を具体的、実践的に検証させ、教員として必要な資質能力・実践的指導力をさらに高められるよう授業を進めていく。
	教育実習Ⅱ	I1901-401	3・4		2	—	◇	—		◎		4年次で実施する実習校での教育実習と本学での事前指導・事後指導からなる科目である。大学で修得した教職関係科目の基礎的理論を基に、教育実習を通して自らの適格性を具体的、実践的に検証させ、教員として必要な資質能力・実践的指導力をさらに高められるよう授業を進めていく。
	教職実践演習(中・高)	I1901-402	4	L	2	◇	◇	—	◎	◎		本演習はこれまでの学修について履修カルテを活用して振り返り、教員として必要な資質能力の最終的な確認と補填をおこなう。これまでの学びのまとめ(教職課程)として、「教科の指導力」「生徒理解や学級経営」「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」という4つの柱を重視する。
	情報と職業	I1901-306	3	F	2	◇	—	—	◎			高度に情報化・通信化された社会において、職業と自己形成、社会と職業との緊密な関係の展開方向について、講義を通じて理解を深めていく。その上で、学生自身が自己の職業観を形成し、社会における役割と責任を自覚することができるよう促し、生涯学習の観点に立ったキャリア形成ができるような取組みを提示していく。
	情報科教育法a	I1902-301	3	F	2	◇	—	—	◎			科学技術の発展にともない、社会が国際化・情報化へと急激に変化する中で、次代を担う高校生には、「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」ことが求められている。情報科の教科目標を踏まえ、「知識基盤社会」といわれる時代に適切に対応することができる能力・態度を育成するにはどうすればよいか、学生とともに考えながら講義を進める。また、実際の授業事例を取り上げ、授業で使用する教材を紹介しながら、指導案作成、模擬授業を実施し、具体的な指導方法について講義する。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	教職	数	D S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア							
専門基礎	教職課程	情報科教育法b	11902-302	3	L	2	◇	—	—	◎					共通教科「情報」および専門教科「情報」の授業における実際の教材、授業実践について事例をもとに学び、それぞれの授業の目的、教材の効果について理解し、教科の理念に則って適切な教材研究ができるようになることを目指します。また、生徒が各科目で学習する知識・技能を習得させるとともに、主体的な学習活動（いわゆるアクティブ・ラーニング）の視点を活かした授業設計ができるようになることを目標とします。
		数学科教育法a	11902-303	3	F	2	—	◇	—	◎					教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法a」では主として指導案の作成、模擬授業の実施、検討・評価という繰り返しの中で、教員としての豊かな人間性と、数学に対する専門知識、さらに数学教育に関する深い認識を養う。また、指導案作成時に教材の紹介をし、教材を活用した指導方法も養う。
		数学科教育法b	11902-304	3	L	2	—	◇	—	◎					教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法b」では学習指導要領への理解と各単元、テーマにおける教材研究を中心に数学の専門知識をいっそう確実にし、数学教育を自在に展開する力を大きくむ。
		数学科教育法c	11902-305	3	F	2	—	◇	—	◎					教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法c」では、指導案の作成、模擬授業の実施、検討・評価という繰り返しのほか、数学史にも目を向け、数学の専門知識および数学教育に関する認識の深化をはかる。
		数学科教育法d	11902-306	3	L	2	—	◇	—	◎					教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法d」では、各単元、テーマごとに具体的な教材を取り上げ、それらの考察から学習指導要領のねらいに対する理解を深め、創意工夫にみちた授業展開を行う力を育てる。
		学校インターンシップ	11901-208	2		2	◇	◇	—	◎	◎				教職課程を履修している学生が、連携校における情報科目や学校運営のサポートを行い、現場での体験を通して教職に就くために必要な実践的指導力の向上を図る。また、体験前に事前指導として、実習を行う学校の概要や担当する授業科目に理解を深め、生徒や教員に対する接し方のマナー等について指導する。体験中は、中間まとめとして、ふりかえりを行い、学生各自の課題と対応策を明確にする。体験終了後は、報告会において一人ひとり報告を行うとともに、レポートを提出する。
専門応用	情報システム	Webシステムプログラミング	11601-301	3	F	2	◎				△				本講義では、演習科目の「Webシステムプログラミング演習」とセットで、情報システムの代表的な形態であるWebシステムの設計、開発に必要な知識と技術の修得を行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース(DB)の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。
		Webシステムプログラミング演習	11601-302	3	F	1	◎				△				本演習科目では、講義科目の「Webシステムプログラミング」とセットで、主に実習を通して情報システムの代表的な形態であるWebシステムの設計、開発に必要な知識と技術の修得を行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース(DB)の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。
		システムプログラミング	11602-301	3	L	2	○					△			本講義では、演習科目の「システムプログラミング演習」とセットで、先進的なシステム開発に必要な専門知識・技能を修得する。具体的には、Web APIの活用と設計、開発フレームワークの基礎知識、オープンソースソフトウェアの活用、クラウド開発、開発管理などに取り組むことで、技術者に必要なコミュニケーションスキル、システム開発スキルを修得する。
		システムプログラミング演習	11602-302	3	L	1	○					△			本演習科目では、講義科目の「システムプログラミング」とセットで、主に実習を通して先進的なシステム開発に必要な専門知識・技能を修得する。具体的には、Web APIの活用と設計、開発フレームワークの基礎知識、オープンソースソフトウェアの活用、クラウド開発、開発管理などに取り組むことで、技術者に必要なコミュニケーションスキル、システム開発スキルを修得する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、—は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	D/S 応用基礎	授業概要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア					
専門応用	情報システム ネットワークセキュリティ論	11603-301	3	L	2	△			△			コンピュータシステムのセキュリティ問題について、物理的側面、ソーシャルエンジニアリング的側面、ソフトウェア的側面から解説したい。ソフトウェア的側面では、近年急速に普及しつつあるネットワーク(LAN、インターネット)上でのセキュリティホールとその防御法について講義する。セキュリティを向上させるには、逆に攻撃者(クラッカー)の攻撃手段を熟知することが必要不可欠であるので、その点についても詳しく講義したい。	
	ソフトウェア工学a	11604-301	3	F	2	○			*			ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェアライフサイクル、プロセスの標準化、要求分析からテスト工程・保守まで一貫した流れを学ぶ。	
	ソフトウェア工学b	11604-302	3	L	2	○			*			ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア品質管理、PMBOKなどの開発工程管理、リスク管理、人的管理などのソフトウェア開発の管理者に必要な技術と知識を学ぶ。	
	ネットワークプログラミングa	11603-302	3	F	2	○			*			情報社会の基盤技術の一つであるインターネット技術は、ネットワークの構築・運用とアプリケーション開発に大別される。 この授業ではネットワーク管理者およびネットワークアプリケーション開発者を育成することを目標に、実際にシステムを構築しながら学習を進める。 受講者はLinuxシステムを実際にインストールし、自らが管理者となってさまざまな設定やサービス提供する訓練を行う。 この演習はより理解度を深めるために、1回2コマの連続授業となっている。	
	ネットワークプログラミングa演習	11603-303	3	F	1	○			*			情報社会の基盤技術の一つであるインターネット技術は、ネットワークの構築・運用とアプリケーション開発に大別される。 この授業ではネットワーク管理者およびネットワークアプリケーション開発者を育成することを目標に、実際にシステムを構築しながら学習を進める。 受講者はLinuxシステムを実際にインストールし、自らが管理者となってさまざまな設定やサービス提供する訓練を行う。 この演習はより理解度を深めるために、1回2コマの連続授業となっている。	
	ネットワークプログラミングb	11603-304	3	L	2	○			*			情報社会における基盤技術であるインターネット技術は、ネットワークの構築・運用とアプリケーション開発に大別される。 この演習では、ネットワークシステムの管理者およびネットワークアプリケーションの作成者を育成することを目標に、実際にシステムを構築しながら学習を進める。 受講者は仮想マシン(VMWare)上に専用のLinuxシステムをインストールして、自らが管理者となって様々な設定を行いサービスを提供する訓練を行う。 この演習はより理解度を深めるために、1回2コマの連続授業となっている。 授業では毎回出席を取るの、遅刻、欠席(サボリ)は厳禁である。	
	ネットワークプログラミングb演習	11603-305	3	L	1	○			*			情報社会における基盤技術であるインターネット技術は、ネットワークの構築・運用とアプリケーション開発に大別される。 この演習では、ネットワークシステムの管理者およびネットワークアプリケーションの作成者を育成することを目標に、実際にシステムを構築しながら学習を進める。 受講者は仮想マシン(VMWare)上に専用のLinuxシステムをインストールして、自らが管理者となって様々な設定を行いサービスを提供する訓練を行う。 この演習はより理解度を深めるために、1回2コマの連続授業となっている。 授業では毎回出席を取るの、遅刻、欠席(サボリ)は厳禁である。	
	サイバーフィジカルシステムa	11604-303	3	F	2	○							現実空間と仮想空間を相互連携させたサイバーフィジカルシステムの開発について学習する。具体的には、マイクロコンピュータと各種センサを用いたセンシングおよびオープンデータの活用、取得したデータの可視化を行うシステムを開発する技術を学ぶ。
	サイバーフィジカルシステムb	11604-304	3	L	2	○							サイバーフィジカルシステムaに引き続き、サイバーフィジカルシステムの開発について学習する。具体的には、機械学習を用いた統計処理、その分析結果をフィードバックするWebシステムを開発する技術を学ぶ。また、ビッグデータを扱うためのデータベースを設計する技術を習得する。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	教職	職業	D S 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア							
専門応用	言語処理論	11604-305	3	L	2	△						*			最初にプログラミング言語の構文を厳密に定義するための形式的記述法を学ぶ。次に、コンパイラとインタプリタの機能・構造・機構について基本を学ぶ。また、Java 言語や C++ 言語の処理に必要な中間言語と仮想マシンの役割について理解を深める。
	人工知能b	11602-303	3	F	2	○	△	△					◎		本講義では、人工知能 a に引きつづき、人工知能の基礎を学ぶ。具体的には、機械学習、深層学習、ソフトコンピューティング、AI システムなどについての基礎的な知識を学ぶ。
	人工知能c	11602-304	3	L	2	△	△	△	△					△	本講義では、人工知能 b に引き続き、人工知能の応用などについて学ぶ。具体的には、データ収集、データ推移予測、モデルの評価、自然言語処理、ロボットや自動制御などについて学ぶ。
	ゲームプログラミングa	11604-306	3	F	2	△						*			2 年前後期の「プログラミング応用 a」[同 b]をうけて、ゲームソフトウェアを例に、ソフトウェアの設計と作成を行う上で必要な考え方と方法論の基礎を学ぶ。内容的には、C 言語を使って 2 D シューティングゲームを作成する。最終試験は定期試験として実施する。
	ゲームプログラミングb	11604-307	3	L	2	△						*			2 年前後期の「プログラミング応用 a」[同 b]および 3 年前期の「ゲームプログラミング a」をうけて、オブジェクト指向に基づくソフトウェア設計を行う上で必要な考え方と方法論の基礎を 3D ゲームソフトウェアを題材として学ぶ。プログラミング言語としては C++ を使い、3D プログラミングの基本も学習する。また、どのようにデザインすれば優れたゲームソフトウェアを作成できるのか、その方法を学習する。最終試験は定期試験として実施する。
	暗号理論a	11603-203	2	L	2	○							△		本講義では、整数論と計算量理論を基礎とする現代暗号理論のプリミティブとその役割を概観し、各暗号アルゴリズムのプログラミングについて学ぶ。
	暗号理論b	11603-306	3	F	2	○									本講義では現代暗号理論の応用分野や現代暗号分野に属するプロトコル、耐量子計算機暗号といった発展分野について学ぶ。
	情報通信ネットワーク論	11603-307	3	F	2	△						*			本講義では、情報通信ネットワークに関する基礎知識・基礎理論と応用技術の習得を目指す。前半は、情報通信ネットワークの基本技術である各層のプロトコルに関する理解を深め、その後、通信性能や通信品質に関する理解を深める。後半は、近年目覚ましい発展を遂げている無線通信で用いられているネットワーク技術(無線 LAN、無線 PAN、移動体通信(4G・5G)、近距離無線、IoT 向け無線通信(LPWA)など)に関する理解を深める。
データサイエンス	データマイニング	11703-301	3	L	2	△	△	△					◎		大量のデータから規則を導き出すデータマイニングについて、具体的な方法論を学習する。また、実際のビジネスの現場における活用について考える。
	応用統計学	11702-301	3	F	2	△	△	△					△		アンケート調査について、その計画と実施および収集したデータの解析を行うことができる能力が身に付いていること。
	データ解析システム	11703-302	3	F	2	△	△	△					◎		データの解析を行うには、データの収集から蓄積、前処理、分析、モデリング、検証などさまざまなプロセスを経ることになる。この各プロセスにおいては、アプリケーション、ツール、ライブラリなどのソフトウェアだけでなく、ネットワーク、コンピュータなどのハードウェアも含めた多くの技術を活用したシステムが必要となる。本講義では、データ解析におけるアプリケーションシステムに関連したさまざまな知識および技術について実例を通して解説する。
	データ可視化法	11703-303	3	L	2	△	△	△					△	△	データ分析においてはさまざまな分析手法を用いるが、そのなかでもデータをグラフなど視覚的に表し、その特徴を捉えることは分析の基本となる。データの種類や量、目的によった適切な可視化の技法を用いることで、データに潜んでいる有用な知見や関係性を明らかにすることができる。本講義では、人間の視覚認知の基礎からはじめ、基礎的なグラフからビッグデータ等複雑なデータに対する可視化といった手法を実際の演習を通して学ぶ。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		DS 応用基礎	授業概要	
						情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	数			
専門応用	データサイエンス	II703-304	3	F	2		△			△		物理現象や生態系の現象、社会現象などの様々な数理モデルの数値シミュレーションを行う場合、最終的にはコンピュータによる数値計算処理が必要となる。本講義では、連立1次方程式の数値解法、数値積分、常微分方程式の数値解法、さらに非線形方程式の数値解法の考え方や具体的なアルゴリズム構成法、留意点などについて習得する。また、受講者自らプログラミングを行うことにより、学習の理解を深める。	
	最適化理論	II703-305	3	L	2		△			△		近年注目されている機械学習においても、最適化理論などの応用数学が用いられている。本講義では、Pythonによる演習を交えながら、数理最適化の基礎について学ぶ。この上で、機械学習において利用されている最適化理論についても理解を深める。	
	計算機数論	II703-203	2	F	2	△	△			*		本講義では、整数、素数、公倍数、公約数、Euclid algorithm、類、原始根といった整数論の基本的事項と計算機を用いた整数論について学ぶ。	
	整数論	II701-209	2	L	2		△			△		整数論の中心的話題である素数の理論について、代数的な側面から学ぶ。授業は講義形式で行うが、演習課題を交えながら実施し、これを通して数学的思考力を身につける。	
	微分方程式論	II701-301	3	F	2		△			*		初等的な微分方程式を中心に、その解法や、解の性質について学んでいく。	
	符号理論	II701-302	3	F	2	△	△			*		本講義では、符号の数理として、情報量、圧縮符号、誤り訂正符号、通信路容量などを学ぶ。	
	心理学実験 I	II704-301	3	F	1		△						本講義では基礎的な心理学実験を通じて、日常現象の観察だけでは分からない心の働きについて詳しく知る。そのために、受講者が自ら実験者、被験者となって実験、観察、調査を行う。
	心理学実験 II	II704-302	3	L	1		△						本講義では基礎的な心理学実験を通じて、日常現象の観察だけでは分からない心の働きについて詳しく知る。そのために、受講者が自ら実験者、被験者となって実験、観察、調査を行う。
	心理アセスメント演習	II704-303	3	L	1		△						心理臨床の場において、心理支援を実施していくためには、クライアントの心理アセスメントが必要である。このアセスメントに大きな役割を果たすものが、長期にわたって開発され、信頼性と妥当性の検討されてきた各種心理検査法である。そこで、本授業では「心理アセスメント論」の授業で学んだ知能検査、メンタルヘルス検査、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実際に受講者が心理検査を実習体験し、検査方法や解釈を学んでいく。授業時間前半に検査法の概略を説明し、後半に検査法を実習する。その後、実習の結果をまとめ、報告書を作成し提出する。
	メンタルヘルスケア演習	II704-304	3	L	1		△						心理臨床の場において必要とされる具体的な心理支援方法に関する基礎的知識を取り上げる。本授業では「臨床心理学概論」「メンタルヘルスケア論」で取り上げた心理支援方法やカウンセリング技法を紹介し、受講者はモデリング、ロールプレイ、ワーク、更にはクライアントとしてのセラピー体験などの実習を通じて、技法の理解と取得を進めていく。実習することで、心理支援方法を体験的に理解し、将来の心理臨床の学びに役立つものとなる。本授業は実習ごとに課題があり、受講者はその課題の結果をまとめ、報告書を提出する。
メンタルヘルスケア論	II704-305	3	F	2		△	△					現代は「ストレス社会」の側面がある。悪性ストレスは、心ばかりでなく身体にも否定的な影響を与え、生活習慣病や精神疾患の原因の一つになる。また、思春期・青年期におけるメンタルヘルス不調や不登校、退学、ゲーム依存、自傷行為などの問題、成人期以降における休職、抑うつ、アルコール・薬物依存、自殺などの問題もその背後に悪性ストレスの影響を考えていく必要がある。そこで、本授業は、いかにして健康なメンタルヘルスを維持していくことができるか、臨床心理学の知識を基に、心理支援方法としてのカウンセリングやセラピーの理論と技法を講義から学んでいく。更に、自己の生き方についてもカウンセリング・セラピーとの関連で考察する。	

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	職数	D S 応用基礎	授 業 概 要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア							
専門応用	データサイエンス	生命情報学演習	II704-306	3	F	1		△							本授業では、生命情報学で扱う大量のデータから生物学的意味を見出すための解析ツールやデータベースについて習得する。また特にタンパク質のデータを中心として、Pythonを用いた基礎的なバイオインフォマティクス解析手法を習得する。
		生命情報解析学	II704-307	3	F	2		△							本授業では、生命情報解析に必要なとされる生命現象や遺伝に関する理解、そしてグローバル規模で展開されている解析プロジェクトやデータベース等について理解することを目的とする。また、特に次世代シーケンサーから得られる配列情報を中心とした解析ツールやデータベースの取り扱い方について説明する。
		生命情報解析学演習	II704-308	3	L	1		△							本授業では、主にゲノム情報を中心とする生命情報解析において代表的な解析ツールやデータベースの取り扱い方について理解することを目的とする。また、特にLinux環境下での解析やファイル操作、R言語によるデータの可視化について習得する。
		環境解析論	II704-309	3	F	2		△							本講義では生態系(ecosystem)をひとつのシステムと考え、その構成要素のひとつである植物・植生に着目しながら、その組成や構造、維持・更新機構、環境要因との関係について概説する。コンピュータ演習ではRを用いた植物・植生データの解析手法について学ぶ。
		環境調査演習	II704-310	3	L	1		△							本講義では生態系(ecosystem)をひとつのシステムと考え、その構成要素のひとつである植物・植生と環境要因との相互作用について現地実習を通して学ぶ。また、地理情報システムやリモートセンシングでの解析に必要な環境情報の抽出方法や、GPS・UAVなどの機器を用いた調査・解析手法を、現地実習をととして習得する。
		環境リモートセンシング	II704-311	3	L	2		△							衛星搭載センサーから地表面、海洋などの地球環境が観測され、環境研究に利用されてきた。ここでは、環境情報システムのエンドユーザとして、衛星情報処理ソフトウェアを利用し、衛星観測データの取り扱い手法について学習し、環境に関する研究へ利用可能な形態とする手法を学習する。特に、本学において受信処理するMODISデータの環境研究への利用手法を学習する。
		物体・画像認識演習	II704-312	3	F	1		△							画像処理・画像認識用のPython言語ライブラリであるOpenCVを用いて静止画や動画を処理する演習授業である。画像情報論やパターン認識の講義で学んだ理論を基に実際のデジタル画像に適用し実習する。また、基本アルゴリズムを組み合わせることで一つのソフトウェアを構築する演習を行う。
		パターン認識と機械学習	II704-313	3	F	2	△	△	△					△	現実世界にある3次元の物体の形状情報をコンピュータ内に表現するモデリングやディスプレイなどに表示できる2次元の画像の変換作業、そして時間に伴う対象世界の変化をアニメーションなどについて学習を行う。実際にコンピュータを用いて目的の画像を生成・加工する段階で必要となる基本的事項を習得する。
情報メディア	映像制作論a	II801-210	2	L	2			△							映像制作論Ⅰは映像表現基礎Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえた上グループワークで作品制作に取り組みます。ヒッチコックの映画と『映画術 ヒッチコック/トリュフォー』を参照しながら、ダイアログ(台詞)を用いることなく、映像だけでストーリーを語ることを、観客の感情に働きかけることを目標とし、サスペンスやホラーといったジャンルの短編映画を制作していきます。
	映像制作論b	II801-302	3	F	2			△							2000年代に入って映像制作は急速にデジタル化し、ノンリニア編集だけでなく、ミラーレス一眼、GoPro(アクションカメラ)、ドローン、360度カメラといった撮影機器が登場し、さらにコロナ禍ではライブ配信が普及しました。こうした新しい映像コンテンツ、映像メディアの可能性を作品制作を通して考察します。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		DS 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	数		
専門応用	情報メディア 身体表現	11801-303	3	F	2			△				身体表現といえば、バレエ、ダンス、パントマイム、サーカスといった一連のパフォーマンスを思い浮かべるかもしれません。しかし、演劇や映画はもちろんのこと、司会や朗読などにおいても身体は重要な役割を果たしています。ある人物の固有の身体がもたらす魅力はデジタル時代においても変わることはないでしょう。また、私たちは日常生活において、身体を通して他者と非言語的なコミュニケーションを行っています。この授業ではそうした日常的な身体表現（パフォーマンス）を考察することから始め、演劇やダンス、朗読の課題に取り組むことを通じて、身体が生み出す多様な表現とその可能性について学びます。
	スクリーンライティング	11801-211	2	F	2			△				「映画」は映画館の銀幕だけでなく、テレビやコンピュータモニター、スマートフォンといった多様な二次元の平面で鑑賞されるようになりました。また「映画」は、テクノロジーの進歩によって、新しい表現を次々と生み出してきました。その一方で、ストーリーに関していえば、1920年代のサイレント映画から現在の3Dアニメーション映画に至るまで大きな変化があったとは言えません。この授業では時代を超えて変わることのないストーリーテリングの技法を考察します。また、「映画」においては小説のように内面を語ったり、演劇のように台詞だけに頼って書くことはできません。「映画」特有のシナリオの書き方についても実践を通して学んでいきます。
	感性音響学	11801-304	3	F	2			△				音や音楽に対しての定量的かつ再現性のある感性評価方法について学ぶ。また、音や音楽によって人間の感性に動きかける技術や手法について学ぶ。
	音響技術Ⅱ	11801-212	2	L	2			△				スマホ、テレビ、パソコンなど、現代のメディア機器で使用される音響技術について、その原理と仕組み、適用できる範囲を学ぶ。また、それらの音響技術のソフトウェアによる実現方法を、実習を交えて学ぶ。また、録音および再生におけるマイクロホンおよびスピーカの取り扱いについて、実習および実演を交えて学ぶ。
	出版メディア論	11802-301	3	F	2			△				出版の基礎概念、現代に至る出版産業の発展の経緯を学び、その特徴、可能性、課題を具体的に専門的に理解する。編集の仕事、印刷・製本のプロセス、さらに読者の開拓に至るまでを多くの事例から学ぶ。またパソコン、ケータイ、インターネットの普及により、現代人の読む行為に大きな変化が起きているが、これに対する現代の出版メディアの取り組みを取り上げる。
	現代社会学	11802-302	3	L	2			△				現代社会を理論と現実の2つの視角から全体として理解してゆく。情報社会と呼ばれる現代社会ではあるが、その背後には生きた人間の生活がある。現代社会は、多くの社会問題を抱えている。本講義では、日本社会の根底にある問題について理論と事例の検討を加える。
	情報政治学	11802-303	3	F	2			△				情報の生産流通消費を個人が行えるようになって、情報過多と情報疎外が同時に到来する時代となった。「知らないことは許されない」時代となった。しかし、情報の管理統制ははたして個々人の「自由」において行えるものなのであろうか。「知らないことは許されない」のは、誰のために、なぜなのか。そこには情報それ自体ではなく情報を扱う人や組織・集団が関与している。このようなメカニズムを、情報を構成する言語・シンボルの機能に着目して、政治（人が人を動かすことで価値を「動かす」、これを「政治」と本講義では呼ぶ）を動的に捉える。具体的には、現代日本の政治を、政治学、政治経済学、マス・コミュニケーション論、行政学、政治過程論、の視点から概説する。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必修区分			情報	職数	DS 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア				
専門応用	ジャーナリズム論	11802-304	3	L	2			△				ジャーナリズムはマス・メディアだけにあるのではない。ソーシャルメディアにもその機能が求められているのは、違法行為を自らの情報をさらしてまで開示しようとする人たちが顕在化したことから明らかであろう。また、だからといってマス・メディアの持っている法規制や倫理をそのまま声高に求めることを求めているのではない。情報の収集と編集および公開といった過程に「公益」が価値として求められることを、マスメディアとくに新聞がその歴史の中で培ってきた。反面人々の噂やフェイクニュース、スキャンダル記事を用い、同時に権力の愛玩犬として力と資金のある強者に阿って「戦争と災害で大きくなった」という負の側面も持っているのが新聞などのマス・メディアである。ソーシャルメディアをより公益性をもたせるために、マスメディアの持っている(た)ジャーナリズム性を歴史、理論、比較を通じて明らかにすることを本講義の目的とする。
	異文化コミュニケーション論	11802-305	3	L	2			△				多国籍化・多文化化が進む今日の社会においては、お互いを尊重しながら良好な関係を築くためのコミュニケーションが欠かせない。この講義では、国、地域、言語、ジェンダー、世代など「異文化性」を感じる相手とのコミュニケーション全般を対象とする。まず自分の文化を認識することから始め、文化とコミュニケーションの関係性を多様な視点から考える。文化背景の異なる人々と接触し関係を築く過程でどんなことが起こるのかを具体的事例から学び、異文化コミュニケーションに必要な柔軟で積極的な態度と方法を身につける。
	マーケティング・コミュニケーション論	11803-301	3	F	2			△				マーケティングの基本的な理論と関係性の構築について講義する。マーケティングの考え方は、製品やサービスだけでなく地域などにも適用可能であり、その応用範囲はきわめて広い。本講義においては理論と事例を織り交ぜながら、マーケティングに対する理解を深めることを目的とする。そのうえで様々な関係主体との双方向のコミュニケーションのあり方や重要性について学ぶ。
	金融論	11803-302	3	F	2			△				講義では、金融の基礎的な知識を固めるために、経済活動における金融システムの位置付けや金融市場の機能について学習する。さらに我が国における金融市場発展の歴史を制度的側面を含めて理解する。また、我が国における金融制度を理解した上で、その課題と展望を俯瞰する。併せて、消費者金融教育の必要性と方法についても説明する。
	経営戦略論	11803-303	3	F	2			△				経営戦略論の代表的な理論やフレームワークについて講義を行う。今日の企業が直面する戦略上の課題は多岐にわたり、さまざまな切り口による研究が行われている。それらの中から特徴的な事例を複数取り上げ、経営戦略に関する理解を深めていく。さらに、事例についての体系化、一般化、概念化を行う。
	経営ケーススタディ	11803-304	3	F	2			△				経営・経済の環境変化に応じながら、企業は柔軟にビジネスモデルを対応させている。講義では、企業が経営革新を遂げて成功した事例や、失敗した事例などを取り上げ学習する。具体的には、成功してケーススタディとして、日本人による食への意識変化に順応することができず一時は倒産しながらも再生を遂げた飲食関連企業や、失敗したケーススタディとして、規制緩和により新規参入を急ぎ過ぎて失敗した航空業界のベンチャー企業などを取り上げる。
	中小企業論	11803-305	3	L	2			△				中小企業のメカニズム、発展段階別マネジメントのあり方、資金調達の導入、株式公開といった観点から確立することを目指す。前半は講師による中小企業の経営に関する講義、後半は受講生を幾つかのグループに分けた上で各グループが発表を行い、具体的なケーススタディ(成長を遂げた企業の成功事例や、一方で成長機会を捉えることが出来なかった失敗事例)を通して中小企業が利益成長を遂げる鍵について議論・考察する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必修区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	科目No.	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		DS 応用基礎	授業概要
						情報システム	データサイエンス	情報メディア	情報	数		
専門応用	情報メディア マーケティング 戦略論	I1803-306	3	L	2			△				企業におけるマーケティング戦略を、ケーススタディ形式で講義する。今日の企業活動においてマーケティングの果たす役割はますます大きくなってきており、日本経済の停滞や市場のグローバル化などの要因によって、企業間の競争が激しさを増していることなどが、その背景にある。このため、マーケティング戦略の基本的なスタンスを整理した上で、先進的な事例を紹介しながらマーケティング戦略構築のプロセスを説明する。
	ブランドマネジ メント論	I1803-307	3	L	2			△				企業には、自社の経営理念と事業戦略に基づいて管理されるべき企業ブランドがある。一方で、市場で顧客との接点となるべく生み出される製品ブランドがある。この2つの視点に基づいて、ブランドマネジメントのあり方について理解する。
卒業研究	専門演習	I1400-207	2	L	1	◎	◎	◎				本演習科目では、3年次からのゼミ選択を意識させ、希望する研究室へ所属し、ゼミの学びについて理解させる。また、卒業研究に必要な専門的知識・技術の基礎を理解させる。最終的に研究室やゼミで必要となる学びを確認、又は履修計画を策定し、各自が希望しているゼミを理解して選択できるようにする。
	卒業研究 I	I1400-304	3		4	◎	◎	◎				各ゼミの教員のもとで卒業論文を視野に入れた研究活動を行う。あわせて、ゼミでの学びをとらして興味のある知識や技術を複合的に習得すると共に企業や組織の中で多様な人々とともに仕事を行っていくうえで必要である社会人基礎力を身につける。これにより、自律的・主体的に学習する意欲を引き出す人材を養成する。
	卒業研究 II	I1400-401	4		6	◎	◎	◎				3年次の卒業研究Iを通して身につけた幅広い思考能力や応用能力をもとにして、卒業研究の成果を卒業論文として纏める。少人数演習形式で、各ゼミの教員のもとで、研究をおこない、必要な専門知識や社会人として要求される総合力を身に付ける。卒業論文でおこなった研究内容を主催する卒業論文発表会において発表し、質疑応答の技術を習得する。

4. 学系制

1) 総合情報学部総合情報学科の教育体系

総合情報学部総合情報学科は、教育目標及び人材育成の目的を達成するために3つの学系（「情報システム学系」「データサイエンス学系」「情報メディア学系」）を設置しています。また、各学系には、専門の研究分野に分けて研究室を設置しています。2年次後期から研究室に所属しますが、その研究室が必要とする専門的な基礎・応用の知識・技術が修得できるように履修モデルを設けています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期～3,4年	履修モデル
共通	いずれかの学系を選択し所属する		いずれかの研究室を選択し所属する (複数教員指導体制) 3年次から指導教員のゼミに所属する	所属を希望する研究室の履修モデルを参考に授業科目を履修する
基礎教育	情報システム学系 (ヒトとモノの融合による、総合的な情報システムを学ぶ) 高校一種「情報」免許取得可	AI・システムデザイン研究室	AI・システムデザイン	
		ゲーム・IoT研究室	ゲーム・IoT	
		ネットワーク・セキュリティ研究室	ネットワーク・セキュリティ	
	データサイエンス学系 (データに埋もれた知識を解き明かし、価値ある未来を創るための方法を学ぶ) 中高一種「数学」免許取得可	データサイエンス基盤研究室	データサイエンス基盤	
		生命・環境科学研究室	生命・環境科学	
		心理学研究室	心理学	
	情報メディア学系 (情報とメディアで新しい価値を創る)	メディアデザイン研究室	メディアデザイン	
		メディア文化研究室	メディア文化	
		経営情報研究室	経営情報	

(1) 学系選択について

1年次前期（7月頃）に、所属する学系を希望調査し、後期から学系に所属します。

※学系ごとに授業科目の必選区分が違うので、授業科目表で確認してください。

(2) 研究室選択について

2年次前期（6～7月）に所属する研究室を希望調査し、後期から研究室に所属します。

※研究室ごとに必要な知識・技術が異なります。履修モデルを参考に履修登録してください。

(3) ゼミ（指導教員）選択について

2年次後期（11～12月）に研究活動の指導を受ける指導教員を希望調査し、3年次前期からゼミに所属します。



2) 学系別科目配当表

《情報システム学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目	◇教職科目	
1	前期	情報リテラシー演習 情報社会とAI 英語a 英語c 日本語a(※) 日本語c(※) 基礎演習 知識創造の方法 統計学 プログラミング入門 総合情報学概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d	哲学概論 ｽｽﾞｰﾄと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 市民活動論 人権・ジェンダー 基礎数学入門 基礎数学a 環境学 健康科学		教職概論	
	後期	英語b 英語d 日本語b(※) 日本語d(※) 経営と情報 ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽ概論 情報分析基礎 学系基礎演習a 情報システム学概論 IT基礎技術論 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 情報ネットワーク概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d	ｽｽﾞｰﾄと文章作法 文化人類学 心理学概論 情報法 社会学概論 基礎数学b 生命倫理 数理学 情報数学a 推測統計学 ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽﾌﾗｲｯｸｽ論 情報ｽｽﾞｰｼﾞ演習	離散数学a 確率論 分子生物情報学 映像ｽｽﾞｰｼﾞ表現 映像表現基礎 I 音響ｽｽﾞｰｼﾞ演習 経営学概論	教育原理	
2	前期	学系基礎演習b プログラミング応用a プログラミング応用a演習	中国語a ﾊﾝｸﾞﾙ・韓国語a ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽ英語a ﾋﾞｼﾞﾆｽ英語a ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造a ｼｽﾃﾑ設計論a 情報通信ｼｽﾃﾑ論a Unix論a	日本の社会と生活文化(※) 情報ｼｽﾃﾑｱｰｷﾃｸﾁヤ ﾄﾞﾚｰﾝ工学 情報数学b 情報分析応用 心理ﾃﾞｰﾀ解析 Webﾃﾞｰﾀｲﾝ演習 ゲーム制作基礎 社会調査法 計算機数論	離散数学b 代数学a 幾何学a 解析学a 臨床心理学概論 認知心理学 心理ｱﾚｷｽﾄ論 計算生物学概論 地理情報ｼｽﾃﾑa	映像表現基礎 II ﾄﾞｷｬﾝﾄﾞﾘｰ制作入門 音響技術 I ｺﾐｬﾝｼﾞｬﾝｼﾞｮﾝ論 ﾏｽｽﾞｰｼﾞ演習 経営組織論 国際経済と金融概論 ｽｸﾘｰﾝﾗｲﾃｲﾝｸﾞ	教育制度論 教育心理学 学校ｲﾝﾀｰﾈｯｼﾞｬﾝｽ (通年)
	後期	プログラミング応用b プログラミング応用b演習 専門演習	中国語b ﾊﾝｸﾞﾙ・韓国語b ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽ英語b ﾋﾞｼﾞﾆｽ英語b ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造b ｼｽﾃﾑ設計論b 情報通信ｼｽﾃﾑ論b Unix論b 人工知能a 暗号理論a	ｷﾏﾘｱﾃﾞｰｼﾞﾀﾙ ﾋﾞｼﾞﾆｽｺﾐｬﾝｼﾞｬﾝｼﾞｮﾝ(※) ﾃﾞｰﾀﾊﾞｰｽ論 多変量解析 人間関係論 ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽﾌﾗｲｯｸｽ基礎	ﾃﾞｰﾀ処理論 代数学b 幾何学b 解析学b 心理学研究法 学校心理学 生命情報学 環境情報論 地理情報ｼｽﾃﾑb 画像情報論	ｼﾞｬﾝﾄﾞﾃﾞｰｼﾞﾀﾙ 視覚ﾃﾞｰｼﾞﾀﾙ論 知覚心理学 文化社会論 社会心理学 海外事情 マーケティング論 整数論 映像制作論a 音響技術 II	特別支援教育 教育課程編成論 道徳教育の理論と方法 教育方法論 ICTを活用した教育の理論と方法
3	前期	Webｼｽﾃﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ Webｼｽﾃﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ 演習 卒業研究 I (通年)	ｼﾞｮｲﾝﾄ工学a ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ a ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ a演習 ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ a 人工知能b 暗号理論b	ｷﾏﾘｱﾃﾞｰｼﾞﾀﾙ ｲﾝﾀｰﾈｯｼﾞｬﾝｽ (通年) ﾘｸﾙｰﾄｺﾐｬﾝｼﾞｬﾝｼﾞｮﾝ(※) ゲームプログラミング a 情報通信ネットワーク論 応用統計学 ﾃﾞｰﾀ解析ｼｽﾃﾑ 符号理論 ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ認識と機械学習	数値計算プログラミング 微分方程式論 心理学実験 I ｽﾀｼﾞｱﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ 生命情報学演習 生命情報解析学 環境解析論 物体・画像認識演習	映像制作論b 身体表現 感性音響学 出版ｽｽﾞｰｼﾞ演習 情報政治学 マーケティング・ｺﾐｬﾝｼﾞｬﾝｼﾞｮﾝ論 金融論 経営戦略論 経営ｸﾞﾚｰｽﾀｼﾞｱｲ	総合的な学習の時間の理論と方法 生徒指導・進路指導論 情報と職業 情報科教育法a 教育実習 I (通年)
	後期		ｼｽﾃﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ ｼｽﾃﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ 演習 ｼﾞｮｲﾝﾄ工学b ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ b ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ b演習 ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ b	ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬﾝｽﾌﾗｲｯｸｽ演習 ﾈｯﾄﾜｰｸセｷｬﾘﾃｲ論 言語処理論 人工知能c ゲームプログラミング b ﾃﾞｰﾀﾏｲﾝｸﾞ ﾃﾞｰﾀ可視化法	最適化理論 心理学実験 II 心理ｱﾚｷｽﾄ演習 ｽﾀｼﾞｱﾑｱﾌﾟﾘｶｼﾞｮﾝ演習 生命情報解析学演習 環境調査演習 環境ﾊﾞｲｮﾚｼﾞｮﾝ	現代社会学 ｼﾞｬｰﾈﾗﾙｽﾀｼﾞｱｲ論 異文化ｺﾐｬﾝｼﾞｬﾝｼﾞｮﾝ論 中小企業論 マーケティング戦略論 ﾌﾟﾗﾝﾄﾞ ﾏｼﾞ ﾏｲ ﾏｲ	特別活動の理論と方法 教育相談論 情報科教育法b
4	前 後	卒業研究 II (通年)				教育実習 I (通年) 教職実践演習(中・高)	

【備考】

授業科目名に(※)が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。

《データサイエンス学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目	◇教職科目	
1	前期	情報リテラシー演習 情報社会とAI 英語a 英語c 日本語a(※) 日本語c(※) 基礎演習 基礎数学a 知識創造の方法 統計学 プログラミング入門 総合情報学概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d	哲学概論 ｽﾄｰﾄと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 市民活動論 人権・ジェンダー 基礎数学入門 環境学 健康科学		教職概論	
	後期	英語b 英語d 日本語b(※) 日本語d(※) 基礎数学b 経営と情報 コンピュータ概論 情報分析基礎 学系基礎演習a プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 情報数学a データサイエンス概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d 離散数学a 推測統計学 確率論 分子生物情報学	ｽﾄｰﾄと文章作法 文化人類学 心理学概論 情報法 社会学概論 生命倫理 数理論 IT基礎技術論 ネットワークとセキュリティ	映像メディア表現 映像表現基礎Ⅰ 音響メディア論 コンピュータグラフィックス論 情報メディア論 経営学概論	教育原理	
2	前期	学系基礎演習b 情報数学b	中国語a ハングル・韓国語a コンピュータ英語a ビジネス英語a 離散数学b 情報分析応用 代数学a 幾何学a 解析学a 臨床心理学概論 心理データ解析 計算生物学概論 地理情報システムa 社会調査法	日本の社会と生活文化(※) プログラミングとデータ構造a Unix論a 情報システムアキテクト 認知心理学 心理テスト論 計算機数論	システム設計論a プログラミング応用a プログラミング応用a演習 情報通信システム論a ドローン工学 映像表現基礎Ⅱ ドキュメンタリー制作入門 音響技術Ⅰ Webデザイン演習 ゲーム制作基礎 コミュニケーション論 メディア論 経営組織論 国際経済と金融概論 スリートライティング	教育制度論 教育心理学 学校インテグレーション	
	後期	専門演習	中国語b ハングル・韓国語b コンピュータ英語b ビジネス英語b 代数学b 幾何学b 解析学b 画像情報論	キャリアデザインa ビジネスコミュニケーション(※) プログラミングとデータ構造b Unix論b 人工知能a データ処理論 データサイエンス管理システム 多変量解析 心理学研究法 人間関係論 学校心理学 生命情報学 環境情報論 地理情報システムb 整数論	システム設計論b プログラミング応用b プログラミング応用b演習 情報通信システム論b サウンディングデザイン コンピュータグラフィックス基礎 視覚デザイン論 知覚心理学 文化社会論 社会心理学 海外事情 マーケティング論 暗号理論a 映像制作論a 音響技術Ⅱ	特別支援教育 教育課程編成論 道德教育の理論と方法 教育方法論 ICTを活用した教育の理論と方法	
3	前期	卒業研究Ⅰ(通年)		キャリアデザインb インターンシップ(通年) リポートコミュニケーション(※) 人工知能b 応用統計学 データ解析システム 数値計算プログラミング 微分方程式論 符号理論 心理学実験Ⅰ メンタルヘルスマネジメント 生命情報学演習 生命情報解析学 環境解析論 物体・画像認識演習 パターン認識と機械学習	Webシステムプログラミング Webシステムプログラミング演習 ソフトウェア工学a ネットワークプログラミングa ネットワークプログラミングa演習 サイバーセキュリティシステムa ゲームプログラミングa 暗号理論b 情報通信ネットワーク論	映像制作論b 身体表現 感性音響学 出版メディア論 情報政治学 マーケティング・コミュニケーション論 金融論 経営戦略論 経営ケーススタディ	総合的な学習の時間の理論と方法 生徒指導・進路指導論 数学科教育法a 数学科教育法c 教育実習Ⅰ(通年) 教育実習Ⅱ(通年)
	後期			人工知能c データマイニング データ可視化法 最適化理論 心理学実験Ⅱ 心理テスト演習 メンタルヘルスマネジメント演習 生命情報解析学演習 環境調査演習 環境リポート作成	コンピュータグラフィックス演習 システムプログラミング演習 システムプログラミング演習 ネットワークセキュリティ論 ソフトウェア工学b ネットワークプログラミングb ネットワークプログラミングb演習 サイバーセキュリティシステムb	言語処理論 ゲームプログラミングb 現代社会学 ジャーナリズム論 異文化コミュニケーション論 中小企業論 マーケティング戦略論 ブランドマネジメント論	特別活動の理論と方法 教育相談論 数学科教育法b 数学科教育法d
4	前期	卒業研究Ⅱ(通年)				教育実習Ⅰ(通年) 教育実習Ⅱ(通年)	
	後期					教職実践演習(中・高)	

【備考】

授業科目名に(※)が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。



《情報メディア学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目		
1	前期	情報リテラシー演習 情報社会とAI 英語a 英語c 日本語a(※) 日本語c(※) 基礎演習 知識創造の方法 統計学 プログラミング入門 総合情報学概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d	哲学概論 ｽｽﾞｰｼﾞと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 市民活動論 人権・ジェンダー	基礎数学入門 基礎数学a 環境学 健康科学		
	後期	英語b 英語d 日本語b(※) 日本語d(※) 経営と情報 ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰ概論 情報分析基礎 学系基礎演習a 情報ｽｽﾞｰｼﾞ概論	ｽｽﾞｰｼﾞ演習a ｽｽﾞｰｼﾞ演習b ｽｽﾞｰｼﾞ演習c ｽｽﾞｰｼﾞ演習d 映像ｽｽﾞｰｼﾞ表現 映像表現基礎Ⅰ 音響ｽｽﾞｰｼﾞ理論 ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰﾗｲﾌﾞｽﾞｰｼﾞ論 情報ｽｽﾞｰｼﾞ理論 経営学概論	ｽｽﾞｰｼﾞと文章作法 文化人類学 心理学概論 情報法 社会学概論 基礎数学b 生命倫理 数理科学	情報数学a 推測統計学 ネットワークとセキュリティ	IT基礎技術論 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 離散数学a 確率論 分子生物情報学	
2	前期	学系基礎演習b	中国語a ﾊﾝｸﾞﾙ・韓国語a ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰ英語a ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語a 情報分析応用 映像表現基礎Ⅱ ﾄﾞｷｬﾝﾄﾞﾘｰ制作入門 経営組織論 国際経済と金融概論	日本の社会と生活文化(※) ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造a 情報数学b 臨床心理学概論 認知心理学 心理ｱﾍﾞﾈﾝﾄ論 心理ﾃﾞｰﾀ解析	音響技術Ⅰ Webｱﾌﾞﾞﾞﾞ演習 ﾌﾞﾞﾞ制作基礎 ｺﾐｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ論 ｽｽﾞｰｼﾞ理論 ｽｽﾞｰｼﾞ理論 社会調査法 ｽｸﾘｰﾝﾗｲﾌﾞｲﾝｸﾞ	ｼｽﾃﾑ設計論a ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 応用a ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 応用a演習 情報通信ｼｽﾃﾑ論a Unix論a 情報ｼｽﾃﾑｱｰｷﾃｸﾁャ ﾄﾞﾚｰﾝ工学	離散数学b 代数学a 幾何学a 解析学a 計算生物学概論 地理情報ｼｽﾃﾑa 計算機数論
	後期	専門演習	中国語b ﾊﾝｸﾞﾙ・韓国語b ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰ英語b ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語b	ｷﾞﾗﾌﾞﾞﾞﾞﾞﾞ ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ(※) ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造b 人工知能a ﾃﾞｰﾀ処理論 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ管理ｼｽﾃﾑ 多変量解析 心理学研究法 人間関係論 学校心理学 画像情報論 ｶﾞﾗﾌﾞﾞﾞﾞﾞﾞ ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰﾗｲﾌﾞｽﾞｰｼﾞ基礎	視覚デザイン論 知覚心理学 文化社会論 社会心理学 海外事情 ﾏｰｸﾃｲﾝｸﾞ論 映像制作論a 音響技術Ⅱ	ｼｽﾃﾑ設計論b ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 応用b ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 応用b演習 情報通信ｼｽﾃﾑ論b Unix論b 代数学b 幾何学b 解析学b 生命情報学 環境情報論 地理情報ｼｽﾃﾑb 暗号理論a 整数論	
3	前期	卒業研究Ⅰ(通年)		ｷﾞﾗﾌﾞﾞﾞﾞﾞﾞ ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(通年) ﾘｸﾞﾙﾄﾞｺﾐｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ(※) 人工知能b 応用統計学 ﾃﾞｰﾀ解析ｼｽﾃﾑ ﾓﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞｽｸﾗ ﾊﾞﾀｰﾝ認識と機械学習 映像制作論b	身体表現 感性音響学 出版ｽｽﾞｰｼﾞ理論 情報政治学 ﾏｰｸﾃｲﾝｸﾞ・ｺﾐｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ論 金融論 経営戦略論 経営ケースｽﾀﾃﾞｲ	Webｼｽﾃﾑﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ Webｼｽﾃﾑﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 演習 ｼﾞｬｰｼﾞｬｰ工学a ネットワークﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ a ネットワークﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ a演習 サイﾊﾞｰﾌﾞﾞﾞﾞ ｶﾙｼｽﾃﾑa ﾌﾞﾞﾞﾞ ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ a 暗号理論b 情報通信ネットワーク論	数値計算ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 微分方程式論 符号理論 心理学実験Ⅰ 生命情報学演習 生命情報解析学 環境解析論 物体・画像認識演習
	後期		ｺﾝﾋﾞｰｼﾞｬｰﾗｲﾌﾞｽﾞｰｼﾞ演習 人工知能c ﾃﾞｰﾀﾐﾝｸﾞ ﾃﾞｰﾀ可視化法 現代社会学 ｼﾞｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ論 異文化ｺﾐｬｰｼﾞｬｰｼﾞｬｰ論 中小企業論 マーケティング戦略論 ﾌﾟﾗﾝﾄﾞ ﾏﾞｼﾞ ﾏﾞｼﾞ 論		ｼｽﾃﾑﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ ｼｽﾃﾑﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ 演習 ネットワークセキュリティ論 ｼﾞｬｰｼﾞｬｰ工学b ネットワークﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ b ネットワークﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ b演習 サイﾊﾞｰﾌﾞﾞﾞﾞ ｶﾙｼｽﾃﾑb 言語処理論 ﾌﾞﾞﾞ ﾌﾟﾚﾞﾞﾞﾗﾐﾝｸﾞ b 最適化理論	心理学実験Ⅱ 心理ｱﾍﾞﾈﾝﾄ演習 ﾓﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞｽｸﾗ演習 生命情報解析学演習 環境調査演習 環境ﾘﾃｰﾝｼﾞｬｰ 環境ﾘﾃｰﾝｼﾞｬｰ	
4	通年	卒業研究Ⅱ(通年)					

【備考】

授業科目名に(※)が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。

3) 学系別履修モデル

《情報システム学系》

教育目標及び育成する人材像 システム開発、情報ネットワーク、情報セキュリティなどに関する基礎技術からゲーム・エンタテインメント、IoT、人工知能システムなどの先端技術について研究し、新しい情報分野で活躍していくために必要な知識と技術について学ぶ。企業活動のサポート、セキュリティ問題に関する分析と解決方法の提案、人々の利便性向上やゲーム・エンタテインメントの提供など、多種多様な情報システムを設計・構築・運用する能力を有する人材を育成する。

履修モデル			AI・システムデザイン	ゲーム・IoT	ネットワーク・セキュリティ		
1 前期	全学共通科目	全学基礎科目	現代実学	◎情報リテラシー演習(◎) ◎情報社会とAI(◎)			
		スポーツ		○スポーツ演習a(○) ○スポーツ演習b(○) ○スポーツ演習c(○) ○スポーツ演習d(○)			
		外国語		◎英語a(◎) ◎英語c(◎) ◎日本語a(※) ◎日本語c(※)			
	基礎科目	共通基礎科目	基礎演習	◎基礎演習			
		総合基礎	△哲学概論 △レポートと文章作法(◎) △歴史学 △法学概論 △日本国憲法(◎) △経済学概論 △市民活動論 △人権・ジェンダー △基礎数学入門 △基礎数学a △環境学 △健康科学				
		知識創造	◎知識創造の方法				
		情報基礎	◎統計学 ◎プログラミング入門				
	専門教育科目	専門基礎科目	◎総合情報学概論 ◇教職概論(◎)				
	1 後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ	○スポーツ演習a(○) ○スポーツ演習b(○) ○スポーツ演習c(○) ○スポーツ演習d(○)		
			外国語		◎英語b(◎) ◎英語d(◎) ◎日本語b(※) ◎日本語d(※)		
基礎科目			共通基礎科目	総合基礎	△レポートと文章作法(◎) △文化人類学 △心理学概論 △情報法(◎) △社会学概論 △基礎数学b △生命倫理 △数理学		
		情報基礎	◎経営と情報 ◎コンピュータ概論(◎) ◎情報分析基礎				
専門教育科目		専門基礎科目	◎学系基礎演習a ◎情報システム学概論 ◎IT基礎技術論 ◎プログラミング基礎(◎) ◎プログラミング基礎演習(◎) ◎情報ネットワーク概論(◎) △情報数学a △推測統計学 △コンピュータグラフィックス論 △情報メディア論(◎) ◇教育原理(◎)				
2		全学共通科目	全学基礎科目	外国語	○中国語 a ○中国語 b ○ハンブル・韓国語 a ○ハンブル・韓国語 b		
			基礎科目	共通基礎科目	実用語学	○コンピュータ英語 a ○コンピュータ英語 b ○ビジネス英語 a ○ビジネス英語 b	
			キャリアデザイン	△キャリアデザイン a △日本の社会と生活文化(※) △ビジネスコミュニケーション(※)			
		専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習b ◎プログラミング応用a(△) ◎プログラミング応用a演習(△) ◎プログラミング応用b(△) ◎プログラミング応用b演習(△) ●アルゴリズムとデータ構造a ●アルゴリズムとデータ構造b ●Unix論a ●Unix論b △情報システムアーキテクチャ △情報数学b △情報分析応用 △多変量解析 △人間関係論 △コンピュータグラフィックス基礎(◎) △心理データ解析 △Webデザイン演習(△) △ゲーム制作基礎 △社会調査法 ◇教育制度論(◎) ◇教育心理学(◎) ◇特別支援教育(◎) ◇教育課程編成論(◎) ◇教育方法論(◎) ◇教育方法論(◎) ◇道徳教育の理論と方法(◎) ◇ICTを活用した教育の理論と方法(◎) ◇学校インターンシップ(◎)			
				●システム設計論a(◎) ●システム設計論b(◎) ○情報通信システム論a(◎) ○情報通信システム論b(◎) ●人工知能a △データベース論(◎) △ドローン工学	●システム設計論a(◎) ●システム設計論b(◎) ○情報通信システム論a(◎) ○情報通信システム論b(◎) ○人工知能a ▲データベース論(◎) ▲ドローン工学	○システム設計論a(◎) ○システム設計論b(◎) ●情報通信システム論a(◎) ●情報通信システム論b(◎) ○人工知能a △データベース論(◎) △ドローン工学	
	○暗号理論a(△) △計算機数論			●暗号理論a(△) ▲計算機数論	●暗号理論a(△) △計算機数論		
	◎専門演習						
	卒業研究						
	卒業研究						
	卒業研究						
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△キャリアデザインb △インターンシップ △リクルートコミュニケーション(※)				
		専門教育科目	専門基礎科目	△コンピュータグラフィックス演習(◎) ◇総合的な学習の時間の理論と方法(◎) ◇特別活動の理論と方法(◎) ◇生徒指導・進路指導論(◎) ◇教育相談論(◎) ◇教育実習Ⅰ(◎) ◇情報と職業(◎) ◇情報科教育法a(◎) ◇情報科教育法b(◎) ◇教職実践演習(中・高)(◎)			
	専門教育科目	専門応用科目	◎Webシステムプログラミング(△) ◎Webシステムプログラミング演習(△) ◎システムプログラミング(△) ●システムプログラミング演習(△) ●ソフトウェア工学a ●ソフトウェア工学b ●人工知能b ○暗号理論b	◎Webシステムプログラミング(△) ◎Webシステムプログラミング演習(△) ◎システムプログラミング(△) ○システムプログラミング演習(△) ○ソフトウェア工学a ○ソフトウェア工学b ●サイバーフィジカルシステムa ●サイバーフィジカルシステムb ○人工知能b ●暗号理論b	◎Webシステムプログラミング(△) ◎Webシステムプログラミング演習(△) ○システムプログラミング(△) ○システムプログラミング演習(△) ○ソフトウェア工学a ○ソフトウェア工学b ●ネットワークプログラミングa ●ネットワークプログラミングa演習 ●ネットワークプログラミングb ●ネットワークプログラミングb演習 ○人工知能b ●暗号理論b		
			△ネットワークセキュリティ論(△) △言語処理論 ▲人工知能c(△) △ゲームプログラミングa △ゲームプログラミングb △情報通信ネットワーク論 △データマイニング △応用統計学 △データ解析システム △データ可視化法 △符号理論 △パターン認識と機械学習	▲ネットワークセキュリティ論(△) ▲言語処理論 △人工知能c(△) ▲ゲームプログラミングa ▲ゲームプログラミングb △情報通信ネットワーク論 △データマイニング △応用統計学 △データ解析システム △データ可視化法 ▲符号理論 ▲パターン認識と機械学習	▲ネットワークセキュリティ論(△) ▲言語処理論 △人工知能c(△) △ゲームプログラミングa △ゲームプログラミングb △情報通信ネットワーク論 △データマイニング △応用統計学 △データ解析システム △データ可視化法 △符号理論 △パターン認識と機械学習		
			◎卒業研究Ⅰ ◎卒業研究Ⅱ				

【備考】科目名の前の、◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目を表す。●および▲は当該研究室の推奨科目を表す。

また、◇は教職課程科目を表し、卒業要件上は選択科目として取り扱う。教職課程履修者のみ履修できる。

科目名の後の、(◎)は教職必修科目、(○)は教職選択必修科目、(△)は教職選択科目、(※)は外国人留学生用科目を表す。



《データサイエンス学系》

教育目標及び育成する人材像	数理学を基礎にしたデータ分析の基礎技術を学び、生命・環境・人間の行動の理解と課題解決のための応用技術を学ぶ。その過程を通じてデータサイエンスの専門性を修得することにより、高度な情報技術を駆使し、生命・環境・人間の行動に関する課題解決に資するとともに、社会の要請に応え得るデータサイエンティストを育成する。
----------------------	--

履修モデル		データサイエンス基盤	生命・環境科学	心理学		
年次	科目系列	授業科目				
1 前期	全学共通科目	全学基礎科目	現代実学 ◎ 情報リテラシー演習(◎) ◎ 情報社会とAI(◎) スポーツ ○ スポーツ演習a(○) ○ スポーツ演習b(○) ○ スポーツ演習c(○) ○ スポーツ演習d(○) 外国語 ◎ 英語a(◎) ◎ 英語c(◎) ◎ 日本語a(※) ◎ 日本語c(※)			
		基礎科目	共通基礎科目	基礎演習 ◎ 基礎演習 総合基礎 ◎ 基礎数学a ▲ レポートと文章作法(◎) △ 歴史学 △ 法学概論 △ 日本国憲法(◎) △ 経済学概論 △ 市民活動論 △ 人権・ジェンダー △ 基礎数学入門 △ 健康科学 ※科目区分「総合基礎」から、後期科目と合わせて4単位修得すること △ 哲学概論 △ 環境学 △ 哲学概論 ▲ 環境学 ▲ 哲学概論 △ 環境学		
			情報基礎	◎ 統計学(◎) ◎ プロミニング入門		
	専門教育科目	専門基礎科目	◎ 総合情報学概論 ◇ 教職概論(◎)			
	後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ ○ スポーツ演習a(○) ○ スポーツ演習b(○) ○ スポーツ演習c(○) ○ スポーツ演習d(○) 外国語 ◎ 英語b(◎) ◎ 英語d(◎) ◎ 日本語b(※) ◎ 日本語d(※)		
			基礎科目	共通基礎科目	総合基礎 ◎ 基礎数学b ▲ レポートと文章作法(◎) △ 文化人類学 △ 情報法 △ 社会学概論 △ 心理学概論 △ 生命倫理 △ 心理学概論 ▲ 生命倫理 ▲ 心理学概論 △ 生命倫理 ▲ 数理学 △ 数理学 情報基礎 ◎ 経営と情報 ◎ コンピュータ概論 ◎ 情報分析基礎(◎)	
		専門教育科目	専門基礎科目	◎ 学系基礎演習a ◎ プログラミング基礎 ◎ プログラミング基礎演習 ◎ 情報数学a ◎ データサイエンス概論(◎) ○ 離散数学a ○ 推測統計学(◎) ○ 確率論(◎) △ IT基礎技術論 ◇ 教育原理(◎) △ ネットワークとセキュリティ ○ 分子生物情報学 ○ 分子生物情報学		
		基礎科目	キャリアデザイン	△ キャリアデザインa △ 日本の社会と生活文化(※) △ ビジネスコミュニケーション(※)		
	2	全学共通科目	全学基礎科目	外国語 ○ 中国語 a ○ 中国語 b ○ ハングル・韓国語 a ○ ハングル・韓国語 b		
			基礎科目	共通基礎科目	実用語学 ○ コンピュータ英語 a ○ コンピュータ英語 b ○ ビジネス英語 a ○ ビジネス英語 b キャリアデザイン △ キャリアデザイン a △ 日本の社会と生活文化(※) △ ビジネスコミュニケーション(※)	
専門教育科目		専門基礎科目	◎ 学系基礎演習b ◎ 情報数学b ○ 情報分析応用 ○ 代数学a(◎) ○ 幾何学a(◎) ○ 解析学a(◎) ○ 社会調査法 △ 人工知能a △ データ処理論(△) △ 多変量解析(△) ◇ 教育制度論(◎) ◇ 教育心理学(◎) ◇ 特別支援教育(◎) ◇ 教育課程編成論(◎) ◇ 道徳教育の理論と方法(◎) ◇ 教育方法論(◎) ◇ ICTを活用した教育の理論と方法(◎) ◇ 学校インターンシップ(◎) ○ 離散数学b ○ 代数学b(◎) ○ 幾何学b(◎) ○ 解析学b(◎) ○ 計算生物学概論 ○ 地理情報システムa ○ 画像情報論 ○ 臨床心理学概論 ○ 心理データ解析 ○ 画像情報論 △ アルゴリズムとデータ構造a(△) △ Unix論a △ データベース管理システム △ 認知心理学 △ 人間関係論 △ 生命情報学 △ 環境情報論 △ 地理情報システムb △ アルゴリズムとデータ構造b(△) △ Unix論b △ 認知心理学 △ 人間関係論 △ 生命情報学 △ 環境情報論 △ 地理情報システムb 代数学b(◎) 幾何学b(◎) 解析学b(◎)			
専門応用科目		△ 計算機数論 △ 整数論(△)		△ 計算機数論		
卒業研究		◎ 専門演習				
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△ キャリアデザイン b △ インターンシップ △ リクルートコミュニケーション(※)			
	専門教育科目	専門基礎科目	◇ 総合的な学習の時間の理論と方法(◎) ◇ 特別活動の理論と方法(◎) ◇ 生徒指導・進路指導(◎) ◇ 教育相談論(◎) ◇ 教育実習 I(◎) ◇ 教育実習 II(◎) ◇ 教職実践演習(中・高)(◎) ◇ 数学科教育法a(◎) ◇ 数学科教育法b(◎) ◇ 数学科教育法c(◎) ◇ 数学科教育法d(◎)			
		専門応用科目	△ 人工知能b △ 人工知能c △ データマイニング △ 応用統計学(△) △ データ解析システム(△) △ データ可視化法(△) △ データ解析システム(△) △ データ可視化法(△) △ 数値計算プログラミング(△) △ 最適化理論(△) △ 微分方程式論 △ 符号理論 △ 物体・画像認識演習 △ パターン認識と機械学習 △ データマイニング △ 応用統計学(△) △ データ解析システム(△) △ データ可視化法(△) △ 心理学実験 I △ 心理学実験 II △ 心理アセスメント演習 △ メンタルヘルス演習 △ メンタルヘルス論 △ データ可視化法(△) △ 数値計算プログラミング(△) △ 最適化理論(△)			
卒業研究	◎ 卒業研究 I ◎ 卒業研究 II					

【備考】 科目名の前の、◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目を表す。●および▲は当該研究室の推奨科目を表す。
また、◇は教職課程科目を表し、卒業要件上は選択科目として取り扱う。教職課程履修者のみ履修できる。
科目名の後の、(◎)は教職必修科目、(○)は教職選択必修科目、(△)は教職選択科目、(※)は外国人留学生用科目を表す。

総合情報学部の学修について

《情報メディア学系》

教育目標及び 育成する人材像	メディア学に関する学びをととして、情報を表現し伝達するための知識や技術を学ぶ。その過程を通じて、生活者の利便性向上のための情報の提供、メディアを活用した表現活動など、多様な情報を創造、運用する能力を有する人材を育成する。
---------------------------	--

履修モデル			メディアデザイン	メディア文化	経営情報	
年次	科目系列		授業科目			
1 前期	全学共通科目	全学基礎科目	現代実学 ◎情報リテラシー演習 ◎情報社会とAI			
		スポーツ	○スポーツ演習a ○スポーツ演習b ○スポーツ演習c ○スポーツ演習d			
		外国語	◎英語a ◎英語c ◎日本語a(※) ◎日本語c(※)			
	基礎科目	共通基礎科目	◎基礎演習			
		総合基礎	△哲学概論 △レポートと文章作法 △歴史学 △法学概論 △日本国憲法 △経済学概論 △市民活動論 △人権・ジェンダー △基礎数学入門 △基礎数学a △環境学 △健康科学 ※科目区分「総合基礎」から、後期科目と合わせて8単位修得すること			
		知識創造	◎知識創造の方法			
		情報基礎	◎統計学 ◎プロミラミグ入門			
	専門教育科目	専門基礎科目	◎総合情報学概論			
	後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ ○スポーツ演習a ○スポーツ演習b ○スポーツ演習c ○スポーツ演習d		
			外国語	◎英語b ◎英語d ◎日本語b(※) ◎日本語d(※)		
基礎科目			共通基礎科目	総合基礎 △レポートと文章作法 △文化人類学 △心理学概論 △情報法 △社会学概論 △基礎数学b △生命倫理 △数理科学 ※科目区分「総合基礎」から、後期科目と合わせて8単位修得すること		
情報基礎			◎経営と情報 ◎コンピュータ概論 ◎情報分析基礎			
		専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習a ◎情報メディア概論		
			映像メディア表現 ○映像表現基礎Ⅰ ○音響メディア論 ○コンピューターグラフィックス論 ○情報メディア論 △情報数学a △ネットワークとセキュリティ	映像メディア表現 ○映像表現基礎Ⅰ ○情報メディア論 ○経営学概論	映像メディア表現 ○経営学概論 ○情報メディア論	
			△推測統計学	△推測統計学		
2		全学共通科目	全学基礎科目 外国語	○中国語a ○中国語b ○ハングル・韓国語a ○ハングル・韓国語b		
		基礎科目	共通基礎科目	実用語学 ○コンピュータ英語a ○コンピュータ英語b ○ビジネス英語a ○ビジネス英語b		
			キャリアデザイン	△キャリアデザインa △日本の社会と生活文化(※) △ビジネスコミュニケーション(※)		
	専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習b △多変量解析			
			○映像表現基礎Ⅱ ○ドキュメンタリー制作入門	○情報分析応用 ○経営組織論	○情報分析応用 ○経営組織論 ○国際経済と金融概論	
			△アルゴリズムとデータ構造a △アルゴリズムとデータ構造b △人工知能a △情報数学b △データベース管理システム △画像情報論 △サウンドデザイン △音響技術Ⅰ △コンピュータグラフィックス基礎 △Webデザイン演習 △ゲーム制作基礎 △視覚デザイン論 △知覚心理学	△データ処理論 △臨床心理学概論 △認知心理学 △心理学研究法 △心理アセスメント論 △人間関係論 △心理データ解析 △学校心理学 △サウンドデザイン △音響技術Ⅰ △コンピュータグラフィックス基礎 △Webデザイン演習 △ゲーム制作基礎 △視覚デザイン論 △知覚心理学 △文化社会論 △コミュニケーション論 △マスメディア論 △社会心理学 △海外事情 △社会調査法 △マーケティング論	△データ処理論 △臨床心理学概論 △認知心理学 △心理学研究法 △心理アセスメント論 △人間関係論 △心理データ解析 △学校心理学 △マーケティング論	
		専門応用科目	△映像制作論a △スクリプティング △音響技術Ⅱ ◎専門演習			
卒業研究						
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△キャリアデザインb △インターンシップ △リクルートコミュニケーション(※)			
	専門教育科目	専門基礎科目	△コンピュータグラフィックス演習			
		専門応用科目	△人工知能b △人工知能c △データマイニング △応用統計学 △データ解析システム △データ可視化法 △パターン認識と機械学習 △映像制作論b △身体表現 △感性音響学 △出版メディア論	△メンタルヘルスケア論 △出版メディア論 △現代社会学 △情報政治学 △ジャーナル論 △異文化コミュニケーション論 △金融論 △マーケティング・コミュニケーション論 △経営戦略論 △経営ケーススタディ △中小企業論 △マーケティング戦略論 △ブランドマネジメント論	△メンタルヘルスケア論 △マーケティング・コミュニケーション論 △金融論 △経営戦略論 △経営ケーススタディ △中小企業論 △マーケティング戦略論 △ブランドマネジメント論	
卒業研究		◎卒業研究Ⅰ ◎卒業研究Ⅱ				

【備考】科目名の前の、◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目を表す。●および▲は当該研究室の推奨科目を表す。
また、◇は教職課程科目を表し、卒業要件上は選択科目として取り扱う。教職課程履修者のみ履修できる。
科目名の後の、(◎)は教職必修科目、(○)は教職選択必修科目、(△)は教職選択科目、(※)は外国人留学生用科目を表す。



5. 教職課程

1) 教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて、中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

教職課程を修めようとする者は、学部を設置された共通科目及び専門教育科目の単位の修得の他に、必要な教職関係科目の単位を修得しなければなりません。

教職課程の履修を希望する者には、教員としての適格性、教職関係科目を十分に理解する能力、将来教職に就きたいとする強い意志が要求されますので、いい加減な気持ちで教職課程を履修するようなことのないよう注意してください。

2) 取得できる免許状

各学系で以下の免許状が取得できます。

学 科	学 系	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
総合情報学科	情報システム学系	—	情報
	データサイエンス学系	数学	数学
	情報メディア学系	—	—

【備考】中学校教諭一種免許状（数学）取得希望者は、玉川大学と連携した「小学校教員養成特別プログラム」の受講により、小学校教諭二種免許状を取得することが可能。（条件あり）

3) 東京情報大学総合情報学部教職課程における教員養成の目的及び方針

(1) 教育研究上の目的

総合情報学部教職課程は、教育意欲に溢れ、情報、数理及び社会に関する優れた専門知識をもち、学校現場に対応できる柔軟な教育技能を身につけた教員を養成する。

（東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より）

(2) 教育目標及び育成する人材像

情報に関する専門的知識及び技術とその背景を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報の教員を育成する。

数学に関する専門的知識と実学としての数学を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報技術に強い数学の教員を育成する。

(3) 入学者受入の方針【アドミッションポリシー】

①情報システムに関心を持ち、コンピュータに関わる技術を学ぶ意思の強い人、情報システムを学ぶ前提となる基礎知識、特に数学・理科・情報等の科目に興味を持つ人、さらに習得した専門知識を教育に活かす意欲を持ち、積極的に生徒指導と教育に携わる意思をもつ人。

②数理情報学データサイエンスに関心を持ち、コンピュータやデータ分析に関わる技術を学ぶ意思の強い人、数理情報学データサイエンスを学ぶ前提となる基礎知識、特に数学・理科・情報等の科目に興味を持つ人、さらに習得した専門知識を教育に活かす意欲を持ち、積極的に生徒指導と教育に携わる意思をもつ人。

(4) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

大学、学部学科及び学系の学位授与の方針に定められた学士力に加え、以下のような教職課程の学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得し、教職課程の履修要件を満たした学生に対して、教員免許状授与の資格を与える。

知識・理解	1.教科と教職に関する基本的な知識を体系的に理解し、実学を重視した専門知識を有している。
汎用的技能	1.生徒に基礎的な知識・技能を習得させ、思考力、判断力、表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を有している。 2.学校現場で活かすことができる授業実践力及び学級経営能力を有している。 3.キャリア教育を含む進路指導と、多様な問題や課題を抱えた生徒に対応できる指導ができる。
態度・志向性	1.自らの資質向上に不断に取り組む、学び続ける力を有している。 2.教員としての職業モラルと職務遂行能力及びコミュニケーション能力を有している。
総合的な学習経験と創造的思考力	1.ICTを用いた効果的な授業や適切なデジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を有している。

(5) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラム・ポリシー】

- ①情報モラル、道徳教育、コミュニケーションを重視した全学基礎科目、基礎教育科目を配置する。
- ②教科に関する一般的包括的内容を扱う科目に加えて、実学を重視した情報基礎科目、専門基礎科目の学修を通じて、情報及び情報技術が果たす役割や影響を理解する力と情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な態度を身につけ、情報活用の実践力を養う。
- ③単位の実質化及び厳格な成績評価を前提として、教職課程において修得すべき単位を卒業所要単位として位置付ける。
- ④学校インターンシップによる学校現場の理解増進と、自らの教職への適性の確認を行う。
- ⑤情報通信技術に関する専門教育を経た上で、教科指導法を履修することによって、デジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を備える。
- ⑥卒業研究遂行を通じた先端的な技術・研究の理解と、自主性および積極性を涵養する。
- ⑦千葉県及び千葉市教育委員会と連携して、県下の中学校、高等学校及び特別支援学校(県立及び市立)での参観実習等を体験する機会を提供する。
- ⑧情報社会に積極的に参画する能力と態度を育成する「マルチメディアと表現及び技術」「情報通信ネットワーク」、情報を効果的に活用する科学的な考え方を養う「情報システム」「コンピュータ及び情報処理」を学ぶ。
- ⑨「代数学」「幾何学」「解析学」を基礎として、生命・環境・人間の各現象に関わる「情報」を数理的に扱う「確率論、統計学」及びコンピュータを用いて各現象における問題を解く「データサイエンス」を学ぶ。

4) 履修要件

本学で免許状を取得するための必要な最低単位数は、以下のとおりです。

教科及び教職に関する科目		中学（一種）	高校（一種）
最低修得単位数	教育の基礎的理解に関する科目	10	10
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	12	10
	教育実践に関する科目	7	5
	大学が独自に設定する科目	4	12
	教科及び教科の指導法に関する科目	28	24
合 計		61	61

- (1) 基礎資格を得るため、学部を卒業することが最優先となります。
- (2) 「教科及び教職に関する科目」等の各科目区分に担当されている授業科目は、次ページから掲載しています。
- (3) 上記の他に、「教育職員免許法施行規則第66条の6」の定めにより、「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の4分野から各2単位以上の計8単位以上の修得が必要になります。
- (4) 中学校一種の免許状を取得する場合は、上記の他に「介護等体験」が義務付けされており、省令で定められている施設において、7日間の介護等の体験が必要になります。
- (5) 教職にかかわるガイダンス及び事前指導には必ず出席すること。
- (6) 取得する免許に関わる資格の検定に合格すること。
- (7) 各学年の継続判定に通過し、GPAが教職課程で定めた数値以上であること。
- (8) 教職課程受講条件に抵触した者、教職課程活動費を期日までに未納入の者や、教職課程履修にあたり、望ましくない行為があった場合は教職課程の受講を中止する。

5) 教職課程の受講手続

(1) 受講登録・継続

受講登録は1年次前期に行います。詳細は、4月に行われる「教職課程ガイダンス」で説明しますので、希望者は必ず出席してください。ガイダンスに関する日程等は、J-portで連絡します。ガイダンス時に配布する教職課程受講届と志望理由書を、指定の期日までに学生教務課に提出し、受講手続を行ってください。



教職課程の受講継続を希望する学生は、受講継続条件に抵触しない限り、受講は引き続き続けます。

なお、教職課程受講届を提出した後、教職課程の受講を取り止める場合は、教職課程受講取消届を必ず提出してください。

(2) 科目の履修

所定の期間内に受講登録を完了した者は、必ず期間内に教職課程科目の履修登録手を完了してください。

(3) 学系所属後

1年次後期開始時に所属する学系が決定します。情報システム学系またはデータサイエンス学系に所属し、1年次前期のGPAが教職課程で定めた数値以上の学生に以後の教職課程科目の履修を認めます。

(4) 履修料の納付

教職課程の履修を希望する場合は、別途、教職課程活動費（1免許教科120,000円、中学「数学」、高校「数学」の2免許を履修しても1免許とみなします。※年度ごとの分納）が必要になります。なお、途中で履修を放棄する場合でも、一旦納入した履修料は返金できませんので注意してください。

6) 教育実習

教育実習は、4年次になって、中学校は原則として3～4週間、高等学校は2週間以上にわたり、現場での教育活動（教科指導及び生徒指導等）に参加することによって行われます。

(1) 教育実習の履修の条件

教育実習の履修は、以下の要件を満たした者に許可します。

- ① 3年次までに配当されている「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、中学（一種）取得希望者は12科目以上、高校（一種）取得希望者は10科目以上を、3年次終了時までに修得済みであること。
- ② 「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める必修科目を、3年次終了時までに修得済みであること。
- ③ 教育実習までに、必要な「教育実習オリエンテーション」を全て受講済みであること。

(2) 教育実習校

実習希望者は、早い段階から（3年次になってから）中学校または高校へ出向いて予め依頼を行うなどして、実習校を確保することになります。自分で確保できない事情等がある場合は、大学と相談の上、実習校を決定します。

(3) 教育実習の手続

3年次から4年次にかけて行われる複数回のオリエンテーションの中で、具体的な手続について説明が行われます。教育実習を希望する者は、このオリエンテーションに必ず出席することが必要になります。

7) 介護等の体験の義務

平成9年に「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、平成10年度以降に大学に入学した者には、小学校及び中学校の教諭の普通免許状を授与するための要件として、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（「介護等の体験」）が加わりました。

具体的には、満18歳を過ぎてから免許状取得までの期間に、省令等で指定する施設で7日間の介護体験を行い、その体験を施設等の長から証明してもらうことにより、要件を備えることとなります。

したがって、卒業時に、中学校の教員免許状を取得しようとする者は、4年次までに体験等を終えていなければなりません。本学では3年次以降になると、卒業研究や、就職活動、教育実習等で時間的余裕がなくなり、原則として2年次終了までに体験を終えられるよう指導することにしています。

介護等の体験に関する説明会等は、1年次から始める予定にしていますので、希望者はJ-portを確認してください。

8) 免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学の場合は千葉県の教育委員会となります。

申請の方法には、大学が免許状の申請を一括して受け付け学位記授与式当日に免許状が交付される「一括申請」と、個人が直接教育委員会へ申請する「個人申請」があります。

(1) 一括申請

免許状取得を希望する4年次生（ただし、卒業見込み者でかつ免許状取得見込み者に限る）に対し、12月上旬に、

説明会を開催します。該当者は、配布される「教育職員免許状授与申請書」に所要事項を記入の上、手数料（千葉県収入証紙）を添えて、期日までに学生教務課へ提出します。大学がこれをまとめて県の教育委員会へ一括して申請し、審査を受けた後、該当者には、学位記授与式当日に学位記と同時に交付することになります。

(2) 個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ個人で申請し、交付を受ける方法です。詳しい内容は、該当の各教育委員会へ各自で問い合わせることになります。

9) 教育の基礎的理解に関する科目等

情報システム学系・データサイエンス学系共通

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	配当学年	配当学期	区分		単位数		履修方法等
						高	中	必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	1	L	○	○	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	1	F	○	○	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	2	F	○	○	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	F	○	○	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2	L	○	○	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程編成論	2	L	○	○	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法	2	L		○	2		中免のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の理論と方法	3	F	○	○	1		
	特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	3	L	○	○	1		
	教育の方法及び技術		教育方法論	2	L	○	○	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICTを活用した教育の理論と方法	2	L	○	○	2		
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導論	3	F	○	○	2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談論	3	L	○	○	2		
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ	3・4	F/L	○	○	3		事前事後指導1単位含む
			教育実習Ⅱ	3・4	F/L		○	2		中免のみ
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	4	L	○	○	2		

10) 大学が独自に設定する科目

科目区分	単位数	授業科目	配当学年	配当学期	区分		単位数		履修方法等
					高	中	必	選	
大学が独自に設定する科目	中4※ 高12※	学校インターンシップ	2	F/L				2	
		道徳教育の理論と方法	2	L				2	高免のみ

※他の科目区分の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数を含める



11) 教科及び教科の指導法に関する科目等

情報システム学系（高校一種 情報）

施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項							
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	情報社会とA I	1	F	2	○	
			情報法	1	L	2	○	
	コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	コンピュータ概論	1	F	2	○		
		プログラミング基礎	1	L	2	○		
		プログラミング基礎演習	1	L	1	○		
		プログラミング応用a	2	F	2		○	
		プログラミング応用a演習	2	F	1		○	
		プログラミング応用b	2	L	2		○	
		プログラミング応用b演習	2	L	1		○	
		人工知能c	3	L	2		○	
	情報システム (実習を含む。)	データベース論	2	L	2	○		
		システム設計論a	2	F	2	○		
		システム設計論b	2	L	2	○		
		Webシステムプログラミング	3	F	2		○	
		Webシステムプログラミング演習	3	F	1		○	
		システムプログラミング	3	L	2		○	
		システムプログラミング演習	3	L	1		○	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報ネットワーク概論	1	L	2	○		
		情報通信システム論a	2	F	2	○		
		情報通信システム論b	2	L	2	○		
		暗号理論a	2	L	2		○	
		ネットワークセキュリティ論	3	L	2		○	
	マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	コンピュータグラフィックス基礎	2	L	2	○		
		情報メディア論	1	L	2	○		
		コンピュータグラフィックス演習	3	L	1	○		
		Webデザイン演習	2	F	1		○	
	情報と職業	情報と職業	3	F	2	○		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	情報科教育法 a	3	F	2	○		
		情報科教育法 b	3	L	2	○		

必修単位を全て修得したうえで、合計24単位以上修得

※24単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める

データサイエンス学系（中学校一種 数学）

施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選
科目区分	各科目に含めることが必要な事項						
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学a	2	F	2	○	
		代数学b	2	L	2	○	
		整数論	2	L	2		○
	幾何学	幾何学a	2	F	2	○	
		幾何学b	2	L	2	○	
	解析学	解析学a	2	F	2	○	
		解析学b	2	L	2	○	
		最適化理論	3	F	2		○
		数値計算プログラミング	3	L	2		○
	「確率論、統計学」	統計学	1	F	2	○	
		推測統計学	1	L	2	○	
		確率論	1	L	2	○	
		多変量解析	2	L	2		○
		応用統計学	3	F	2		○
	コンピュータ	情報分析基礎	1	L	2	○	
		データサイエンス概論	1	L	2	○	
		アルゴリズムとデータ構造a	2	F	2		○
		アルゴリズムとデータ構造b	2	L	2		○
		データ処理論	2	L	2		○
		データ解析システム	3	F	2		○
		データ可視化法	3	L	2		○
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	数学科教育法 a	3	F	2	○	
		数学科教育法 b	3	L	2	○	
		数学科教育法 c	3	F	2	○	
		数学科教育法 d	3	L	2	○	

必修単位を全て修得したうえで、合計28単位以上修得

※28単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める



施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項							
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	代数学a	2	F	2	○	
			代数学b	2	L	2	○	
			整数論	2	L	2		○
		幾何学	幾何学a	2	F	2	○	
			幾何学b	2	L	2	○	
		解析学	解析学a	2	F	2	○	
	解析学b		2	L	2	○		
	最適化理論		3	L	2		○	
	数値計算プログラミング		3	F	2		○	
	確率論，統計学	統計学	1	F	2	○		
		推測統計学	1	L	2	○		
		確率論	1	L	2	○		
		多変量解析	2	L	2		○	
		応用統計学	3	F	2		○	
	コンピュータ	情報分析基礎	1	L	2	○		
		データサイエンス概論	1	L	2	○		
		アルゴリズムとデータ構造a	2	F	2		○	
		アルゴリズムとデータ構造b	2	L	2		○	
		データ処理論	2	L	2		○	
		データ解析システム	3	F	2		○	
		データ可視化法	3	L	2		○	
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	数学科教育法 a	3	F	2	○		
		数学科教育法 b	3	L	2	○		
		数学科教育法 c	3	F	2		○	
		数学科教育法 d	3	L	2		○	

必修単位を全て修得したうえで、合計24単位以上修得

※24単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める

12) 「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	科目系列・区分	配当 学年	単位数	必	選	備考
日本国憲法	日本国憲法	基礎（総合基礎・社会）・選択	1	2	○		
体育	スポーツ演習a	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	4科目中2科目 選択必修
	スポーツ演習b	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
	スポーツ演習c	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
	スポーツ演習d	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
外国語コミュニケーション	英語a	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語b	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語c	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語d	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
数理，データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報リテラシー演習	全学共通（現代実学）・必修	1	2	○		

看護学部の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。



1. 学士課程教育の目的および方針

1) 教育研究上の目的

看護学部看護学科は、建学の精神「未来を切り拓く」及び教育理念「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進む少子高齢社会を見据え、地域包括ケアシステムの中心的役割を担う情報活用と情報発信力に優れた看護職の育成を目指す教育及び看護学に関する研究を行う。

(東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より)

2) 教育目標及び育成する人材像

東京情報大学	
	建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念「現代実学主義」を念頭に、日々進化する情報技術を活用し社会に貢献できる人材を育成する。
看護学部看護学科	
	生命に対する畏敬の念としなやかな創造力を持ち、看護の対象を深く理解しながら援助できる基礎能力を修得し、科学的根拠に基づいて適切なケアが提供できる看護職を育成する。 また、情報リテラシーを修得し、高い倫理性を発揮しながら、看護にかかわる情報を実践的に活用・発信し、保健医療福祉に関わる職業人と相補的にフォローアップ・リーダーシップ・アントレプレナーシップをとりながら協働できる看護職を育成する。 さらに、看護職としての社会的責任を自覚し、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける看護職として教育する。

3) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

東京情報大学は、以下のような学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得した学生に対して、卒業時に学士の学位を授与する。

東京情報大学	
知識・理解	1. 専門分野の知識を習得し、社会の中で活用することができる。
汎用的技能	1. コミュニケーション能力を高め、自らの意見を論理的・効果的に伝えることができる。 2. 情報を適切に収集、分析及び活用することができる。 3. 社会人として必要な基礎的な知識と幅広い教養を身につけている。
態度・志向性	1. 社会人として必要な自己管理能力、協調性、統率力、倫理観、規律性を身につけている。 2. 情報モラルを身につけ、ICTを利活用することができる。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 主体的に課題を発見し、その課題を解決することができる。
看護学部看護学科	
知識・理解	1. 看護学および看護実践に関する基礎的知識を有している。 2. 看護実践を支え、発展させる科学的根拠に基づいた知識を有している。 3. 地域医療・ケアに関わる情報活用と情報発信の基礎的知識を有している。
汎用的技能	1. 生命に対する畏敬の念としなやかな創造力を有し、地域で暮らす生活者への看護ケアに必要な基礎的技能を有する。 2. 主体的学習と協同学習を推進していく技能を有する。 3. 社会人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を有する。
態度・志向性	1. 看護の対象である人々を個人、集団の視点からより深く理解することに関心が持てる。 2. 患者・利用者の意思を尊重し、高い倫理性に裏付けられた援助が行える。 3. 保健医療福祉の職業人と相補的にフォローアップ・リーダーシップ・アントレプレナーシップをとりながら協働できる。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 看護実践に必要な基礎的能力を修得し、科学的根拠に基づいた適切なケアを提供する能力を有する。 2. 情報リテラシーを修得し、利用者中心のケアに向けたチーム医療への高い関心を発揮しながら、看護にかかわる情報を実践的に活用・発信できる能力を有する。



3.看護職としての社会的責任を自覚して、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける能力を有する。

4) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラムポリシー】

東京情報大学
<ol style="list-style-type: none">1.「未来を切り拓く」という建学精神と「現代実学主義」という教育理念に基づき、自らのキャリアを確立するための教育を実現するために、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を目指して総合情報学部に情報システム学系、数理情報学系、社会情報学系を置く。さらに科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる人材育成を目指して看護学部看護学科を置き、教育課程を編成する。2.教育理念である「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展しつつある情報社会、少子高齢社会の将来を見据えることができるための現代実学科目を設置する。各学部において、実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、学生自身が主体的にかつ計画的に学び、実社会で活用できる能力を身につけていくことを教育方針とする。3.全学共通科目は、学生として必要とされる知識と教養を養うとともに、国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。4.各学部の「基礎科目」は、当該学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学部の特性に合った基礎教育を行う。5.各学部の「専門教育科目」は、各々の専門的知識や学問的方法を体系的に学び、問題解決方法や問題の本質を見抜く洞察力や判断能力、社会や地域をサポートするための実践的能力を身につける。最終的に、それまで身につけてきた知識、技能・技術を集大成し、社会の発展に積極的に貢献できる人材を目指す。
看護学部看護学科
<p>看護学部では、しなやかでたくましい看護職を育成するために、自律と共創を基盤としながら、多様な人々と新しい価値を作り出していける力を涵養していくカリキュラムとする。</p> <ol style="list-style-type: none">1.全学共通の「全学基礎科目」、本学部の「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分し、情報活用・発信力に優れ、科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる看護職を育成する。「基礎科目」には人間や環境の理解に関する科目、「専門基礎科目」には看護学の基礎となる健康に関する科目、「専門科目」には看護学の基盤領域、実践領域、統合領域および保健師科目を設置する。2.専門科目に配当する「象徴科目」では、学生がコア・コンピテンシ（情報活用・発信力、職業人としての基礎力、現場から学ぶ力）を意図し各科目を関連付けて学修できるようにする。3.臨地実習をはじめ、効果的で多様なアクティブ・ラーニングとなるような教育内容・教育方法とする。

2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について

1) 履修に関して

(1) 学生に対する履修指導

少クラス担任制を設け、学生の履修に関する履修指導を行います。履修相談は全教員が行います。

(2) 履修条件

履修条件については次のとおりです。

- ①実習科目は、原則として、その実習に関連する講義演習科目を修得したものが履修できる。
- ②基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習、地域看護学実習及び地域包括ケア実習を基本実習とし、母性看護学実習、小児看護学実習、成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ及び在宅看護学実習、精神看護学実習は応用実習とし、基本実習を修得したものが応用実習を履修することができる。
- ③統合実習及び保健師課程の実習は、原則として、基本実習、応用実習のすべてを修得したものが履修できる。

2) 外国語の履修について

外国語の履修は、英語 a, b, c, d (必修) から1単位を必ず履修すること、また、その他に中国語 a, b, ハングル・韓国語 a, b も履修できます。外国語は1単位30時間、15回の授業で、日本語 a, b, c, d は外国人留学生の履修科目です。また、保健師課程の学生は、英語2単位以上の履修が必要です。

3) 単位制

(1) 授業科目の履修は単位制となっています。

単位制とは、各入学年度の教育課程によって定められた授業科目を履修し、所定の試験に合格し、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度です。

(2) 単位計算の基準は以下のとおりです。

区 分	授業時間	単位数
講義	15時間または30時間	1単位
演習	22.5時間または30時間	1単位
実習	45時間	1単位

※時間割上1時限は90分授業であるが、授業外等を含め2時間とみなされる。

※授業は、概ね前期あるいは後期の15週をもって行なわれる。

4) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間に履修できる上限単位数を看護学部においては、46単位と設定しています。これは、単位制に基づき、単位を修得するためには、授業外学修（予習や復習）の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなるので、これを防ぐために履修単位数を制限しています。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありません。

※前期で26単位履修登録した場合、後期は20単位までしか履修できません。

※前学期までの通算GPAが3.0以上の時、年間履修登録上限単位数を緩和し、50単位（1年次は48単位）とします。

5) 進級要件

3年次への進級は1、2年次配当の必修科目を全て修得することとします。進級判定は2年次末に行います。

6) 卒業要件

本学部の卒業要件は、以下のとおりです。

本学部に4年以上在学し、必修科目110単位、全学基礎科目のスポーツ演習a～d及び英語a～dから各1単位以上、全ての選択科目から12単位以上（全学基礎科目及び基礎科目から7単位を必ず修得）を修得し、124単位以上を修得することです。

7) 卒業生発表

学年末試験の結果を受けて卒業判定を行い、上記の要件を満たした者を卒業生として3月中旬に発表します。発表日および発表場所は、J-port等にて連絡します。

8) 卒業見込証明書の発行

卒業見込証明書は、4年次4月の履修登録の結果を踏まえて、卒業見込判定を行い、卒業要件を満たした学生にだけ5月中旬頃から証明書自動発行機で発行します。

9) 学士の学位

卒業要件を満たした者に対しては、学士（看護学）の学位を授与します。

10) 9月卒業

本学に4年以上在学したものの、所要の卒業単位を修得できずに留年した者が、前期科目の履修と単位の修得をもって卒業要件を満たした場合は、9月30日付けで卒業することができます。

11) 表彰

学則に基づき、在学中に極めて優秀な成績を修めた者には「学業成績優秀賞」を、極めて優秀な卒業論文（卒業制作を含む）を作成した者には「卒業論文優秀賞（学長賞・小田賞）」を授与して表彰します。また、スポーツ・文化の部門においても、特に抜群の成果を挙げた者には、「スポーツ・文化賞」を授与して表彰します。

表彰は、該当者の学位記授与式の際に行います。



2) 授業科目の分類

○象徴科目

「情報活用・発信力」「職業人としての基礎力」「現場から学ぶ力」を育成していくための象徴科目として、「看護と情報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」,「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を4年間かけて学びます。

○全学基礎科目

「全学基礎科目」は,「数理・データサイエンス・AⅠ」科目としての「現代実学」と,「スポーツ」,「外国語」で構成し,主に1・2年次に学びます。

○基礎科目

「基礎科目」には,看護学を学ぶ基盤形成として,人間と環境を理解するための「人間理解」「環境理解」と「科学的思考」に関する科目を主に1・2年次に学びます。

○専門基礎科目

「専門教育科目(看護学科)」の「専門基礎科目」は,様々な健康状態にある人々を対象とする看護にとって重要な要素である『健康支援と社会生活の仕組み』『健康現象の疫学と統計』『人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復』に焦点を当てた科目を学びます。

○専門科目

看護学の専門科目は,『基盤領域(象徴科目と基礎看護)』,『実践領域(成育看護と成人・高齢者看護と地域看護)』,『統合領域』の3領域で構成されています。

○保健師科目

保健師国家試験受験資格を得るために必要な科目が配置されています。

3) 授業科目のナンバリング

授業科目の学修段階や順序を表し,教育課程の体系化を明示するために,各授業科目を以下の分類ごとにコード化しています。このことを「ナンバリング」といい,4)授業科目表の科目No欄に番号(コード)を掲載しています。

番号(コード)の分類方法

NN 101 - 1 01

① ② ③ ④

分類	コード名	コードの説明
①	学部学科コード(2桁)	UC:大学共通 NN:看護学部看護学科
②	学問領域(3桁)	100:情報基礎 200:スポーツ 300:外国語 101:人間理解 102:環境理解 103:科学的思考 201:健康支援と社会生活の仕組み 202:健康現象の疫学と統計 203:人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復 311:象徴科目 312:基礎看護 321:成育看護 322:成人・高齢者看護 323:地域看護 410:統合領域 500:保健師科目
③	レベル(1桁)	1:基礎科目・主に1年次に担当 2:初級科目・主に2年次に担当 3:中級科目・主に3年次に担当 4:上級科目・主に3・4年次に担当
④	通し番号(2桁)	①~③の分類ごとに01から連番



4) 授業科目表

授業科目は次の表のとおりです。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	配当年次	卒業・資格取得に必要な単位				担当教員 * 予定者含む、当該年度のシラバス参照									
				単位数	看護師		保健師										
全学基礎科目	実現学代	情報リテラシー演習	UC100-101	1前	2	○	左記の卒業・資格取得要件により選択した科目以外の選択必修科目及び選択科目から5単位以上を履修	村上 洋一, 松下 孝太郎									
		情報社会とAI	UC100-102	1前	2	○			井関 文一								
	スポーツ	スポーツ演習 a	UC200-101	1前・後	1	○		必修科目5単位、スポーツ演習 a、d 及び英語 a、d から各1単位以上履修、全14単位以上履修		石井 政弘, 原 朗							
		スポーツ演習 b	UC200-102	1前・後	1	○											
		スポーツ演習 c	UC200-103	1前・後	1	○											
		スポーツ演習 d	UC200-104	1前・後	1	○											
	外国語	英語 a	UC300-101	1前	1	○			必修科目7単位、スポーツ演習 a、d 及び英語 a、d から各2単位以上履修、全14単位以上履修	國府方 麗夏, 矢野 剛							
		英語 b	UC300-102	1後	1	○											
		英語 c	UC300-103	1前	1	○											
		英語 d	UC300-104	1後	1	○											
		中国語 a	UC300-109	2前	1	△											
		中国語 b	UC300-110	2後	1	△											
		ハングル・韓国語 a	UC300-111	2前	1	△											
		ハングル・韓国語 b	UC300-112	2後	1	△											
		日本語 a	UC300-105	1前	1	△											
		日本語 b	UC300-106	1後	1	△											
	日本語 c	UC300-107	1前	1	△												
	日本語 d	UC300-108	1後	1	△												
基礎科目	人間理解	コミュニケーション論	NN101-205	2前	1	○	必修科目から5単位以上を履修			園岡 偉男							
		哲学概論	NN101-101	1前	2	△					小須田 健						
		生命倫理	NN101-103	1後	2	△		近藤 弘美									
		心理学概論	NN101-104	1後	2	△						小早川 睦貴					
		健康科学	NN101-102	1前	2	△							石井 政弘, 吉武 幸恵				
	環境理解	日本国憲法	NN102-102	1前	2	△				宮原 均							
		法学概論	NN102-101	1前	2	△			宮原 均								
		情報法	NN102-104	1後	2	△		宮原 均									
		人権・ジェンダー	NN102-103	1前	1	△					細田 美和子						
		文化人類学	NN102-105	1後	2	△						足立 加勇					
	科学的思考	生命と情報	NN103-103	1後	2	△				原 慶太郎							
		環境学	NN103-104	1前	2	△			富田 瑞樹								
基礎化学		NN103-102	1前	1	△	田村 嘉廣											
プログラミング入門		NN103-101	1前	2	△		朴 鍾杰										
小計				14単位以上				14単位以上									
専門基礎科目	社会生活の健康支援と仕組み	ヘルスケアサービス論	NN201-102	1前	2			○	必修科目2単位以上を履修	松下 博宜							
		公衆衛生学	NN201-103	1後	2	○		時田 礼子, 金子 仁子, 岸田 るみ									
		看護関係法規	NN201-206	2前	1	○	山口 豊										
		カウンセリング基礎	カウ201-101	1前	1	○				松井 優子, 山内 英樹							
		リハビリテーション論	NN201-205	2前	1	○					松下 博宜						
		地域包括ケアと多職種連携	NN201-308	3前	1	○						大久保 一郎					
		保健福祉行政論	NN201-409	4後	1	○							大石 朋子, 菊谷 武, 田村 文登				
		口腔健康論	NN201-204	2前	1	△								福田 亮子			
		人間工学	NN201-207	2後	1	△									内田 治		
		疫学と統計	統計学	NN202-101	1前	2										○	内田 治
	看護情報と統計		NN202-102	1後	1	△										内田 治	
	疫学・社会調査		NN202-203	2前	2	△		内田 治									
	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復		形態機能論Ⅰ	NN203-101	1通	2	○										
			形態機能論Ⅱ	NN203-102	1通	1	○			齋藤 俊彦, 市川 千秋 他							
			臨床栄養学	NN203-104	1後	2	○				生魚 薫						
			臨床薬理学	NN203-207	2前	2	○					田嶋 公人					
			臨床生化学	NN203-206	2前	2	○						荒木 慶彦				
		病理学	NN203-105	1後	1	○	樋野 興夫										
病態生理学		NN203-208	2後	1	○	私バス											
疾病と治療Ⅰ		NN203-209	2前	2	○			私バス									
疾病と治療Ⅱ		NN203-210	2後	1	○				私バス								
疾病と治療Ⅲ		NN203-211	2後	1	○									私バス			
感染症学	NN203-103	1前	1	○	鈴木 明子												
小計				27単位以上						29単位以上							
専門科目	象徴科目	看護と情報Ⅰ	NN311-101	1後						1	○				児玉 悠希, 菅原 久純		
		看護と情報Ⅱ	NN311-202	2後						1	○	児玉 悠希, 菅原 久純					
		看護と情報Ⅲ	NN311-303	3前						1	○		水野 芳子, 児玉 悠希				
		看護と情報Ⅳ	NN311-404	4後			1			○	細川 満子 他						
		キャリアデザインとケアⅠ	NN311-105	1前		1	○			市川 香織, 松下 博宣							
		キャリアデザインとケアⅡ	NN311-206	2前		1	○	市川 香織, 松下 博宣									
		キャリアデザインとケアⅢ	NN311-307	3前		1	○		市川 香織, 松下 博宣								
		キャリアデザインとケアⅣ	NN311-408	4後		1	○							市川 香織, 松下 博宣			

科目区分	授業科目の名称	科目No.	配当年次	卒業・資格取得に必要な単位				担当教員 *予定者含む、当該年度のシラバス参照				
				単位数	看護師		保健師					
専門科目	基礎看護	看護学概論	NN312-101	1前	2	○	左記の卒業・資格取得要件により選択した科目以外の選択必修科目及び選択科目から5単位以上を履修	○	必修科目8単位を含む8単位以上を履修	吉武 幸恵		
		ヘルスアセスメント論	NN312-102	1後	2	○		○		児玉 悠希 他		
		看護技術論Ⅰ	NN312-103	1前	2	○		○		吉武 幸恵 他		
		看護技術論Ⅱ	NN312-104	1後	2	○		○		吉武 幸恵 他		
		看護過程論	NN312-205	2前	1	○		○		児玉 悠希		
		基礎看護学実習Ⅰ	NN312-106	1後	1	○		○		吉武 幸恵 他		
		基礎看護学実習Ⅱ	NN312-207	2後	2	○		○		吉武 幸恵 他		
		看護倫理	NN312-308	3前	1	○		○		藤井 博英		
	成人看護	成育・成人看護	母性看護学概論	NN321-201	2後	2	○	○		市川 香織		
			母性看護学方法論	NN321-302	3前	2	○	○		市川 香織		
			母性看護学実習	NN321-303	3通	2	○	○		市川 香織		
			小児看護学概論	NN321-204	2後	2	○	○		山野内 靖子		
			小児看護学方法論	NN321-305	3前	2	○	○		山野内 靖子		
			小児看護学実習	NN321-306	3通	2	○	○		山野内 靖子		
			成人看護学概論	NN322-201	2前	2	○	○		小島 善和 他		
			成人看護学方法論(急性期)	NN322-303	3前	2	○	○		小島 善和 他		
			成人看護学方法論(慢性期)	NN322-202	2前	2	○	○		小島 善和 他		
			成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性・回復期)	NN322-304	3後	3	○	○		小島 善和 他		
			成人・高齢者看護学実習Ⅱ(回復・慢性期)	NN322-305	3後	3	○	○		小島 善和 他		
			実践領域	地域看護	高齢者看護学概論	NN322-206	2前	2		○	○	高柳 千賀子 他
					高齢者看護学方法論	NN322-208	2後	2		○	○	石井 優香 他
					高齢者看護学実習	NN322-207	2前	2		○	○	高柳 千賀子 他
					精神看護学概論	NN323-201	2後	2		○	○	藤井 博英
					精神看護学方法論	NN323-302	3前	2		○	○	藤井 博英
					精神看護学実習	NN323-303	3通	2		○	○	藤井 博英
	在宅看護学概論Ⅰ	NN323-104			1後	1	○	○		細川 満子		
	在宅看護学概論Ⅱ	NN323-205			2後	1	○	○		細川 満子 他		
	在宅看護学方法論	NN323-306			3前	2	○	○		細川 満子 他		
	在宅看護学実習	NN323-307			3後	2	○	○		細川 満子 他		
	地域看護学概論	NN323-108			1後	2	○	○		金子 仁子 他		
	地域看護学方法論	NN323-209			2前	2	○	○		金子 仁子 他		
	地域看護学実習	NN323-212			2前	1	○	○		岸田 るみ、金子 仁子、畠田 礼子		
	地域包括ケア実習	NN323-111			1後	1	○	○		細川 満子 他		
	統合領域	統合領域	卒業論文ゼミナール	NN410-410	4通	2	○	○		看護学部専任教員		
			統合実習	NN410-409	4通	2	○	○		看護学部専任教員		
			ヘルスマネジメント論	NN410-406	4前	1	○	○		松下 博宜、細川 満子		
			災害看護論	NN410-407	4前	1	○	○		小島 善和、中村 美鈴		
			国際看護論	NN410-304	3前	1	○	○		藤屋 リカ		
			看護研究	NN410-305	3前	1	○	○		吉武 幸恵		
			医療リスクマネジメント	NN410-303	3前	1	△	△		藤谷 克己		
			看護とグローバルヘルス	NN410-101	1前	2	△	△		松下 博宜		
			家族看護学	NN410-102	1後	1	○	○		市川 香織 他		
			社会イノベーション論	NN410-408	4前	1	△	△		松下 博宜		
	小計					78単位以上	5単位以上	84単位以上				
	保健師科目	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法論Ⅰ	NN500-301	3後	1	▲	必修科目9単位を履修		○	金子 仁子 他	
公衆衛生看護学活動方法論Ⅱ			NN500-402	4前	2	▲	○		金子 仁子 他			
公衆衛生看護学管理論Ⅰ			NN500-403	4前	1	▲	○		金子 仁子			
公衆衛生看護学管理論Ⅱ			NN500-404	4後	1	▲	○		金子 仁子			
公衆衛生看護学実習Ⅰ			NN500-405	4通	3	▲	○		金子 仁子 他			
公衆衛生看護学実習Ⅱ			NN500-406	4通	1	▲	○		金子 仁子 他			
小計							9単位					
計(卒業及び資格取得に必要な単位数)					124単位以上		136単位以上					

【備考】

- (1) ○は必修科目, ◯は選択必修科目, △は選択科目, ▲は選択科目(単位として認めるが卒業要件には含まない)を表す。
- (2) 配当年次の前は前期科目, 後は後期科目, 通は通年科目を表す。

※授業科目は卒業の要件として修得しなければならないか否かにより, 次のように分類されます。

- 必修科目・・・必ず取得しなければならない授業科目
- 選択必修科目・・・特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目
- 選択科目・・・自由に選択して修得する授業科目



○総合情報学部総合情報学科の他学科履修（看護学部学生の履修許可）

科目区分	科目名	学 年	学 期
総合基礎	基礎数学a	1	F
総合基礎	基礎数学b	1	L
専門基礎（情報システム）	プログラミング基礎	1	L
専門基礎（情報システム）	プログラミング基礎演習	1	L
専門基礎（情報システム）	アルゴリズムとデータ構造a	2	F
専門基礎（情報システム）	アルゴリズムとデータ構造b	2	L
専門基礎（情報システム）	データベース論	2	L
専門基礎（情報システム）	人工知能a	2	L
専門基礎（データサイエンス）	情報数学a	1	L
専門基礎（データサイエンス）	情報数学b	2	F
専門基礎（データサイエンス）	離散数学a	1	L
専門基礎（データサイエンス）	離散数学b	2	F
専門応用（情報システム）	人工知能b	3	F
専門応用（情報システム）	人工知能c	3	L
専門応用（データサイエンス）	物体・画像認識演習	3	F
専門応用（データサイエンス）	パターン認識と機械学習	3	F

※修得した単位は、8単位まで選択科目の卒業要件に充てることができる。

※学期欄のFは前期配当科目、Lは後期配当科目を表す。

5) 授業概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
全学基礎科目	現代美学	情報リテラシー演習	1	2		講義や演習を履修していく上で必要なコンピュータとネットワークに関する利用技術を学ぶ。文書作成、表計算およびグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶ。
		情報社会とAI	1	2		今日の情報社会の基礎的教養である、情報モラル、データ処理、AI等の基礎について講義を行う。また、情報セキュリティやプログラミングについての基礎知識を学習する。この講義を通して、情報社会における基礎的教養やモラルやセキュリティの基礎を提供する。
	スポーツ	スポーツ演習 a～d	1		1	半期あるいは集中授業形式で行い、屋内外のスポーツ種目を実施する。必修科目として開講するクラスではスポーツやトレーニングに関する理論、健康管理、バドミントンやテニスなどの各種スポーツ実技を総合的に学ぶ。選択科目として開講するクラスではバスケットボール、テニス、バドミントン、フットサル、スキースノボなど種目によって分かれ、開講時間が異なる。最大で a～d まで 4 単位受講可能。
			1		1	現在の医療現場に適した英語コミュニケーション能力を養成する。実践的な会話のリスニングと医療にまつわるリーディングを軸に、4技能を効率よく学ぶ。具体的には、(1) 看護の現場で求められる基礎的な英語語彙・文法力の増強 (2) 関連文献の読解力・理解力の増強を目標とする。特に音声面での英語力の強化を目指す。
	外国語	英語 a	1		1	現在の医療現場に適した英語コミュニケーション能力を養成する。実践的な会話のリスニングと医療にまつわるリーディングを軸に、4技能を効率よく学ぶ。具体的には、(1) 看護の現場で求められる基礎的な英語語彙・文法力の増強 (2) 関連文献の読解力・理解力の増強を目標とする。特に音声面での英語力の強化を目指す。
		英語 b	1		1	現在の医療現場に適した英語コミュニケーション能力を養成する。実践的な会話のリスニングと医療にまつわるリーディングを軸に、4技能を効率よく学ぶ。具体的には、(1) 看護の現場で求められる基礎的な英語語彙・文法力の増強 (2) 関連文献の読解力・理解力の増強を目標とする。特に音声面での英語力の強化を目指す。
		英語 c	1		1	看護の現場で使用する英語を中心に学ぶ。様々な看護の場面で使用できる表現が学べるようなテキストを使用する。看護に必要な語彙や表現を学び、臨床看護英語の基礎力を身につける。日常会話、看護に関する会話が身につくように、会話を中心としたテキストを使用して、専門職者として患者の情報を適切に収集し、さらに、看護する側の考えや思いを英語で正確に伝えられる能力(英語運用能力)を養成する。
		英語 d	1		1	看護の現場で使用する英語を中心に学ぶ。様々な看護の場面で使用できる表現が学べるようなテキストを使用する。看護に必要な語彙や表現を学び、臨床看護英語の基礎力を身につける。日常会話、看護に関する会話が身につくように、会話を中心としたテキストを使用して、専門職者として患者の情報を適切に収集し、さらに、看護する側の考えや思いを英語で正確に伝えられる能力(英語運用能力)を養成する。
		中国語 a	2		1	中国語を初めて学ぶ者を対象に、発音の基礎、ローマ字による表記法と基礎構文を習得させ、置き換え練習及び応用会話を中心に基本的会話力を養成し、中国語によるコミュニケーション技術を修得することを目標とする。講義の方法は、講義形式と演習形式の併用とする。演習形式では、学生相互の対話形式を取り入れ、会話の反復練習を中心に進めていく。
		中国語 b	2		1	中国語 a を修了した学生を対象に、中国語 a で習得した発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文をより定着させるために、置き換え練習及び応用会話を中心に学んでいく。講義の方法は、講義形式と演習形式の併用とする。演習形式では、学生相互の対話形式を取り入れ、会話の反復練習を中心に進めていく。
ハングル・韓国語 a		2		1	韓国語は日本に一番近い隣国で話されている言語である。日本語に比べ、母音子音ともに数が多く、発音や文字(ハングル)を覚えるのにある程度時間がかかり、努力も必要になるが、一度文字と発音をマスターすれば、語順は日本語と同じなので、割合速く進むことができる。自己紹介をはじめ、身の回りの事柄を簡単に表現する練習をしていく。	
ハングル・韓国語 b		2		1	「ハングル・韓国語 a」で習得したことを土台にして、読む、聞く、話す、書く力を伸ばしていく。語彙を増やし、動詞や形容詞の活用を習得することによって、口頭であるいは文章で、自分の言いたいことを表現できるようにする。また、韓国語を学ぶことを通じて、韓国の人々の心に少しでもふれていけるようにする。	
日本語 a	1		1	前半は、大学生活についての話題を扱いながら、よく使われる語彙を抽出して意味と読み方を確認する。同時に、データ駆動学習として当該語彙のコロケーションを学生自身に調べさせ、それらの語彙のコロケーションプリントを作成する。後半は、作成したプリントを用いて、担当語彙のコロケーションについて発表をしたり、タスクを解いたりする。また、その日に学習した語彙とそのコロケーションを用いた作文を書く。以上、読む、調べる、書く、発表する、Wordに入力する、という言語活動を総合的に学ぶ。(外国人留学生・帰国子女学生対象科目)		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
全学基礎科目	外国語 日本語 b	1			1	基礎的な日本語力、特に語彙力・発話力をスキルアップし、「聞く」「話す」面での日本語運用能力の向上を目標とする。毎回授業の始めにシャドーイングによる発音練習を行なう。それから、その日のテーマに沿った表現・語彙を学習し、ロールプレイによる会話練習を行う。さらに毎回語彙拡大のため、テキストの会話内容に関連した語彙や、漢字熟語についても学ぶ。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)
	日本語 c	1			1	大学生活でよく行われる、PowerPoint を使用したプレゼンテーションが日本語でできるようになることを目指す。 単なるスキルの習得だけではなく、大学生の調査発表やレポートの基本である三部構成や引用文献の提示なども含めて、アカデミックな日本語リテラシーとコンピュータリテラシーの融合と、アカデミックマインドの醸成を目指す。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)
	日本語 d	1			1	日本語 b での学習を踏まえて、基礎的な日本語力、特に語彙力・発話力をスキルアップし、「聞く」「話す」面での日本語運用能力の向上を目標とする。毎回授業の始めにシャドーイングによる発音練習を行なう。それから、その日のテーマに沿った表現・語彙を学習し、ロールプレイによる会話練習を行なう。さらに毎回語彙拡大のため、テキストの会話内容に関連した語彙や、漢字熟語についても学ぶ。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)
基礎科目	人間理解 コミュニケーション論	2	1			コミュニケーションという概念は、広範で様々な意味で用いられる日常的な概念である。しかしそれがゆえにその理解が曖昧になっているのも事実でもある。本講義は、そのようなコミュニケーションについてその本質的な分析を行い、あらためて、コミュニケーションを考察したい。その上でコミュニケーションにまつわる問題を具体的な事例を通して考察する。
	哲学概論	1			2	哲学の起源をさかのぼるとき、知を求めると、知を求め人を指す言葉にたどり着く。知への欲求、それは人間がもつ基本的な欲求かもしれない。しかし、哲学が求めるものは、自明なものへの問い、根本的な事柄への問いとなる。存在するとは何か、認識するとは何か、人間とは何か、いずれも簡単には答えのないものである。本講義では、西洋哲学の歴史を中心に概観する事を通して、これまでの知の営みとしての哲学を考える。
	生命倫理	1			2	生命科学の進展に伴い、誕生する前から死に到るまで、私たちのいのちへさまざまな先進技術の介入が行われる時代になった。クローン技術や究極の個人情報であるゲノム配列情報等が容易に入手できる時代に、個々の事象のはらむ倫理的問題に対する洞察や幅広い検討が追いついていないのが実情である。本講義では、最初に先端生命科学のトピックスを分かり易く紹介し、そこから生じる命の尊厳を脅かす危険について考える。健康、医療を生命倫理の立場から捉え、一般人をも巻き込む生命科学の技術に対する深い洞察力と豊かな人間観を養うことを目指す。
	心理学概論	1			2	人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。
	健康科学	1			2	健康に関する保健、医療、福祉等にかかわる問題をテーマにした知識を広め、理解を深める。健康・ウェルネスの定義、社会的な健康、健康の意義と健康づくりの方法、栄養・食生活と健康、身体活動と運動・体育と健康、休養と健康、健康管理システム、地域社会と健康づくりなど、多方面から健康を科学的にとらえて理解する。
	環境理解 日本国憲法	2	(2) 保健師必修			2
法学概論	1				2	法は、ビジネス社会、商品交換社会、情報化社会などと称される現代社会において重要な社会規範の一つである。法が社会において担っている役割を学び、自由・平等な社会における法規範の効力・限界、及びあるべき姿を「私法」領域を中心に判例など実際の事件も利用して考察する。
情報法	1				2	著作権法の主たる目的は著作物の創作者等の権利を保護することですが、他方著作物が広く一般に利用されなければ文化の発展もありえず、したがって権利の保護と利用との調和が図られている。しかし、コンピュータおよびネットワークに関する IT (情報技術) とその環境の急速な発展を伴う今日の情報化社会においては、従来の著作権制度がその姿を大幅に変えざるをえない状況にあることもまた事実である。本講義では、著作権及び知的所有権に関する現代的問題について、具体的かつ実学的に検討する。
人権・ジェンダー	1				1	現代社会に残る様々な差別を通して、保健医療福祉の専門職として理解しておくべき人権やジェンダーに関わるテーマについて考えていく。障害者の人権に関する歴史的な背景、障害当事者の活動、障害者差別撤廃・解消活動の推進と現状と今後の課題について学ぶ。
文化人類学	1				2	文化人類学の歴史や理論よりも、実際に役に立つ文化人類学の思想を重視する。例えば、個人付き合いやビジネスにおける国際的人間関係に必要な異文化への理解、または海外の発展計画や地域活性化計画における文化人類学の役割などに力を入れる。また、自習研究を通して、すぐに役に立つ文化人類学のフィールド・ワークのノウハウを身につけることがねらいである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
基礎科目	科学的思考	生命と情報	1		2	「生きている」ということはどのような状態をさすのだろうか？そして「生命」とは何だろうか？これらの問いに対して「情報」という概念なしに答えることはできない。本講義では、「情報」をキーワードに様々な側面から「生きていること」の特質について考えていく。まず「情報」とは何かについて論じる。つづいて、生物における個体より上位レベルでの情報交換（コミュニケーション）、そして個体より下位レベルの問題である脳の情報処理、遺伝情報、免疫システムなどについて概説し、受講者それぞれが「生きている」ということについて考えてもらう一助にしたい。
		環境学	1		2	地球規模から地域までのそれぞれのスケールで起きている環境問題の背景と課題解決の方途を概説する。地球スケールの課題としては、人口の急増ともなう自然資源の枯渇や地球温暖化、オゾン層破壊などの現象、地域スケールでは、生物多様性の低下や大気・水質汚染、廃棄物問題などが挙げられる。これらの問題が生じている原因と解決法を解説し、人類が自然資源の恵みを永続的に享受し、健全で持続可能な社会を実現するためになすべきことを考える。
		基礎化学	1		1	医療の場で使用されている様々な医薬品、試薬、溶剤類などの化学物質や消毒薬の特性を理解するための基礎として、物質の特性、分子構造、生体への影響の基礎を学ぶ。有機・無機に関わらず、化学の基本を理解することで、臨床生化学、臨床栄養学および臨床薬理学などの専門基礎科目の理解を深め、医療の場で使用されている多種の化学物質の基礎を学ぶ。
		プログラミング入門	1		2	本授業は、Python 言語の基本的な使い方と、データを解析し可視化するために必要なスキルを勉強する。Python と科学計算のためのライブラリの使い方を理解できるようにする。
専門基礎科目	健康支援と社会生活の仕組み	ヘルスケアサービス論	1	2		現代社会の看護サービスを含むヘルスケアのあり方は多様化、複雑化の一途をたどっている。この科目では、①健康基盤（健康インフラストラクチャ、ソーシャル・キャピタル、社会保障制度）、②プラットフォーム（電子カルテ、学会、各種基準など）、③医療組織、④对患者・生活者インタラクションという階層ごとに、特徴、問題、過去の経緯、今後の変化を概観する。また看護関連の多様なサービスにはイノベーションが巻き起こりつつある。サービス科学（Service Science）と呼ばれる先端領域の見解や人文学・哲学的なアプローチを動員して、多面的に現代のヘルスケアサービスを捉えていく。
		公衆衛生学	1	2		地域社会全体の健康課題を扱う公衆衛生学の理念と方法についての基礎的な知識と考え方を学習する。環境や社会と健康との関連、人々が健康を維持・増進するための保健、医療、福祉等の総合的な健康政策について理解する。また保健医療福祉（予防、治療、社会復帰、社会参加）にかかわる制度や関連法案の概要について学び、医療職としての実践に役立てられる力を身につける。
		看護関係法規	2	1		保健師助産師看護師法を中心に看護実践および看護教育を支えている関係法規について系統的に学習し、看護職の法的責任について考察する。保健師助産師看護師法の変遷、看護職の法的責任、保健医療福祉に関連する法規、個人保護法等の看護に関連する法規を解釈しながら看護職の役割について学ぶ。さらに医療事故事例・看護事故事例の判例の解釈をしながら、医療過誤を通して看護職の責任を理解するとともに、国民とともに進める安全教育やシステムについて考える。
		カウンセリング基礎	1	1		何らかの悩みや問題を抱えた人あるいは抱えそうな人が問題の解決や処理に困難を感じて援助を必要とする人との面接やグループワークを通じた心理的相互作用によって、行動の変容を試みる援助のプロセスであるカウンセリングの基礎を学ぶ。本講義では、看護職として必要なカウンセリングの基本理論、カウンセリングマインド、基本技法について体験や経験を通して理解する。
		リハビリテーション論	2	1		リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、医学および社会における包括的なリハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目標とする。看護師に必要な障害学の内容と評価・治療方法の要点、リハビリテーションのプロセス、各専門職とリハビリテーションチーム医療のあり方、さらには保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わり等についての基礎知識を理解する。
		地域包括ケアと多職種連携	3	1		人々の生活や営みには、地域社会を超えて営まれるものがあるが、この授業では、地域社会をベースとした（community-based）保健医療福祉の具体的な営みについて、地域での様々な連携・協働の実践事例を通して理解を深める。これまでの実習などで経験してきた実践例を通しての学びをさらに発展させ、地域保健医療福祉の連携にとどまらず、看護職が地域ケアにおける包括的協働の要を担っていくために何が必要か、果たす役割やビジョンについて考える。
		保健福祉行政論	4	1		社会福祉・社会保障の歴史、社会福祉の担い手、ライフサイクルと社会福祉、生活保護、社会福祉の基礎を学ぶ。さらに、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発、サービスの評価調整、地方自治体等における行政施策の計画、実行、評価について、保健福祉行政の実例をおして学ぶ。これまで実習等で経験しながら得てきた知識を再統合して深く、行政の中で実践・継続していくための基礎的能力について考える。
		口腔健康論	2		1	口から食えること、口腔領域の機能と健康を守ることの重要性を理解し、生きがいのある生活のために健康を維持・増進することについて口腔健康の視点から理解する。口腔機能の役割と口腔衛生の向上の重要性を理解し、口腔健康に携わる関連職種が、それぞれの立場で健康増進と維持のためにどのような役割を果たしているか実践例を通して具体的に学ぶ。
		人間工学	2		1	人間工学は、生活者としての人間の理解を深め、安全や安楽な「ものづくり」を追求する学問である。この講義では、人間の日常生活行動に着目し、生活動作や生活姿勢、ボディメカニクスなどの理解を通じて、身近な道具に焦点を当てながら人間工学的な視点を学ぶ。



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門基礎科目	健康現象の疫学と統計	統計学	1	2		データの背後にある情報を引き出すための方法として統計的手法がある。統計的手法はあらゆる分野で活用されており、研究活動におけるデータ処理の技法としても活用されている。本講義では統計的手法の基礎知識を習得することをねらいとする。具体的には、記述統計学と呼ばれる分野を中心に講義する。
	看護情報と統計	看護情報と統計	1		1	看護分野における情報を量的情報と質的信息に分け、それぞれの情報に適した統計学の手法を選択して、解析する方法を学ぶ。具体的には、定量情報の解析手法として、統計グラフ、統計的仮説検定法、相関分析法を取り上げ、定性情報の解析手法として、テキストマイニングの手法と多変量解析法を紹介する。さらに、表計算ソフトによる統計解析の方法と、統計解析専用のソフトウェアである SPSS と R の使い方も講義の中で紹介する。
	疫学・社会調査	疫学・社会調査	2	(2)保健師必修		2
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復	形態機能論Ⅰ	形態機能論Ⅰ	1	2		生命活動を営む最小単位の細胞構造から、身体骨格を支え、バランスの取れた動きや知覚をコントロールするしくみを総合的に理解する。また、体のすみずみまで血液を送るしくみと身体に酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する内(代謝)呼吸と外呼吸のしくみとして、肺でガス交換を行った血液が、体をどのように循環し、各臓器と器官、組織での代謝機能を理解する。さらに、血液の形成や免疫作用および恒常性を含めてヒトの身体総合的な理解を深める。
	形態機能論Ⅱ	形態機能論Ⅱ	1	1		栄養物の摂取から消化・吸収・排便・排尿するまでのしくみと生体防御システム、ホメオスタシスとフィードバックのしくみから、ヒトの体が正常時にどのように動くのかをホルモンと自律神経系の構造に関連づけて総合的に学び、体の形態から機能的構成を理解する。また、受精から出産のしくみでは、受精と胎児の発生を理解する。また、男女の生殖機能についても取り上げる。
	臨床栄養学	臨床栄養学	1	2		人間の健康を維持・増進する総合科学の一分野として、食と健康をつなぐ人間栄養学の基礎を学ぶ。本講義においては、栄養の基本的概念とその意義と各栄養素の代謝、生理的意義、健康の維持・増進および疾病の予防・治療における栄養の役割などを理解する。「食」の捉え方について、食糧の生産、流通と分配、社会経済問題までを含めて、広く人間と栄養の関連について理解する。
	臨床薬理学	臨床薬理学	2	2		薬物がどのように生体に作用し、その効果が発揮されるかを、病態生理と関連付けて薬の効くメカニズムを理解する。薬物作用の薬理学的基盤となる薬物の作用機序を中心に、臨床で必要とされる薬理の基礎知識を習得し、薬物の有効性と安全性の双方を理解したうえで適正使用していくための考え方を学ぶ。主な生活習慣病、がん・痛み、感染症、脳・中枢神経系疾患、救命救急時、アレルギー・免疫不全状態、消化器疾患等で用いられる代表的な薬の用法や、安全管理、薬害、薬剤師の役割について理解する。
	臨床生化学	臨床生化学	2	2		生体を構成する成分の構造と性質についての基本的な事柄を理解する。細胞内における種々の代謝反応において、炭水化物、脂質、タンパク質・アミノ酸の物質代謝としての同化と異化反応の代謝経路について学ぶ。さらに、エネルギー代謝も含めた酵素、ホルモン、生体微量分子などの生理活性物質による生体調節機構について学ぶ。
	病理学	病理学	1	1		病気がどのような原因で起こるのかを知り、それによって生じる身体組織や細胞レベルの変化を理解する。また、代表的な疾患については疫学、臨床症状、経過、治療なども合わせて関連を学ぶ。 細胞の構造と機能、細胞の病変(退行性病変、進行性病変)、循環器系の病変、炎症と免疫反応、腫瘍(がん)の疫学、良性腫瘍と悪性腫瘍、細胞異型と構造異型、転移と播種、がんの発生原因)並びに、先天性異常、代謝異常、免疫応答、感染の病理病態について学ぶ。
	病態生理学	病態生理学	2	1		疾患に伴って生じた症状あるいは徴候について、その発生機序を体系的に学ぶ。疾患の診断、治療法の選択、病状の経過観察の基盤であり、身体的なヘルスアセスメントを行う基本となる。下記の自覚、他覚症状あるいは徴候を通して理解する。 咳嗽、呼吸困難、胸痛、不整脈、チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満・やせ・嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、腹水、黄疸、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺・運動失調・歩行障害、めまい、しびれ、腰痛、浮腫、排尿障害、睡眠障害、などの病態生理について学ぶ。
	疾病と治療Ⅰ	疾病と治療Ⅰ	2	2		傷病あるいは障害の成り立ちと経過、診断、治療法について、機能系統別に、内科的疾患を中心に機能の変化をおこさせる機序とその経過として種々の病態について学ぶ。生命維持機能に影響が大きい循環機能障害、呼吸機能障害、消化機能障害、腎・代謝機能障害、脳・神経機能障害、造血機能障害を取り上げ、内科的疾患の侵襲を伴う治療法について触れる。
	疾病と治療Ⅱ	疾病と治療Ⅱ	2	1		外科的治療前(術前)の身体的、心理的状態について理解し、手術中から術後に起こりうる急激な変化に対応するために必要な知識について、総論と各論に分けて学ぶ。総論では、手術侵襲と生体反応、麻酔法、救急処置法を学ぶ。各論では生殖機能障害(婦人科)、感覚器系機能障害(眼科、耳鼻科)、生体防御機能障害(皮膚科)、運動機能障害(整形外科)について、病態、診断プロセス、治療法を学ぶ。
	疾病と治療Ⅲ	疾病と治療Ⅲ	2	1		小児の代表的な疾患及び精神障害について、病気になる前の障害の成り立ちと経過、診断、治療法を理解する。小児の疾患では、臨床経過、転帰、診断、治療法について学ぶ。精神障害では、臨床経過、転帰、治療法(治療促進・阻害要因含む)について学ぶ。

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			授業科目の概要	
			必 修	選 必	選 択		
専門基礎科目	感染症学	1	1			細菌、ウイルス、真菌などの病原微生物の形態や増殖感染様式を理解する。また、市中感染とともに、医学の進歩と相まって増加してきた日和見感染、院内感染についての理解を深める。感染予防、滅菌消毒の方法、効果についても学び、感染症の治療の概要を理解する。 人獣共通感染症、寄生虫感染症、小児の感染症、母子感染、高齢者の感染症、日和見感染、薬剤耐性菌、感染防御の基礎、感染・発症予防等について学ぶ。	
専門科目	基礎領域 象徴科目	看護と情報Ⅰ	1	1		看護職にとって「情報」とは何かを知り、保健医療分野における情報の「いかし方」と「まもり方」を学ぶことで基礎的な情報の扱い方を理解する。また、保健医療分野におけるICT、IoT、AI等の活用事例を概観することで、他分野との融合により開かれる新たな看護の形への探求心を育む。本学部の象徴科目として1年次から4年次にかけて開講される「看護と情報」の導入にあたる科目である。	
		看護と情報Ⅱ	2	1		データサイエンスの視点に基づき、看護分野で扱う主なデータの種類や特徴について学ぶ。また、実践的なデータの扱いとして、データ観察の方法、データ可視化の方法等について学ぶことで、看護職におけるデータサイエンスの基礎的な教養を身につける。	
		看護と情報Ⅲ	3	1		科学的根拠に基付いた看護実践を行うために必要な情報活用の実践を学ぶ。研究成果を系統的に活用する看護過程や臨床判断の実践について臨床で多く経験する事例を基に学習する。データベース、ビッグデータの利用、ガイドラインや指針などの活用について学び、エビデンスベースドナーシング、ナラティブアプローチの実践を演習を通し理解する。	
		看護と情報Ⅳ	4	1		医療・看護に関わる電子データや診療システムの展望、ビッグデータを活用するヘルスケア情報学、遠隔看護やオンライン診療の実践、利用可能なICTの新しい技術など看護と情報に関する諸課題や展望について広く見識を深める。また、情報社会において科学的根拠に基付いた看護を実践するために必要な専門職としての能力や態度、職場環境、文化などについて検討する。	
		キャリアデザインとケアⅠ	1	1		1年生を対象とする本象徴科目では本学部理念の「自律と共創」を「キャリアデザインとケア」という目的に沿って展開していく。看護技術以前に身につけておくべき社会人基礎力として必要とされる、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)を育むため、基本的なスタディスキルを身につけるとともに、他者との対話とコミュニケーションについて、実践を通して学んでいく。また、キャリアデザイン・カードの活用を促し、キャリアに対する意識を高め、自身のキャリアデザインにつなげていく。	
		キャリアデザインとケアⅡ	2	1		2年生を対象とする本象徴科目では、看護学を支える広い知識を通じて、看護実践能力の土台を創る。看護実践の中でも特に重要なスキルとして「対話力」に注目し、実際に対話の場に身を置くことによりアクティブ・ラーニングを進めてゆく。具体的には模擬インタビューを通して対話力を学び、同時にチーム活動を通して、リーダーシップ、フォローシップについて考察し、チームの中での自己を振り返る機会とする。	
		キャリアデザインとケアⅢ	3	1		3年生を対象とする本象徴科目では、アカデミックライティングの基礎を固め、論理的思考のスキルアップを図る。また、生涯教育としての看護教育を理解し、看護体制や看護方式、クリニカルラダーやプリセプター制度といったキャリア支援体制についての理解も深める。さらに新卒看護師の経験や専門看護師の経験についてゲストスピーカーから話を聞くことで、自己のキャリア選択の幅を広げ、具体化させつつ、自己の方向性と可能性を追求していくことを主眼とする。	
		キャリアデザインとケアⅣ	4	1		最終学年の学生を対象とする本象徴科目では、実際に活躍している様々な分野の看護職のキャリアデザインについて、ゲストスピーカーから話を聞く中で、キャリアデザインの拡がりや可能性について考え、自己のキャリアをデザインする際に深い洞察を加えることを主眼とする。また、これまでの実習や学習を統合し、「地域で活躍する私のキャリアデザイン」として発表し、互いに共有していく。	
		基礎看護	看護学概論	1	2		看護を学ぶ第1歩として、看護学全体の基本的内容を学習する。看護の定義と看護の構成要素である、人間、環境、健康、看護及びこれらの関連を理解する。看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割と機能、看護の実践を支える理論等を学習し、看護学の本質を理解する。看護学の奥深さと豊かさを知り、自らの看護観を構築するための手がかりとする。
			ヘルスアセスメント論	1	2		看護の対象者が身体的・心理的・社会的側面を持つ統合体であることを理解し、その人の健康状態をアセスメント(ヘルスアセスメント)する基礎を学ぶ。特に身体の生理的な健康状態を客観的にアセスメント(フィジカルアセスメント)するための身体診察の技法(フィジカルイグザミネーション)の基礎を系統的に学ぶ。また、複数の模擬事例に対し、健康状態を身体的、心理社会的側面から推論することで、実践的なアセスメント力を養う。
看護技術論Ⅰ	1		2		看護技術の意義、特徴を理解し、主概念である安全・安楽・自立を目指すことの重要性および、看護の基本である人間関係技術を理解し、対象者との関係を築き発展させる能力を身につける。また、生活行動が健康に及ぼす影響を理解し、生活行動援助に関する基礎的な看護技術を修得する。 実習室での演習では、看護の基本的機能(環境調整、コミュニケーション、ボディメカニクス、倫理、安全・安楽)の活用を意識しながら、援助における原理・原則と具体的な留意事項を修得する。		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門科目 基礎領域 基礎看護	看護技術論Ⅱ	1	2			看護技術論Ⅰの次のステップとして、治療、処置にかかわる基本的な看護技術の知識、技術、態度を習得する。対象者にとって、治療、処置は身体的にも精神的にも苦痛や不安を伴うこと、安全管理が重要であることを理解する。科学的根拠に基づいて、看護技術を理解し、正確かつ安全に看護技術が実践できるように学習する。演習では、科学的根拠に基づいた安全、安楽な技術、実践における注意、留意事項を取得する。
	看護過程論	2	1			対象の個別性に合わせた看護を系統的、科学的に実施するために看護過程の意義、構造(アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価)、展開方法について学ぶ。講義では、看護過程の基本的事項と必要性、および各種理論やアセスメント・看護技術の活用の仕方を学習する。演習では、模擬事例を通して、対象にとって有効な一連の看護過程の展開について学生が考え、実施する。
	基礎看護学実習Ⅰ	1	1			地域で生活していた看護の対象者が、患者として病院に入院して療養していることに関心を向け、患者の生活習慣、価値観、社会の中で役割を持つ存在であることを意識する。そして、この患者理解の過程で看護と看護における情報の結びつきについて考察する。また、看護援助場面の見学や実践を通して、患者を取り巻く療養環境を多面的に捉え、その人にとってよりよい療養環境や入院生活の中での援助の在り方について理解を深める。
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2			基礎看護学、看護過程論等で学んだ内容を活用し、対象者の生活行動に焦点を当てて看護計画を立案、実施しながら、看護における基本的な問題解決過程を展開することについて体験する。このプロセスを通して看護を系統的に展開する方法と思考判断のプロセスの基本を身につける。実習内容は、対象者の療養環境を理解し、対象者を身体的、心理的、社会的な側面から捉える。対象者の生活行動に焦点を当てて系統的に情報を整理し、看護診断を検討し、計画立案・実践・評価し、看護過程の一連のプロセスをまとめて評価する。
	看護倫理	3	1			看護倫理に関連する概念、歴史的背景、諸説を看護実践に結び付けて理解する。最近の保健医療福祉をめぐる倫理的問題について、どう判断・行動するかグループ討議を行いながら考える。看護実践の場で遭遇しやすい倫理的ジレンマを取り上げ、ディベート学習により、事例に含まれる多様な価値観、複眼的な見方を理解し、倫理的原則、倫理規定を活用した自己の判断の過程を学ぶ。
成育・成人看護	母性看護学概論	2	2			いのちを育む土台となるリプロダクティブヘルスを中心概念に置き、生殖に関する生理、妊娠・分娩のメカニズム、生殖における健康問題、リプロダクティブヘルスに関する法や施策・支援について取り上げる。リプロダクティブヘルスの視点から健康課題に関心をもち関わる母性看護の態度や役割について理解する。講義を主体とし、視聴覚教材の活用、グループワークを通して理解を深める。
	母性看護学方法論	3	2			母性看護の対象であるマタニティサイクルにある人々の看護について、身体的、心理的、社会文化的な側面からウェルネスの視点を基盤に、ケアの実際や看護過程の展開を学ぶ。また、妊産褥婦および新生児の生理的特徴の観察やケアに必要な看護技術は、実践に近い形で習得する。さらに、思春期や性成熟期に必要な健康教育をリプロダクティブヘルスの視点から実践する方法を学ぶとともに、不妊や多様な性のあり方、セクシュアリティへの理解も深める。事前学習課題を課し、講義と演習を効果的に配置したアクティブラーニングで自己学習を促す。
	母性看護学実習	3	2			マタニティサイクルにある人々と新生児の身体的・心理的变化、および社会的特徴を査定し、対象に応じた看護実践能力を養う。また、地域の中で生活する母性看護の対象者を理解し、健康を保持増進するために必要な看護の実践とケアについて、実践を通して学ぶ。さらに、リプロダクティブヘルスの視点に基づく健康教育を企画・実施・評価し、地域社会において母性看護が果たす役割を幅広く考察する。
	小児看護学概論	2	2			子どもとその家族を取り巻く現代社会の中で、成長発達を遂げる子どもの身体・心理(認知)・社会的な特徴や小児医療の現状と課題を理解し、子どもとその家族が健やかにこころとからだを育み、成長発達を維持・促進する為の知識と支援のあり方を学ぶ。小児看護の対象と目的、子どもの権利、子どもを取り巻く社会環境、小児看護で用いられる理論、小児各期の成長発達と生活、栄養、安全と事故防止等について、講義及び視聴覚教材の利用、グループワークを通して理解する。
	小児看護学方法論	3	2			子どもの成長発達を促進・維持しながらも、様々な局面におかれた健康障害を有する子どもとその家族への健康回復に向けた看護、重篤な健康障害をきたし苦痛を伴う子どもと家族への看護、急激な健康障害をきたし苦痛を伴う子どもと家族への看護に必要な看護技術を習得する。特に、現代の小児医療における長期療養児に対する支援のあり方について学習する。
	小児看護学実習	3	2			地域で生活する子どもと家族、その環境及び様々な場における小児看護の実際を知り、看護に必要な基礎的能力を理解する。健康な子ども、障害をもち日常生活を送る子ども、治療を要する子どもと、様々な健康レベルの子どもと家族の特徴と看護支援について理解し、地域ケアにおける小児看護のあり方について考察する。
	成人看護学概論	2	2			成人期にある対象を広く深く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学修する。成人期にある対象の成長発達段階に応じた特徴や課題と健康障害の予防、回復、維持に関連する概念、学習理論などを学修する。主要な概念として、ストレス理論、危機理論、病みの軌跡の看護モデル、障害受容、セルフマネジメント、自己効力理論、意思決定などを理解し、病気や障害とともに生活することへの支援を学ぶ。

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			授業科目の概要	
			必 修	選 必	選 択		
専門科目 実践領域	成人看護学方法論 (急性期)	3	2			急激に健康状態が変化する成人期にある人とその家族を多面的・総合的に理解し、ホメオスタシスを維持・回復するための看護援助に必要な基礎的知識・技術を習得する。 急性疼痛マネジメント、周手術期看護、各機能の変化、複合的な全身機能の変化などの、急激に健康状態が変化する成人のホメオスタシスを維持・回復する援助を系統的に行う基礎的技術について学ぶ。演習においては、実践的な看護技術に加え、事例を用いた看護過程の展開を実施することにより、看護過程の流れを学修する。	
	成人看護学方法論 (慢性期)	2	2			慢性の経過をたどる疾患をもつ成人と家族が、傷病や障害に起因する健康障害とともに生活していくプロセスや身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、病状をコントロールし、生活の調整や再構築を行いながら、QOL(生命の質、生活の質、人生の質)の充実にめざすことを支援する看護の役割と方法を学ぶ。がんとともに生活する人と家族の看護、神経難病とともに生活する人と家族の看護、典型的な慢性病の症状マネジメントやリハビリテーションなど慢性期看護のエッセンスについて学習する。演習においては、糖尿病の看護事例を用いた看護過程の展開を実践し、関連した看護技術の実践も学修する。	
	成人・高齢者看護学 実習Ⅰ(急性・回復 期)	3	3			急性期にある人(成人・高齢者)は、突然の病気や慢性疾患の急性増悪などにより、短時間で健康状態が変化した状態にあったり、あるいは手術療法等による身体への高い侵襲をうけ、生命の危機、激しい症状や不安・恐怖などの心身の苦痛を体験している。この実習では、急性期にある人とその家族を多面的・総合的に理解し、健康状態の変化を予測し、苦痛の緩和と健康を回復するために必要な看護を実践する能力を養うとともに、急性期看護の役割について理解する。また急性期から在宅医療への移行や地域包括ケアを視野に入れた看護の役割を学ぶ。手術室や救急外来などの専門治療領域見学実習により、急性期看護の特性を学び、多職種連携を通じた看護師の役割を学ぶ。	
	成人・高齢者看護学 実習Ⅱ(回復・慢性 期)	3	3			慢性的な健康障害をもつ人(成人・高齢者)とその家族を対象とし、援助の人間関係を築きながら、慢性的な疾患や障害とともに生きる対象を理解し、必要な看護を実践する基礎的能力を養う。さらにセルフマネジメント支援に対する看護の役割について理解を深める。また長期的なリハビリテーション(Re-Integration:社会復帰)を必要とする人とその家族をも対象とし、退院後の在宅医療への移行や地域包括ケアを視野に入れた看護の役割を学ぶ。 病棟実習では慢性的な健康障害により入院加療を必要とする人々への看護を実践的に学ぶ。高齢者施設実習では、生活の場で療養しながら生きる人々との関わりを通して、対象を理解し、そこに必要な看護の役割を理解する。	
	地域看護	高齢者看護学概論	2	2			老年期にある人々の特徴を理解するために、老化現象が高齢者の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題の考察を通して、老年看護の目的と役割について理解する。
		高齢者看護学方法論	2	2			老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化をふまえて、高齢者に生じやすい様々な生活機能ならびに健康上における障害の特徴とそれらを予防することの意義について学ぶ。さらに、老年看護の対象となる人々の特性に応じた適切な看護の方法と看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。
		高齢者看護学実習	2	2			病院や介護保険施設の療養環境を知り、そこに入院・入所する高齢者の特徴を生活の視点からとらえ、その人に適した日常生活援助を提供する方法を修得する。高齢者の抱える健康問題を多面的に捉え、老化による身体的・心理的・社会的要因からの影響を考え、自立支援に向けたケア計画を立案し、実施・評価する。
		精神看護学概論	2	2			成長発達と心身機能の概要、こころの健康、精神保健・医療と社会、疾病と障害の概要を踏まえ、人々の精神的健康の保持増進や、精神障害の回復を支えるために必要な精神医学や看護の概念モデルなど精神保健看護の概要について学ぶ。また、援助関係を発展させるために必要な、コミュニケーションや対人関係の基礎について学ぶ。
		精神看護学方法論	3	2			セルフケアの観点・精神症状などを踏まえて、様々な精神疾患を抱えた人たちの課題を克服するための援助について学ぶ。また、プロセスレコード等を通して自己理解を深める。地域における精神医療福祉の状況を学ぶ。
		精神看護学実習	3	2			精神障害を抱えた対象者やその家族に対する支援や、看護師の役割を理解し、看護実践力を養う。地域で生活しながらデイケアに通所する精神障害者とともにプログラムに参加し、精神障害者との交流し、プロセスレコードの検討を通して、自らのコミュニケーション、対人関係の傾向を検討する。病棟実習では、治療環境の在り方について、地域の就労支援、作業所等地域生活支援施設では、地域の中でのリハビリテーションや精神障がい者の生活支援の実際を体験し、精神障がい者の社会参加、退院支援について考える。
在宅看護学概論Ⅰ		1	1			在宅看護の歴史を通して在宅看護の意義について学ぶ。また在宅において多様な価値観・健康レベル・生活を背景とする人とその家族について理解し、その人々を支える社会保障制度、社会資源や在宅ケアシステムおよび地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、その人らしい人生を送るための自助、互助、共助、公助の意義と方法について学ぶ。	
在宅看護学概論Ⅱ		2	1			在宅看護の基本概念、機能、倫理について学ぶ。また在宅ケアにおける訪問看護の特徴について認知症、難病、小児、精神障害者、終末期ケアなど広範囲にわたる看護活動を通して学ぶ。さらに地域包括ケアシステム展開に向けて退院支援を中心に継続看護の意義と方法について学ぶ。	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門科目 実践領域 地域看護	在宅看護学方法論	3	2			在宅療養者とその家族を単位とした地域・在宅での看護活動の展開方法と技術について学ぶ。家族の健康とヘルスケア機能をアセスメントする方法、訪問看護過程に沿った面接技術、アセスメント方法、援助技術の基本、在宅療養者とその家族を支える看護職同士、他職種・他機関との連携、社会資源について、その実際や活用方法を学ぶ。訪問看護で用いられる在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気法・ストマケア・胃瘻などへの看護ケア技術を学ぶ。
	在宅看護学実習	3	2			在宅で療養する対象者やその家族への支援や看護の役割を理解し、看護実践力を養う。訪問看護ステーションの看護活動への同行訪問を通して、在宅療養者とその家族に対する訪問看護師の果たす役割や訪問看護事業の現状と課題、今後の方向性について考える。地域で疾患や障害を有しながら生活する人やその家族が、健康課題解決のために活用できる施設や機関、組織の活用方法や関係機関・職種との連携方法を学ぶ。在宅療養者の生活をチームで支えるために、地域ケアシステムにおいて看護職が担う様々な役割、これからの看護職のあり方について考える。
	地域看護学概論	1	2			地域において生活する人々の健康とクオリティオブライフの向上を図るための実践科学である地域看護について理解し、地域を基盤として行われている看護活動の全体性と基本的な考え方を学ぶ。そのために、地域で暮らす様々な人々の暮らしや支援のあり方について学ぶ。また、地域で働く看護職の役割・機能・活動の方法について学修する。
	地域看護学方法論	2	2			地域で看護を展開していく上で、地域で生活する人々の生活環境や生活状況を把握し、地域で生活する人々の特性に合わせた看護活動方法、地区診断、健康教育、健康相談について理解し、地域看護活動へ発展させる方略を学ぶ。授業では、地区診断方法として、コミュニティアスパートナース、プリシードモデルの概略を学ぶとともに、生活実態に基づく地区診断について事例を用いてグループで行う。地域看護実習における地区踏査に向けてインタビュー方法を学び準備する。
	地域看護学実習	2	1			地域で看護を展開していく上で重要な地区診断の必要性を理解し、地域で生活する人々の健康ニーズの把握方法について理解する。実習では、グループで事前に収集した担当地区の統計資料分析するとともに、担当地区に赴き実際の状況を歩きながら観察し、住民へのインタビューを行う。それから生活実態を把握し、健康ニーズとそれを解決する方法を検討し発表する。
	地域包括ケア実習	1	1			在宅で生活する様々なライフステージ、健康レベルの人々について理解するとともに生活の多様性について理解する。また地域包括支援センター、訪問看護ステーション、助産院、ボランティア等の活動の実際について見学・体験を通して人々の生活を支える活動を理解する。さらに地域包括ケアシステム推進するための看護職としてのあり方について考察する。
	学校保健論Ⅰ	2	(1) 保健師必修		1	学校保健の意義・歴史・現状と学校教育における学校保健の果たす役割、児童生徒の健康問題と学校における養護教諭の活動を理解する。授業内容は、学校保健の意義、児童生徒の発育・発達、健康診断、健康観察・保健指導、疾病管理・感染症学校給食、養護教諭の活動の実際、特別支援教育について学ぶ。
	学校保健論Ⅱ	2	(1) 保健師必修		1	学校保健活動の実際を学び、学校における児童生徒の健康課題について考える。学校保健論Ⅰに引き続き、学校保健活動の実際を学び、学校における児童生徒の健康課題について考える。健康教育は学習指導要領における保健学習、学校における性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育について学ぶ。学校安全、学校での救急処置、健康相談、学校環境衛生について理解する。
	産業保健論Ⅰ	2	(1) 保健師必修		1	産業保健活動の理念と健康管理体制、我が国における産業保健の実態など、産業保健の概要について講義し、事業者が推進する産業保健活動を支援する学際的なチームの一員として活動する産業看護職の役割と職務について解説する。また、産業看護活動に必要な労働生理、産業疲労、職業関連健康影響について概説するとともに、産業看護活動の実際について紹介する。
	産業保健論Ⅱ	3	(1) 保健師必修		1	産業保健・産業看護の展開方法の実際について学び、産業看護の専門性について考察する。労働環境における「安全管理」と「女性労働者への健康支援」について理解を深める。また、産業看護のアセスメントについて、具体的な事例を使用して、個人、集団/組織それぞれについて理解する。
公衆衛生看護活動論	2	(2) 保健師必修		2	公衆衛生看護活動の展開過程（地域診断、計画立案、実施、評価）と個人・家族・集団・地域への支援方法および対象別公衆衛生看護活動の現状等について学習し、公衆衛生看護活動の特性、機能、役割について理解する。	
統合領域	卒業論文ゼミナール	4	2			学生が主体的にテーマを設定し、研究計画書を作成する。卒業論文または研究計画書のテーマの選択に当たっては、3年次までに卒業論文ゼミナール担当教員を決定し、4年次からゼミごとに指導を受けながらテーマを深め、計画書または論文の作成に取り組む。ゼミ担当教員は、各看護学領域ごとのグループ指導を原則としているが、領域を超えたグループ指導をおこなうこともできる。また、希望によりデータ収集・分析を行う調査研究、ケースレポートを作成することが出来る。
	統合実習	4	2			学生が主体的にテーマや実習領域を設定し、習得した知識や技術を統合し、最終実習として自律的な看護実践を展開し、連携力、チームマネジメント力、自己研鑽力を強化する。3年後期に卒業論文ゼミナール担当教員を選択し、配置領域を調整後に決定する。実習方法は、これまでの実習施設の協力を得るが、テーマに沿った実習形態となるように柔軟に計画する。統合実習のテーマは、卒業論文のテーマと連動することができる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門科目	統合領域 ヘルスケアマネジメント論	4	1			健康、医療に関わる人、モノ、カネ、情報を含む諸資源をいかに効果的にマネジメントしてゆくべきなのだろうか。本授業では、この問いに対して、マネジメント・サイエンスの視点から日本、アメリカ、カナダ等の医療・健康政策を概観し、微視的な視点から日本国内の臨床現場の看護管理、医療管理を扱ってゆく。特に看護の立場から、いかにヘルスケアをマネジメントしてゆくのか。その現状とあるべき姿、両者を検討してゆく。この授業は、地域のヘルスケア(保健、医療、福祉)サービス全般を視野に収めて、それら「全体のマネジメント」(ソフトシステムズ方法論)という視点からアプローチする。全体のマネジメントは患者(利用者)、看護師、経営者、管理者、行政にとって重要な課題である。前半は、このような視点に立って、健康マネジメントシステム、目標管理、人材マネジメントシステム等を俯瞰する。卒後は、ヘルスケア関連の多様な職種と連携して業務を行うことになるので、多職種連携・チーム医療というテーマも扱う。後半は、入退院管理、地域包括ケアシステム、認知症患者の包括的ケア、多職種連携教育等を含めプラクティカルな内容に焦点を当てる。
	災害看護論	4	1			国内、国外で発生する災害が引き起こす社会、生活、健康への影響について学び、災害サイクルや活動の場、被災者特性に応じた看護の役割を理解する。 授業内容は、災害看護の定義、災害看護の基礎知識、災害サイクルに応じた看護、トリアージなどの看護技術、被災者に応じた看護、災害と心のケアを学び、災害看護についてグループワークで深め、災害発生時の専門職としての役割とチームの中での役割について考える。
	国際看護論	3	1			グローバル課題が引き起こす健康への影響について学び、個人と個人を取り巻く地球環境全体をみる視点を持ち、看護が多様なものであり、変化するものであることを理解する。 国際看護の概念・歴史・理論、保健医療分野の開発理念の変遷と世界の健康課題、文化を考慮した看護、国際協力の仕組みと看護職の活動、国際保健看護活動の実践について学び、異文化下における健康課題アプローチについて事例検討を行う。
	看護研究	3	1			看護研究の目的や意義、方法とプロセスについて、基礎的な内容を学習する。研究疑問を明確にして研究方法の選定につなげていくプロセスを学び、研究のタイプやデザイン、研究に必要なデータの収集方法と、研究における倫理的配慮の重要性について理解と関心を深め、得られたデータを分析・考察する初歩的な方法について学ぶ。
	医療リスクマネジメント	3			1	医療安全とリスクマネジメントの概念、医療のリスクマネジメントプロセスとその実践、起こりやすい医療事故とその対策について学ぶ。患者・市民とともに作り上げる医療安全について考える。 医療安全に関する国の取り組み、医療事故の定義、事故発生のメカニズム、医療機関における安全対策、事故分析と対策、患者家族との協働による取り組み、安全文化の醸成、医療事故と安全対策、実際の事例を通して医療安全管理の基本について学ぶ。
	看護とグローバルヘルス	1			2	「地域ケア」はローカルな場のみならず、グローバルな場にも存在する。本演習では、グローバル社会における地域ケアの実態を、実際にカナダを訪問することによって深く学んでいくものである。この科目は、カナダのブロック大学と連携して、オンタリオ州のキャンパスならびに周辺地域を舞台にして、①臨床実践英語の基礎、②臨床トレーニング、③地域の看護・ヘルスケア関連施設、④在宅のチーム医療などについてフィールド調査を交えながら学ぶ。約2週間の短期留学プログラムを中心として、カナダへ行く前の臨床英語トレーニング、帰国後の報告会をもって終了する。滞在はブロック大学から至近の一般カナダ人家庭にホームステイする。
	家族看護学	1	1			健康問題、貧困、格差といった社会的問題を解決していくためには社会イノベーションの視点と行動が必要である。社会イノベーションの主体者、つまり社会起業家として看護師にはなげがで、なにをすべきなのかを議論してゆく。この科目では、イノベーターやアントレプレナーとしての看護師に注目し、起業行動を分析していく。訪問看護ステーション、代替的ケアシステム、生活支援サービスなど、看護サービス分野には多くの起業家が活躍しつつある。変化・変革・イノベーションを起こすような起業家、イノベーターの資質を強化するコンテンツも適宜提供していく。
	社会イノベーション論	4			1	健康問題、貧困、格差といった社会的問題を解決していくためには社会イノベーションの視点と行動が必要である。社会イノベーションの主体者、つまり社会起業家として看護師にはなげがで、なにをすべきなのかを議論してゆく。この科目では、イノベーターやアントレプレナーとしての看護師に注目し、起業行動を分析していく。訪問看護ステーション、代替的ケアシステム、生活支援サービスなど、看護サービス分野には多くの起業家が活躍しつつある。変化・変革・イノベーションを起こすような起業家、イノベーターの資質を強化するコンテンツも適宜提供していく。
	保健師科目	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ	3	(1)保健師必修		▲1
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ		4	(2)保健師必修		▲2	公衆衛生看護活動を行なう保健師として必要な知識、技法を学習する。公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団及び地域への支援方法としての家庭訪問、健康相談、健康教育・グループ支援等について、その理論、展開方法及び実践的技法等を講義及び演習により習得する。特に健康教育についてはある地域ある場面の設定の中で企画・実施・評価の展開を行い、その技法を具体的に学ぶ。
公衆衛生看護管理論Ⅰ		4	(1)保健師必修		▲1	公衆衛生看護管理の理念・目的、管理の仕組み及び公衆衛生看護管理の具体的な対象である組織・人材、社会資源管理、情報管理、予算管理、事業評価そしてリスクマネジメント及び健康危機管理について教授する。



科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業科目の概要
			必 修	選 必	選 択	
専門科目 保健師科目	公衆衛生看護管理論Ⅱ	4	(1) 保健師必修		▲1	公衆衛生看護活動におけるシステムづくり・施策化について、事例について演習を行うことから学ぶ。また、公衆衛生看護管理における継続教育や管理活動の実際について課題等を分析・検討することを通して、公衆衛生看護活動の今後の活動のあり方、保健師の専門性等について研究的視点から教授する。
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	(3) 保健師必修		▲3	行政機関としての県の保健所、市の保健施設等での実習を行うことにより、それぞれの機関が担う機能を学ぶとともに、地域社会で生活している人々の健康を護る活動、公衆衛生の向上に寄与するための保健師としての必要な知識と技法(家庭訪問、健康教育、グループ支援)を体験から学び、さらに保健師の持つ基本能力、行政能力、専門能力のベースになる能力を実践を通して養う。特に行政保健師として技能として重要な施策化について検討するため地区診断を行い、それぞれ事業を実施している意義を考察する。
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	(1) 保健師必修		▲1	産業現場や学校における保健活動の実際を知り、産業保健及び学校保健における保健師の活動内容、役割及び機能を理解し、必要な技法等を習得するとともに、産業保健と学校保健を含めた公衆衛生看護活動のあり方について考察する。 実習内容は産業保健現場の見学と、健診活動事業の見学実習、健康教育媒体の作成、小中学校での学校保健実習を行い、最終日は産業保健、学校保健における保健師の役割についてカンファレンスで深める。

【備考】単位数（選択）の▲は、単位として認めるが卒業要件には含まない選択科目を表す。

履修モデル【保健師】 この履修モデルは一例です。

年次	1年次			2年次			3年次			4年次		
	科目	単位数	履修単位数	科目	単位数	履修単位数	科目	単位数	履修単位数	科目	単位数	履修単位数
全学基礎	情報リテラシー学習	1	1	コミュニケーション論	1							
	情報社会とAI	2	2	OSポーツ演習a	2							
	英語a	1	1	OSポーツ演習b	2							
	生命倫理	2	2	OSポーツ演習c	2							
	心理学概論	1	1	OSポーツ演習d	2							
	日本国憲法	2	2	OSポーツ演習e	2							
	文化人類学	2	2	OSポーツ演習f	2							
	社会学概論	2	2	OSポーツ演習g	2							
	生命倫理	2	2	OSポーツ演習h	2							
	OSポーツ演習i	2	2	OSポーツ演習i	2							
看護基礎	看護学概論	5	5	OSポーツ演習j	2							
	OSポーツ演習j	2	2	OSポーツ演習j	2							
	OSポーツ演習k	2	2	OSポーツ演習k	2							
	OSポーツ演習l	2	2	OSポーツ演習l	2							
	OSポーツ演習m	2	2	OSポーツ演習m	2							
	OSポーツ演習n	2	2	OSポーツ演習n	2							
	OSポーツ演習o	2	2	OSポーツ演習o	2							
	OSポーツ演習p	2	2	OSポーツ演習p	2							
	OSポーツ演習q	2	2	OSポーツ演習q	2							
	OSポーツ演習r	2	2	OSポーツ演習r	2							
看護専門科目	看護学基礎	10	10	OSポーツ演習s	2							
	OSポーツ演習s	2	2	OSポーツ演習s	2							
	OSポーツ演習t	2	2	OSポーツ演習t	2							
	OSポーツ演習u	2	2	OSポーツ演習u	2							
	OSポーツ演習v	2	2	OSポーツ演習v	2							
	OSポーツ演習w	2	2	OSポーツ演習w	2							
	OSポーツ演習x	2	2	OSポーツ演習x	2							
	OSポーツ演習y	2	2	OSポーツ演習y	2							
	OSポーツ演習z	2	2	OSポーツ演習z	2							
	OSポーツ演習aa	2	2	OSポーツ演習aa	2							
看護総合	看護学概論	1	1	OSポーツ演習ab	2							
	OSポーツ演習ab	2	2	OSポーツ演習ab	2							
	OSポーツ演習ac	2	2	OSポーツ演習ac	2							
	OSポーツ演習ad	2	2	OSポーツ演習ad	2							
	OSポーツ演習ae	2	2	OSポーツ演習ae	2							
	OSポーツ演習af	2	2	OSポーツ演習af	2							
	OSポーツ演習ag	2	2	OSポーツ演習ag	2							
	OSポーツ演習ah	2	2	OSポーツ演習ah	2							
	OSポーツ演習ai	2	2	OSポーツ演習ai	2							
	OSポーツ演習aj	2	2	OSポーツ演習aj	2							
保健師科目	OSポーツ演習ak	2	2	OSポーツ演習ak	2							
	OSポーツ演習al	2	2	OSポーツ演習al	2							
	OSポーツ演習am	2	2	OSポーツ演習am	2							
	OSポーツ演習an	2	2	OSポーツ演習an	2							
	OSポーツ演習ao	2	2	OSポーツ演習ao	2							
	OSポーツ演習ap	2	2	OSポーツ演習ap	2							
	OSポーツ演習aq	2	2	OSポーツ演習aq	2							
	OSポーツ演習ar	2	2	OSポーツ演習ar	2							
	OSポーツ演習as	2	2	OSポーツ演習as	2							
	OSポーツ演習at	2	2	OSポーツ演習at	2							

◎：必修科目
 ○：選択必修科目 スポーツ演習は人数制限があり、前期と後期に分けて実施。
 △：選択科目
 選択科目を含めて、1年間履修登録上限の46単位まで履修可。本学部の教育理念、方針に沿って各自選択可。

7) 実習について

(1) 臨地実習基本方針

臨地実習は、講義や演習によって修得した知識や専門的技術をもとに看護の対象との相互関係の中で学びながら、看護実践に必要な基礎的能力を修得する授業です。

臨地実習は看護師としての知識・技術・態度について、基本実習段階、応用実習段階、統合実習段階として段階的に学びます。

(2) 各段階の実習配置および年次計画

各段階の実習配置と年次計画については、看護学実習（臨地実習）スケジュールに示しました。

看護学実習（臨地実習）スケジュール

*実習時期は変わることがあります。各年度ごとのガイダンスにて必ず確認してください。

年次	月 週	4					5					6					7					8				9				10				11				12				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5									
基本実習 段階	1 年次	5 人 / G																					基礎 看護学 実習 I 1単位																			
	2 年次	5 人 / G	高齢者看護 学実習 2単位					地域 看護学 実習 1単位																																		
応用実習 段階	3 年次	5 人 / G						母性看護学実習(一部) 小児看護学実習(一部) 精神看護学実習(一部)									母性看護学実習 2単位 *グループローテーションにて行う。 小児看護学実習 2単位 成人・高齢者看護学実習 I (急性・回復期) 3単位 成人・高齢者看護学実習 II (回復・慢性期) 3単位 精神看護学実習 2単位 在宅看護学実習 2単位																									
統合実習 段階	4 年次	100人	統合実習 2単位 *時期は各学生にて調整して行う																																							
		保健師 課程	公衆衛生看護学実習 I 3単位 公衆衛生看護学実習 II 1単位																																							

年次	月 週	1				2				3				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
基本実習 段階	1 年次	5 人 / G					地域包括 ケア実習							
	2 年次	5 人 / G	基礎看護学 実習 II 2単位前半G				基礎看護学 実習 II 2単位後半G							
応用実習 段階	3 年次	5 人 / G	母性看護学実習(一部) 精神看護学実習(一部) 在宅看護学実習(一部)											
統合実習 段階	4 年次	100人 保健師 課程												

実習科目の詳細な内容については、「実習の手引き」を参照してください。

8) 短期留学について

専門科目（統合領域）の選択科目「看護とグローバルヘルス（2単位）」では、短期留学を行います。時期は夏季休暇中の3週間程度を予定しています。



4. 取得できる資格と選抜方法

1) 看護師

卒業要件に必要な単位（124単位以上）を修得し、全必修科目を取得することで、看護師国家試験受験資格が得られます。厚生労働省所管の看護師国家試験に合格することで看護師免許が取得できます。

2) 保健師

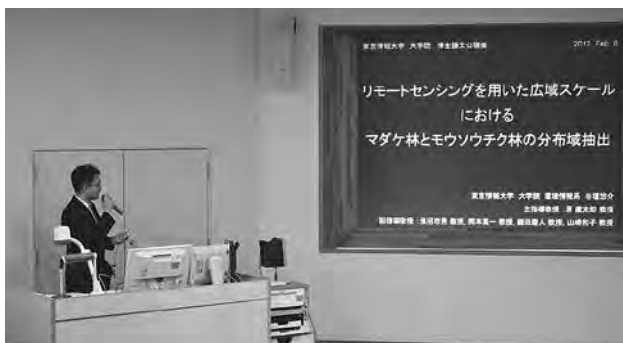
保健師課程では、保健師課程を選択し、卒業要件に必要な単位（124単位）を修得し、且つ保健師の国家試験受験に必要な疫学・社会調査2単位、学校保健論Ⅰ・Ⅱ、産業保健論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動論と保健師科目9単位の履修が必要です。また必修単位としては養護教諭2種免許取得に必要なスポーツ演習2単位以上、英語2単位以上、日本国憲法2単位の履修も必要で、保健師選択課程の最低必要単位は136単位になります。

厚生労働省が行う保健師国家試験に合格することにより保健師免許が取得できます。また、保健師免許取得者で、所定の単位（日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作）を修得しているものは、都道府県教育委員会に個人申請することで「養護教諭2種免許」の交付を受けられます。

3) 保健師課程の選抜方法

保健師課程の選抜は、まず3年次前期中盤に希望調査（選抜理由書含む）を行います。その後、面接試験を行い、希望理由書、2年次までの成績を総合的に判断し、3年次前期終了までに選抜結果を発表します。

大学院総合情報学研究科



1. 総合情報学研究科の目的及びポリシー

1) 博士前期課程

(1) 博士前期課程 教育研究上の目的

大学院総合情報学研究科博士前期課程においては、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野において研究開発や課題解決を推進する「情報システム系列」、メディア情報、経営・社会情報の各分野において社会的な課題を解決する「社会情報系列」、保健医療福祉分野において医療現場での課題を解決する「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を柱として、各系列における高度な専門知識、および、技能を修得した研究者や高度職業人を育成するとともに未来を切り拓く「総合情報学」の進展を目的とする。

(2) 博士前期課程 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

大学院総合情報学研究科博士前期課程においては、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を有する総合情報学の専門分野において、次の専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養を身に付け、総合情報学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文及び最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（総合情報学）の学位を授与する。

①総合情報学研究科の専門分野に応じた各系列の高度な専門知識と技能。

②修得した高度な専門知識と技能をもとに、与えられた問題を論理的に思考して、自ら課題を発見・解決し、解決策を社会に発信する研究・開発能力。

③修得した専門知識・技能や研究・開発能力により、多様化・複雑化する情報化社会における諸問題を的確に捉え、主体性を持って問題解決に関与、貢献することができる研究の素養。

それぞれの系列に係わる専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養は次の通りである。

《情報システム系列》

システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野において、新たな技術や手法を研究・開発する研究者・技術者を目指して、専門知識・技能、思考力・問題解決力・情報発信力等の能力を身に付ける。それらの知識や能力を修得することで、高度で洗練された情報技術やシステムを提案する能力を持ち、情報化社会における諸問題の解決に関与、貢献することができる。

(専門知識・技能)

情報学の応用分野において、新たな技術や手法を研究・開発する研究者・技術者として、情報分野における体系的な知識と専門分野における先端的知識を修得し、より良いシステムを提案する能力を持ち、課題を解決することができる。

(研究・開発能力)

情報化社会の変化を論理的に分析する思考力と問題解決能力を備え、解決策を的確に発信することができる。

(研究の素養)

情報を正確かつ論理的に分析すると共に、他人の考えを正しく理解した上で、自分の考えを正確かつ効果的に発信し、自らが主体的に未解決な課題に取り組むことができる。

《社会情報系列》

メディア情報、経営・社会情報の各分野において、メディア情報学・経営学、およびその他の社会科学の領域をもとにした複眼的アプローチを学ぶことによって、それら諸学問領域の連携・融合を試みる。そこから得られた知識・思考様式・技術を使って、多様化する高度コミュニケーション社会における人間・社会の関係性を理解し、解決策を提案する能力を培い、社会的な課題を能動的に解決することができる。

(専門知識・技能)

メディア情報学、経営学、およびその他社会科学の諸領域の先端的な知識・技能を習得する。そこから多角的な視点と、現象への複眼的なアプローチを得る。それによって、社会情報学を構成するメディア情報学その他の社会科学諸領域を統合的に把握できる枠組みを構築することができる能力を養う。

(研究・開発能力)

情報学に依拠した経営学やその他の社会諸科学の視座、およびメディア情報学によるメディアそのものの意味と機能をふまえた視座から、総合的な思考力と問題解決能力、および専門的な情報技術の習得による情報発信力を用いて、現実社会の複合的な諸問題について総合的な解決を得ることができる。



《研究の素養》

異論を即座に否定し排除するのではなく、まず受容し、その後で、異論が発生した背景を可能な限り多角的な視点をもって探求し、自説との照合・比較・検討を行う。そこから、より高度な次元の問題解決策につなげることで、新たな課題の構築、設定、検討、解決に向けて進むことができる。

《ヘルスケア情報系列》

社会構造の変化によって複雑・多様化する人々の健康ニーズに対して、保健医療福祉関連の専門職同志の情報の共有化とデータの活用は健康福祉社会を形成するための必須事項である。ヘルスケア情報系列では、保健医療福祉分野におけるヘルスケア情報のデータサイエンティストとして適切な能力と技能を身に付け、人々が安心できる健康福祉社会を形成するために必要な情報活用の専門家を育成する。

《専門知識・技能》

保健医療福祉分野におけるヘルスケア情報とその学問的基盤に関連する情報科学技術を理解し、診療情報や医療看護情報などの医療データを的確な手法で解析すると共に、その解決策を分かりやすく提案する能力を生かして、医療現場における課題を能動的に解決する技能を修得する。

《研究・開発能力》

科学的思考（エビデンス）に基づいたデータ活用によって健康福祉社会に貢献することができる能力を養うとともに、高度情報社会に求められるヘルスケア情報を、未来志向で管理運営、研究・開発することのできる能力を身に付ける。

《研究の素養》

グローバル化する社会・文化の違いを尊重し、人々の多様な健康ニーズに対して高い倫理観をもって、能動的かつ主体的に未知の課題に取り組む姿勢を養う。

(3) 博士前期課程 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

大学院総合情報学研究所博士前期課程のディプロマポリシーを達成するため、情報処理や情報科学に関連する研究を推進していくための総合情報学や基礎知識を修得するための「基礎科目」を配置する。「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列においては、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」を編成し、「修士特別研究」により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」により、研究の素養を修得する口頭発表や修士論文発表会などを行う。さらに、高等学校「情報」及び中学校・高等学校「数学」の教員免許状(専修)取得者に対する教職専門科目を配置する。博士前期課程の修了の可否は、修了所要単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査と、最終試験の結果に基づいて判定する。知識・技能、思考力・問題解決力・情報発信力等の能力及び主体的な態度の修得に関する科目編成の考え方は次の通りである。

《専門知識・技能》

「基礎科目」において、データサイエンスの基礎技術や「システム情報系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列に共通する基礎知識を理解する。「専門科目」において、3つの系列に関連する特論等の専門的知識を身につけるための授業科目を配置する。授業科目の配置においては、総合情報学部との連携を考え、総合情報学部の履修モデル(システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、数理情報、メディアデザイン、経営イノベーション)との接続性を考慮した専門分野に体系化している。また、看護学部との連携においては、「ヘルスケア情報系列」に看護学部との接続性を考慮した科目を配置している。学生はそれらの科目群から幅広く受講科目を選択でき、体系的な専門知識・技術を修得する。成績は試験、レポート等に基づいて評価する。

それぞれの系列に係わる「専門科目」の編成方針は次の通りである。

《情報システム系列》

システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの専門的特徴を活かした専門科目の中から、選考する専門分野を中心として幅広く受講科目を選択し、体系的な専門知識・技術を修得する。

《社会情報系列》

社会における情報現象の総体を理論的、実証的、歴史的に把握するために、社会学および社会コミュニケーション、メディア実践の専門領域から、そして、社会組織の意思決定の現実把握のために、経営学・組織論の多方面にわたる領域の専門領域から幅広く受講科目を選択し、メディアや社会情報の本質的理解と組織体の総合的な管理や意思決定についての体系的な専門知識、技術の習得を修得する。

《ヘルスケア情報系列》

ヘルスケア情報の基盤となる講義および演習で構成し、ヘルスケア情報を扱う者に求められる優れたコミュニケー

ション能力と、高い倫理観に基づく学習を通して情報リテラシーに必要な知識・技術を修得する。

(研究・開発能力, 研究の素養)

「修士特別研究」においては、研究活動、修士論文の作成を通して、問題発見能力、柔軟な思考力、問題解決能力などの研究・開発能力を育成する。「修士特別演習」においては、口頭発表や修士論文発表会などで、研究成果や解決策を社会に発信する情報発信力、コミュニケーション能力などの研究の素養を修得し、また、学会参加、研究討論などの場を通して、専門的内容に関する説明や討論などを主体的に進めるための態度を修得する。

2) 博士後期課程

(1) 大学院博士後期課程 教育研究上の目的

大学院総合情報学研究科博士後期課程においては、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの分野において研究開発や課題解決を推進する「情報システム系列」、メディア情報、経営・社会情報の分野において社会的な課題を解決する「社会情報系列」、保健医療福祉分野において医療現場での課題を解決する「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を柱として、各系列における最先端かつ高度な専門性と卓越した発想・問題解決能力を身に付け、当該分野を牽引し、新たな学術領域を開拓する教育者、研究者、および、技術者の育成を目的とする。

(2) 博士後期課程 学位授与の方針 (ディプロマポリシー)

大学院総合情報学研究科博士後期課程においては、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を有する総合情報学の専門分野において、研究・教育機関の中核となる研究者等として活躍することを旨として、次の専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養を身に付け、総合情報学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、博士(総合情報学)の学位を授与する。

- ①総合情報学研究科の専門分野に応じた極めて高度な専門知識と技能。
- ②高度な専門知識・技能と教養をもとに、与えられた問題を論理的に思考して、自ら課題を発見・解決し、独創的な解決策を社会に発信する研究・開発能力。
- ③多様化・複雑化する情報化社会における諸問題を的確に捉え、総合情報学分野の高度な研究者、技術者として、主体性を持って問題解決に関与、貢献する研究の素養。

(3) 博士後期課程 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー)

大学院総合情報学研究科博士後期課程のディプロマポリシーを達成するため、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列の博士前期課程で修得した専門知識や研究能力を基礎として、「博士特別研究」により、極めて高度な専門知識、論理的で独創的な研究・開発能力を修得する研究指導、「博士特別演習」により、研究成果や解決策を的確に社会へ発信する情報発信力、コミュニケーションなどの能力を養う口頭発表、博士論文発表会や学会発表などを行う。また、総合情報分野において、情報化社会における諸問題を的確に捉え、独創的な考えで研究活動の行う研究の素養を修得するための科目として「情報哲学」を配置する。博士後期課程の修了の可否は、修了所要単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査と、最終試験の結果に基づいて判定する。

3) 学位取得までの流れ

(1) 博士前期課程

審査の区分	目的	内容
1年次審査 (1年次終了時)	総合的・専門的知識に関する審査	特論科目(1年次履修)の評価
2年次審査 (2年次前期)	研究計画の遂行に関する審査	修士論文計画の審査
〈修士論文の提出〉		
修士論文審査 (2年次後期)	修士論文の完成度の審査	①修士論文要旨の審査 ②修士論文の審査
最終試験 (2年次終了時)	専攻学術の知識の確認	修士論文に対する口頭試問
〈修士(総合情報学)の学位授与〉		



(2) 博士後期課程

審査の区分	目的	内容
第1次審査 [基礎資格審査] (1年次終了時)	問題設定能力の基礎審査 ①理論的知識の確認 ②方法的知識の確認 ③関連する専門知識の確認	研究計画に対する評価・指導 ①博士論文計画書の審査 ②理論的知識に関する口頭試問 ③方法的知識に関する口頭試問 ④専門領域に関する口頭試問
第2次審査 [博士候補者資格審査] (2年次終了時)	問題設定能力および研究方法等の審査 ①研究内容の確認 ②実証能力の確認	研究経過報告に対する評価・指導 ①研究経過報告書の審査 ②博士予備論文(中間発表)の評価
第3次審査 [博士候補者資格審査] (3年次前期)	研究内容の公開および審査	研究成果・論文内容に対する評価・指導 ①博士論文概要の審査 ②博士論文に関する研究発表内容の審査(専攻内の研究発表会)
〈博士論文の提出〉		
博士論文審査 (3年次後期)	博士論文の完成度の審査	博士論文の審査
最終試験 (3年次終了時)	専攻学術の学力の確認	①専攻学術試験 ②外国語能力審査 (博士論文英文要旨の審査)
〈博士(総合情報学)の学位授与〉		

2. 授業科目の履修及び単位認定

1) 履修方法について

博士前期課程の学生は、情報システム系列、社会情報系列、ヘルスケア情報系列の中から専門とする系列を決めて入学する。併せて、情報システム系列、社会情報系列を専門とした場合、各系列において更に専門性を目指す分野を決める。履修科目は、専門とする系列・分野を考慮し、指導教員と相談して選択する。履修科目は、基礎科目、専門科目で構成する。修了要件は、34単位以上で、・基礎科目(必修)2単位、・基礎科目(選択)から4単位以上、かつ・基礎科目(選択)、専門科目(選択)、教職科目から24単位以上、・専門科目(必修)8単位を修得する必要がある(12.教育課程参照)。

【履修モデル例】

- ・情報システム系列で、システム開発分野の専門性を目指す場合

基礎科目	総合情報学総論, 知能情報特論, データマイニング特論	: 6 単位
専門科目	システム開発分野	: 8 単位
	ネットワーク分野	: 4 単位
	知能情報分野	: 4 単位
	データサイエンス分野	: 4 単位
専門科目(修士特別研究, 修士特別演習)		: 8 単位
- ・社会情報系列で、社会組織の意思決定分野の専門性を目指す場合

基礎科目	総合情報学総論, 情報社会理論特論, データマイニング特論	: 6 単位
専門科目	メディア情報分野	: 2 単位
	経営・社会情報分野	: 18 単位
専門科目(修士特別研究, 修士特別演習)		: 8 単位
- ・ヘルスケア情報系列で、データサイエンティストとして保健医療福祉分野の専門性を目指す場合

基礎科目	総合情報学総論, ヘルスケア情報特論, データマイニング特論	: 6 単位
専門科目	保健医療福祉分野	: 10 単位
	知能情報分野	: 2 単位
	データサイエンス分野	: 8 単位
専門科目(修士特別研究, 修士特別演習)		: 8 単位

博士後期課程の学生は、大学院総合情報学研究科博士後期課程のディプロマポリシーを達成するための科目(情報哲学, 博士特別研究, 博士特別演習)を修了要件として、10単位修得する必要がある。

2) 単位認定について

(1) 成績評価基準

- 履修した授業科目の成績評価は、原則として試験（筆記試験・論文・レポート・その他）により行う。
- 成績評価基準、および成績証明書等の成績の表記は、下表のとおりとする。

成績評価基準とGP

判定	評価点	成績原簿表記	成績証明書表記	GP	成績評価内容
合格	100～90点	秀	秀	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている
	89～80点	優	優	3	到達目標を十分に達成している
	79～70点	良	良	2	到達目標を達成している
	69～60点	可	可	1	到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	不	表示せず	0	到達目標を達成していない
	—	欠		0	試験欠席・レポート未提出・出席不足

(2) GPA制度

学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的として、GPA 制度を導入する。

・GPA 制度

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことである。この GPA は、学修への取り組みを質的に把握するための指標となり、学期ごとに比較することで、学修した成果を判断する目安となる。

・成績評価と GP

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100～90点	
優	3	89～80点	
良	2	79～70点	
可	1	69～60点	
不	0	59点以下	
欠	0	—	
認	—	—	対象外とする

(3) GPA算出方法

$GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{履修登録科目の単位数の合計}$

* 小数点第 2 位下四捨五入

* 分母の総単位数には、不合格科目（評価が「不」、「欠」）の単位数を含む

(4) 対象科目

全ての科目を対象とする。

(5) GPAの確認方法

成績開示期間中、J-port の“成績照会” から確認することができる。

(6) GPAの「総合評価表」

算出された GPA は、下表を参照し、評価の目安とする。

GPA	総合評価
3.5～4.0	大変優秀な成績です。
3.0～3.4	優秀な成績です。
2.0～2.9	平均的な成績です。
1.0～1.9	努力を要する成績です。
0～0.9	より一層の努力を要する成績です。

3) 単位の計算方法

東京情報大学学則第 13 条の規定を準用します。



3. 授業時間

授業時間は、原則として次のとおりです。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時 間	9 : 15~10 : 45	10 : 55~12 : 25	13 : 10~14 : 40	14 : 50~16 : 20	16 : 30~18 : 00

4. 論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで

《博士前期課程》

1) 修士論文計画書の提出

各年度の授業科目の履修登録後、修士論文計画書（158ページ様式1）を学生教務課へ提出してください。

- (1) 1年次生については、入学選考時に提出した研究計画書とは別に、あらためて指導教授と相談の上、様式1により再度提出すること。
- (2) 2年次生については、予定する修士論文の題目を明記し、必ず副担当指導教員の欄に副査の教員氏名（予定）も記入して提出すること。

2) 学位請求論文の提出

学位の審査を受けようとする学生は、2年次の1月20日（20日が休日にあたる場合はその前日）までに、以下の書類を学生教務課に提出しなければなりません。

- (1) 修士論文審査申請書（160ページ様式2）1部
- (2) 学位請求論文（和文または英文 和文表紙は161ページ様式3）正本1部・副本2部
- (3) 論文内容の要旨（和文および英文 和文表紙は161ページ様式4）各3部
※要旨（和文・英文）は、同じ内容のデータもあわせて提出すること。(USBメモリ等を持参すること)
- (4) 参考論文（必要に応じて1部）
※様式1～4は、大学のホームページからダウンロードすることが可能です。

3) 論文発表会

2年次の2月には、修士論文の最終判定に先立って、口頭による論文発表会を行います。

《博士後期課程》

1) 博士論文計画書の提出

担当の指導教授と相談の上、1年次の1月末までに博士論文計画書（160ページ様式1）を学生教務課へ提出してください。

提出された計画書をもとに、2月には論文計画審査会（第1次審査）が行われます。

2) 研究経過報告書の提出

入学後2年間の研究経過等をまとめた研究経過報告書（様式任意）を、2年次の1月末までに担当の指導教授に提出してください。

それらをもとに、2月には研究経過報告会（第2次審査）が行われます。

3) 論文要旨の提出

論文作成の進捗状況を確認するため、論文内容の要旨（161ページ様式4）を、3年次の6月末までに担当の指導教授に提出してください。

それらをもとに、7月には論文要旨発表会（第3次審査）が行われます。

4) 論文発表会

3年次生の11月には、博士論文の受理可否を審査するため、口頭による論文発表会（博士論文予備審査）を行います。なお、博士論文の審査にあたり、要件が設けられているので担当の指導教授に確認してください。

5) 学位請求論文の提出

論文の受理を認められた学生は、3年次の1月始めまでに、以下の書類とともに学位請求論文を学生教務課に提出しなければなりません。

- (1) 博士論文審査申請書 (160ページ様式2) 1部
- (2) 学位請求論文 (和文または英文 和文表紙は161ページ 様式3) 正本1部副本2部
- (3) 論文内容の要旨 (和文および英文 和文表紙は161ページ 様式4) 各3部
※要旨 (和文・英文) は、同じ内容のデータもあわせて提出すること。(USBメモリー等を持参すること)
- (4) 参考論文 (必要に応じて1部)
※様式1～4は、大学のホームページからダウンロードすることが可能です。

5. 課程修了の要件

《博士前期課程》

博士前期課程の修了要件は、以下のとおりです。

- ①博士前期課程に2年以上在学すること。
- ②所定の授業科目について34単位以上を修得すること
- ③必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《博士後期課程》

博士後期課程の修了要件は、以下のとおりです。

- ①博士後期課程に3年以上在学すること。
- ②所定の授業科目について10単位を修得すること
- ③必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。

6. 修士(総合情報学)の学位授与のための基準および方法(申し合わせ)

1) 学位論文(博士前期課程)(以下、「学位論文」とする)の審査基準

- (1) 学位論文作成のプロセス
 - ①先行研究の整理と問題設定は適切になされているか。
 - ②研究方法の選択・実行は適切になされているか。
- (2) 学位論文の構成
 - ①章立てを含めた論述の流れは適切であるか。
 - ②設定した問題の解明は的確・適切になされ、オリジナリティあるいは有効性が適切にまとめられているか。
 - ③注や図表処理、参考文献の適切な引用等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であるか。

以上の観点で審査を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた学位論文である
- B おおむね良好な学位論文である
- C いくつかの問題はあるが、学位論文として認定しうる
- D 学位論文としての水準に達していない

2) 最終試験実施要領

- (1) 提出された学位論文の内容についての質疑応答。
- (2) 学位論文作成にあたってどのような研究を行ったかについての質疑応答。
- (3) 研究成果のさらなる発展可能性についての質疑応答。

この3つの観点で試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた研究が行われ、独力でのさらなる研究の発展が期待できる
- B おおむね良好な研究が行われたと認められる
- C 不十分な点がいくつかあるが、一定程度の研究が行われたと認められる
- D 適切な研究が行われたとはいいがたい

学位論文審査と最終試験のいずれかまたは両者がDであれば、不合格とする。



7. 博士(総合情報学)の学位授与のための要件及び方法(申し合わせ)

博士(総合情報学)の学位授与は、東京情報大学大学院学則第13条、14条、及び15条の規定に基づき、大学院研究科委員会において承認された審査委員(3名以上)による博士論文の審査及び最終試験を行い、大学院研究科委員会での審議によって、承認を得なければならない。

1) 博士(総合情報学)の学位授与の要件

博士(総合情報学)の学位授与にあたっては、原則として以下の要件を満たしている必要がある。

査読付き学術雑誌などに単著あるいは筆頭著者として2編以上の原著論文が掲載されているか、掲載予定であること。または、これに準ずる業績があること。

また、論文博士においては、博士論文を提出する際に、原則として以下の要件を満たしている必要がある。

査読付き学術雑誌などに単著あるいは筆頭著者として5編以上の原著論文が掲載されていること。または、これに準ずる業績があること。

2) 博士論文の審査

(1) 博士論文の作成プロセス

- ① 先行研究が的確に参照され、研究の目的は合理的で独創性のあるものか。
- ② 研究、調査あるいは実験方法等が再現性を持ち、適切であるか。
- ③ 研究、調査あるいは実験結果等に基づいた仮説や結論の展開は適切であるか。

(2) 博士論文の構成

- ① 先行研究が的確に参照され、研究課題の背景や意義について適切に記述されているか。
- ② 研究目的の合理性、学術上あるいは応用面で社会に貢献することが適切に記述されているか。
- ③ 研究、調査あるいは実験に関する計画や方法が適切に記述されているか。
- ④ 研究、調査あるいは実験結果について、図表を用いて適切に記述されているか。
- ⑤ 本文中における参考文献の引用と、参考文献リストが整合性を持っているか。

以上の観点で博士論文の審査を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた博士論文である。
- B おおむね良好な博士論文である。
- C いくつかの問題が散見されるが、博士論文として認定しうる。
- D 博士論文としての水準に達していない。

3) 最終試験

- (1) 先行研究に基づく研究目的、研究の合理性あるいは独創性についての質疑応答。
- (2) 研究、調査あるいは実験方法等の再現性、適切性についての質疑応答。
- (3) 研究、調査あるいは実験結果等に基づいた仮説や結論の展開についての質疑応答。

以上の3つの観点で最終試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた研究が行われたと認められる。
- B おおむね良好な研究が行われたと認められる。
- C 不十分な点が散見されるが、一定程度の研究が行われたと認められる。
- D 適切な研究が行われたとは言い難い。

博士論文の審査と最終試験のいずれか、または、両者がDであれば、不合格とする。

8. 学位

本大学院博士前期課程修了者には修士(総合情報学)の学位を、博士後期課程修了者には、博士(総合情報学)の学位を授与します。

9. 9月修了

所定の修業年限以上在学したものの、論文未完成または論文審査不可により留年した者が、翌年度の前期終了時点までに当該課程の修了要件を満たし、研究科委員会の修了判定を受けた場合は、9月30日付けで学位授与を受けることができます。

10. 表彰

大学院特別賞は、修了年次学生で、博士前期課程においては修士論文が極めて優秀な者、また博士後期課程においては博士論文が学界または社会的に高い評価を得た者に、「大学院特別賞」を授与して表彰します。

表彰は、当該者の修了式において行います。

11. 論文計画書等の様式

(1) 修士・博士論文計画書（様式1）

修士論文計画書（様式1）

専攻	総合情報学専攻	系列	学籍番号	氏名
論文題目				
主担当指導教授		副担当指導教授		
研究の背景（経緯と必要性、先行研究、当該研究の位置づけなど）				
研究目的（この研究の学術的な特色・独創的な点、予想される結果と意義など）				
研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画・方法を研究の段階ごとに区分し時系列で記入）				
【1年目】				
<前期>				
<後期>				
【2年目】				
<前期>				
<後期>				
研究業績（学会、研究会報告、学術誌等に発表した論文等の業績を現在から順に記入） ※特許等へは研究業績のみ場合記入する必要なし				
参考文献				
研究発表の予定				
【1年目】				
【2年目】				

博士論文計画書（様式1）

専攻	総合情報学専攻	系列	学籍番号	氏名
論文題目				
主担当指導教授		副担当指導教授		
研究の背景（経緯と必要性、先行研究、当該研究の位置づけなど）				
研究目的（この研究の学術的な特色・独創的な点、予想される結果と意義など）				
研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画・方法を研究の段階ごとに区分し時系列で記入）				
【1年目】				
<前期>				
<後期>				
【2年目】				
<前期>				
<後期>				
【3年目】				
<前期>				
<後期>				
研究業績（学会、研究会報告、学術誌等に発表した論文等の業績を現在から順に記入）				
参考文献				
研究発表の予定				
【1年目】				
【2年目】				
【3年目】				

(A4版・縦)

(2) 修士・博士論文審査申請書（様式2）

令和 年 月 日
東京情報大学大学院 総合情報学研究科委員長 殿
総合情報学研究科 年度入学（学籍番号 ） 氏名 印
修士・博士論文審査申請書
このたび、修士・博士（総合情報学）の学位を受けたいので、学位規則第 条の規定により、下記のとおり関係書類を提出しますので、審査くださるようお願いいたします。
記
1. 修士・博士請求論文 1編（正本1部、副本2部）
2. 論文要旨 部

(A4版・縦)



(3) 修士・博士請求論文表紙 (様式3)

修士・博士請求論文 (令和 年度)	
タイトル:	
指導教授	主査 副査 副査
総合情報学専攻	系列
学籍番号	
氏名	

(A4版・縦・左綴じ・2穴)

(4) 論文内容の要旨 (様式4)

フリガナ 氏名 (本籍)	
学籍番号	
学位 (専攻分野の名称)	修士・博士 (総合情報学)
学位記番号	第 号*
学位授与の日付	令和 年 月 日*
学位授与の要件	学位規則第 条該当*
学位論文題目	
論文審査委員	主査 副査 副査
論文内容の要旨	

〔「論文内容の要旨」の作成上の注意〕

(A4版・縦)

- ・*については記入しない。
- ・本文はワープロ打ちとする。(修士論文の場合は標題等を含め3枚以内)
- ・図表は丁寧に記入するか、別にかいたものを貼り付ける。
- ・研究目的、方法、結論がわかるように適宜章を分けるなどして、簡潔に述べる。

12. 教育課程

<博士前期課程>

科目区分	系列	分野	授業科目	年次	学期	単位数		科目担当者	教職		備考	履修要件
						必修	選択		情報	数学		
基礎	共通		総合情報学総論	1	F	2		花田 真樹 他			1年次に履修すること	2単位必修
			知能情報特論	1	F	2		マツカスゲン				
			情報社会特論	1	F	2		圓岡 偉男				
			ヘルケア情報特論	1	F	2		金子仁子, 小早川睦貴				
専門	システム開発		分散・並列処理システム特論	1	L	2		休講	○			基礎科目(選択), 専門科目(選択), 教職科目から24単位以上を修得 ※基礎科目(選択)は4単位以上修得
			画像情報特論	1	L	2		井関 文一		○		
			組込みシステム特論	1	F	2		大見 嘉弘	○			
			ウェアラブルシステム特論	1	L	2		* 中尾 宏	○			
			ソフトウェア工学特論	1	L	2		宇田川 佳久	○			
			データベース特論	1	F	2		藤原 丈史	○			
	ネットワーク		情報ネットワーク特論 A	1	F	2		花田 真樹	○		セット履修	
			情報ネットワーク特論 B	1	L	2		花田 真樹	○			
			暗号理論特論	1	L	2		鈴木 英男		○		
			ネットワークセキュリティ特論 I	1	F	2		森口 一郎	○			
			ネットワークセキュリティ特論 II	1	L	2		森口 一郎	○			
			人工知能システム特論	1	F	2		永井 保夫		○		
	知能情報		ソフトウェア特論	1	L	2		マツカスゲン		○		
			機械学習特論 A	1	F	2		佐野 夏樹		○		
			機械学習特論 B	1	L	2		永井 保夫		○		
		環境情報		環境情報特論 A	1	F	2		* 原 慶太郎	○		
				環境情報特論 B	1	L	2		* 原 慶太郎	○		
				環境マネジメント特論	1	F	2		富田 瑞樹			
			空間情報特論	1	F	2		朴 鍾杰		○		
		環境IT-センシング特論 A	1	F	2		* 浅沼 市男	○				
		環境IT-センシング特論 B	1	L	2		* 浅沼 市男	○				
	データサイエンス		数理学特論 A	1	F	2		川勝 英史		○		
			数理学特論 B	1	L	2		川勝 英史		○		
			情報数理特論 A	1	F	2		* 北風 和久		○		
		情報数理特論 B	1	L	2		村上 洋一		○			
		複雑系情報科学特論	1	F	2		休講		○			
		データ解析特論	1	F	2		* 櫻井 尚子		○			
		品質マネジメント特論	1	F	2		休講					
		バイオインフォマティクス特論	1	F	2		村上 洋一					
メディア情報		音響メディア情報特論	1	F	2		西村 明		○			
		マルチメディア特論	1	L	2		松下 孝太郎	○				
		映像情報特論	1	L	2		* 伊藤 敏朗					
社会情報	経営・社会情報		金融情報特論	1	F	2		堂下 浩			セット履修 奇数年開講 セット履修 偶数年開講	
			社会情報特論 I	1	F	2		茨木 正治				
			社会情報特論 II	1	L	2		茨木 正治				
			コミュニケーション特論 I	1	F	2		茨木 正治				
			コミュニケーション特論 II	1	L	2		茨木 正治				
			会計情報特論	1	F	2		* 斎藤 隆				
			人的資源特論	1	F	2		休講				
			経営情報特論	1	L	2		池田 幸代				
	情報法学特論	1	F	2		休講						
ヘルスケア情報	保健医療福祉		ヘルケア情報管理特論	1	L	2		金子 仁子				
			ヘルケア情報教育特論	1	L	2		山口 豊				
			診療情報学特論	1	L	2		休講				
			ヘルケアイノベーション特論	1	F	2		松下 博宣				
			遠隔看護特論	1	L	2		休講				
共通	共通		修士特別研究	1-2	通年	6		各指導教員			8単位必修	
			修士特別演習	1-2	通年	2		各指導教員				
教職	共通		情報教育学研究	1	F	2		松下 孝太郎	○	○	教職課程履修者のみ履修可	教職課程履修者は6単位必修
			教育心理学特論	1	L	2		原田 恵理子	○	○		
			教育内容方法学特論	1	F	2		* 森山 賢一	○	○		

※科目担当者の*は非常勤講師を表す。
 ※教職欄の◎は必修科目, ○は選択科目を表す。
 ※セット履修科目は, 同時に履修すること。

<博士後期課程>

科目区分	系列	分野	授業科目	年次	学期	単位数		科目担当者
						必修	選択	
共通	共通		情報哲学	1	L	2		花田 真樹 他
			博士特別研究	1~3	通年	6		各指導教員
			博士特別演習	1~3	通年	2		各指導教員



13. 教員免許について

1) 取得できる免許状

大学院総合情報学研究科で取得できる教員免許状の種類は、以下のとおりです。

専攻	課程	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
総合情報学専攻	博士前期課程	数学	情報・数学

2) 免許状取得の要件

- ①当該教科の中学校教諭または高等学校教諭の一種免許を取得していること。
- ②当該免許状の教科に関する科目（下記表を参照）から24単位以上（必修6単位含む）修得していること。
- ③修士の学位を有すること。

教職課程科目〈令和3年度以降入学生〉

免許状	科目名	授業科目	単位数		履修方法等	
			必修	選択		
情報 (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目	環境情報特論A		2	これらより 18単位選択 必修	
		環境情報特論B		2		
		環境リモートセンシング特論A		2		
		環境リモートセンシング特論B		2		
		空間情報特論		2		
		データベース特論		2		
		ウェブアプリケーション特論		2		
		組込みシステム特論		2		
		情報ネットワーク特論A		2		
		情報ネットワーク特論B		2		
		ネットワークセキュリティ特論I		2		
		ネットワークセキュリティ特論II		2		
		分散・並列処理システム特論		2		
		マルチメディア特論		2		
ソフトウェア工学特論		2				
情報 (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学特論	2			
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育内容方法学特論	2		
		情報教育学研究	2			
数学 (中学専修) (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目	数理科学特論A		2	これらより 18単位選択 必修	
		数理科学特論B		2		
		暗号理論特論		2		
		複雑系情報科学特論		2		
		音響メディア情報特論		2		
		画像情報特論		2		
		人工知能システム特論		2		
		情報数理解論A		2		
		情報数理解論B		2		
		ソフトコンピューティング特論		2		
		データ解析特論		2		
		機械学習特論A		2		
		機械学習特論B		2		
		数学 (中学専修) (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学特論		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育内容方法学特論			2		
情報教育学研究	2					

3) 履修の手続き

教員免許状の取得を希望する場合は、入学時のガイダンス期間に学生教務課に問い合わせること。

課外活動

課外活動



1. 願出が必要な施設利用について

以下の各種施設の利用は、団体（課外活動、ゼミ等）を対象としています。申請にあたっては、教員（顧問・部長・指導教授等）の承認が必要になります。

1号館（本館棟）教室の利用について

- ① 学生教務課で利用を申し出る。
- ② 学生教務課にて教室の空き状況を確認し、仮予約をする。
- ③ HP書式集の「教室・体育館および学生会館共用施設利用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課に提出する。（原則1週間前）
- ④ 教室を利用する。
※利用可能時間：平日16:30～19:00、利用可能教室：原則として1号館の5階までの教室（授業の入っていない教室）
※教卓の機器を使用する場合は、原則として担当教員の立会いが必要。（部長、顧問、ゼミ教員等）

4号館（総合情報センター）の利用について

- ① 学生教務課まで仮予約を申し出る。
- ② HP書式集の「課外活動団体の総合情報センター使用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課（B 課外活動）に提出する。（原則1週間前）
- ③ 施設を利用する。
※利用可能施設：メディアホール、メディアサブホール
※利用可能時間：平日16:30～19:00
※教卓の機器を使用する場合は、原則として担当教員の立会いが必要。（部長、顧問、ゼミ教員等）

学生会館共用施設の利用について

- ① 学生教務課で利用を申し出る。
- ② 「学生会館共用施設予約表」に必要事項を記入して仮予約をする。
- ③ HP書式集の「教室・体育館および学生会館共用施設利用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課に提出する。（原則1週間前）
- ④ 利用前に学生教務課にある「学生会館施設管理簿」に必要事項を記入し、鍵を受け取り、施設を利用する。
※利用可能時間 9:00～22:00
※利用可能施設 会議室・和室・多目的ホール・学生会館前広場
※共用室については自由に使用できることとする。特定の団体が占有することがないように利用する。占有の必要がある場合は学生教務課（B 課外活動）に1ヶ月前までに相談する。

休日の活動について（課外活動）

- ① HP書式集の「施設利用許可願（休日夜間届）」をダウンロードし、必要事項を入力の上、1号館1階警備室に提出する。（原則2日前）
※提出する前に必ず担当教員の緊急連絡先と押印をもらってください。

合宿届

- ① HP書式集の「課外活動団体合宿届」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課（B 課外活動）に提出する（原則1週間前まで）
※合宿届未提出で事故に遭った場合、大学の保険が適用されませんのでご注意ください。

注意事項

- ・施設利用に関しては、クラブ・サークル・研究室（ゼミ）単位で利用の許可を行っています。個人での利用は原則できませんので、ご注意ください。
- ◇書式集アドレス<http://www.tuis.ac.jp/campus-life/download/>
書式集：情報大トップページ→学生生活→各種届出・様式ダウンロード→課外活動関連



2. 学友会

学友会は本学の学部学生及び教職員の全員をもって組織しています。課外活動をとおして会員相互の親睦と研鑽を図ることにより自立と連帯の精神を養うとともに、本学の発展に寄与し、あわせて社会への貢献を果たすことを目的としています。

有意義で、しかも潤いのある学生生活を送るためには、正課中の活動のほかに主体性をもって課外活動に取り組むことが重要です。各人が学友会のいずれかの団体に所属し、学友会行事に積極的に参加してください。(詳しいことは別冊子「諸規則諸規程」のP.59「東京情報大学学友会規程」を参照)

学友会の会員

- ◇特別会員：教職員
- ◆正会員：学部学生

学友会の組織及び役員

■総務部

- ◇総務部長 特別会員
- ◇総務部長補佐 特別会員
- ◆総務部執行委員 正会員

学友会の執行委員で、予算の編成、行事の企画運営などにあたります。正会員から公募し「役員会(特別・正会員で構成)」で承認します。

■課外活動団体

- ◇文化部部長 特別会員
- ◇運動部部長 特別会員
- ◆文化部幹事 正会員
- ◆同好会代表 正会員
- ◇同好会顧問 特別会員
- ◆運動部主将 正会員

文化部、運動部、同好会が活動しています。

■翔風祭実行本部

- ◇翔風祭実行本部長 特別会員
- ◇統括顧問 特別会員
- ◇実行委員会委員長 正会員
- ◇実行委員会副委員長 正会員

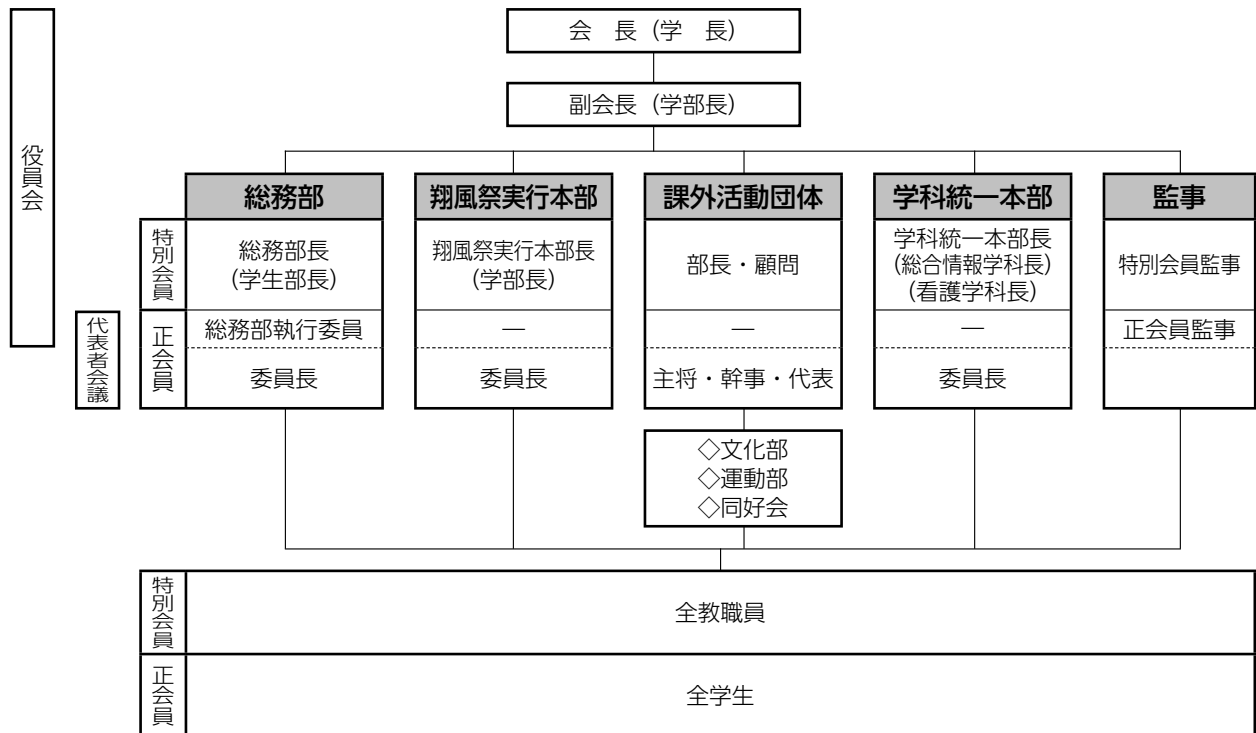
■学科統一本部

- ◆学科統一本部長 特別会員
- ◇統括顧問
- ◇委員会担当顧問

■監事

- 特別会員
- 正会員

東京情報大学学友会組織図



学友会行事

- 学友会オリエンテーション
 - 学友会レクリエーション大会
- 夏と冬の2回開催を予定しています。

◎翔風祭

2023年度は10月21日(土)，22日(日)の2日間にわたって開催します。翔風祭(学園祭)は日頃の教育研究活動の成果を学内外に披露する貴重な機会です。この機会を積極的に利用しましょう。

[主な内容]

文化学術展(ゼミの研究発表，課外活動の作品展示など)，特別企画(芸能人によるライブ，講演会，ステージ企画)，模擬店

◎卒業パーティー

「卒業パーティー」は，学友会が主催し，教職員・後援会(父母)・校友会(OB・OG)にもご参加いただき，卒業生をお祝いする会として例年卒業式(3/25)終了後，千葉市内で開催しています。

また，卒業生の負担軽減を行うため，参加費は無料とし，学友会予算及び大学関連団体からの寄付等で開催していますので，卒業生(卒業年次生)は奮ってご参加ください。

学友会 役員一覧(2022年度実績)

役 職 名	職 名	氏 名
会長	学 長	布 広 永 示
副会長	学 部 長	藤 井 博 英
総務部長	学 生 部 長	朴 鍾 杰
総務部長補佐(会計担当)	教 員	山 口 豊
総務部長補佐(総合情報学科担当)	教 員	高 橋 洋 平
総務部長補佐(外国人留学生担当)	教 員	茂 住 和 世
総務部長補佐(看護学科担当)	教 員	時 田 礼 子
監事(外部専門家)	外 部 委 員	佐 野 夏 樹
監事	職 員	山 本 孝

翔風祭実行本部長	学 部 長	圓 岡 偉 男
統括顧問	教 員	樋 口 大 輔
実行委員会担当顧問(総合情報)	教 員	マッキンケルジエム
//	教 員	高 橋 洋 平
//	教 員	藤 田 修 平
//	教 員	茂 住 和 世
実行委員会担当顧問(看護)	教 員	時 田 礼 子
//	教 員	山 野 内 靖 子

学科統一本部長(総合情報)	学 科 長	堂 下 浩
学科統一本部長(看護)	学 科 長	細 川 満 子
卒業パーティー担当顧問	教 員	森 口 一 郎
//	教 員	児 玉 悠 希



課外活動団体一覧
(2022年度実績)

《学友会：2》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
総務部執行委員会 (gakuyu1)	朴 鍾杰	学友会諸行事の企画・運営
翔風祭実行本部 (showsai)	圓岡 偉男	翔風祭の企画・立案・運営

《文化系団体（部）：5》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
Wind Ensemble (winden)	圓岡 偉男	コンサート活動
L.V.T (Laboratory of VideoTechnologies) (lvt)	藤田 修平	映像作品の制作
軽音楽部 (keion)	西村 明	L I V E活動
コンピュータ部 (computer)	村上 洋一	ゲーム用ソフトウェアの制作
Digi-Graph (dgraph)	中島 淳	CG技術の向上, 資格取得

《運動系団体（部）：5》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
硬式野球部 (baseball)	朴 鍾杰	千葉県大学野球連盟 1 部
サッカー部 (soccer)	山口 豊	千葉県大学サッカー協会 1 部
バドミントン部 (badmin)	富田 瑞樹	関東学生バドミントン連盟 3 部 千葉県学生バドミントン連盟 1 部
バレーボール部 (volly)	高橋 洋平	関東学生バレーボール連盟
陸上競技部 (rikujyo)	石井 政弘	関東学生陸上競技連盟

《同好会：14》

団 体 名	顧 問	活 動 内 容
バスケットボール同好会	河野 義広	バスケットボールを中心とした活動
Roger rabbits	朴 鐘杰	ダンスの練習, 大会参加
イラストレーション同好会	中島 淳	イラストの制作・発表
ディアバスター	マッキンケスジェームス	サバイバルゲームを中心とした活動
B-HOBBY	鈴木 英男	ボードゲームの制作, テーブルゲームの遊覧・振興, 会報の発行
FANTASISTA	吉澤 康介	フットサルを中心とした活動
留学生交流会	朴 鍾杰	留学生相互の親睦活動
医療・福祉同好会	岸田 るみ 児玉 悠希	被災地支援, 医療関係の勉強会 他
テニスサークル P-Easter	松下孝太郎	テニスを中心とした活動
Digi-Creation	西村 明	PC音楽, 3DCG, プログラミング等創作活動
Network and System Security 同好会	森口 一郎	情報ネットワーク, システムセキュリティ等の基礎知識と最新動向を学ぶ
バドミントン同好会	早稲田篤志	バドミントンを中心とした活動
茶道同好会	松下孝太郎	茶道を中心とした活動
キャンプ同好会	松下孝太郎	キャンプを中心とした活動

※興味のある団体があった場合, 顧問の先生にお尋ねください。



キャリア・就職

キャリア・就職



就職活動について

～就職活動の動向～

昨年の就職活動については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面によるイベントの開催制限、選考・インターンシップのWeb・オンライン化といった環境の変化がありました。オンラインを利用した就職活動では、効率的に多くの企業と出会えることや交通費が節約できるというメリットがある一方で、企業の雰囲気分かりづらさや通信環境の整備など対面とは異なる準備が必要になるというデメリットもあります。2024年卒以降の就職活動についてもオンラインと対面の併用が見込まれ、早めの対策が内定獲得の鍵となると考えられますので、早いうちからご自身の進路について考え対策を進めましょう。

また、看護学部の学生の就職については、昨今の看護師不足・看護師の役割の多様化等に起因し、現在のところ就職活動（病院等）は、売り手市場の中で推移しています。しかし、大学での学びや専門性、職場の特性を考慮したうえで就職（病院等）選びが必要となります。

なお、国家試験合格が就職の大前提ですので、1年次から着実に学習を進めながら、自身の将来設計、ライフワークバランス等についても十分に考えることが重要です。

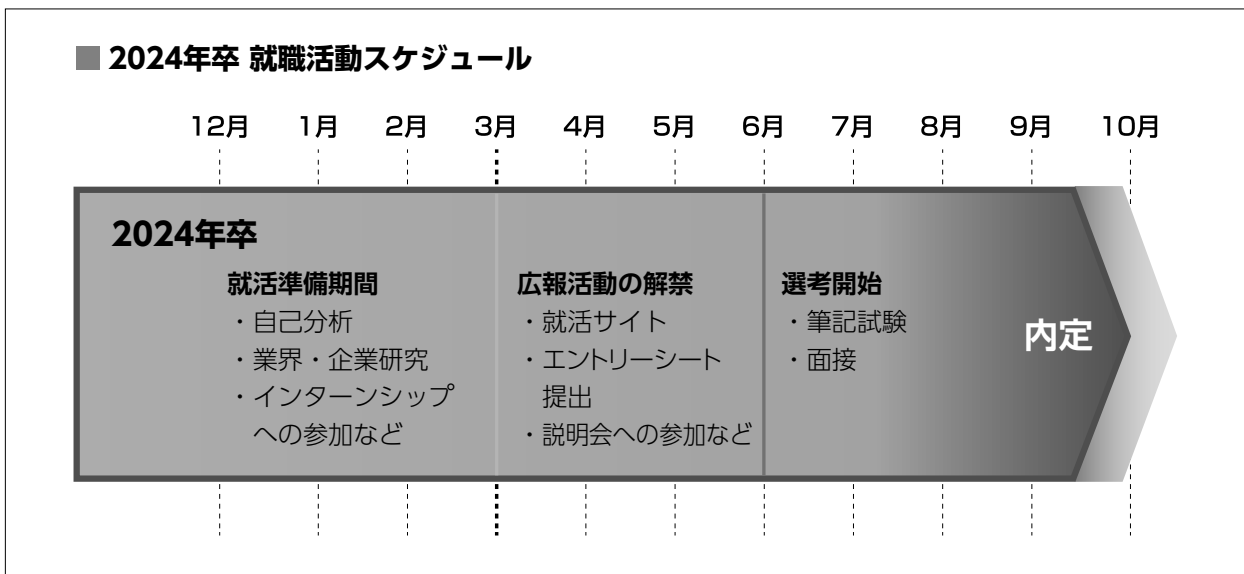
是非、今日から卒業後の就職について意識を高めつつ大学生活を充実させてください。

～就職活動スケジュール～

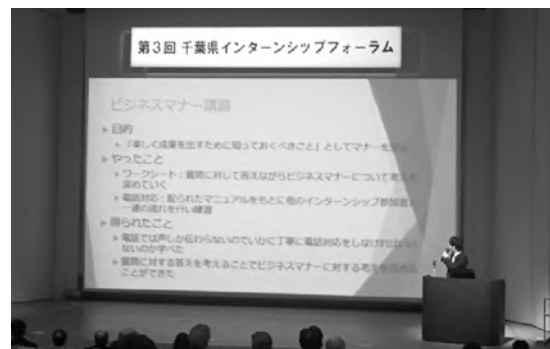
就職活動時期は、一般社団法人 日本経済団体連合会が、現在のルールを撤廃することを発表し、政府主導で決定することとなりましたが、当面は現行のスケジュールを維持することが見込まれます。

下の図は「2024年卒の就職活動スケジュール」です。

1年次生にとっては、まだ先のことでイメージするのは難しいかもしれませんが、今から就職活動スケジュールの動向をチェックし、将来の就職活動に役立ててください。



東京情報大学には、みなさんの就職を全面的にサポートする体制が整っています。キャリア形成科目や就職支援行事など積極的に参加し、キャリア課を最大限に活用してください。



総合情報学部 of 総合的キャリア教育 (Jナビ)

I 総合情報学部の総合的キャリア教育 (Jナビ) について

総合情報学部では、すべての学生が大学生活のなかで「なりたい自分」や「なれる自分」について考え、「満足いく進路（就職、進学など）選択」ができるように、「人間性・社会性の強化」・「現代実学主義をめざす専門教育および基礎能力強化」・「職業意識の醸成」および「就職支援」を4本柱とする「Jナビ（総合的キャリア教育）」を実施しています。ここに全体像を紹介しますので、是非、対象となるプログラムを活用してください。

(1) 総合的キャリア教育の取組み

総合情報学部では、キャリア形成系科目や就職支援行事などを体系的にとらえるために、総合的キャリア教育としての全体像をまとめましたので、下記の表を参考にしてください。



(2) 総合的キャリア教育に期待できることは何か

総合的キャリア教育では、様々な取組みを通して、皆さんに将来の自分をイメージしてもらい、自分にとっての生きがい、職業人としてのやりがい、自立・独立、経済的安定、社会への貢献、ライフスタイルなど多種多様な価値観を形成することに力を入れています。皆さんが、それぞれの目的（進路を決め、主には就職によって、社会に巣立つこと）と目標（なりたい自分・なれる自分）を持ち、さらには理由付け（目標に到達するために何を体得すべきなのかを考えること）を行い、行動できる人材となることを目標としています。

(3) 主なキャリア科目

- ①「キャリアデザインa」（共通キャリアデザイン科目，2年後期）は，自己分析，職業基礎力検査などにより「自分の成長を確認する」ことを中心に行います。またマナー講座などでは，ペアワークなど体験型学習も取り入れコミュニケーション能力の基礎を身につけます。

総合的に卒業後の進路決定に不可欠となるキャリア形成に必要なことを学びます。

「キャリアデザインa」～自分の成長を確認する～（参考）

No.	タイトル
1	キャリアデザインaとは
2	マナーとコミュニケーション① ～社会人になること～
3	マナーとコミュニケーション② ～自己開示とフィードバック～
4	マナーとコミュニケーション③ ～話のきき方～
5	マナーとコミュニケーション④ ～社会人基礎力を考える～
6	マナーとコミュニケーション⑤ ～長所と短所～
7	クリティカルシンキングを身につける①
8	クリティカルシンキングを身につける②
9	クリティカルシンキングを身につける③
10	ロジカルライティングを身につける①
11	ロジカルライティングを身につける②
12	ロジカルライティングを身につける③
13	内定者が「就職活動」を語る
14	将来に向けて行動する
15	「キャリアデザインa」を今後にかす

- ②「キャリアデザインb」（共通キャリアデザイン科目，3年前期）は，「社会と自分をつなぐ」ことに達成目標を置き，その実践について学びます。卒業後社会人として働く場を企業等に求めることとなりますが，企業等は求める人材を就職試験等で判断します。このため就職試験を一つの切り口として，基礎的学力，社会人常識，ビジネスマナー，職業人意識などに関する就職基礎力の必要性を実践的に理解します。

「キャリアデザインb」～社会と自分をつなぐ～（参考）

No.	タイトル
1	社会と自分をつなぐために
2	就職活動のための情報収集
3	就職活動を理解する
4	自己分析Ⅰ ～自分の強みを生かした仕事選び～
5	自己分析Ⅱ ～自分の特徴を知ろう～
6	自己分析Ⅲ ～エントリーシートの基礎を知る1～
7	自己分析Ⅳ ～エントリーシートの基礎を知る2～
8	職業と業界を理解する
9	筆記試験の目的と概要
10	筆記試験対策①-1 ～SPI 攻略講座①～
11	筆記試験対策①-2 ～SPI 攻略講座②～
12	一般常識模擬試験
13	卒業生が「仕事」を語る
14	就活身だしなみ講座
15	「キャリアデザインb」を今後にかす



- ③ 「インターンシップ」(共通キャリアデザイン科目, 3年)は, 事前ガイダンス(情報社会の概説, 企業研究, マナー講座)を経て, 就業体験を行い, 体験報告会や報告書を作成します。この科目では「職業観の育成」, 「キャリアデザインの構築」, 「専門教育へのフィードバック」などの展開を目指します。
(インターンシップとは, 在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです)

(4) 就職支援行事

【前期】 ～就活対策を知る～ (参考)

No.	タイトル
1	公務員ガイダンス
2	就職活動支援ガイダンス
3	夏期インターンシップ講座
4	マナー講座

【後期】 ～就職活動対策～ (参考)

No.	タイトル
1	就職ガイダンス
2	就活スーツの選び方(スーツ販売)
3	秋冬インターンシップ講座
4	就職活動用証明写真学内撮影会
5	エントリーシート対策講座①～③
6	筆記試験対策～WEBテスト玉手箱型～
7	筆記試験対策～CAB・GAB模擬試験～
8	筆記試験対策～SPI模擬試験～
9	グループディスカッション力向上セミナーⅠ・Ⅱ
10	対面面接の理解
11	エントリーシート・履歴書の作成
12	面接練習(対面・Web)
13	グループディスカッション練習
14	学内業界セミナー事前講座
15	学内業界セミナー
16	就活スタートアップ講座
17	千葉県27大学合同開催「就活応援セミナー」
18	学内合同企業説明会
19	公務員直前対策講座

※キャリア課では, 上記の就職支援行事のほか, 個別によるエントリーシート対策, 履歴書添削, 模擬面接, 就職相談・紹介を随時行っています。是非キャリア課を活用してください。

看護学部のキャリア支援プログラム

I 看護学部のキャリア支援プログラムについて

看護学部のキャリア支援プログラムは、「自律と共創」をキーワードとし、デザイン思考、経験学習、協同学習を通して、看護職としての長い職業生活の準備と出発を支えます。

1年次のチームビルディングから、職業人としての基礎力である「社会人基礎力」を養うプログラムが始まります。看護学部の全教育課程が、地域で貢献する看護師づくりのプログラムとなっています。特に象徴科目「キャリアデザインとケア」では、1年次から4年次まで段階的に学びながら、看護職としてのキャリアを描いていきます。さらに、1年次から看護師・保健師国家試験対策や就職準備に対して、看護学部教員とキャリア課が支援していきます。

(1) 「キャリア支援プログラム」の全体像



(2) キャリア支援プログラムに期待できることは何か

① チームビルディングから始まるキャリア教育

チームビルディングは大学生活に慣れていくための機会です。看護学部に入學した学友と共に4年後、卒業に必要な単位を修めて卒業し、看護師国家試験・保健師国家試験合格を目標とします。チームビルディングは、これから共に学ぶ仲間づくりの場でもあり、看護職として生涯学び続けるための基礎力をつけていく準備として位置付けています。

② 全教育課程が看護師としてのキャリア教育

看護学部の全教育課程が看護師としての基礎教育課程であり、キャリア教育の一部として位置付けています。基礎科目や専門基礎科目は看護学を広く支える学問領域であり、専門科目である各看護学とともに重要です。全教育課程が看護職として必要な素養を育み、生涯教育としての看護教育の基礎をなしています。



(3) 象徴科目「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

象徴科目「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を4年間かけて段階的に学び、看護職としてのキャリアデザインを描きます。1年次には、基礎看護学実習に加え、地域包括ケア実習を行い様々な場で活躍する専門職等に出会い、看護について考える機会とします。2年次にはインタビュー経験を通して聴く力を育むと共に、看護職としてのキャリアを積み上げることを理解します。3年次には、モデルとなる先輩看護師のキャリアを参考にしながら、自己の方向性と可能性を追及していきます。4年次には、多様なキャリアを視野におさめつつ、「地域で活躍する看護職としての私のキャリアデザイン」についてプレゼンテーションを行います。

【キャリアデザインとケアⅠ】1年前期（参考）

主体的に学ぶ基礎力を養う。

No.	タイトル
1	大学で学ぶということとキャリア形成
2	コミュニケーションと看護、キャリアデザインカードを作る
3	「読む」こと① 文章の読み方、まとめ方
4	「読む」こと② 文章を読む視点と意見
5	「書く」こと① レポート作成の基本
6	「書く」こと② 言葉の使い方、図表を読み取る
7	「書く」こと③ 文章の要約
8	キャリアデザインを描くために～ドリーム・マップを描く～

【キャリアデザインとケアⅡ】2年前期（参考）

お互いを尊重しあう関係性の中（授業でのチーム活動や課外活動）から学びを深め、「人々ともに生きる」ことを理解する。

No.	タイトル
1	対話とは何か
2	コミュニケーションの進化と深化
3	対話によるポジティブな人間関係
4	ポジティブ心理学基礎
5	インタビュースキルの基礎
6	インタビューから関係性を深める
7	プレゼンテーションの方法
8	インタビュー結果のプレゼンテーションと講評

【キャリアデザインとケアⅢ】3年前期（参考）

様々な分野で活躍する看護職へのインタビューやモデル協力者へのインタビューの実際を通して、職業人として生きることについて考える。

No.	タイトル
1	職業人としての生きるとは
2	アカデミック・ライティング基礎その1
3	アカデミック・ライティング基礎その2
4	生涯教育のキャリアサポート
5	本学部卒業生による体験談（ゲストスピーカー）
6	看護職の職業人としての生き方（ゲストスピーカー）
7	キャリアデザインとキャリアポートフォリオ
8	私のキャリアデザインの方向性

【キャリアデザインとケアⅣ】4年後期（参考）

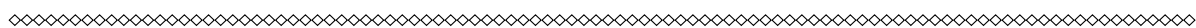
地域で活躍する看護職としての自分のキャリアを描く。

No.	タイトル
1	キャリア開発とクリニカルラダー
2	地域で活躍している先輩のキャリアデザイン1
3	地域で活躍している先輩のキャリアデザイン2
4	ストレスマネジメントについて考える
5	キャリアに関する理論
6	キャリアアンカーによる自己洞察
7	「地域で活躍する私のキャリアデザイン」発表
8	「地域で活躍する私のキャリアデザイン」発表

(4) 就職準備・支援行事

実習の他、職場訪問やインターシップ体験等を重ねながら、自分に合った就職先を決めていきます。キャリア課では看護学部教員の協力により就職説明会や就職準備講座を開催します。また、必要に応じて奨学金に関する相談や申請事務手続きを支援します。

なお、キャリア課では、上記の就職支援行事のほか、個別・集団によるエントリーシート対策、履歴書添削、模擬面接、就職相談・紹介を随時行っています。また、公務員試験対策講座も開催しているため、保健師を目指している学生は、J-portのお知らせ（4月頃）をよく確認し、お申し込みください。



キャリア・アシスタント

就職内定した4年生が、就活サポートを行っています。(10月～2月) 就職活動を終えたばかりの4年生と接することで貴重な情報や経験を得ることができます。


ぜひ、キャリア・アシスタントが企画するイベントなどに参加してください。

学生の学生による学生のための

学生キャリア・アシスタント

学生による就活サポート集団。
それが**学生キャリア・アシスタント**です。

内定を獲得した学生たちが、自らの経験を活かしながら学生自らの「就活サポート」を企画・運営していきます。就職活動を通して、学生自らがモチベーションを高めていく環境づくりが目標です。



キャリア・アシ Facebook

キャリア支援プログラム、学内・学外で行なわれる就職関連イベント、就活生の活動報告など、役立つ情報を私たち学生キャリア・アシスタントがリアルタイムに発信しています。


学生キャリア・アシスタント

キャリアアシ

「候補生」募集!

内定を獲得した4年生が中心となって、皆さんの就職活動を応援する「学生キャリア・アシスタント」。その候補生として、学生キャリア・アシスタントと一緒に活動してみませんか!

学生キャリア・アシスタント候補生の詳細については、キャリア課までお問合せください。





キャリア課を利用する

I キャリア課の紹介

キャリア課では、キャリア形成・就職に関する情報を収集・整理し、皆さんの資料として提供するとともに、進路や就職活動の相談・指導および企業開拓、就職斡旋など、キャリア課スタッフが皆さん一人ひとりの“満足いく進路選択”をバックアップしています。

キャリア課開室時間：月～木 午前9時～午後5時30分、金 午前9時～午後5時

(1) 就職相談は気軽に

就職活動は、進路選択の方向性や進め方が一人ひとり異なるものです。キャリア課では、個々のニーズに合わせたきめ細かい対応を行うため、企業の採用経験者やキャリアアドバイザーなどのスタッフが常駐しています。進路に関する不安や就職活動についてのアドバイス、採用試験対策（履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接）などの個別相談・指導にも応じています。

(2) キャリア課からの情報提供

企業からの求人票、会社案内、会社説明会情報をはじめ、先輩たちの就職活動記録など、就職活動に直接役立つ資料を整備しています。その他にも、キャリア形成につながる資格取得関連の書籍や就職活動に関する資料・書籍（自己分析、企業研究、筆記試験対策・面接対策など）を取り揃えるなど、就職活動をスムーズに行うための情報提供に努めています。

◎就職関連書籍・雑誌

新聞や就職関連書籍、ビジネス雑誌の閲覧が可能。就職関連書籍は貸出可（1人3冊まで、期間は1週間）

(3) J-port（就職）

J-portにて、キャリア形成・資格取得・就職に関する情報発信を行っています。学内・学外で利用できます。また、進路が決まった際の報告についてもJ-Portを利用し、4年生全員に報告をお願いしています。

(4) キャリア課掲示板

学外のイベント情報（セミナー開催情報、合同企業説明会・会社説明会開催情報、インターシップ情報、U・Iターン情報、資格取得対策講座など）、キャリア課に寄せられた求人情報や企業情報、就職戦線に関する資料など、就職活動に役立つ情報を掲示しています。



II キャリア課配置図

キャリア課資料室内の配置図と主な資料の設置場所は以下のとおりです。
不明な点はキャリア課スタッフまで気軽に声をかけてください。



資料コーナー — 1

求人情報や企業説明会、インターンシップ等の就職活動に関する案内を掲載しています。ここでしか得られない耳寄り情報もあるので、こまめにチェックしましょう！
※キャリア課掲示板は、1号館正面玄関前および120教室前通路です。

個別相談ブース — 2

履歴書やESの添削、模擬面接や求人企業の紹介など、学生一人ひとりに合わせた就職相談が受けられます。1人で悩まず、まずは相談してみましょう！

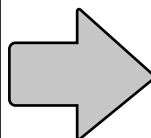
フリースペース — 3

求人票を見るのもよし、就活本を読むのもよし、就活について話すのもよし、このフリースペースを情報収集の場として活用してください。ここに集まれば、きっと就職仲間ができます！みんなで内定をつかみ取りましょう！

<キャリア課の就職支援について>

キャリア課の就職支援について映像で公開しています。ホームページより、閲覧可能となっております。以下、URLよりご確認ください。

<https://www.tuis.ac.jp/recruit/support/event/>



進路に関する手続き及び就職状況について

I 進路に関する手続き

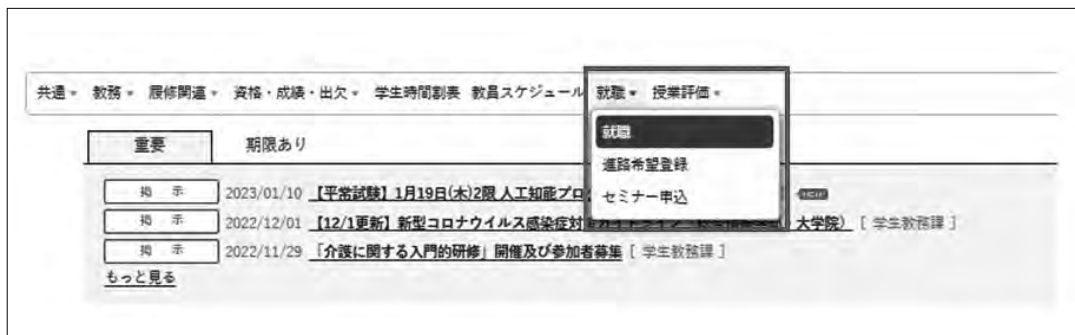
(1) 進路希望登録

東京情報大学では、就職、進学に関わらずすべての3年次生を対象にJ-portにて進路希望登録をしていただきます。進路希望登録をすることで、求職登録が完了します。この求職登録は「職業安定法」によって義務付けられている行為で、登録することによって大学からの就職斡旋や推薦書の発行、履歴書(本学指定)の無料配布など、就職活動に必要なサポートを受けることができます。また、学生一人ひとりの希望に合わせた進路指導や企業情報の提供、就職活動の進捗状況に沿ったアドバイスなどのきめ細かいサポートにつながります。

《実施手順》

1. J-port内「キャリア／就職に関する重要なお知らせ」より、キャリアデザインカードのデータをダウンロードする。
2. キャリアデザインカードに記入し、各担当教員から指導を受ける。
3. キャリアデザインカードを基にJ-portにて「進路希望登録」を行う。

※作成したキャリアデザインカードはキャリア課に提出していただく必要はありませんが、履歴書を作成する際のベースになりますのでご自身で大切に保管してください。



(2) 最終的な進路に関する手続き

卒業後の進路が確定した学生は、J-portを利用しての報告が必要となります。あなたの卒業後の進路として記録される大事なデータとなりますので、必ず提出してください。

①就職活動報告

企業から内定を受けた学生や進学など、卒業後の進路が決定した学生は就職活動報告の登録が必要です。登録方法はJ-Portにログインし、就職活動報告タブより、登録をお願いします。

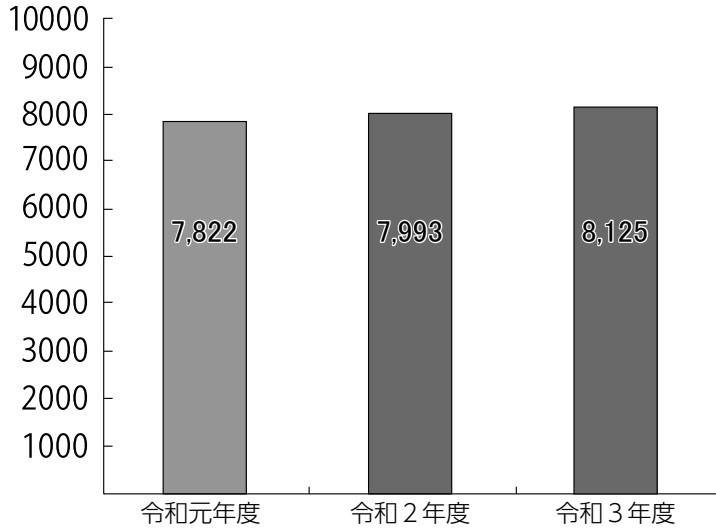
②就職活動アンケート

皆さんの就職活動の体験を後輩の就職支援に活用することを目的として、就職活動アンケートを実施しています。



就職状況

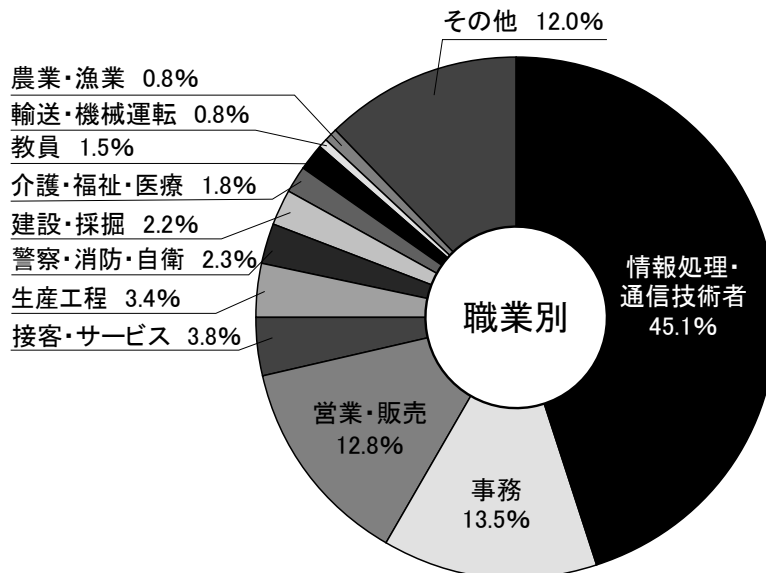
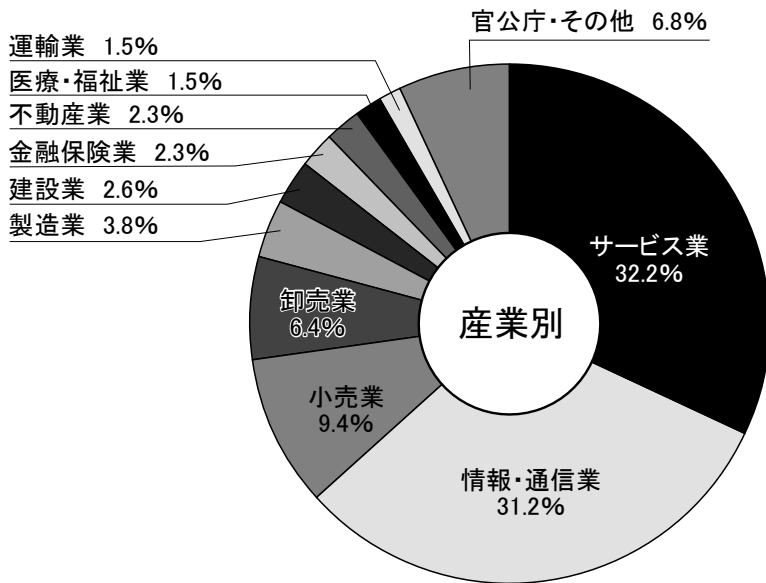
1) 求人状況 (求人社数 過去2年含む)



2) 令和3年度業種別・職種別就職状況

〈総合情報学部〉

〈看護学部〉



資格取得対策について

I 総合情報学部の資格取得について

(1) 資格取得対策講座（スコーラ）

総合情報学部では、特定の資格取得に向けて興味と意欲を持った方を支援する課外講座“スコーラ”を設置しています。

このスコーラは、皆さんの資格取得を専門的な教育指導を重点に行います。受講料は無料です。詳しくは各指導担当教員へ問合せをし、是非、受講してください。

資格取得のメリットは 1.基礎知識および専門知識の一定の証明 2.学習習慣が身に付く 3.目標を設定し、努力して取得した資格は、就職活動にも大変有利になります。

スコーラ（Sciola）とはイタリア語で、英語のschoolとほぼ同じ意味です。

スコーラ分野	指導担当教員	主な目標	主な活動内容
コンピュータスコーラ	森口 一郎	ITパスポート 基本情報技術者 応用情報技術者 CCENT CCNA	模擬試験の実施、試験区分別の対策講座、夏期強化講座の開催など。また、基本情報技術者で必要とされるJava、C言語やWindows, UNIX, Ciscoルータの操作方法などの実技。
IPA情報処理技術者集中講義スコーラ	朴 鍾杰	基本情報技術者試験の科目A試験免除	本スコーラは基本情報科目A免除試験に合格するためのスコーラである。そのためには、2年間決められた授業科目を履修し、夏休みの集中講義を受ける必要がある。科目A免除試験に合格すれば、その後の1年間基本情報技術者試験の科目A試験が免除され科目B試験に集中できる。
AIスコーラ	マッキン ケネズジェームス	G検定（ジェネラリスト検定）	日本ディープラーニング協会が主催するAI検定であるG検定（ジェネラリスト）合格を目指す。合格に必要な知識の講義、模擬試験と解説などを実施する。また、理解を深めるためにPCを用いた演習も取り入れる。
Officeスコーラ	マッキン ケネズジェームス	Microsoft Office Specialist Excel 2019 Microsoft Office Specialist Word 2019	テキストを用いた試験範囲の講義、および問題集を用いた試験問題解説を夏季・春季休業期間に集中授業（夏季4日間、春季4日間程度）として実施する。
数学スコーラ	蔵岡 誉司	実用数学技能検定（準2級）	セミナー形式で高校数学の復習および数検の過去問の解法を指導しながら、実用数学技能検定試験の合格を目指す。
マルチメディアスコーラ	中島 淳	CGクリエイター検定	過去問・予想問題の解説試験対策演習、検定試験（学内受験）の実施等。受講生には問題集・参考図書を貸与し自宅学習も応援。
日本語・コミュニケーションスコーラ	茂住 和世	日本漢字能力検定準2級・2級 ビジネス能力検定(ジョブパス) 2級・3級 (外国人留学生対象) 日本語能力試験N1・N2 BJTビジネス日本語能力テストJ2・J1	どの学系であっても必要な、就職に役立つ諸資格の取得を目指す。問題集や参考図書の紹介・貸与、メールによる指導も行う。

※受講については、各指導担当教員にお問い合わせください。

(2) その他 各種試験対策 (キャリア課支援講座等)

試験対策	内容	その他
公務員試験対策講座	対策講座の実施, 模擬試験実施	有料講座 公務員試験の第一関門である教養試験の突破を目指し、基礎力を養うとともに、公務員試験問題の特徴とその攻略法の会得に努めます。(全20回) 夏季休業期間中には専門試験対策の集中講座も実施します。
日商簿記検定 (3級)	対策講座の実施	有料講座 日商簿記検定は会計の基本的な資格です。 会計の最も基本である商業簿記の知識が身につく、就職活動をする学生だけでなく、ビジネスパーソンにも必須の資格です。 貸借対照表や損益計算書など、財務諸表を理解するための知識が身につきます。
秘書技能検定 (2級)	対策講座の実施	有料講座 秘書技能検定は、「社会人基礎力」を証明する資格です。 入社前に必ず身に付けておかなければならないビジネスマナーや一般常識を、秘書技能検定の学習により身につけます。

II 看護学部の看護師・保健師国家試験対策について

国家試験対策は主体的に各学生が1年次からの学習を進めていきます。

- ① 電子テキストで専門基礎科目・専門科目の自主学習を支援
- ② 2年～3年次では、低学年国家試験模擬試験による学習の動機付けを図る
- ③ 4年次では、国家試験対策模試、外部業者による補習講義を定期的実施
- ④ 4年次の夏季休業期間・後期では、専任教員による補習講義を実施
- ⑤ 4年次では、ゼミ担当教員と学習支援委員が連携しながら、学習を支援



情報サービスセンター

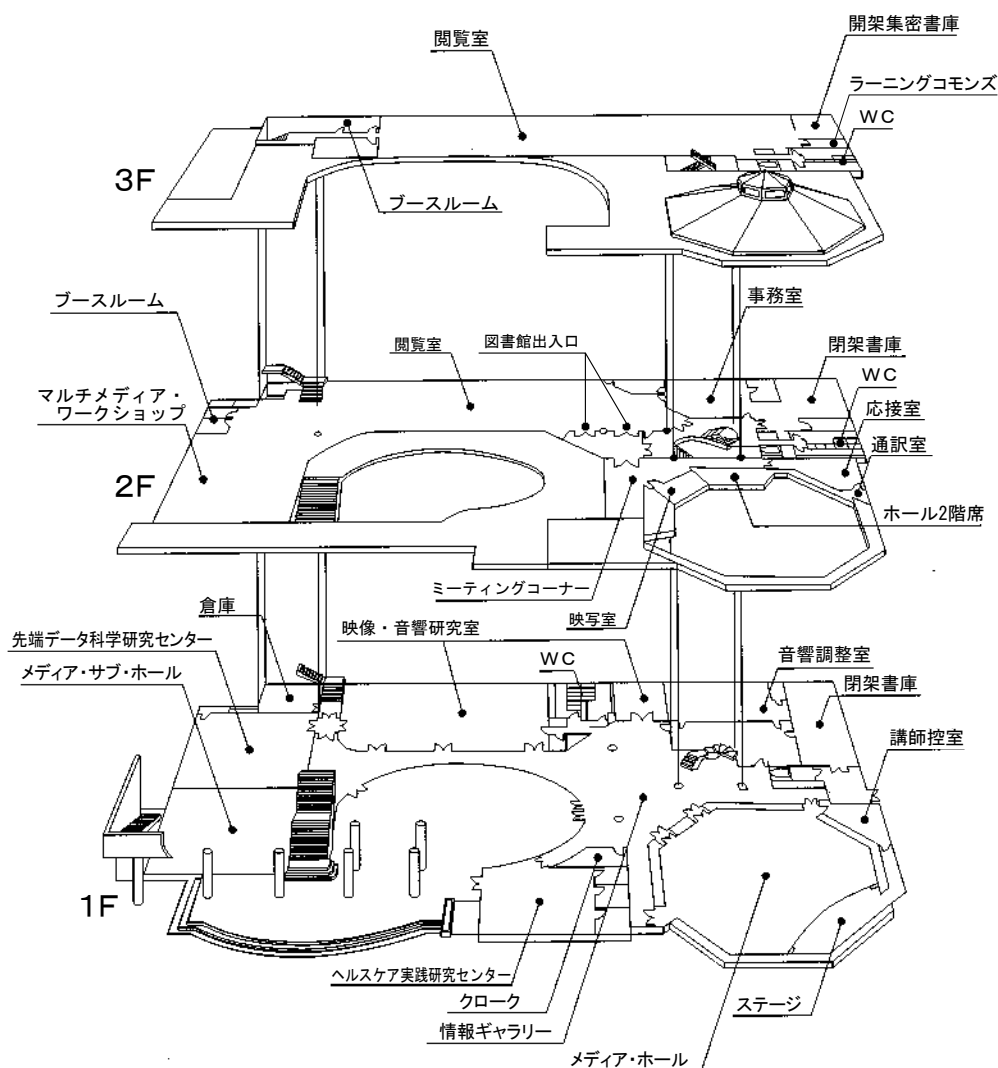


〈図書情報部〉（4号館・総合情報センター棟）

1. 図書情報部の概要

情報サービスセンター（以下「センター」と称する）図書情報部では、本学における教育・研究に必要な図書、視聴覚資料等の収集・整理・提供を行うとともに、様々な教育・研究活動の支援を行っています。

2. 総合情報センター棟展開図



3. ライブラリー・エリア

センター2～3階にあるライブラリー・エリアでは、図書約130,000冊、雑誌約1,600タイトルのほか、DVDの視聴覚資料を収集しており、これら資料の館内閲覧を自由に行うことができます。

センター所蔵の図書・雑誌は、館内の蔵書検索用端末（webOPAC）や、インターネットを通じて、学内外からの検索が可能です。（OPAC 2台・各種DB用6台）

センターが保有する図書・資料は、一部の資料を除いて、館外貸出を行っています。

図書の館外貸出は、学生証が必要となりますので、利用の際は、必ず学生証を携帯してください。

また、マルチメディア・ワークショップには学生が自由に使うことができる本館棟の実習環境と同等のパソコン（12台）を設置しています。



館内は飲食や持ち込みを禁止しています。

■開館時間 平日：9:00～20:00
土曜日：10:00～16:00

■休館日
①日曜日（一部、土曜日の休館あり）
②国民の祝日
③学校法人の創立記念日（3/6）
④開学記念日
⑤夏季・冬季の一定期間
⑥その他（臨時に必要な場合）

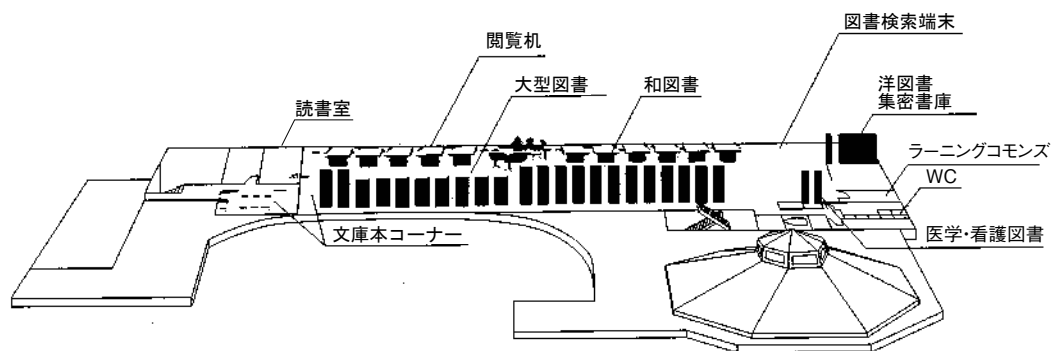
■貸出期間
①学部生：2週間以内10冊まで
②大学院生：2ヶ月以内20冊まで

■貸出できない資料（館内閲覧のみ）
①参考図書など「禁帯出ラベル」の貼ってある資料
②雑誌（最新刊）③新聞④地図⑤視聴覚資料

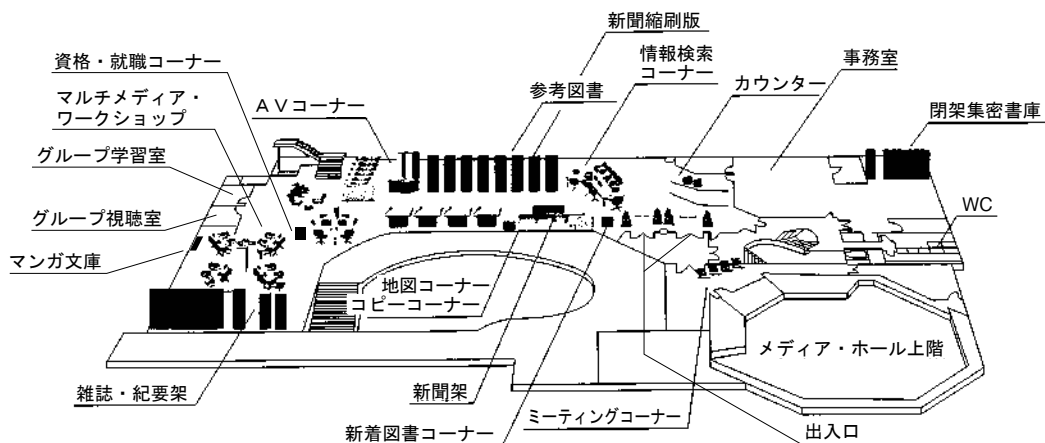
■館内貸出のみ
①DVD

※ 夏休み・冬休み・春休みの長期休業期間中は貸出期間を延長した特別貸出を行っています。
また、開館日・時間に変更が生じる場合があります。館内の掲示やセンター図書情報部のホームページで確認して下さい。

ライブラリー・エリア（3階）



ライブラリー・エリア（2階）

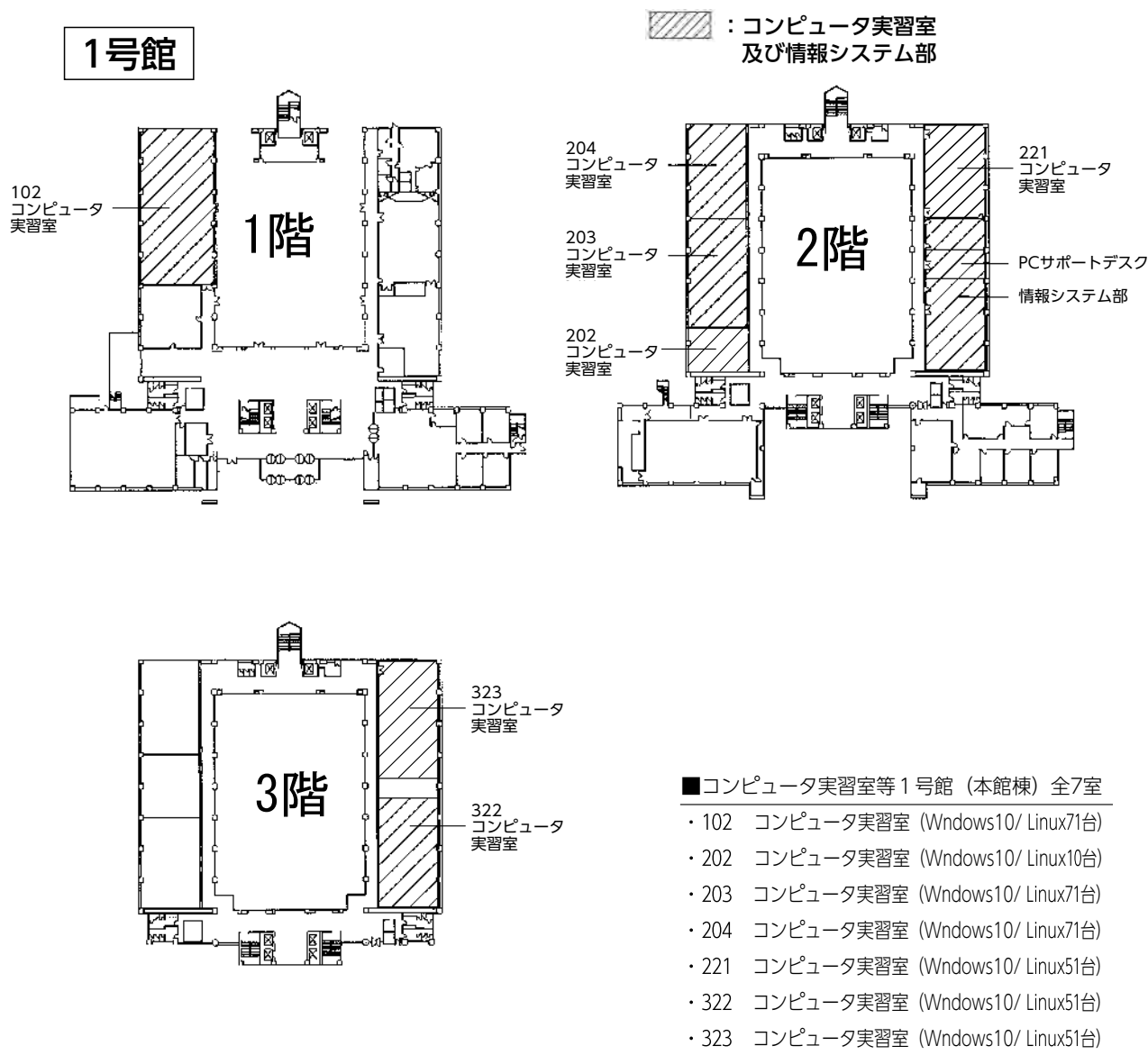


〈情報システム部〉 (1号館・本館棟)

1. 情報システム部の概要

情報システム部は、コンピュータ実習室や一般教室における教育機器等のハードウェアやネットワーク環境の整備と保守管理を行っています。また、窓口での質問受付や講習会を通じて、情報教育をサポートしています。更に、学籍・履修・成績・就職等のキャンパスライフを支える各種システムの運用支援も行っています。

2. 情報システム部の各施設について



① 無線 LAN が利用可能なエリアおよび、プリンターの利用について

3号館以外で無線 LAN が利用できます。

また、全実習室を始め、1号館 (本館棟)、2階食堂棟側ロビー、526・527ゼミ室前、4号館 (総合情報センター棟) メディア・サブ・ホール (802)、2階マルチメディアワークショップ、6号館 (学生会館ピオーネ) 1階ロビーには、プリンターが設置されていますので、無線及び情報コンセント接続したノートパソコンから印刷することが可能です。無線接続する場合は大学ホームページの「学習交換情報・システム」からダウンロードできる情報大ネットワークツールを利用すると便利です。



② 一般教室の情報コンセントについて

ノートパソコンを必携化したことにあわせて、下記の一般教室にも「情報コンセント」と「電源」を設置し、講義形式の授業においてもノートパソコンを利用できます。情報コンセントは、教室の机の1箇所(座席4～6席分)をまとめて設置してあるため、隣り合わせの人達と協力しあって積極的に利用してください。

建 物	フロア	教 室 番 号	情報コンセント	電 源
1号館 (本館棟)	1階	101	○	○
	2階	201	○	○
	3階	301・302・303	○	○
	4階	401	○	○
4号館 (総合情報センター棟)	1階	801 (メディアホール)	○	○
		802 (メディア・サブ・ホール)	○	○

③ 情報教育システムと実習環境について

本学の情報教育システムを特徴づけるコンピュータ実習室の環境は、Windows10とLinuxの二重ブート方式を採用しており、見やすい22インチワイド液晶モニターとなっています。

教室番号	PC設置台数	OS	プリンタ台数	情報コンセント	電源
102	71	Windows10 / Linux	6	○	○
202	10	Windows10 / Linux	2	○	○
203	71	Windows10 / Linux	6	○	○
204	71	Windows10 / Linux	6	○	○
221	51	Windows10 / Linux	5	○	○
322	51	Windows10 / Linux	5	○	○
323	51	Windows10 / Linux	5	○	○

④ 実習室のオープン利用について

実習室については、授業のない時間帯に、原則として下記のとおり、オープン利用できます。なお、各実習室の利用可能な時間帯は、各実習室の掲示やHP『コンピュータ実習室の利用状況』(URL: <http://www.affrs.tuis.ac.jp/infosys/open/index.php>)で確認できます。

また、次の注意事項を守って利用するようにしてください。

- ①静かに、携帯電話は室外で ②ゲームソフトの利用禁止 ③喫煙・飲食厳禁 ④紙の持ち出し厳禁

コンピュータ実習室	月曜日～金曜日
102 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
202 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
203 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
204 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
221 コンピュータ実習室	午前9時～午後9時
322 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
323 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時

⑤ サポートデスクについて

操作方法に関する質問等に応じるため、学生相談員による「PCサポートデスク」を設置しています。困ったことが起きたら気軽に相談してください。

《PCサポートデスク》

1号館2階 情報サービスセンター (情報システム部)

※必携ノートPCの故障・修理については、学生教務課にご相談下さい。

3. 利用に先立って

ネットワークを利用しようとする学生等は「ネットワーク利用申請書」を提出し、ユーザID及びパスワードが記載された「ネットワーク利用許可証」の交付を受けなければなりません。

EARTH情報教育システムでは、ユーザIDとパスワードを使って認証を受けなければ利用できません。この認証によって、システム全体のセキュリティを維持するだけでなく、利用者自身のプライバシーを守ることができるのです。

パスワードは利用者の自己責任において管理し、定期的に変更しなければなりません。万が一、パスワードを失念した場合は、情報サービスセンターでパスワード再発行手続きを行ってください。

また、実習室のPCにログインしたまま席を離れた場合、アカウントを停止します。その場合は、アカウント再発行が必要となり、ネットワーク講習会を受講する必要があります。アカウントの再発行には手数料として2,000円が必要です。

4. ネットワークの利用心得

本学では、学生全員が快適にネットワークを利用できる環境を整備しており、国内外からのネットワーク情報入手したり、メール等で互いに連絡を取り合うことが可能ですが、ネットワーク利用者である学生の皆さんは、東京情報大学ネットワーク利用ポリシーを十分に理解し、学術機関である大学の一員として品位とマナーをもって、ネットワークを利用するように心がけてください。

ネットワーク利用によるトラブルに巻き込まれないために

本学では、ネットワークの利用に関する利用指針をまとめています。ネットワークの利用を始める前に、これらを十分に理解することがトラブルに巻き込まれないために大切です。

万が一、自分が実際に被害を受けてしまった場合や、おかしいと感じたときには、情報サービスセンター情報システム部に出向いて相談するようにしてください。

東京情報大学ネットワーク利用ポリシー

東京情報大学アカデミックインターネットネットワーク専門委員会

本学のAUP(Acceptable Use Policy)の骨子は以下の通りである。本学アカデミックインターネットネットワーク専門委員会は、これらの事項に著しく逸脱したユーザーに対して直ちにネットワーク利用資格を停止し、その者に対して適切な指導を施す。

コンピュータネットワーク組織としての本学は、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所の学術情報ネットワーク『SINET』(Science Information Network)に加入してインターネット利用を可能としている研究・教育をおこなっている学術機関である。それゆえに本学のネットワークユーザーは一般の商用プロバイダが加入者に求める以上の一層の品位およびマナーが求められており、また社会からもそのように強く期待されてもいる。

そのために本学のすべてのユーザーは学術機関の一員として学術、教育、研究の発展に資する以下の範囲内でネットワークを利用することができる。ネットワーク活動における以下の基準に対する質問や具体的運用指針についてはWebページで提供されているネットワーク利用の手引きを参照されたい。

人権の保護

本学のユーザーはネットワーク活動を通じて、人種・性差・信条などによるいかなる差別にも与せず、プライバシーの保護などあらゆる人権の保護に務めなければならない。これによって、差別発言や誹謗中傷などの言論による暴力、性的虐待、通信内容の第三者への開陳などによる秘密の暴露などは厳しく禁止される。

知的所有権の尊重

著作権・特許権・商標権・意匠権などの知的所有権の遵守に常に留意すること。著作物には文章、写真、音楽、デザイン、プログラムなどが含まれ、著作者に無断でその著作物（その一部でも）の複製を作成・配布することは禁じられている。また、アイデアの盗用や勝手な改ざんについても許されていない。近年では、これらの権利の侵害に対して法的責任が厳しく問われてきているので十分注意されたい。



商用利用の禁止

学術ネットワークを利用する本学のユーザーは、ネットワークをいかなる商用活動にも利用してはならない。ネットワークを利用した商品の売買、アルバイトや求人・広告や斡旋活動などはすべて禁止する。

セキュリティの維持

本学のネットワークの安全で安定的稼働を脅かし、通信やプライバシーの漏洩につながるようなあらゆる行為は厳重に禁止する。他人へのユーザーIDの譲渡、パスワードの漏洩が発覚した場合には直ちに利用資格を停止する。ユーザーは定期的にパスワードを変更し自らのプライバシーとネットワークセキュリティを維持するように努めねばならない。またコンピュータを利用しているときには席を離れることを禁止する。ログアウトなど適切な措置を講じた後でのみコンピュータから離れることができる。

学内での匿名・ハンドル名の禁止

本学のユーザーは学内への電子メールの送信、学内でのWebページの作成または掲示板等への書き込みにおいては、常に氏名や学籍番号等の本人を特定できる情報を明記しなければならない。氏名や学籍番号等の署名のない匿名またはハンドル名を使ったネットワーク活動は、学内においてはこれを禁ずる。

ただし、システムのユーザー認証機能などにより、管理者が直ちにユーザーを認識できる場合は、そのシステム内においてはこの限りでない。

一方、学外のソーシャルメディアサービス等を利用する場合は、個人情報保護の観点から匿名やハンドル名の使用を認める。

ソーシャルメディア利用の心得

東京情報大学において学外のオープンなソーシャルメディア（facebook, twitterなど）を利用する場合は、全世界のインターネットユーザーがアクセスできることを理解し、私的なやりとりは電子メールやクローズドなソーシャルメディアを利用すべきであることを理解すること。また、ソーシャルメディアに限らず、Web上に一度公開された情報は、削除するのが困難であることを認識し、ソーシャルメディア等を利用した情報発信にあたっては、以下を遵守すること。

- ①東京情報大学の学生としての自覚と責任を持った発言を行うこと。
- ②基本的人権、著作権、プライバシー等各種法令や条例等を遵守すること。
- ③推測や伝聞に基づく不正確な情報ではなく、正確でかつ誤解を与えない情報発信を心がけること。
- ④社会通念に照らし、他のユーザーとトラブルが起きないように、冷静・誠実な対応を心がけること。
- ⑤東京情報大学に関する重要施策の意思形成過程における情報（検討中の素案、それに対する個人的な意見等）など機密情報を漏洩しないこと。
- ⑥反道徳的・非常識な行為をしないこと。
- ⑦教育・研究目的を逸脱した商業行為を目的とする情報を発信しないこと。
- ⑧特定の個人・団体への誹謗中傷、差別的な内容、猥褻な内容の情報を発信しないこと。

ネットワークマナーの厳守

学術機関である本学のユーザーはネットワーク活動においては一層の節度と品位が求められている。Webページの作成や電子メールによる依頼においては、十分な注意を払って社会通念上適切な表現を工夫しなければならない。他人の作成したWebページのリンクについては、電子メール等を通じてリンク依頼を行い作者の承諾を事前に受けることを原則とする。また、いたずらにネットワーク通信量を増加させるような行為（授業での利用を除く）は厳に慎まねばならない。

本学のネットワーク利用についてのこれらの指針は以下に説明する根拠に基づいている。

ネットワーク利用ポリシーの根拠

コンピュータネットワークによるコミュニケーション

コンピュータネットワークを利用した情報交換は私たちにとって今や欠くことのできないコミュニケーション手段となっている。コンピュータネットワークを利用するものをユーザー、ネットワーク組織（およびその管理者）が提供するユーザーに提供する様々な利便をネットワークサービスまたは単にサービスといい、本学でも様々なサービスの充実をはかっている。

本学でユーザーが利用できる情報交換のサービス形態は、次のように分類できる。

- ・個人から個人へ。電子メール、ソーシャルメディアサービス等
- ・個人から特定グループへ。メーリングリスト、WWW、ソーシャルメディアサービス等
- ・個人から不特定多数へ。WWW、ソーシャルメディアサービス等

これら情報の到達範囲は現在では地球のほぼ全域をカバーするまでになってきている。コンピュータネットワークはかつて人類が手にすることのできた最強の情報通信メディアであり、時間・空間を超えたグローバルなコミュニケーションを可能にしている。

しかしながら以下に説明するように、コンピュータネットワークによるコミュニケーションは郵便や電話、さらに新聞・テレビなどによる通信メディアとはその性質が異なり、本学のコンピュータネットワークを利用しようとする者は本学の利用規定を遵守する場合に限ってのみそのユーザーとなることができる。

AUPと個人の責任

個人がインターネットなどコンピュータネットワークを利用するためには、ネットワークサービスを提供しているネットワーク組織・団体に加入し、利用資格を得なければならない。本学を含めこれらのネットワーク組織ではそのユーザーに遵守させるべきネットワーク利用心得を定めている。これをAUP（Acceptable Use Policy）と呼んでいる。

ある個人がネットワークサービスを受けるためには、その個人がネットワーク組織が定めるAUPを尊重することをネットワーク組織が認定してはじめて可能となる。AUPから逸脱したネットワーク利用を行うユーザーに対しては、それが属するネットワーク組織は利用制限や利用資格を剥奪することがある。ここに現在のコンピュータネットワーク機構を利用したコミュニケーションの特性がある。

従来の情報通信メディアである郵便・電話や出版を利用した場合、概してその個人だけの責任において活動することができる。一方、情報の伝播力において優れているコンピュータネットワークを利用した活動は、新聞、テレビなどのマスメディアで個人が活動するときのように、個人の責任範囲は微妙に制限される。端的に言えば、その組織に属する個人の活動によって何らかの問題が発生した場合、その個人だけでなく、むしろその組織自体の管理責任が問われることも少なくない。

したがって、ユーザーがそのネットワーク活動においてなす様々な行為は完全にユーザー個人だけの責任においてなされているとは見なされ難く、対外的にはネットワーク組織に属するある個人として受け取られ易いことに注意されたい。本学学生の電子メールアドレス（****@edu.tuis.ac.jp）を見ると誰もが了解するように、本学のユーザーはネットワークドメイン名tuis.ac.jpで称される「東京情報大学」の一員であるとラベル付けされており、決して個人単独の名の下でネットワーク活動を行うことはできないことがわかる。

AUPの必要性

このようにしてネットワークユーザーは常にそれが属するネットワーク組織の管理下におかれている。ここで理解すべきことは、AUPの遵守はネットワークユーザーの自由を維持するためのものであり、決してネットワーク組織がユーザーのネットワーク活動を制限することにはないという点である。

ネットワーク組織の緊密な協調・連携で世界規模のネットワークサービスを構築しているインターネットでは、ネットワーク組織間の良好な関係の維持はネットワーク管理者にとって最優先の課題である。ひとたびネットワーク組織間の接続が絶たれたならば、ユーザーはいかなるネットワークサービスも受けることができない。あるユーザーが外部ネットワーク組織および個人にトラブルを与えた場合、多くの場合、その抗議はユーザーばかりでなくそのユーザーの属するネットワーク組織の管理者に通知され、最悪の場合にはそのネットワーク組織に何らかの対策がとられることがある。このことは、たとえ一握りのユーザーが引き起こした問題であってもネットワーク組織



ばかりでなくそれに属するすべてのユーザーにとって致命的な支障にまで発展し得ることを意味する。

こうしてネットワークサービスの安定供給とその享受というネットワーク管理者だけでなくあらゆるユーザーにとっての一義的目的のために、AUPの厳守という全ユーザーの協力の必要性が浮止するのである。このAUP尊重の協力機構なくしては定常的ネットワーク利用の達成は困難である。それゆえにAUPの遵守はユーザーの自由なネットワーク活動を保証することになる。

後援会・校友会

1. 後援会・校友会

後援会の活動

後援会は、本学に在学する学生の父母によって構成され、父母と大学との親睦化を図るとともに、在学生の勉学や学生生活の充実のための諸活動を行うことを目的に、平成2年4月に発足しました。

主な活動内容は以下のとおりです。

- (1) 後援会会報の発行
- (2) 教職員と父母との交流親睦の促進
- (3) 大学主催行事への助成
- (4) 学友会への助成
- (5) 学生の就職活動への助成
- (6) 卒業記念品の贈呈

校友会の活動

本学の卒業（修了）者を正会員、在職者・功労者等を賛助会員とする会ですが、在学生も“準会員”として組織に加わっています。

4月現在の正会員は約1万3千人、主に以下の活動を行なっています。

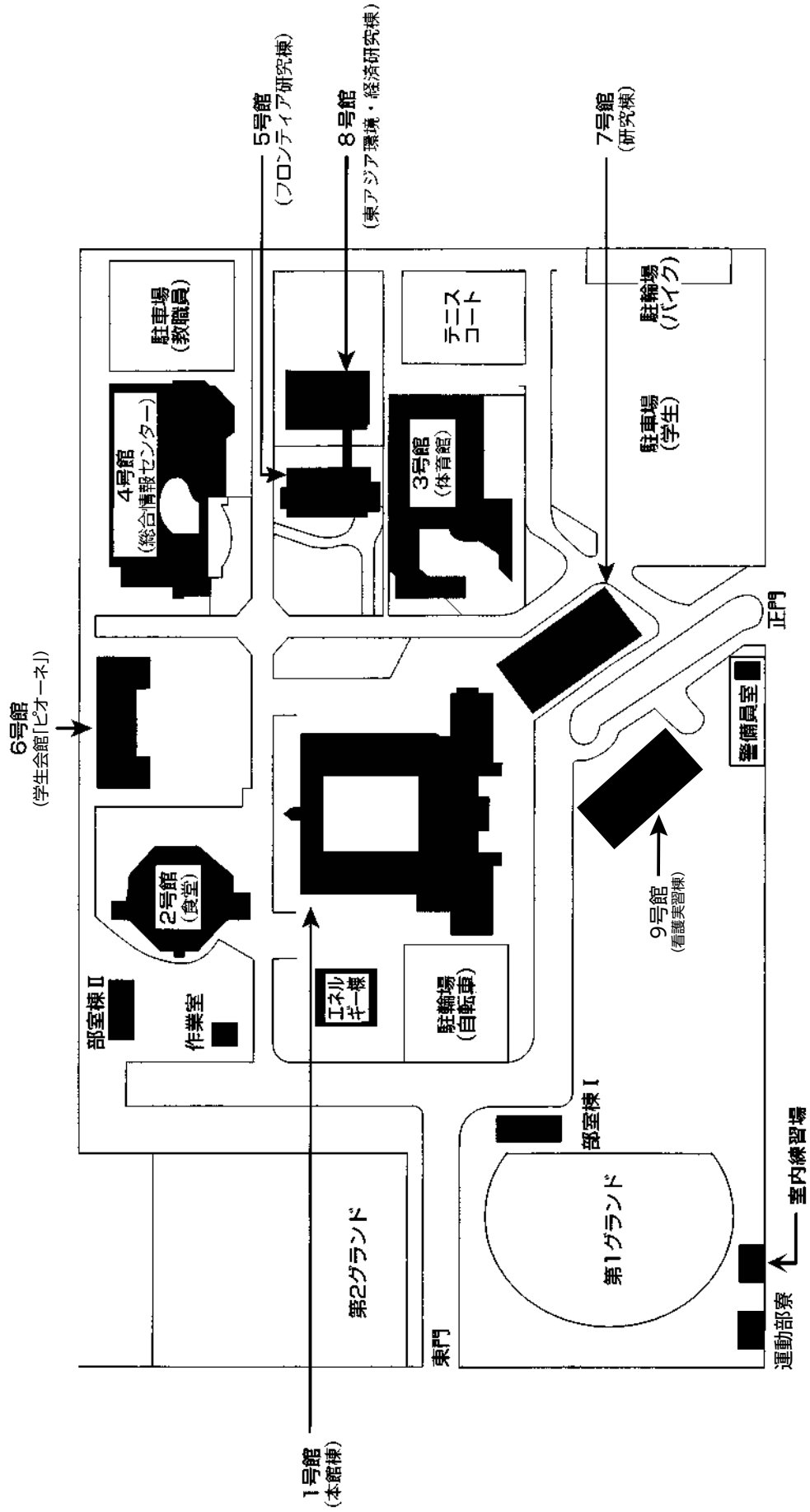
- (1) 会報及び会員名簿の刊行に関する事項
- (2) 会員相互の扶助に関する事項
- (3) 講演会及び研究会等の開催に関する事項
- (4) 会員の慶弔及び表彰に関する事項
- (5) 東京情報大学の後援及び相互の連絡に関する事項



キャンパス案内

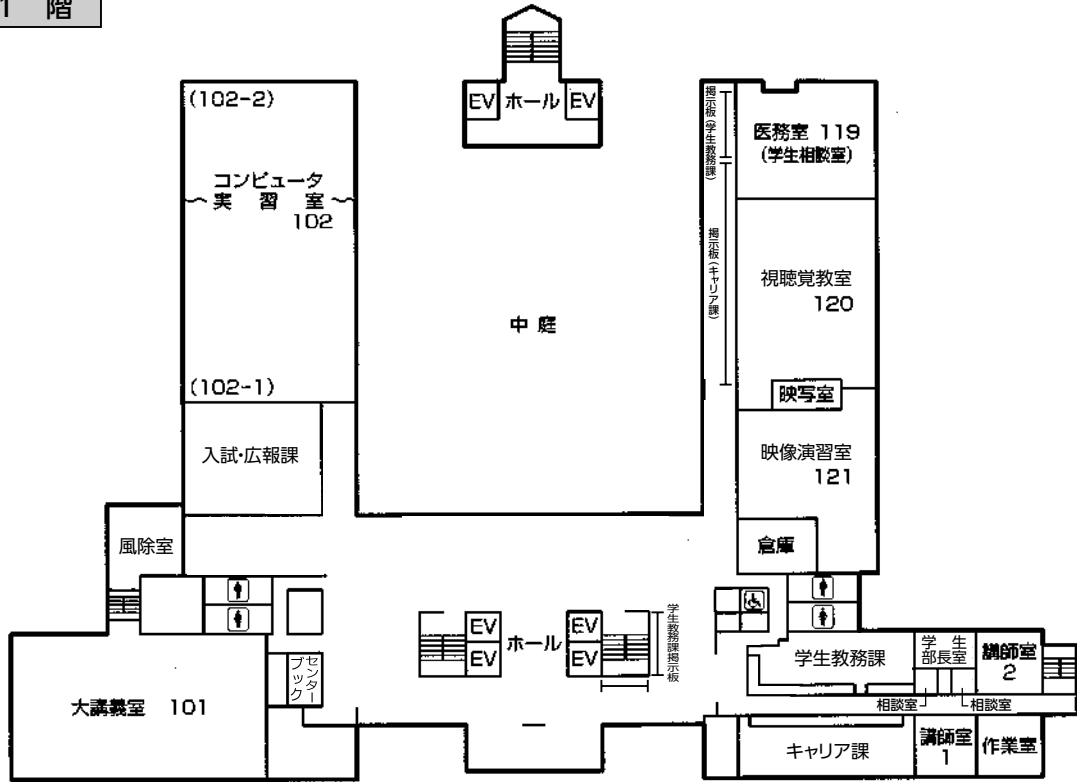


校舎等配置図

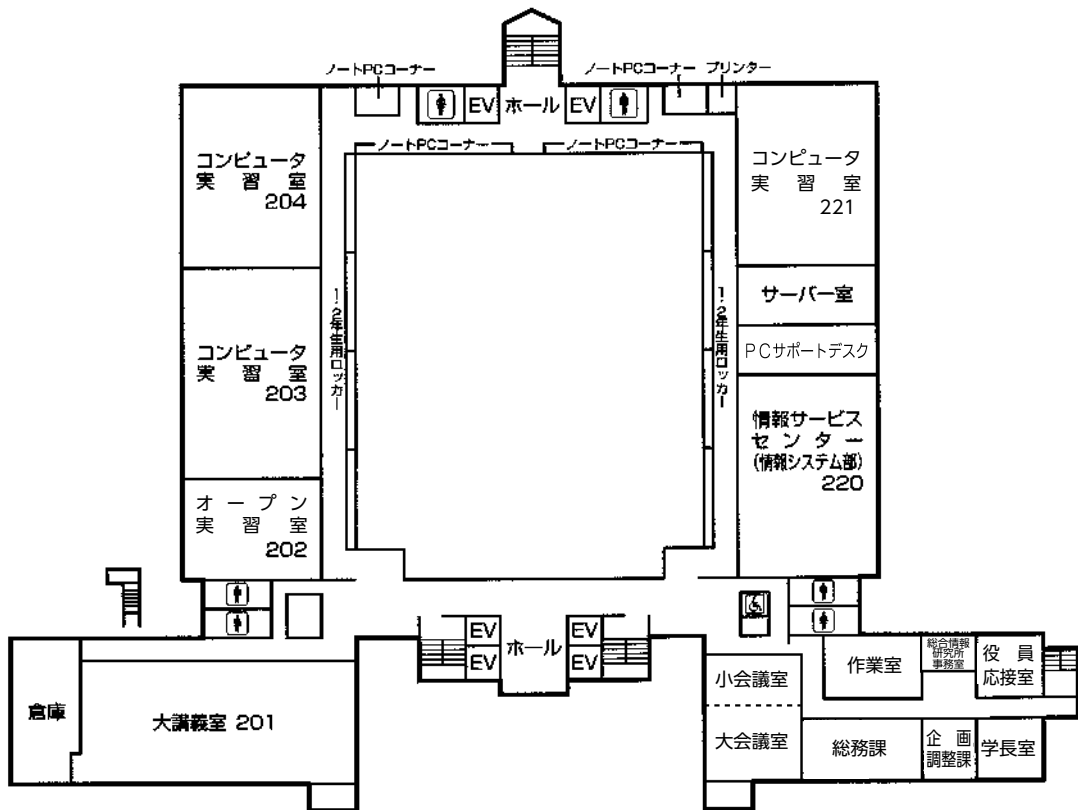


1号館 (本館棟) 案内図

1 階



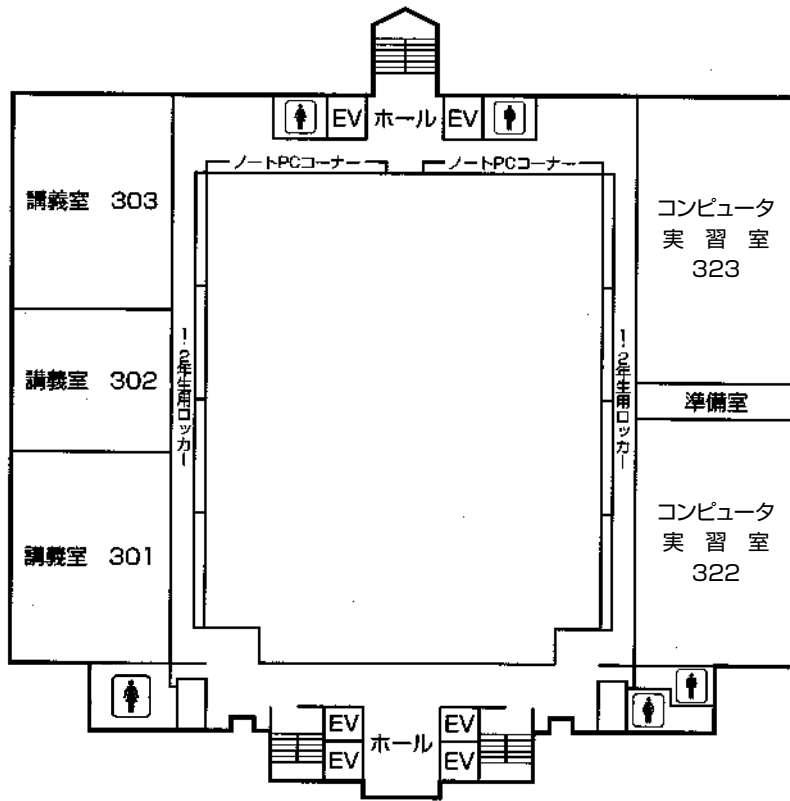
2 階



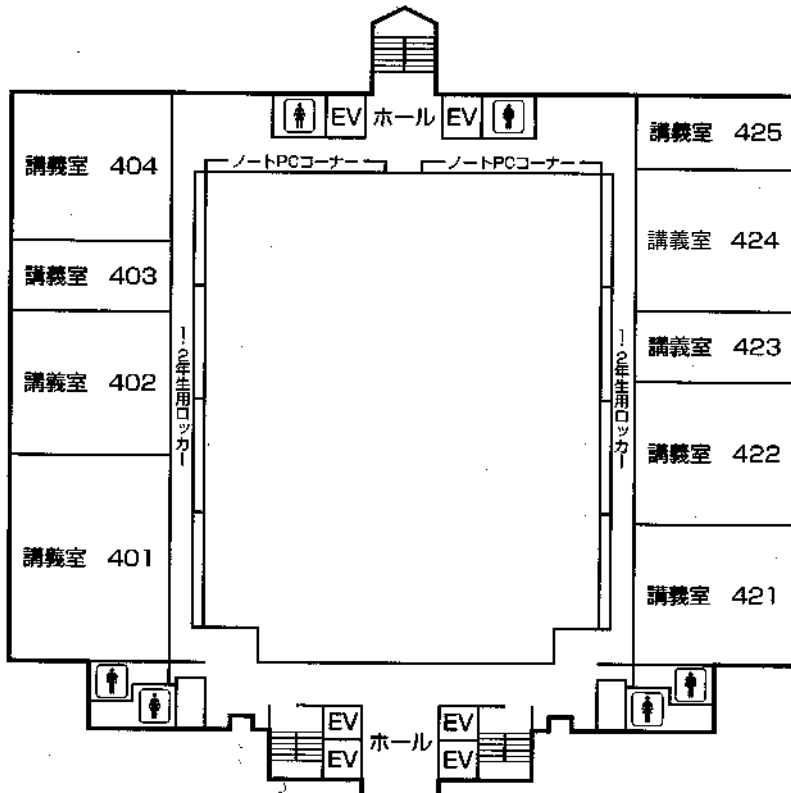
キャンパス案内

1号館 (本館棟) 案内図

3 階

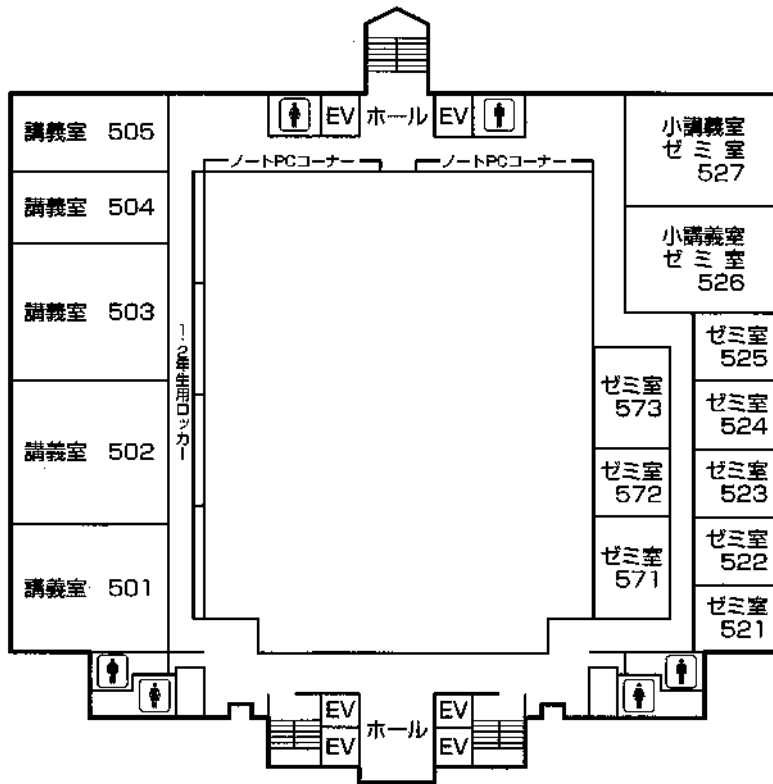


4 階

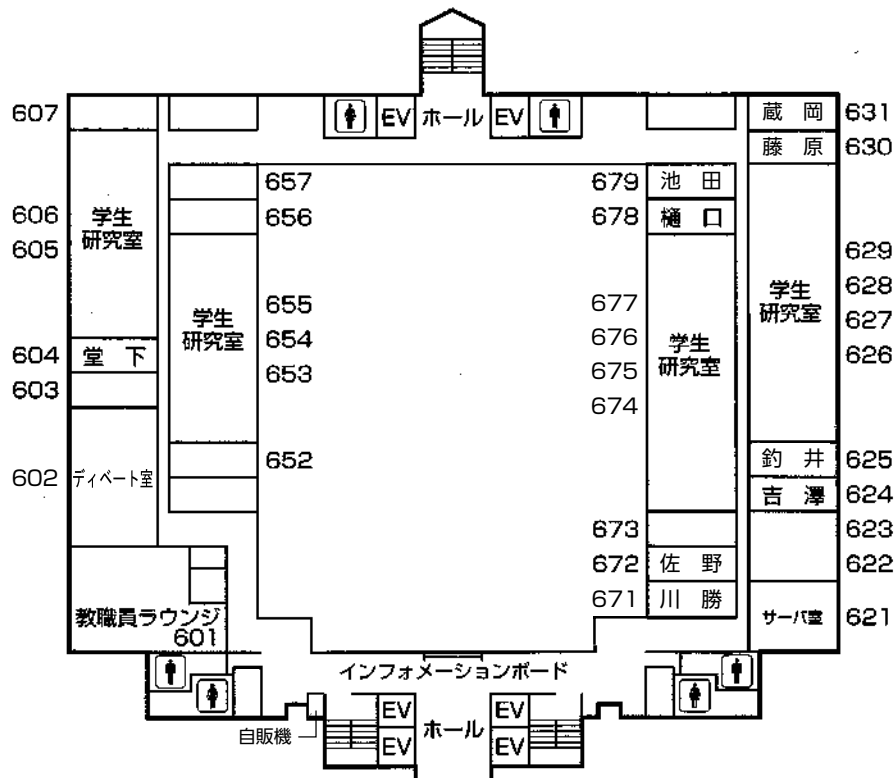


1号館 (本館棟) 案内図

5 階



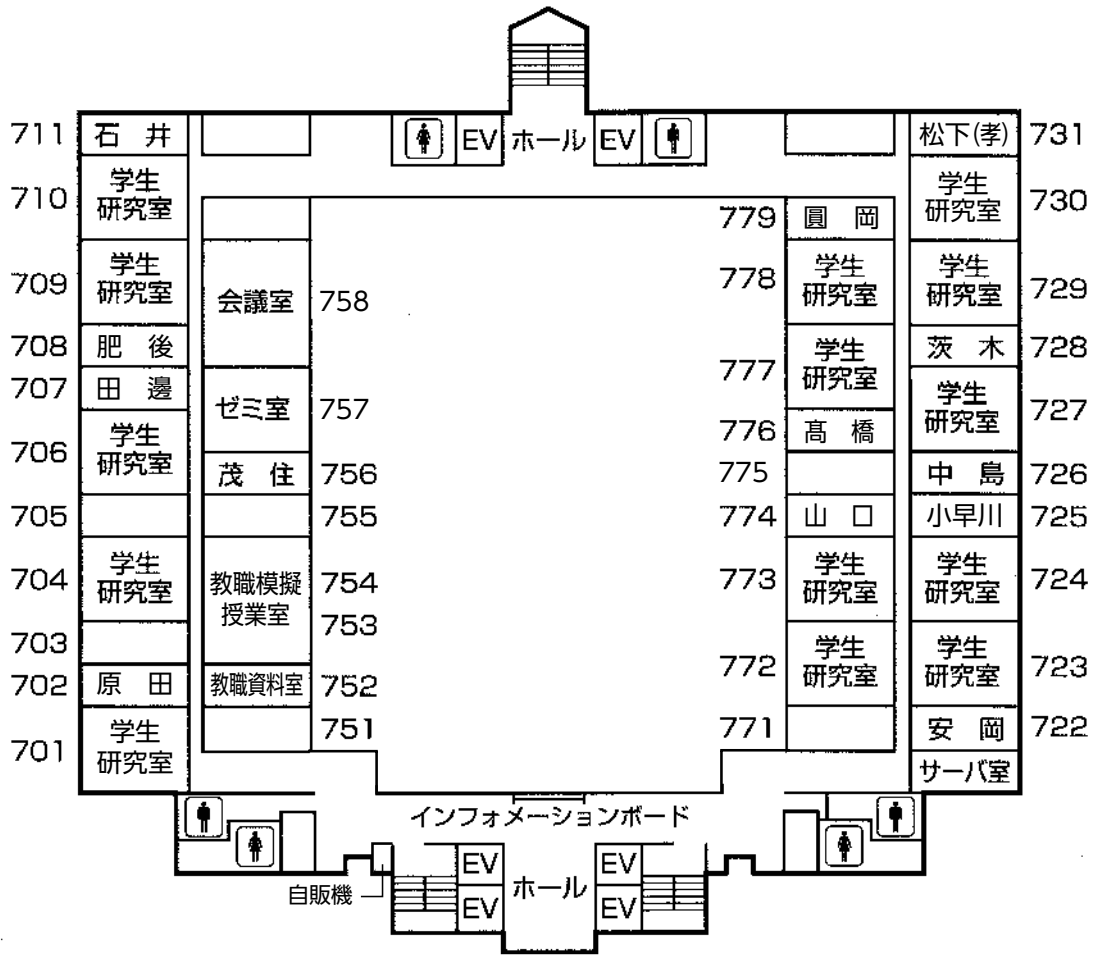
6 階



キャンパス案内

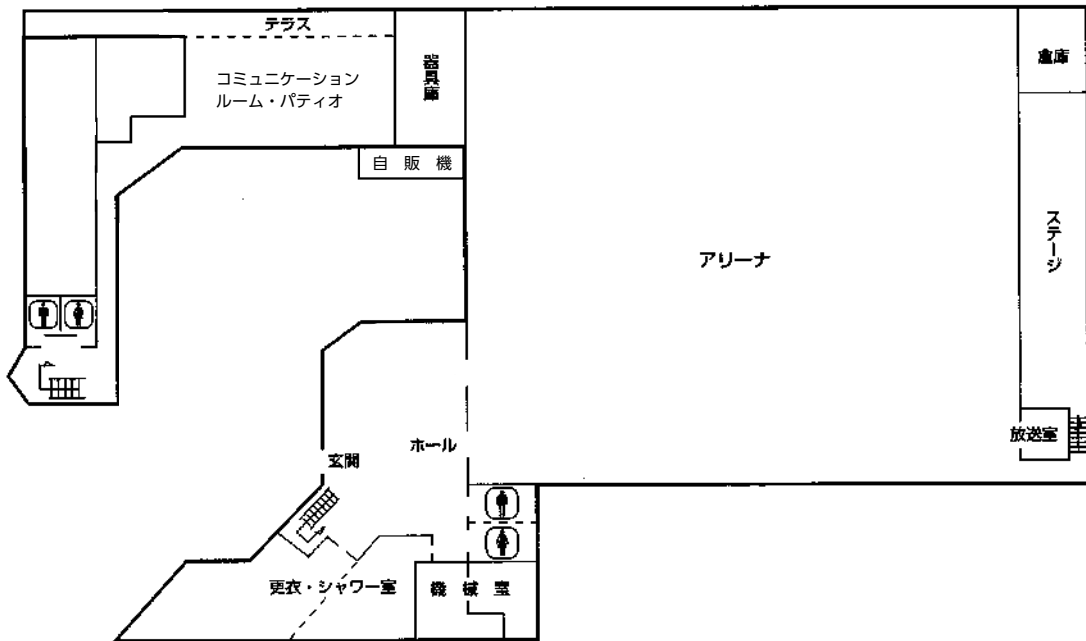
1号館 (本館棟) 案内図

7 階

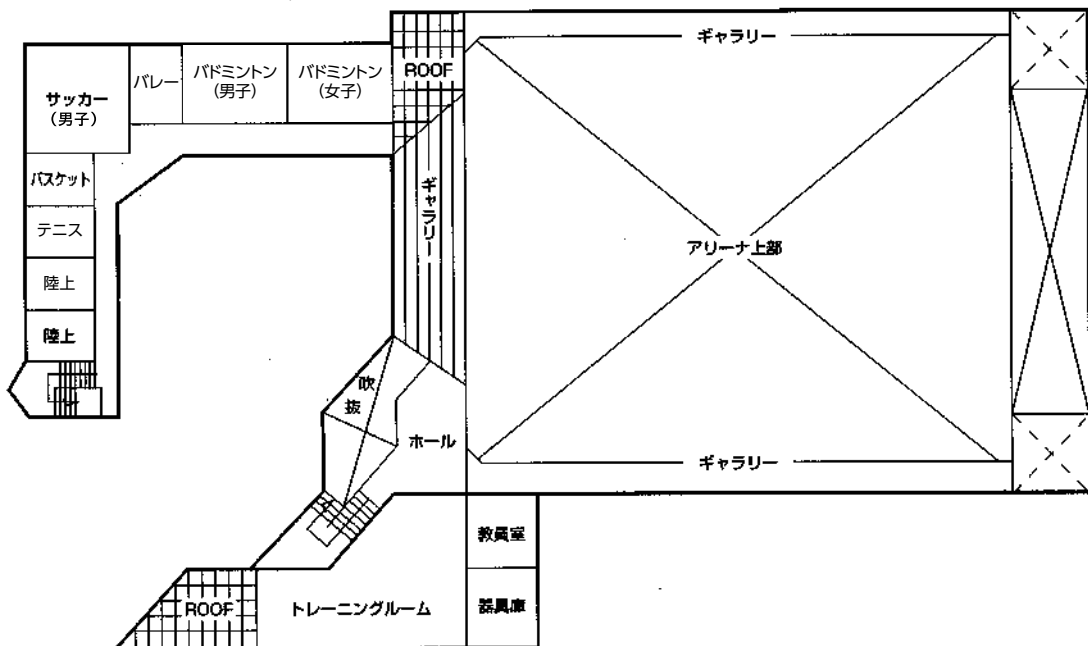


3号館 (体育館) 案内図

1 階



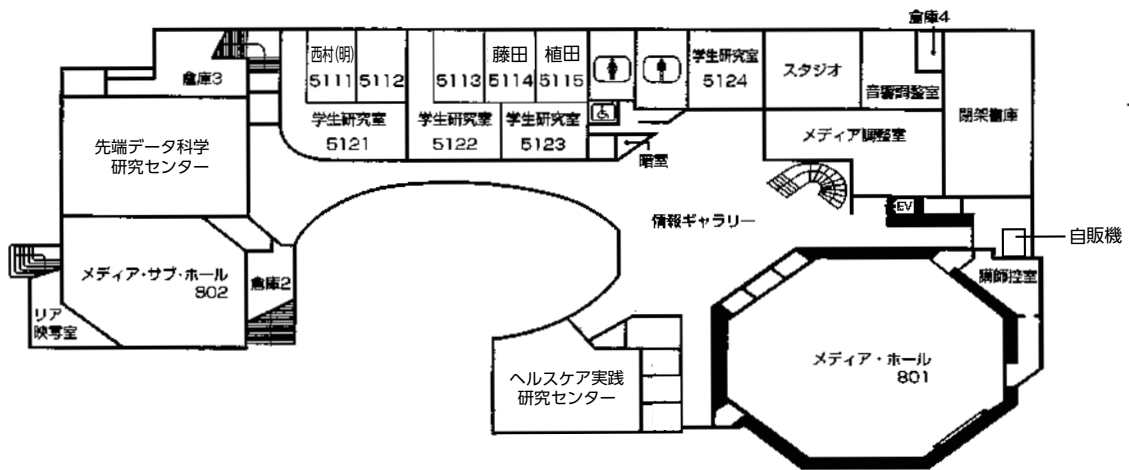
2 階



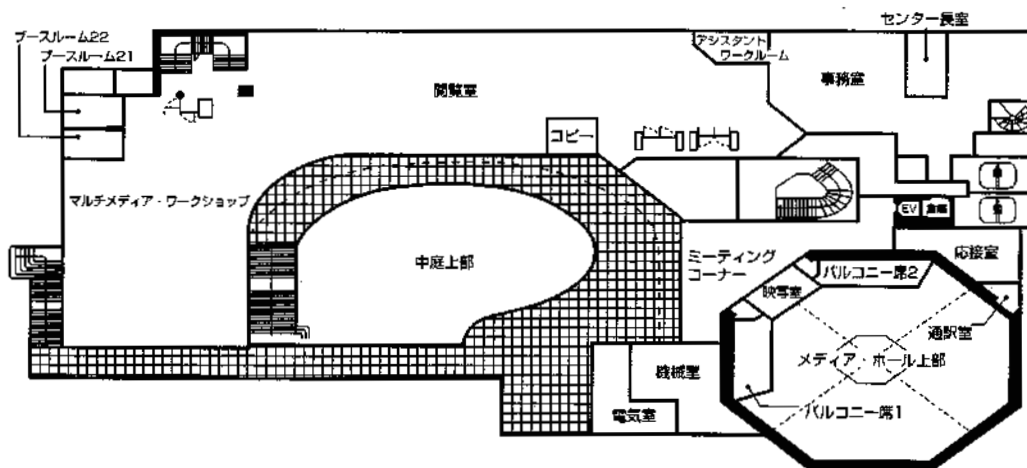
キャンパス案内

4号館 (総合情報センター棟) 案内図

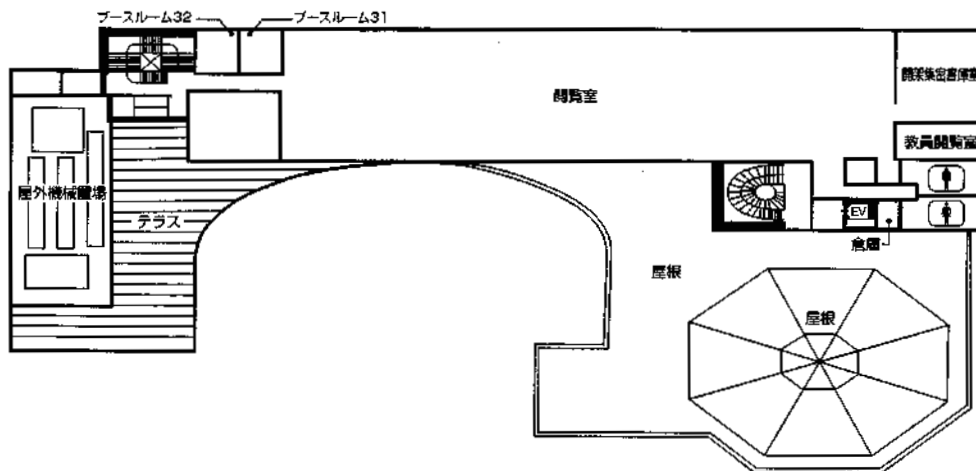
1 階



2 階

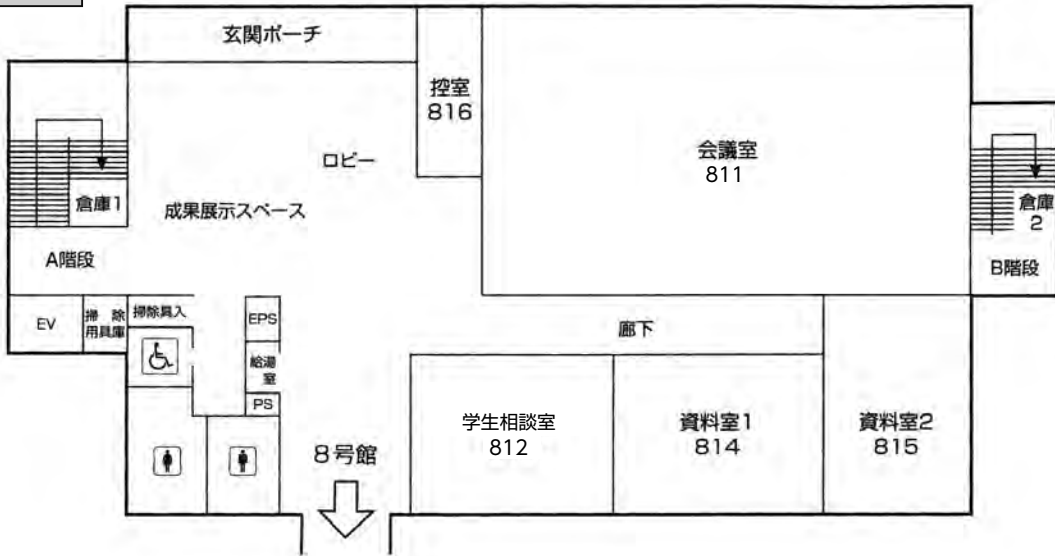


3 階



5号館 (フロンティア研究棟) 案内図

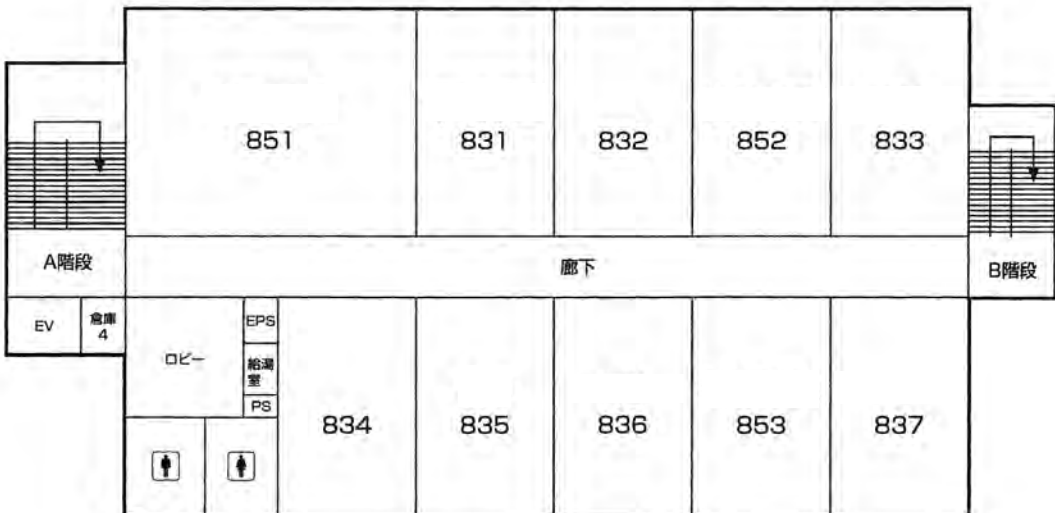
1 階



2 階

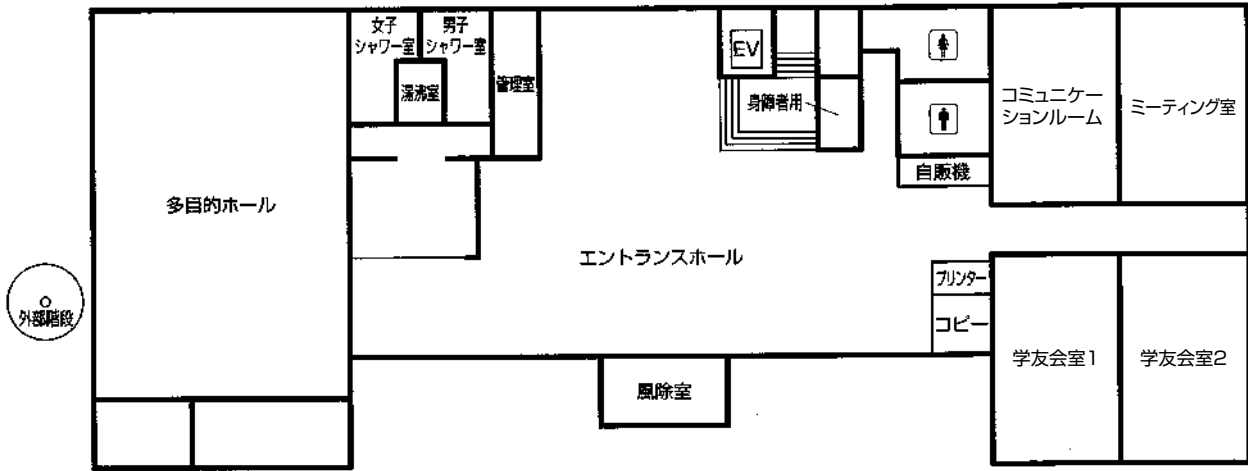


3 階



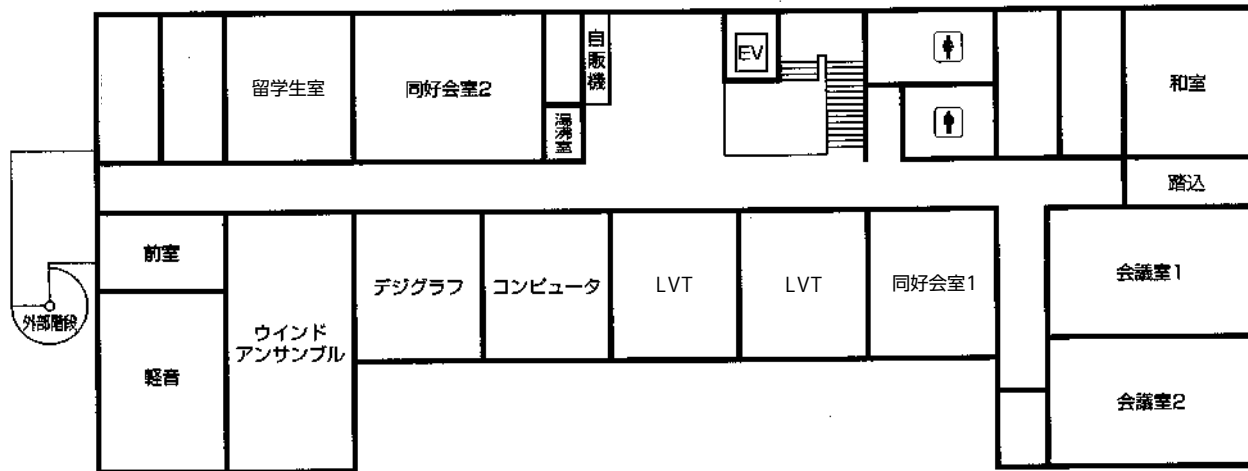
6号館 (学生会館「ピオーネ」) 案内図

1 階



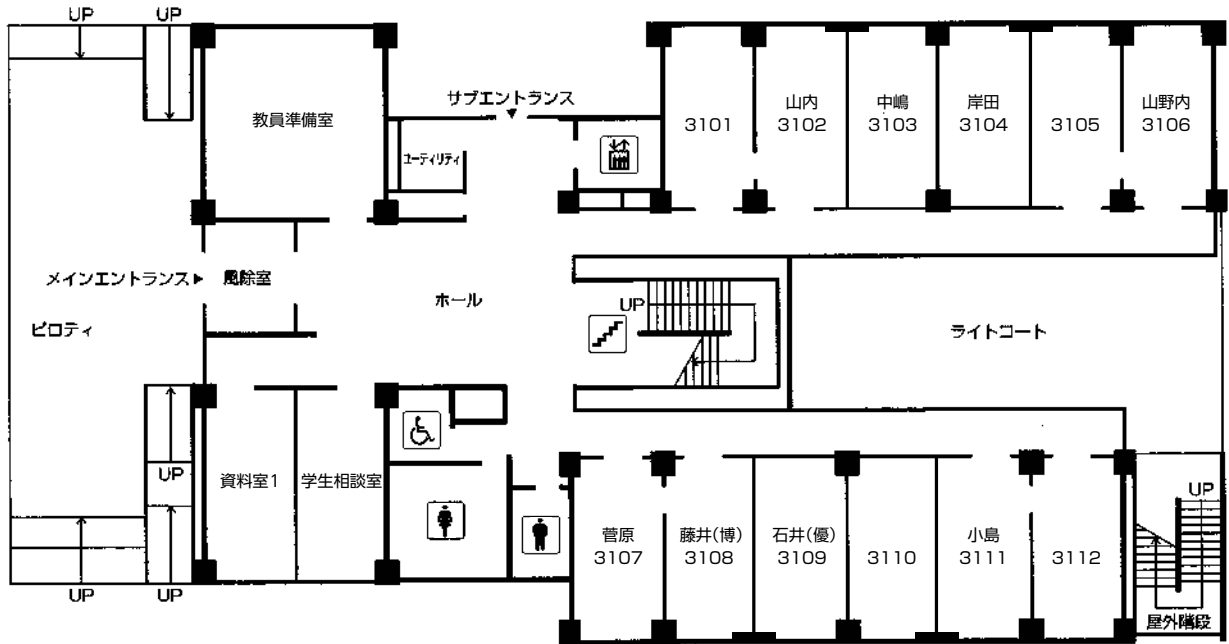
2 階

学生会館2階「部室配置図」

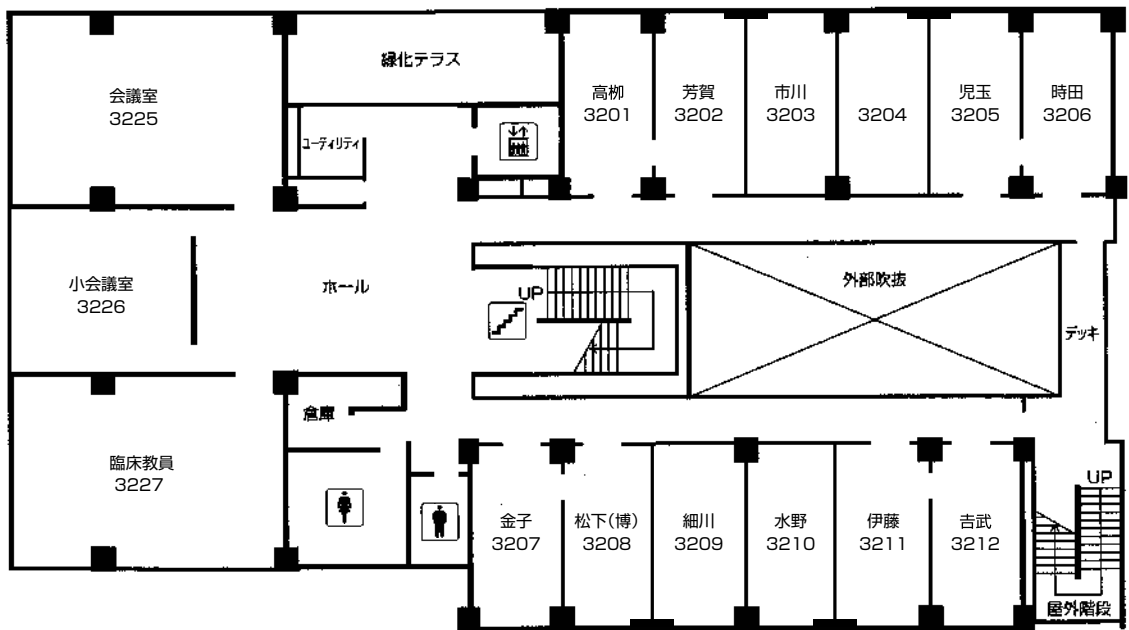


7号館 (研究棟) 案内図

1 階

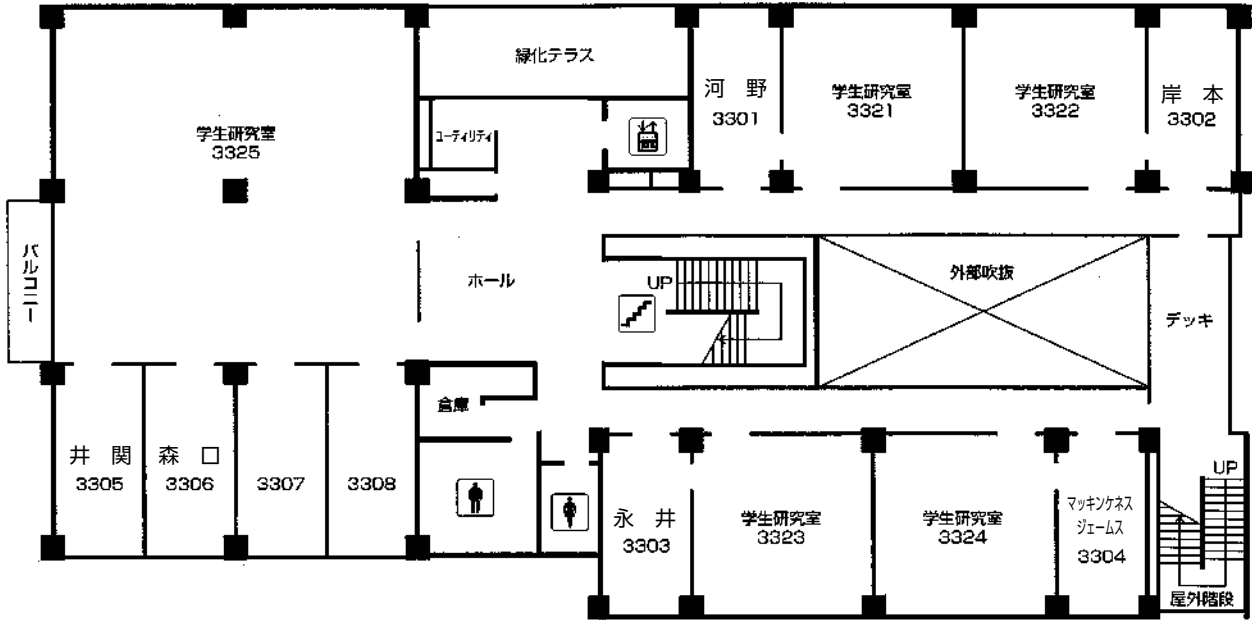


2 階

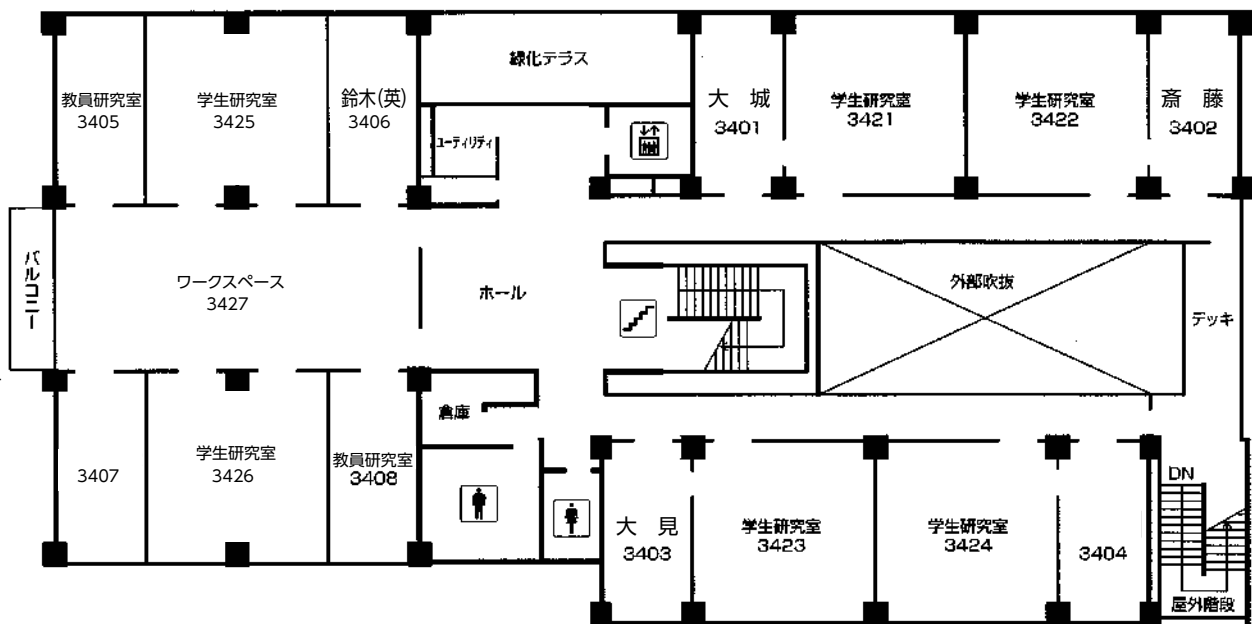


7号館 (研究棟) 案内図

3 階

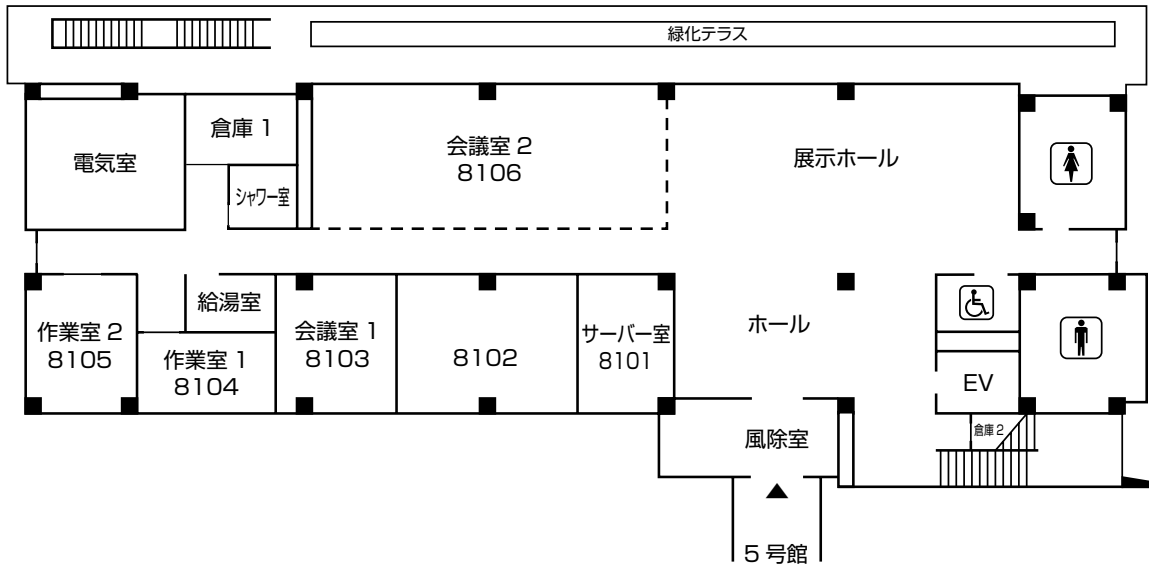


4 階

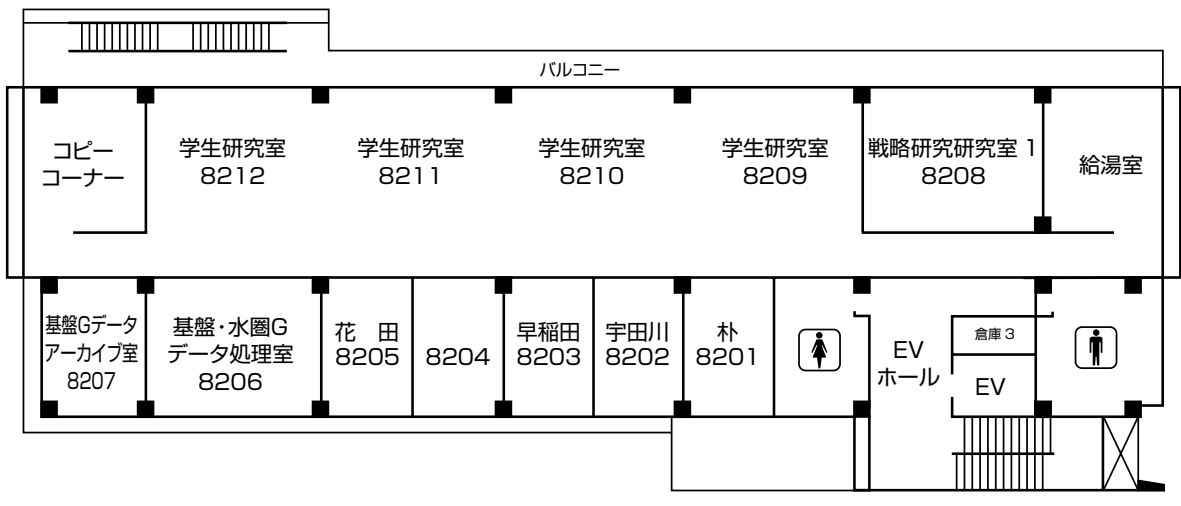


8号館 (東アジア環境・経済研究棟) 案内図

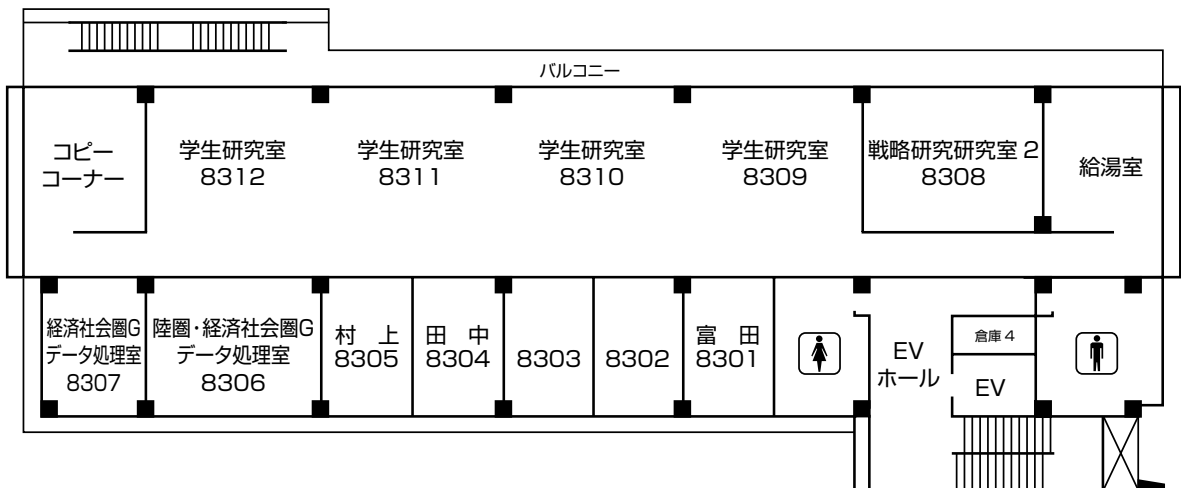
1 階



2 階



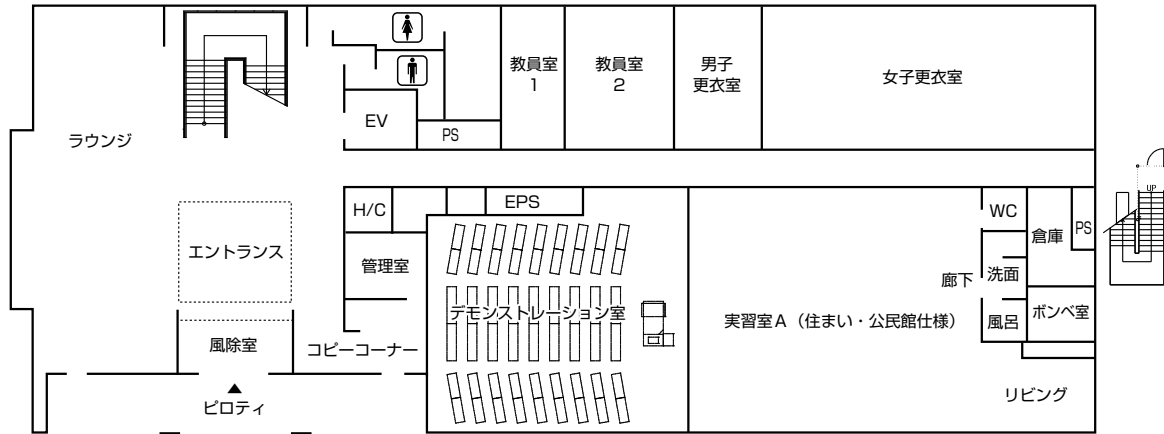
3 階



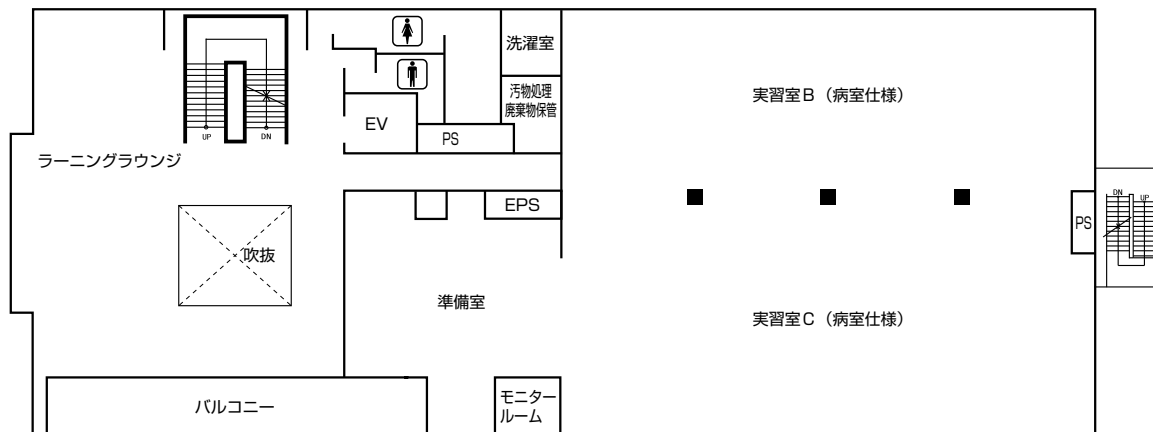
キャンパス案内

9号館（看護実習棟）案内図

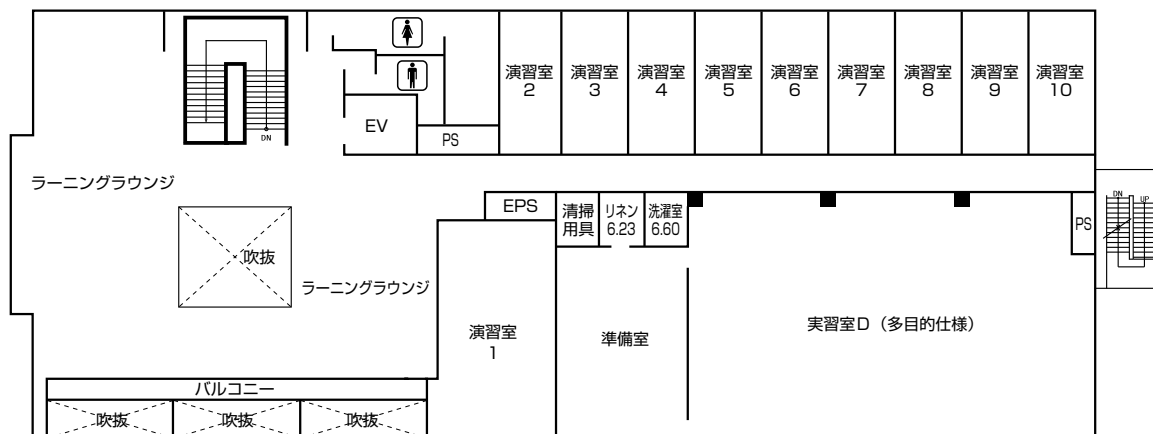
1 階



2 階



3 階



Q&A (よくある質問)

1. 履修登録に関すること

Q 履修登録を忘れた場合はどうなりますか。

A 修学の意味がない者として、学則に基づき除籍される場合があります。
また、正しい履修登録が行われないと、定期試験等を受験できなくなることもあるので注意してください。
毎年、定期試験期間になって初めて、履修登録の不備に気がつく学生が何人かいます。

Q 入学当初のカリキュラムが在学中に変更になることはありますか。

A 原則的にはありません。したがって、学生は入学年度に示されたカリキュラムを卒業まで履修することになります。

ただし、その後の入学者に対するカリキュラムが変更されると、学年進行につれて旧カリキュラムの履修に影響を与えることがありますので、自分のカリキュラムの当該学年に配当されている科目は、当該年度内で修得するよう心がけてください。

Q 不合格になった科目は、再履修して合格すれば不合格の表示は消えますか。

A 単位修得した科目は再履修できませんが、不合格になった科目については、再履修すれば再履修後の成績に置き換えられます。

ただし、GPAは、不合格になった科目も含めて算出するため、値が低下する原因になるので、科目履修を途中で放棄したり、始めから過剰な履修登録をするようなことのないよう注意してください。

Q 履修登録した科目を取り消すことはできますか。

A 各学期の履修登録・確認期間に取り消すことができます。
ただし、むやみに取り消しをして、進級要件や卒業要件が不足することもあるので、注意してください。

Q 授業に出席していたのに、履修登録し忘れていました。追加登録できますか。

A 履修登録（修正）期間以降の登録は認めていませんので、必ず期間内に確認してください。

Q 「J-port」を使って、どんなふうに履修登録するのですか？

A 「J-port」での履修登録は、簡単に言えばパソコンを使って行うWeb履修登録です。
科目のシラバスを閲覧しながら、各曜日・時限ごとに、履修できる科目の中から選択しながら履修登録することができます。この「J-port」履修では、間違った登録をするとすぐにエラー表示がでたり、科目の選択内容をその場で確認しながら登録できるので、登録ミスを防ぐことができます。登録内容は、印刷機能で一覧表にして確認することもできます。また、登録した結果が進級要件や卒業要件に合っているかどうかもその場で確認できるので、自分の思い違い、勘違いもなくなります。

必要な情報を検索しながら、勘違いや間違いのない履修登録を行うことができるのが、「J-port」履修の大きな特徴です。

操作方法の詳細については、別に配布される「J-port利用ガイド」で確認してください。

Q 「J-port」を使って履修登録した後、登録内容を確認できる機会はありますか？

A パソコンからの入力で行う「J-port」履修では、登録作業と確認作業が同時に行えます。履修したい科目を全て登録した後「確定」ボタンを押すと、「正常に登録されました。」というメッセージが表示されます。正常に登録できていない場合は、「エラーメッセージ」が表示されるので、もう一度登録し直して、正常な登録が行われるまで作業を続けることになります。

また、「J-port」履修では、履修登録完了後も、自分の登録した科目の状況(一覧)は、学内のコンピュータ実習室の端末や必携ノートパソコンからはもちろんのこと、自宅などの学外からパソコンやスマートフォン・携帯電話で、いつでも確認することができます。

Q 集中授業を履修したい場合はどうすればよいですか。

A 「J-port」を使って通常の科目と同様に行うこととなりますが、集中授業の科目は「J-port」の「履修登録画面」の左下にまとめて表示されます。履修したい集中授業科目をその中から選択して登録してください。なお、夏季に行う集中授業の「履修対象学期」は「前期」で、冬季に行う集中授業は「後期」で履修登録してください。また、複数の集中授業を履修する場合は、それぞれの日程を確認し、重複しないように登録してください。

Q 後期にも履修登録することはできますか？

A 総合情報学科の1年次は、後期科目の履修登録を後期の履修登録期間に行います。その他の学生については、後期にできるのは、履修登録ではなくて、正確に言うと履修の修正登録です。後期に配付される前期の成績の結果によって、履修科目を「追加」しないと進級や卒業の要件を満たすことができなくなった場合などに行うのが後期の履修修正登録です。その場合もちろん、後期から授業の始まる後期科目だけが対象となりますが、後期科目であっても、履修できない科目もあるので、注意してください。また、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目も履修修正登録の対象にはなりません。

Q 放送大学の授業を受けたい場合の履修登録の方法を教えてください。

A 本学が単位互換科目として指定する放送大学の授業科目の受講は、年度の後期(10月)からです。履修を希望する場合は、学生教務課窓口で申請手続きをしてください。

千葉県内私立大学との単位互換科目の履修を希望する場合も、放送大学と同様に学生教務課で履修登録手続きを行ってください。ただし、県内私立大学の場合は、相手大学との所定の手続きを履修登録の期間より前に行いますので、その手続きが行われていないと履修登録が無効になります。

いずれの場合も、受講を希望する場合は、4月の早い段階で学生教務課にその旨を申し出て、その後の手続きについて確認してください。

なお、どちらの受講も履修料が必要になります。(県内私立大学との単位互換科目には、一部履修料が無料のものもあります。)

2. 授業に関すること

Q 授業を受ける上で注意することはありますか？

A 授業を受ける上で、教員や他の履修者の妨げにならないよう、以下のことを注意する必要があります。

- ①私語を慎む
- ②遅刻をしない
- ③途中退室をしない
- ④飲食をしない
- ⑤私事をしない
- ⑥レポート等の提出物の提出期限を遵守する

Q 交通事故に遭い、1ヶ月入院することになりました。どうしたらいいでしょうか。

A 交通事故や病気で入院し、3週間以上出席できなくなった場合は、学生教務課へ電話して（保護者が電話しても可）、詳しい状況を報告してください。履修している授業担当者へ長期欠席する旨を報告します。ただし、欠席した回数によっては、単位修得できない場合もあります。

Q 教科書販売期間に教科書を買って忘れてしまったのですが。

A 1号館1階のブックセンターで購入してください。在庫がない場合は注文することができます。

3. 試験に関すること

Q 平常試験と定期試験の違いはなんですか。

A 定期試験は、学期末に設定されている定期試験期間中に行う試験であり、試験専用の時間割で行うので注意が必要です。また、定期試験を病気等で欠席した場合、追試験を受けることができます。一方、平常試験は、授業担当者が授業内に行う試験で、試験日については、授業中あるいは掲示板上で周知します。

Q 定期試験（追試験、再試験）に遅刻してしまいましたが、受験できますか。

A 15分以内であれば遅刻を認めますが、15分を超えてしまったら受験できません。なお、遅刻の原因が、公共の交通機関の遅延によるものであり、遅延証明書があれば、定期試験に限り、追試験を受けられます。

4. 成績評価に関すること

Q どのように成績をつけたか確認することはできますか。

A 各授業科目のシラバスに「成績評価の方法」が掲載されているので確認してください。また、学期の初めに「成績に関する質問」ができる期間を設定しています。この期間内に様式を大学のホームページからダウンロードして、質問を記入し、学生教務課へ提出してください。約1週間後に質問の回答を返却します。なお、記入内容によっては、受取らない場合もあります。

Q 授業に毎回出席していたのに、不合格でした。どうしてですか。

A シラバスに各授業の評価の方法が記載されているので、確認してください。おそらく試験の点数やレポートの評価がよくなかったのではないのでしょうか。授業に出席しただけで合格するとは限りません。

Q 他大学との単位互換で修得した単位は、卒業要件単位として認められますか。

A 千葉県内私立大学との単位互換で履修した単位は、在学中に通算16単位までを自分の所属する学科の専門教育科目（選択）の単位として換算することができます。また、放送大学との単位互換で履修した単位は、合計で12単位までを全学共通科目及び基礎科目の単位として換算することができます。これらの履修はどれも所定期間内に所用の履修登録手続きを済ませることによって初めて可能となります。

なお、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目を履修できるのは、1年次から3年次までの学生に限られています。

Q

教職課程の履修で修得した単位は、卒業要件単位として認められますか。

A

総合情報学科の専門教育科目に配当されている科目であれば、卒業要件の単位として認められますが、科目は多くありません。教職課程を履修しようとする学生は、履修登録にあたってこのことに注意が必要であると同時に、卒業に必要な単位の修得以上の学習が必要になることを肝に銘じて履修するようにしてください。

Q

以前在学していた短大で修得した単位は卒業要件単位として認められますか。

A

大学または短期大学を卒業または中途退学して、新たに本学の1年次に入学した場合に、審査の上既修得単位の全部または一部を認定することがあります。該当する場合は当該年度の履修登録開始前までに学生教務課に申し出てください。



様式サンプル等

様式 1 成績評価に関する質問票

成績評価に関する質問票 (令和 年度 前期・後期・通年科目)

学科・学年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____ 印

配付された成績表に記載されている履修科目の評価について、下記のとおり質問します。

科目担当者	
対象科目	(曜日 時限 クラス)
評価内容	秀 ・ 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不 ・ 欠 【いずれかに○】
質問の理由 (質問内容を、できるだけ詳しく、必ず記入すること。)
※「質問の理由」が明確に記入されていないものは受付けない。	

【科目担当者からのコメント】

.....

年 月 日	科目担当者	印
-------	-------	---

- 注1) 当該年度に履修している科目に対してのみ質問を受付ける。
- 注2) 受付期間を過ぎた質問票は一切受付けない。
- 注3) 1枚の質問票には1科目に対する質問のみ記入すること。
- 注4) この用紙は、大学ホームページ「各種届出・様式ダウンロード」から出力(期間限定)すること。
- 注5) ボールペンで記入の上、押印すること。

様式2 時間割変更申請書

再履修科目が必修科目と同一時限に配当されて履修できない場合、時間割を変更するための申請書です。学生教務課で相談の上、配付します。

年 月 日

時間割変更申請書

以下のとおり、時間割の変更を申請いたします。

学科 _____ 年 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

変更を希望する科目名： _____

	学 期	必 選 区 分	ク ラ ス	曜 日	時 限	登 録 番 号	担 当 者
変更前							
変更後							許可印

重複している科目名： _____

学 期	必 選 区 分	ク ラ ス	曜 日	時 限	登 録 番 号	担 当 者

※ 申請は、原則として必修科目が同一時間割に配当されている場合のみとする。

※ 変更後の授業科目担当者に許可を得ること。(許可印必要)

※ 担当者が非常勤講師の場合は、学生教務課に提出すること。

欠席届

年 月 日

授業担当教員

様

学部・学科 _____ (年)

学 籍 番 号 _____

氏 名 _____

団 体 名 _____

※団体での活動で欠席する場合は、団体名を記載し、名簿を添付すること。

下記のとおり、授業を欠席【 します・しました 】 にご連絡いたします。

記

1 欠席する授業科目名

(曜日 時限)

2 欠席の期日

年 月 日

3 欠席の理由

<公欠的な取り扱い>

- 大学の許可を得て課外活動の公式戦等に参加 ※開催要項等を添付
- 個人資格による課外活動等、大学が特別に認めたもの ※事前に学生教務課に相談すること
- 忌引（3親等まで） ※会葬案内等を添付
- 感染症による出席停止 ※治癒証明書等を医務室に提出後、写しを添付（証明者の記載不要）
- 裁判員候補者に指名され、裁判所に出頭・職務従事した場合
※裁判所発行の通知文書等を添付（証明者の記載不要）
- 教職課程履修学生が教育実習や課外活動に参加
- 看護学科の学生が臨地実習に参加
(証明者記載事項)

証明者 _____ 印

<連絡事項>

※欠席日の前後1週間以内に提出すること。当該期間を過ぎたものは受領しない。

※欠席届は学生教務課に提出すること。

※忌引きで欠席できる日数は、次のとおりです。

1 親等：連続7日、2親等：連続3日、3親等：1日

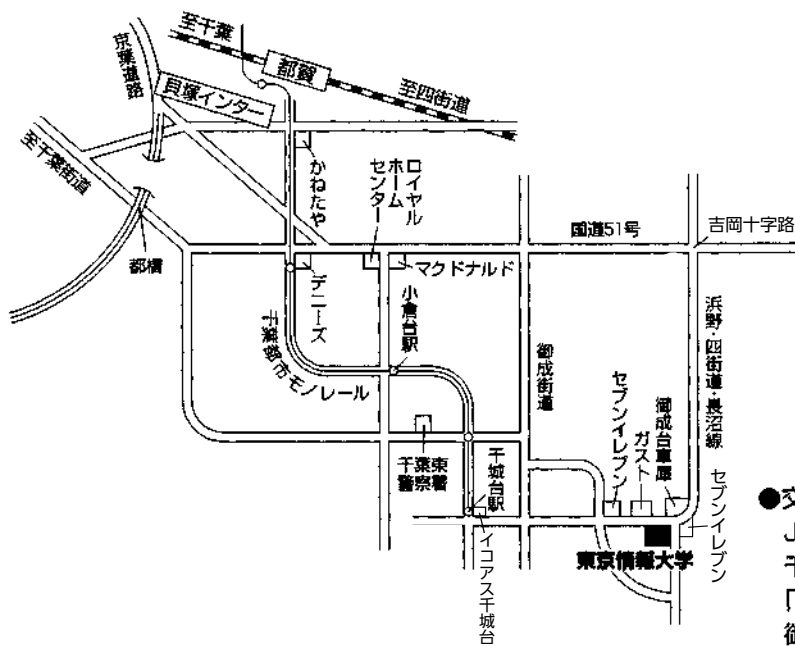
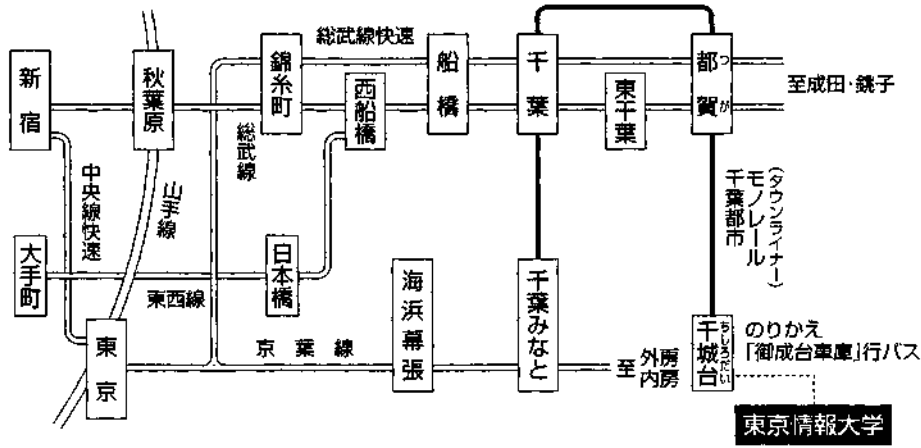
※別途、授業前日まで（欠席することがわかった時点）に、授業担当教員に次の内容のメールをして、欠席した授業の学習方法等の回答を得ること。

・メール題目：「【公欠届】 授業科目名・学籍番号・氏名」

・メール本文：欠席日、時限、科目名、学籍番号、氏名、メール送信理由（欠席理由、課題有無）



交通案内図



●交通

JR千葉駅または都賀駅より
千葉都市モノレールに乗り換え、
「千城台駅」下車。
御成台車庫行バスで7分、
「情報大正門」下車。
車の場合：京葉道路貝塚インター
より約15分。



学生ハンドブック (2023年度)

東京情報大学
大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

編集・発行
学生教務課
2023年4月1日

学籍番号	
氏 名	

この学生ハンドブックは卒業まで使用しますので、大切に使用してください。

学事暦カレンダー(2023 / 4~2024 / 3)

2023

4月(April)	
1 土	総情1年次研修
2 日	
3 月	看護1年次研修
4 火	
5 水	入学式・ガイダンス(~11日)
6 木	総情ルックマキャア(~8日) 健康診断(~10日) 成績質問日(~12日)
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	
11 火	
12 水	授業開始 履修登録期間(~18日) 院)修士論文計画書 受付期間(~18日)
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	
23 日	
24 月	
25 火	
26 水	履修修正・確認期間(~27日)
27 木	
28 金	院)博士論文(製本)提出期限
29 土	昭和の日
30 日	

5月(May)	
1 月	
2 火	
3 水	憲法記念日
4 木	みどりの日
5 金	こどもの日
6 土	
7 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	
13 土	
14 日	
15 月	
16 火	
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	
21 日	
22 月	
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	

6月(June)	
1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	
20 火	
21 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
22 木	
23 金	
24 土	
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	院)博士特別演習発表会(D1,2)
29 木	
30 金	院)論文内容の要旨 提出締切(D3)

7月(July)	
1 土	
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	海の日(通常授業日)
18 火	院)論文要旨発表会(D3)
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	
23 日	
24 月	
25 火	
26 水	
27 木	
28 金	
29 土	
30 日	
31 月	補講日

8月(August)	
1 火	学)定期試験(~3日)
2 水	
3 木	
4 金	夏季休業開始
5 土	
6 日	
7 月	
8 火	
9 水	
10 木	
11 金	山の日
12 土	
13 日	
14 月	
15 火	
16 水	
17 木	
18 金	
19 土	
20 日	
21 月	学)追試験(~22日)
22 火	
23 水	
24 木	
25 金	
26 土	
27 日	
28 月	
29 火	
30 水	
31 木	

9月(September)	
1 金	
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	
12 火	
13 水	
14 木	学)発表(情)1年次ガイダンス 看)1,2,3年次ガイダンス 成績質問日(~20日)
15 金	授業再開 後期履修登録期間 (~21日)
16 土	
17 日	
18 月	敬老の日(通常授業日)
19 火	
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	秋分の日
24 日	
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	学)9月卒業 院)9月修了 保護者教職員懇談会

2024

10月(October)	
1 日	
2 月	後期履修修正・確認 期間(~3日)
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	スポーツの日(通常授業)
10 火	
11 水	
12 木	
13 金	
14 土	
15 日	
16 月	
17 火	
18 水	
19 木	
20 金	翔風祭準備(休講)
21 土	翔風祭(~22日)
22 日	
23 月	翔風祭後片付け(休講)
24 火	
25 水	
26 木	
27 金	
28 土	
29 日	
30 月	
31 火	

11月(November)	
1 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
2 木	
3 金	文化の日(通常授業日)
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	院)論文本文提出期限(D3)
8 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
9 木	
10 金	
11 土	
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
16 木	
17 金	
18 土	
19 日	
20 月	
21 火	院)口頭論文発表会(D3)
22 水	院)博士特別演習発表会(D1,2)
23 木	勤労感謝の日
24 金	
25 土	
26 日	
27 月	
28 火	
29 水	
30 木	

12月(December)	
1 金	
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	
12 火	
13 水	
14 木	
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	
19 火	
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	創立記念日
24 日	
25 月	冬季休業開始
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	

1月(January)	
1 日	元旦
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	
8 月	成人の日
9 火	授業再開
10 水	院)博士請求論文提出締切(D3)
11 木	
12 金	休講
13 土	
14 日	
15 月	
16 火	補講日(~17日)
17 水	
18 木	
19 金	院)修士請求論文提出締切(M2)
20 土	
21 日	
22 月	
23 火	学)学年末定期試験(~25日)
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	情)卒論発表会
30 火	
31 水	院)博士論文計画書 提出締切(D1) 院)研究経過報告書 提出締切(D2)

2月(February)	
1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	学)追試験(~7日)
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	建国記念の日
12 月	建国記念の日の振替休日
13 火	院)口頭論文発表会(M2)
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	院)口頭論文発表会(M2) 院)論文計画審査会(D1) 院)研究経過報告会(D2) 院)博士論文公聴会
20 火	
21 水	
22 木	
23 金	天皇誕生日
24 土	
25 日	
26 月	学)再試験(・27日)
27 火	
28 水	
29 木	

3月(March)	
1 金	
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	法人創立記念日
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	
12 火	
13 水	
14 木	
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	学)卒業・進級者発表 院)修了者発表
19 火	
20 水	春分の日
21 木	
22 金	
23 土	
24 日	
25 月	学位記授与式
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	



東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

〒265-8501

千葉県若葉区御成台4-1

TEL. 043-236-4612

FAX. 043-236-2215

URL. <http://www.tuis.ac.jp>
